イスラームの基本知識

信仰・崇拝行為・徳・預言者ムハンマドの生涯

セイフェッティン・ヤズジュ

イスラームの基本知識

信仰・崇拝行為・徳・預言者ムハンマドの生涯

セイフェッティン・ヤズジュ
宗務庁
宗務高等評議会会員

宗務庁出版

目　次

前書き

宗教的な事柄において、正しく十分な知識を得ることは、全てのムスリムの重要な務めです。人の、アッラーに対する最初の務めはアッラーを信じることであり、それから崇拝行為（イバーダ）を行うことです。

イバーダによって糧を得た信仰の木の果実は、立派な徳です。成熟した信者は、アッラーに対する崇拝行為の義務を果たし、人々に対してもよく振る舞う人々となります。

徳という点で、私たちにとって最良の模範は預言者ムハンマド（p.b.u.h.）です。従って、信仰と崇拝行為に関する事柄と共に、道徳的な務めについて、そして預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が模範となられた、徳で満たされた生き方を学ぶことも、さらなる重要性を持ちます。

クルアーン教室で学ばれる、宗教的な知識に関するカリキュラムをも考慮しつつ作成され、信仰、崇拝行為、道徳、そして預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の生涯という項目によって基本的な知識が語られているこの本は、特に若い世代が容易に理解できるよう、簡潔な言葉で書かれています。

さらに巻末にはウドゥーの行い方、礼拝の行いかたが写真付きで示されており、礼拝を新しく学ぶ人々の為の利便性をはかっています。

どの世代のムスリムも活用できるこの本が、読者の皆さんのお役に立つことをアッラーに願っています。

努力は我々から、成功への到達はアッラーから。

セイフェッティン・ヤズジュ
1990年8月6日
アンカラ

第１部

イーティカード
（信 仰）

第１章　イスラームの教えとその特徴

●テーマ

- **何を宗教と呼ぶか**
- **諸宗教の中でのイスラームの位置**
- **イスラームの教えの意図するもの**
- **イスラームの教えの特徴**
- **イスラームの教えの普遍性**

何を宗教と呼ぶか

宗教とは、理性を持った人間を、自らの意志で、現世と来世における幸福へと到達させる神の法です。

宗教は主に以下の三つに分類することができます。

1）啓典による教え

アッラーから、預言者を通して人びとに伝えられ、一切の変更がなされず、変化することもなく現代まで伝えられている教えです。この特徴を持つ教えが、イスラームの教えです。

2）変更された教え

アッラーから、預言者を通して伝えられたものの、のちに人間によって変更された教えです。

3）逸脱した教え

人間によって作り出された宗教です。これらは、預言者から伝えられた宗教と何の関係もありません。

諸宗教の中でのイスラームの位置

最初の人間であるアーダムは、同時に最初の預言者でもありました。人類の最初の宗教もまた、真実の教えでした。アーダムからイーサー（イエス）に至る全ての預言者は人びとにアッラーの唯一性の信仰を伝え、アッラーへどのように崇拝行為を行うかを教えました。しかしこれらの預言者たちが伝えた信仰の基盤と宗教的な法規は、ときと共に変化してしまい、失われていったのです。

それゆえアッラーは、最後の預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を通し、全ての人びとに、最後にして最も完成された宗教であるイスラームを下されたのです。

今日、地上における真の宗教はイスラームです。逸脱した宗教はアッラーの位階において何の意味も持ちません。アッラーの位階において唯一認められている宗教がイスラームなのです。

このことをアッラーは、クルアーンで次のように語られています。

「本当にアッラーの御許の教えは、イスラーム（主の意志に服従、帰依すること）である。」（イムラーン家章１９節）

「イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。」（イムラーン家章８５節）

私の信じる教え

私の教えは崇高で　私はこの教えを愛する
あらゆる宗教の中でやはりこの教えを愛する

イスラームが私の教えである　教えの中で最も素晴らしいものである
教えの真髄は「アッラーは唯一である」ということである

「アッラーは唯一である」と私たちはいう
「アッラーは唯一である」ただこのことをいう

私の預言者はムハンマド（p.b.u.h.）である
現世と来世の太陽
比類のなきお方

この教えを主から私たちにもたらしてくれたお方

この教えは天から光を振り注がせる

「清潔でありなさい」「正しくありなさい」
この教えが教えてくれる
この教えよりもより良い道があるだろうか

私たちの聖典クルアーン

私たちは常にそれを読む
アッラーに感謝を、私たちはムスリムなのだ　　（M・S・ヤルトゥカヤ）

イスラームの教えの意図するもの

イスラームがもたらす規範は、人間の幸福を目的としたものです。これらの規範に従って行動する人は、現世でも来世においても幸福を得るでしょう。

イスラームの教えの規範は三つに分類できます。

１）信仰

人は信じるべき事柄について信仰することで精神的な糧を得て、心を誤った信条から清め、正しい信条を持ち、真の価値を得ることができます。

２）実践

人が行う事柄です。実践に関する基準は二つに分類することができます。

a）アッラーに対する崇拝行為

b）人間同士の互いの関係を調整する行為

３）道徳

人に対する考え方や態度を調整する規範です。

イスラームの教えの特徴

１）イスラームは最後の教えです。イスラーム以降、新たな教えがもたらされることはありません。それは最後の審判の日まで続くものです。イスラームの教えを人間に伝えた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は最後の預言者であり、彼以降、新たな預言者が遣わされることはありません。

２）イスラームは普遍的な教えです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）以前の預言者たちが伝えた教えは、一定の民族を対象としたものでしたが、イスラームの教えは全ての民族のために下されたものです。

３）イスラームの教えの定めるところは、全ての人びとの求めに応じて完成されたものです。それゆえ新しい教えの必要性もなくなったのです。

４）イスラームの教えは、イスラーム以前にアッラーによって遣わされた預言者たちや経典を認めています。

５）イスラームの教えは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）以前の預言者が伝えた教えの規範を無効としました。なぜならそれらは、特定の民族、あるいは限定された時代を対象として下されたものだったからです。しかしイスラームは、全ての民族

に遣わされ、最後の審判の日まで変わることなく存在しつづける教えだからです。

イスラームの教えの普遍性

イスラームの教えを普遍的なものとしている特徴があります。以下、そのいくつかをご紹介しましょう。

1）イスラームは全ての人びとに下された最後の教えである

イスラームの教えは、全ての人びとに下され、最後の審判の日まで続く、最後の教えです。預言者はイスラームを世界各地に伝えるため、近隣の国々の為政者へ手紙を送り、彼らにイスラームを受け入れるよう呼びかけました。

2）イスラームは理性と知の教えである

イスラームは理性に重きを置き、その責任を果たす際には理性を伴っていることを条件としています。知に大きな価値を置くイスラームは、常に本を読み、学ぶことを命じ、知識を得ることを全てのムスリムへの義務としたのです。

3）イスラームは、現世と来世、二つの世界のための教えである

イスラームの教えの目的は、人間が現世でも永遠の来世でも幸福になることです。イスラームは、世界が存続する限りあらゆる時代の人びとが幸福となり、高められるよう支え、個人や社会のニーズに応える規範を設け、現世と来世で幸福となる道を示しています。

イスラームのもたらした多くの規範の真髄とは、「決して死ぬことのないようにこの世界で努力しなさい、明日死ぬかもしれないので来世のためにも努力しなさい」というものなのです。

4）イスラームは平易な教えである

イスラームの教えに強制はありません。平易な教えです。教えの命ずるところは、私たちを成熟させ、より崇高な生へと到達させるためのものです。崇拝行為の実行に関しては、私たちの能力を考慮に入れられ、多くのより容易な案が示されているのです。

例えば、旅行者は４ラカートが義務である礼拝を２ラカートですますことができます。立って礼拝を行うことができない人は座って行うことができます。ラマダーン月に断食を行うことのできない病人は、回復してからそれを行います。病状の重い病人や断食を行うことのできない老人であれば、断食する代わりにお金を支払うことができます。人びとの能力やニーズを考慮し、困難な状況であれば平易なやり方が用意されているのです。こうしたことからイスラームは、どの時代、どの地域においても実践され得るという特徴を持っています。

5）イスラームは行き過ぎたことを求めない

イスラームの定める規範は、理性的にも、人間の本質にも最もかなったものとなっています。私たちは、それに従えばいいのです。

行うことが命じられていないのにも関わらず、教えの名のもとに過度に行ってしまい自らを苦しめること、合法であるこの世界の恵みから遠ざかり過酷な生活を送ることは、イスラームでは教えられていません。

６）イスラームは平和と愛の教えである

イスラームの教えの目的は、人間への愛、人権の尊重を人びとの心に植えつけ、社会に永続的な安らぎと平和をもたらすことです。イスラームの教えは、その目的を達成するために多くの規範を設けています。人間はお互いに愛しあうこと、他者の権利を尊重することなどを、真の信者の条件としているのです。

質問

１　宗教とは何か。
２　宗教はいくつに分類することができるか。
３　諸宗教の中でイスラームの位置とはどのようなものか。
４　イスラームの教えの目的は何か。
５　イスラームの教えの特徴とは何か。
６　イスラームの教えを普遍的なものとしている特徴とは何か。

第２章　信仰

●テーマ

- **カリマ・タウヒード（神の唯一性についての言葉）**
- **カリマ・シャハーダ（信仰告白の言葉）**
- **信仰の基本**
- **信仰の観点から見た人間像**
- **信仰が人に与える安らぎと幸福**
- **信仰と実践の間のつながり**
- **信仰が正しく受け入れられるための条件**

カリマ・タウヒード（神の唯一性についての言葉）

لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ

読み方：ラー・イラーハ・イッラッラー・ムハンマダン・ラスールッラー
意味：アッラーの外に神はなく、ムハンマド（p.b.u.h.）はその使者である。

カリマ・シャハーダ（信仰告白の言葉）

أَشْهَدُ أَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ وَ أَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا عَبْدُهُ وَ رَسُولُ اللَّهِ

読み方：アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イッラッラー・ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスールフ
意味：アッラーの外に神はなく、ムハンマド（p.b.u.h.）はその使者であることを私は証言する。

信仰の基本

　信仰とは、辞書をひも解くと何かを信じること、とあります。宗教用語としては、「預言者ムハンマド（p.b.u.h.）がアッラーから伝えられた事柄が真実であると心から信じること、そしてこの信仰を口に出すこと」を意味します。

　信仰は二つに分類することができます。

a）包括的な信仰
b）個別の信仰

a）包括的な信仰

アッラー、そしてムハンマド（p.b.u.h.）がアッラーの使者であることを信じることです。

イスラームの教えにおいて信仰すべき事柄の真髄であることから、これらを「包括的な信仰」と呼びます。

信仰の基本は、全体的に、そして要約的にタウヒードの言葉や信仰告白の言葉で表現されます。人がこのどちらかの言葉を口に出し、心によっても信じるなら、イスラームの教えを持ったことになります。ただしムスリムとしてはそれだけで十分ではなく、信仰の基本の詳細について学び、身につけ、実践していく必要があります。

b）個別の信仰

信仰の基本それぞれを信じることを「個別の信仰」と呼びます。信仰の詳細としてここで取り上げられる、これら信仰の基本については、信仰の条件とも呼ばれます。

信仰の条件は以下の六つです。

1　アッラーを信じること
2　アッラーの天使たちを信じること
3　アッラーの諸啓典を信じること
4　アッラーの預言者たちを信じること
5　審判の日を信じること
6　運命、すなわち、良いことも悪いこともアッラーが創造されたことであると信じること

信仰の条件は「アーマントゥ」にまとめられています。ムスリムはこの言葉をその意味と共に学ぶ必要があります。
「アーマントゥ」は次の通りです。

آمَنْتُ بِاللهِ وَ مَلَئِكَتِهِ وَ كُتُبِهِ وَ رُسُلِهِ وَ اَلْيَوْمِ اَلْآخِرِ وَ بِالْقَدَرِ خَيْرِهِ وَ شَرِّهِ مِنَ اللهِ تَعَالَى
وَ اَلْبَعْثُ بَعْدَ اَلْمَوْتِ حَقٌّ اَشْهَدُ اَنْ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ وَأَشْهَدُ أَنَّ مُحَمَّدًا عَبْدُهُ وَ رَسُولُ اللَّهِ

読み方：アーマントゥ・ビッラーヒ
ワ・マラーイカティヒ
ワ・クトゥビヒ
ワ・ルスリヒ
ワ・ルヤウミ・ルアーヒリ

ワ・ビルカデリ・ハイリヒ・ワ・シャッリヒ
ミナッラーヒ・タアーラー
ワル・バース・バダル・マウティ・ハックン
アシュハド・アン・ラー・イラーハ・イッラーラー・ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスールフ
意味：
私はアッラーを
アッラーの天使たちを
アッラーの諸経典を
アッラーの使徒たちを
最後の審判を信じ、
運命のよきも悪しきもアッラーが創造されたことを信じます
死後復活させられることも真実です
アッラーの外に神はなく、ムハンマド（p.b.u.h.）はその使者であることを私は証言します

詩

存在そのもので、言葉で、舌で、声に出して、アッラーは唯一であられる
心の苦しみと共に　アッラーは唯一であられる
私たちはこうして生きてきた、こうして去ることをも望んでいるのだ
最初の息でも、最後の息でも、アッラーは唯一だと　（エミン・アリ・シパヒ）

信仰の観点から見た人間像

人は信仰の観点から三つに分類することができます。

1）信者

アッラーの存在と唯一性、ムハンマド（p.b.u.h.）がアッラーの預言者であることを心から信じ、この信仰を言葉として口に出した人を信者（ムーミン）と言います。

2）偽信者

アッラーの存在と唯一性、ムハンマド（p.b.u.h.）がアッラーの預言者であることを信じていないのにも関わらず､口では信じているという人を偽信者（ムナーフィク）と言います。

3）不信心者

アッラーの存在と唯一性、ムハンマド（p.b.u.h.）がアッラーの預言者であること

を信じず、信じていないということを口に出す人のことを不信心者（カーフィル）と言います。
　信者は、天国で永遠の幸福な生を得ます。偽信者と不信心者は天国に入ることはなく、信仰を持たなかったことの罰を地獄で受けます。

信仰が人間に与える安らぎと幸福

　人間は、肉体と魂によって成り立っています。そして私たちの肉体が、食べたり飲んだりすることを必要としているように、魂もまたその糧を必要としています。
　魂の最も重要な糧は、健やかな信仰です。アッラーを信仰し、信頼する人は、精神的な糧を獲得し、大きな力を得ることになります。なぜなら人間は常にアッラーの援助を必要としているからです。私たちが必要とするこの崇高な存在を信じ、結びつくことは、安らぎと安心の源となります。
　崇高なるアッラーは次のように仰せられています。
「これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」（雷電章２８）

　信仰は人を孤独であることから、無為であることから救います。信仰は魂の糧であり、心の光です。信仰を持たない人の魂は糧がなく、心に光がなく、最も大きな支えを持っていないのです。
　生きる上で人は、様々な苦しみに直面します。このようなとき、心がアッラーと結びついている、信仰を持つ人びとは希望を失うことがありません。アッラーに救いを求めるのです。アッラーを信頼し、忍耐をもって結果を待ちます。このような強い友に愛情と敬意で結びつくことは、人に大きな幸福をもたらすのです。
　信仰を持たない人は、希望を失ってしまいます。心の安らぎがないままに苦しむのです。苦しみから逃れようと、アルコールやドラッグといった物質によりかかって安らぎを見いだそうとします。そしてより大きな災いの方に引きずられていくのです。このようにして、人は現世と来世での幸福を失ってしまいます。

信仰と実践の間のつながり

　イスラーム教徒は、教えの定めるところを否定しない限り、そして心に信仰が有る限り、崇拝行為を行わずとも教えを放棄したことにはならず、不信心者とはなりません。イスラーム教徒でありつづけます。ただし、アッラーのご命令である崇拝行為を実行しなかったことで罪を犯したことになり、罰を受けることとなります。

崇拝行為は、信仰を成熟させ強化します。来世での罰から救われ、天国で恵みを授かります。信仰のみで十分として崇拝行為を放棄することは、信仰の弱体化をもたらし、信仰の光を消す要因となります。

これを一つの例で説明しましょう。信仰はむき出しのまま燃えているランプのようです。その炎が消えないよう、ガラスのランタンで覆う必要があるのです。もしこのようにして守られず、むき出しのまま燃えつづけると、ちょっとした風が吹くだけで消えてしまうでしょう。信仰も、私たちの心で燃える明かりです。それを守るのが崇拝行為です。礼拝、断食、その他の崇拝行為を行うことでアッラーへの義務である務めを果たしたことになり、同時に信仰を守ることになるのです。

崇拝行為が行われなかった場合には、信仰の光はむき出しのままで燃えるランプの炎のように守るもののない状態となり、いつか消えてしまうかもしれません。信仰が失われることは、信者にとって最も尊い天国の鍵をなくすことを意味します。だから崇拝行為は、信仰を守り、天国での永遠の生を得る上で非常に大きな役割を果たしているのです。

信仰が正しく受け入れられるための条件

信仰が正しく受け入れられるためには三つの条件があります。

1）希望が失われた状態で信仰を持つのではないこと

信仰を持っていなかった人が、死に際し罰を目にして信仰を持つことは認められません。

2）信者は、教えの定めるところを否定するような言動をとってはいけない

例えば、イスラームの命じる全てのことを信じている人が、礼拝を否定すれば、信仰を失ったことになります。なぜならイスラームにおいて信じるべきものはその全体であるからです。そのうちの一つを否定することは、全てを否定することなのです。

3）教えの定めるもののすべてが素晴らしいと受け入れること

教えの定めるもののうち一つでも気に入らないとすることは、信仰の喪失をもたらします。

信者にとって最も尊いのは信仰です。人はこの世での安らぎと幸福、あの世での永遠の幸福を信仰によって得るのです。ただし、臨終の間際まで信仰を守ること、信仰を抱いて来世に行くことが条件です。

人生の最後の瞬間まで信仰を守ることができない人、現世から信仰を持たずに去っていった人は、それ以前に信仰を持っていたとしてもそれが認められることはありません。だから私たちは信仰を守るよう努力し、教えに害を及ぼすような言動を避

けるべきなのです。もし信仰を損なうような言動を取ってしまったら、すぐに悔悟しアッラーに許しを求めます。

質問

1　カリマ・タウヒードとカリマ・シャハーダを言ってください、その意味を答えてください。
2　信仰の基本はいくつに区別することができますか。
3　包括的な信仰とは何ですか。
4　個別の信仰とは何ですか。
5　「アーマントゥ」を言ってください。その意味は何ですか。
6　信仰という観点から人はいくつの種類に分けることができますか。
7　信仰が人に与える安らぎと幸福とは何ですか。
8　信仰と崇拝行為との間のつながりについて説明してください。
9　信仰が正しく、認められたものとなるための条件とは何ですか。

第３章　アッラーへの信仰

●テーマ

- アッラーの存在と唯一性
- アッラーの特質
- アッラーへの愛情
- 真の信仰を持つ少女（コラム）

アッラーの存在と唯一性

信仰の六つの条件の１番目が、アッラーを信じることです。
理性を持ち、思春期に達した人間の最初の、そして最も重要な務めが、アッラーの存在と唯一性を認め信じることです。

周囲を眺めれば、何事であれ、それ自体が勝手に存在しているものではないことがわかります。美しい芸術作品は、それを作り出した作家の存在を示しています。例えば、私たちが使っている時計をつくる職人、芸術作品を生み出す画家、建物を設計する建築家は存在しませんか。もちろん存在しています。

だから、たいへん精緻な設計で創られ、完璧な秩序のうちに作動しているこの世界、そしてそこに生きる最も素晴らしい芸術作品である人間にも、もちろん創造主が存在するのです。そう、この創造主が、無限の力と強さの主であるアッラーなのです。世界はアッラーの存在を、そしてこの世界に見られる秩序と完全な均衡は、アッラーの唯一性を示しているのです。

私たちの最初の務めは、私たちを創造され生かされているアッラーを信じること、アッラーに心から結びつくことです。アッラーを正しく信じ、崇高なその存在をよく知るためには、アッラーの特質を学ぶ必要があります。

アッラーの特質

アッラーには 14 の特質があります。このうち６つはザーティ、８つはスブーティと呼ばれるものです。

ザーティの特質（これらの特質はアッラーに関する必須事項であり、その逆を考えることはできません）

1）ヴジュード

存在すること、存在しないことが考えられないこと。

2）クダム

アッラーの存在に始まりがないこと。アッラーは途中から存在し始められたのではないこと。他に何も存在しないときでも、アッラーは存在しておられたこと。

3）ベカー

アッラーの存在には終わりはないこと。全てが消失した後でもアッラーは存在しつづけられること。

4）ワフダーニヤ

アッラーが唯一であられること。アッラーは唯一であられ、アッラーに並ぶものも類するものも存在しないこと。

5）ムハーラファトゥン・リル・ハワァーディス

後に創造されたものにアッラーは似ておられないということ。

6）クヤーム・ビナフシヒ

アッラーの存在はご自身によるもので、アッラーは何ものをも必要とされないということ。全てのものがアッラーを必要としているということ。

スブーティの特質（これらの特質はアッラーに関して疑いなく確実である事柄です）

1）ハヤート

命あるお方であること。アッラーは永遠に命あるお方であるということ。

2）イリム

ご存知であること。アッラーは過去と未来、隠されたこと、明らかなこと全てをご存知であるということ。人の心に浮かんだことをもご存知であること。

3）サミィ

全てを聞かれること。アッラーは全てを聞かれるお方であるということ。

4）バサール

全てをご覧になること。アッラーは全てをご覧になられるお方であるということ。

5）イラーダ

望まれること。アッラーは望まれ、それを実現されるということ。

6）クドゥラタ

力が十分であること。アッラーは無限の力を持たれ、全てにその力が十分であるということ。

7）カラーム

語られること。アッラーは語られ、その言葉を預言者たちに聞かせられたという

こと。クルアーンはアッラーの言葉です。

8）タクウィーン

創造されること。アッラーは創造主であられるということ。世界の全てを創造されたのはアッラーであるということ。アッラーがその存在を望まれたものは、「あれ」と命じられればすぐに存在するようになります。また存在しているものも、アッラーがお望みになれば消え去ります。

イスラーム教徒はアッラーを次のように信じます。

アッラーは存在し、唯一であられます。その存在には始まりも終わりもありません。アッラーは創造された何物にも似ておられません。アッラーの存在はアッラーご自身によるものです。何物をも必要とはされません。全ての被造物はアッラーを必要としています。

アッラーは常に命を持ったお方であられ、全てをご存知です。全てを聞かれ、ご覧になられます。

アッラーは望まれ、望まれたことを実行されます。誰もその御業に干渉することはできません。

アッラーは無限の力と強さを持たれた存在です。その力は全てに対し十分です。

アッラーは創造主であられます。望まれるものを無から創造され、望まれないものを消されます。世界にあるものは全て、アッラーが創造されたからこそ存在します。また創造された全てのものには、英知が存在します。

アッラーは言葉の主であられ、預言者たちにその言葉をお聞かせになられ、そのご命令を伝えられました、イスラームの聖典クルアーンは、アッラーのお言葉です。

アッラーをこのように正しく信仰する人は、被造物の中で誉れある位置を占め、真の価値を得ることになります。この信仰は人の心のあらゆる穢れを消し、良い考えや性質でそれを飾ります。

人は、誰も見ていないところでも、道徳に反する行動をとらなくなります。なぜならアッラーが全てをご覧になっていること、全てをご存知であることを信じているからです。アッラーへの信仰は、全ての善の源なのです。

アッラーへの愛情

アッラーは私たちに、ものを見るための目、聞くための耳、話すための舌、仕事をするための手、歩くための足を与えられました。肉体に理性や知恵を備えられ、私たちを被造物の中で最も優れた存在として創造されました。

健康と幸福のうちに生きることができるよう、地上に多くの恵みを用意され、呼

吸している空気や飲み水に至るまで、人のあらゆる求めに応えられました。短時間でも空気のない状態で、呼吸ができないと人は生きていけません。命を失ってしまうのです。あらゆる瞬間に私たちが必要としているこれらの恵みを考えるなら、アッラーが私たちにどれほどの恵みを下さっているか、よく理解できるでしょう。

アッラーは次のように命じられています。

「たとえアッラーの恩恵を数えあげても、あなたがたはそれを数えられないであろう。」（イブラーヒーム章34節）

人は、自分に良いことをしてくれた人を愛します。そうであるなら、私たちが最も愛するべき存在はアッラーです。なぜならアッラーが私たちのために与えて下さったことは数えきれないほどあるからです。だから私たちもアッラーを愛するべきなのです。愛情は単に言葉では不十分です。人は愛する存在に敬意を払い、その存在からよく思われないことは避けます。アッラーへの愛情は、その神聖な御名を敬意を持って思い、アッラーが命じられた崇拝行為の務めを喜んで果たし、禁じられたことを避けることによって深まるのです。

もし私たちがそのように振る舞い、アッラーを愛していることを示すことができれば、アッラーも私たちを愛され、現世での富よりもなお豊かな恵みを来世で与えてくださるでしょう。

人にとって最大の幸福は、アッラーから愛される人となることです。

アッラー

天地を創造され、
木をはぐくまれ、
花を咲かせられるお方、
唯一なるアッラー

動物に糧を与えられ、
人を生かされ、
この祖国を守られるお方、
唯一なるアッラー

アッラーはどこにも存在され、
私が何をしようともそれをご覧になられる
何を話してもそれをお聞きになられる
アッラーは存在され、唯一であられ、偉大なるお方

私はアッラーを愛し、
そのお言葉を聞く
（サブリ・ジェミル・ヤルクルト）

（コラム）
真の信仰を持つ少女

ウマルは、カリフであられた頃、牛乳屋が牛乳に水を混ぜるのを禁じられました。そしてこの命令を各地に伝えられました。町々の秩序を点検するためにある晩マディーナを歩いておられる際、疲れを感じ、休憩するためにある家の壁にもたれていました。そのとき、家の中の母親と娘の次のような会話を耳にしました。
母親「さあ、この牛乳の中に少し水を入れなさい」
娘「カリフさまが、牛乳に水を入れることを禁じられたのを知らないの。」
母親「知っているわよ」
娘「カリフさまが禁じられたことをどうして、できるの。」
母親「早く牛乳に水を入れなさい。ウマルはあなたのことなんて見ていないわよ」
娘「ウマルさまは見れなくても、アッラーはご覧になっているわよ。彼が見ているところでできないことは、彼が見ていないところでも絶対にやらないわ」

ウマルはこの会話を聞いてから、家に戻りました。そして立派な教えを身につけたこの貧しい少女を、自分の息子アーシムと結婚させたのでした。
アッラーへの愛情が人の行為に与える良い影響を示す話です。

質問

1　人の最初の務めは何ですか。
2　アッラーにはいくつの特質がありますか。
3　アッラーのザーティの特質を挙げてください。
4　アッラーのスブーティの特質を挙げてください。
5　信者はどのようにアッラーを信仰しますか。

第４章　天使への信仰

●テーマ

- **天使の本質と特徴**
- **主な天使の名称と役割**
- **天使を信じることの意義**

天使の本質と特徴

信仰の六つの条件の２番目が、天使を信じることです。
天使は、光から創造された被造物です。彼らは飲み食いすることなく、また男女の区別もありません。

天使はアッラーの愛されるしもべです。アッラーの命令を完全に守り、罪を犯すことはありません。

崇高なるアッラーは被造物を様々な形で創造されました。それらの一部は私たちは見ることができ、一部は見ることができません。人は一部の被造物を見ることができないのです。なぜなら人間の目は全てのものを見ることができるようには創造されていないからです。見るという能力は限られたものだからです。

例えば、私たちは非常に小さい物質を見ることができません。同様に空気や風、魂や理性を見ることもできません。電線を通る電流も見ることはできません。しかしそれらは、目に見えないが存在しているということを私たちは知っています。天使もまた、存在していながらも目には見えない被造物なのです。

天使は光から創造された繊細な被造物であり、私たちの目には見えません。しかし私たちは天使の存在を信じます。なぜなら天使の存在をアッラーがクルアーンで伝えておられるからです。預言者さまも天使たちを実際に目にされ、私たちに知らされました。崇高なるアッラーと預言者さまが伝えられたことは全て真実であり、だから私たちは天使の存在を確信しているのです。

主な天使の名称と役割

天使たちは地にも天にも、あらゆる場所に存在します。その数はアッラーのみがご存じです。それぞれに、アッラーが与えられた務めがあります。

一部の天使は、常にアッラーを崇拝しています。一部はこの世界の秩序と均衡を

保つ役割を担っています。人の力が及ばない大きな仕事を行うのです。人びとに善行を勧め、悪から守り、困難に陥ったときに信者への援助のために送られる天使もいます。崇高なるアッラーは天使の存在によって限りないそのお力を示されています。

大天使とその役割

1）ジェブラーイール

天使たちのうち最も偉大な存在です。その役割は、アッラーと預言者たちの間の使者となること、アッラーの啓典を預言者たちにもたらすことです。私たちの啓典クルアーンをアッラーから預言者ムハンマド（p.b.u.h.）にもたらしたのも、天使ジェブラーイールです。

2）ミカーイル

自然界の出来事を司る役割を持ちます。（雨が降ること、風が吹くこと、穀物が実ることなど）

3）イスラーフィール

最後の審判、人の死後の復活を受け持ちます。

4）アズラーイール

寿命が尽きた人の魂を取る役割を持ちます。

キラーマン・カーティビン

二人の天使です。片方は人の右側に、もう片方は左側にいます。右側にいる天使は人の善行を、左側にいる天使は人の悪事を記録します。このようにして、人の善行や悪事が記載された記録簿が作られます。

ムンカルとナキル

彼らは、人の死後に墓場で尋問をする役割を持ちます。

ルドゥワン

天国にいる天使たちの長です。

マーリク

地獄の天使たちの長です。

天使たちを信じることの意義

いつでもどこでも私たちと共にいる、私たちから決して離れることのない天使たちもいます。キラーマン・カーティビンという名のこの天使たちの役割は、私たちが行った良いこと、悪いことを記録することです。つまり人間は一人でいるときですら、一人ではないのです。常に見守り、記録している天使がいるのです。

天使を信じる人は、誰もいない場所でも「誰も私のことを見ていない、思うまま

に振る舞おう」ということはできません。なぜならどこにいても、自分を見守り、良いことも悪いことも記録されていることを知っているからです。このようにして、天使への信仰は、人が悪事をなすことを断念させるものとなるのです。

この他、私たちに善行を薦め、悪事から遠ざけようとする天使もいます。この世界で、良いこと、善の模範は天使であり、悪いこと、醜いことの模範はシャイターンです。天使は人を善へと導き、シャイターンは悪へと導きます。

例えば、空腹で助けを必要としている人を見たとき、私たちの心に憐みの気持ちが生じ、秘められた声が「この貧しい人に援助をしなさい」と呼びかけます。この声が、天使のものです。このときに、心の中ではもう一つの声が「援助などしたらあなたのお金が減る。やめておきなさい」とささやき、援助をやめさせようとします。このささやきがシャイターンの声です。

この状態で私たちは、貧しい人に援助をしようという声に従うべきです。なぜならこの声は、善を好み、私たちをも良い行いへと招く親友の声だからです。この声に従うことは私たちに良い行いをさせ、報償を得る要因となります。シャイターンの声に従うことは避けるべきです。なぜならそれは私たちを善から遠ざけ、罪を犯させようとする欺瞞であるからです。

このように、天使を信じることは悪事を避け、徳を身に着ける一助となるのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように語られています。

「シャイターンも天使も、人の心にいくつかのものをもたらす。シャイターンの仕事は人を悪に導くことであり、人を真理から遠ざけることである。天使の仕事は人を真理や善へと導き、悪から遠ざけることである。

誰であれ、心の中で善行へと呼びかける声を聞いたときは、それは天使の声であるということを知りなさい。すぐにそれに従い、アッラーに感謝しなさい。誰であれ心の中で悪へと呼びかける声を聞いたときは、それはシャイターンの声であることを知りなさい。そこから遠ざかり、アッラーに庇護を求めなさい」

質問

1　天使はどのような存在ですか。
2　なぜ天使を見ることができないのでしょうか。
3　主な天使の名前と役割を述べてください。
4　天使を信じることの価値とは何でしょうか。

第５章　啓典への信仰

●テーマ

- 啓示の特徴
- 啓示の種類
- 啓典とスフーフ
- クルアーンの啓示
- クルアーンの筆記と書物としての編纂
- クルアーンの特徴
- クルアーンに対する私たちの役割
- 崇高なるクルアーン
- クルアーンを読むことの徳に関する預言者の聖なる言葉

啓示の特徴

啓示（ワヒー）の辞書的な意味は、何かをひそかに素早く伝えるというものです。啓示の宗教的な意味は、アッラーによって直接、もしくは媒介者を通して預言者たちに伝えられ、確定された知識を意味します。アッラーが、しもべたちの中から選んだ人びとに、お望みの事柄を伝えられる場合は、特別な手段のうちどれかが用いられます。アッラーは様々な啓示の手段を通し、その言葉を預言者たちに伝えられました。

啓示の種類

１）正夢

アッラーは望まれる事柄を、正夢を通して預言者たちに伝えられました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に最初にもたらされた啓示はこの形でした。夢に見たことがそのまま現れ、実現しました。

２）閃きという形での啓示

アッラーは望まれる事柄を、媒介を通さず直接預言者たちの心に生じさせられました。

３）覆いの陰からの言葉

ときには、媒介を通さず、それを語る人の姿が見られることもなく、アッラーの

言葉が聞かれました。

４）使者（天使）を通しての啓示

崇高なるアッラーは、その言葉を、天使を通して預言者たちに伝えられました。

アッラーの言葉を預言者たちに伝えた天使は、ときには本来の姿で現れました。ときには人間の姿でも現れました。そこにいる人びとは彼の姿を見て、声を聞いていました。ときには天使が来て預言者たちに啓示を伝えましたが、その姿は目に見えない状態でした。

クルアーンは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）にこの４番目の手段である天使を通しての啓示という形で下されました。クルアーンをアッラーから受け取って預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に伝えたこの使者は天使のうち最も偉大なジェブラーイールでした。

啓典とスフーフ

信仰の六つの条件の３番目は、啓典を信じることです。崇高なるアッラーはしもべに、預言者を通して啓典を下されました。この啓典によりアッラーのご命令と禁止事項が伝えられ、しもべが行うべき役割が教えられ、現世と来世で幸福になるための道が示されたのです。

私たちムスリムは、預言者たちに下された啓典の全てを信じます。ただ、クルアーン以外の啓典はのちに形を変え、元のままの姿を保ってはいないことも知っています。だから私たちは、現在の変化してしまった状態のものではなく、預言者たちに下された当時の変化していない状態のものを信じます。クルアーンは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に下されたままの形が注意深く保持され、一切変更されることはなかったのです。

アッラーによって預言者たちに下された啓典の一部は、数ページという少ない分量のものでした。これらは、「（複数の）ページ」という意味で「スフーフ」と呼ばれます。

それ以外のものを「四大啓典」と呼びます。

スフーフは、次の預言者たちに遣わされました。

１）１０ページ、預言者アーダムに

２）５０ページ、預言者シトに

３）３０ページ、預言者イドリスに

４）１０ページ、預言者イブラーヒームに

これらは合計１００ページです。

四大啓典

１）「律法」は預言者ムーサーに
２）「詩篇」は預言者ダーウートに
３）「新約聖書」は預言者イーサーに
４）「クルアーン」は私たちの預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に

クルアーンの啓示

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、預言者という役割が与えられる以前、マッカ近郊のヒラー山にある洞窟にこもり、アッラーの偉大さについて熟考されていました。
６１０年のラマダーン月の月曜日の夜に、再びヒラー山の洞窟にこもり、心と全ての存在をかけてアッラーへと向かっていました。そのとき、天使たちのうち最も偉大な存在であるジェブラーイールが、アッラーの命令を受けて預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の元に来ました。そして「**読め**」と言い、この命令を３度繰り返しました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が「**何を読めばいいでしょうか**」と聞くと、ジェブラーイールはクルアーンの五つの節を伝えました。こうして最初の啓示がなされ、クルアーンが下され始めたのです。

詩

アッラーの最も輝かしい光が顕れた
クルアーンの太陽が生まれた、空白の夜が終わった

最初の啓示が下されたとき、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は４０歳でした。最初に下されたのは、凝血章の冒頭の次の章句です。

１　読め、「創造なされる御方、あなたの主の御名において。
２　一凝血から、人間を創られた。」
３　読め、「あなたの主は、最高の尊貴であられ、
４　筆によって（書くことを）教えられた御方。
５　人間に未知なることを教えられた御方である。」（凝血章１節～５節）

クルアーンが下され始めると共に、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に、彼が最後の預言者であることが伝えられました。クルアーンは、ときには節ごとに、ときには章ごとに、２３年をかけて少しずつ啓示されました。章句は多くの場合、何らかの質問もしくは出来事に関連して下されました。章句の啓示の要因となった質問や出来事を、「啓示の要因」と呼びます。クルアーンのうち、最後に啓示された句は雌牛

章第２８１節でした。

「あなたがたは、アッラーに帰される日のために（かれを）畏れなさい。そのとき、各人が稼いだ分に対し清算され、誰も不当に扱われることはないであろう」

クルアーンの筆記と書物としての編纂

章句が下されるごとに、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は啓示のための書記を呼び、その章句がどの章のどこに書かれるかを示されました。書記たちも、示された通りに書きとめました。下された章句を教友たちが読み、多くの場合暗唱していました。このようにしてクルアーンは、記述と暗唱両方によって、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の時代に保持されたのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が健在である時代にはクルアーンの啓示が続いたため、クルアーンの言葉の記されたページは書物として編纂されることはありませんでした。クルアーンは啓示の終了によって完成したのです。

クルアーンの言葉の記されたページをまとめて一冊の本にすることを「ムスハフ」と言います。

これを行う際には、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の示された項目に従って章が並べられました。編纂されたクルアーンは、カリフであるアブー・バクルの元に運ばれ、そこで保管されました。

のちに、イスラームが広まったことにより、第三代のカリフであるウスマーンがこのクルアーンの複製を作り、様々なイスラーム国家に送りました。

このようにしてクルアーンは、アッラーから預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に啓示されたままの形で保持され、一切の変更が加えられることなく今日に至っています。そして最後の審判の日まで、この状態が続くでしょう。今日私たちの手元にあるクルアーンは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の時代に伝えられ、暗唱され、アブー・バクルの時代に編纂され、ウスマーンによって複写されたクルアーンなのです。

クルアーンの特徴

アッラーによって、最後の、そして最も偉大な預言者である預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に送られたクルアーンこそイスラームの啓典です。

クルアーンをその他の啓典と区別し、優れたものとしている多くの特徴があります。

その特徴の主なものは次の通りです。

a）クルアーンは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に下されたままの形で、一切の変更が

加えられることなく今日まで伝えられてきました。最後の審判の日までこれは続きます。他の啓典のうち一部は完全に喪失し、一部は変更が加えられ、どれもアッラーから下されたときの原形が保たれてはいません。

クルアーンが守られることを、崇高なるアッラーは次の章句で保証されています。**「本当にわれこそは、その訓戒を下し、必ずそれを守護するのである」**（アル・**ヒジュル章第９節**）

実際アッラーは、神聖なる書物であるクルアーンを、今日まで守られました。そして最後の審判の日まで守られることでしょう。

b）クルアーンは、まとめてではなく、ときと出来事によって少しずつ下されました。この状況は、それが容易に暗唱され、理解されることを助けました。

c）クルアーンは、最後の啓典です。それ以降には一切の啓典は下されません。クルアーンの定める事柄は最後の審判の日まで有効であり、変更はなされないでしょう。それ以前の啓典は、一定の時代のために下されていました。

d）クルアーンは、全ての人びとのために下された啓典です。それぞれの時代のニーズに応える真実と英知で満たされています。しかし他の啓典は、一定の人びとのために下されたものでした。

e）クルアーンは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の最大の、そして永遠の奇蹟です。その言葉、意味、そしてそれが持つ崇高な真実により、比類なき奇蹟なのです。

クルアーンに対する私たちの役割

１）全てのムスリムは、クルアーンがアッラーの言葉であることを認識し、タジュウィードの法則に従ってクルアーンを正しく読まなければいけません。

２）クルアーンは、ウドゥーを行った状態で手に取り、「アウーズ・ビッラーヒ、ミナッシャイターニ　ラジーム」と唱えてから読み始めます。クルアーンを読むときはできる限りキブラの方向に向かって、丁寧に、敬意を込めて読むべきです。そしてその意味を理解するように努力しなければなりません。

３）クルアーンは清潔な場所で読まれるべきです。他の仕事で忙しく、クルアーンを聞いていない人のそばで、あるいは汚い場所で読むべきではありません。

４）他の人の読んでいるクルアーンは、敬意を持って聴かなければなりません。

５）クルアーンは、高い場所、清潔な場所に保管しなければいけません。低い場所におかれるべきではありません。

６）クルアーンが命じていることは実践し、禁じていることは避けなければいけません。クルアーンの徳に基づいて行動しなければいけないのです。

崇高なるクルアーン

崇高なるクルアーン
崇高なるクルアーン
あなたをアッラーのおそばから
預言者さまが携えてきてくださった

あなたは世界の光であり、
魂の灯りであり、
審判の日の
信仰のよりどころです

崇高なるクルアーン
崇高なるクルアーン
あなたを何よりも
敬い、愛します

（ギョクハン・エヴリヤーオウル）

（コラム）
クルアーンを読むことの徳に関する預言者の聖なる言葉

「あなた方のうち最も尊いのは、クルアーンを学ぶ者、そしてそれを教える者である」

「誰であれ、アッラーの書であるクルアーンを一文字読めば、その人への善行となる。あらゆる善行には、その報償が十倍となって与えられる」

「誰であれアッラーの書であるクルアーンを一章読めば、その人には何倍もの善行が与えられる。誰であれアッラーの書であるクルアーンを一章読めば、審判の日にその人のための光となる」

「クルアーンを読みなさい。なぜならそれは、審判の日にそれを読む人のためにとりなしを行うからである」
「誰であれクルアーンを読み、それに従って行動すれば、審判の日にはその両親に王冠が与えられ、その輝きは現世の家にさす光よりもなお輝かしい。それを伴って行動する人の善行についてあなた方が考えてみるといい」

預言者さまはアブー・ザッルに言われました。
「朝、家を出て、アッラーの書であるクルアーンからの一章を学ぶことは、あなたにとって百ラカートの礼拝よりもなお尊い」

「誰であれクルアーンを読み、それを覚えれば、ハラールであるものをハラールと知り、ハラームであるものをハラームと知れば、それによってアッラーはその人を天国に入れられ、その後に続く１０人が、地獄に行くべき人であったとしてもその人にとりなしをさせられる」

質問

1　啓示とは何を意味しますか。
2　啓示の種類を説明してください。
3　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）にはどのような形で啓示が下りましたか。
4　クルアーンは、どのような種類の啓示によって預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に下りましたか。
5　啓典やスフーフはどの預言者に下されましたか。
6　クルアーンはどのように下されましたか。最初に啓示された言葉は何ですか。
7　クルアーンの筆記はどのように行われましたか。
8　「ムスハフ」とは何ですか。
9　クルアーンの特徴はどのようなものですか。
10　クルアーンに対する私たちの役割とは何ですか。
11　クルアーンを読むことの徳についての五つのハディースを挙げてください。

第６章　預言者たちへの信仰

●テーマ

- **預言者性と、預言者たちの必要性**
- **預言者たちの役割**
- **預言者に見られる特性**
- **クルアーンに名前が記されている預言者たち**
- **預言者たちが伝えた教えの共通点**
- **ムージゼ（奇蹟）とケラーマ（驚異）とは**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の奇蹟**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の特性**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が最後の預言者であること**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）についての人びとの発言（コラム）**

預言者性と、預言者たちの必要性

信仰の六つの条件のうち４番目は、預言者たちを信じることです。預言者とは、アッラーと人との間の使者の役割を果たす存在です。アッラーはこの任務にふさわしい、最も素晴らしいしもべを選ばれます。預言者たちは、人びとに道を示す者として遣わされました。人びとはこのような道案内を必要としているのです。

なぜなら、人は自分の理性では、アッラーの存在を理解することはできたとしても、その気高い特質を把握することはできないからです。アッラーにどうやって崇拝行為を行うかについて、来世での生について、現世では誰に報償が与えられるか、誰に罰が与えられるかについて、現世と来世での幸福はどのように獲得されるかということを知ることはできないのです。

これらの真実を人びとに教え、現世と来世で幸福になる道を示すために、崇高なるアッラーは預言者たちに、その任務を与えたのです。

預言者たちの役割

預言者たちは最も正しい形で人びとにアッラーを紹介しました。信仰の基本、そして崇拝行為の形を教えました。宗教的な規則、徳について説き明かしました。また自ら語ったことを実践し、人びとへの模範となりました。

預言者たちは最も困難な状況下にあってもその役割を果たし、信仰しない人びとに、自らが預言者であることを証明するため、他の人ができないような驚異的な事柄、奇蹟を示しました。アッラーの命令に従う人びとに天国の吉報を伝え、従わない人びとに地獄の罰があることを教えました。預言者たちは、アッラーが人間たちの中から選ばれた、あらゆる種類の徳の美しさを身に着けていました。

預言者に見られる特性

1）正しさ

預言者たちはこの上なく正しい人びとでした。決して嘘をつくことはありませんでした。「こうであった」と彼らが言えばそうであったのであり、「こうなるだろう」と言えば実際にそうなるのです。

2）信頼性

預言者たちはどの観点からみても信頼できる人びとでした。信頼を裏切ることは決してありませんでした。

3）預言者特有の理性

預言者たちは理性と明敏さを備え、高い知性を持った人びとでした。

4）罪のなさ

罪を犯さないという意味です。預言者たちは秘められたものであれ、明らかなものであれ、決して罪を犯すことはありませんでした。

5）布教

教えを伝えるという意味です。預言者たちはアッラーから受け取った宗教上の規範を、そのままの形で、一切変更することなく人びとに伝えました。

クルアーンに名前が記されている預言者たち

最初の預言者はアーダムであり、最後の預言者は私たちの預言者であるムハンマド（p.b.u.h.）です。この二人の間に、多くの預言者たちが遣わされました。クルアーンには二十五人の預言者の名前が記されています。ただ実際の預言者の数はもっと多く、私たちはクルアーンにその名前が登場する預言者と同様に、アッラーのみがご存じの他の預言者たちも区別することなく信じます。

クルアーンで名前が登場する預言者は次の通りです。

1、アーダム　2、イドリス　3、ヌーフ　4、フード　5、サーリフ　6、ルート　7、イブラーヒーム　8、イスマーイール　9、イスハーク　10、ヤークブ

11、ユースフ　12、シュアイブ　13、ハールン　14、ムーサー　15、ダーウード　16、スレイマーン　17、アイユーブ　18、ズルキフル　19、イルヤス　20、アルヤサ　21、ザカリヤ　22、ヤフヤー　23、イーサー　25、ムハンマド（p.b.u.h.）

預言者たちが伝えた教えの共通点

全ての預言者にアッラーが教えられた教えは正しいものです。正しい教えには、変わることのないいくつかの基本があります。

１　信仰の基本
２　崇拝行為
３　道徳的決まりごと

時代の変化に従い、人間の状態やニーズに応じて、いくつかの宗教的な規則や崇拝行為の形は変化してきました。それは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の到来により、最後にして、最も完成された形となったのです。

ムージゼ（奇蹟）とケラーマ（驚異）とは

ムージゼとは、預言者たちが預言者であることを示すために、アッラーのお助けによって示した、特別な出来事です。奇蹟は、預言者であることを示す証拠のようなものです。預言者としての活動にふさわしい形で現れます。他の人びとはこのようなことを行うことはできず、奇蹟を示すことはできません。そのような力はないからです。

奇蹟を起こすことは、預言者たちにのみ与えられたものです。アッラーのお許しとお力によって起きます。

全ての預言者は。預言者であることを示す神の証拠として奇蹟を起こしました。そして自分たちのことを信じない者を沈黙させることができたのです。

ケラーマとは、アッラーのお助けを得てしもべによって示される驚異的な出来事のことです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の奇蹟

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、アッラーによって預言者として遣わされたことを示すため、多くの奇蹟を示されました。

それには次のようなものがあります。

a）ある日、午後の礼拝が近づいてきたとき、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はウドゥー

を行うための水を見つけることができずにいました。そこで人びとは預言者に、中に少量の水が入った容器を持ってきました。預言者ムハンマド(p.b.u.h.)は手を、容器の中の水に入れられました。すると指の間から水が流れ始めました。そこにいた３００人ほどの人がウドゥーを行うまで、水は流れつづけました。

b）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、マディーナの礼拝所で、ナツメヤシの木の切り株の上に立って、人びとに話をされていました。やがてムスリムの聴衆の数が増えてくると、預言者はより高いところで話をしようと、三段の説教台を作らせました。そしてある金曜日、説教台に立って話を始めたところ、礼拝所の反対側にあったナツメヤシの切り株が､預言者ムハンマド（p.b.u.h.）から遠く離れてしまったために、親からはぐれた子供のラクダのような声で泣き始めました。それを見た預言者は、説教台から下り、切り株を抱きしめられました。すると切り株の泣き声は止まりました。

c）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、聖遷の１年半前に、ブラークと呼ばれる乗り物に乗り、マッカのハラーム・モスクからエルサレムのアル・アクサ・モスクへと旅をされ、その地から天使ジェブラーイールと共に天へ昇られました。アッラーのお招きを受けたこの旅は、この世界には並ぶもののない出来事であり、非常に短期間で実現したものでした。アッラーの無限のお力の作品であるこの出来事は、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の「**夜の旅と昇天**」という奇蹟なのです。

d）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の､最大の､そして継続的な奇蹟は､クルアーンです。人びとの魂を鎮め、心に安らぎを与える音律と英知に満ちた崇高な意味、人びとの幸福のためにもたらされた不変の規範、そして全ての時代を照らす真実によって、クルアーンは比類なき奇蹟なのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の特性

崇高なるアッラーは次のように仰せられました。

「われは、全人類への吉報の伝達者また警告者として、あなたを遣わした」（サバア章第２８節）

「言ってやるがいい。『人びとよ、わたしはアッラーの使徒として、あなたがた凡てに遣わされた者である』」（高壁章第１５８節）

私たちはムスリムとして、一切の区別なく、預言者たち全てを信じます。ただ、私たちの預言者である預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、他の預言者たちよりも優れた立場と特性を持っておられます。

その特性とは次のようなものです。

１）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はアッラーの最愛のしもべであられ、被造物のう

ち最も偉大で最も高い徳を身につけたお方です。
2）最後の預言者であり、彼以降には預言者は現れません。
3）全ての人びとの預言者です。彼以前の預言者たちは、一定の民族のために遣わされていました。
4）その預言者性は、最後の審判まで、全ての時間を包括するものです。他の預言者たちの任務は、一定の時代を対象としたものでした。
5）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が伝えたイスラームの教えは、審判の日まで続くものです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が最後の預言者であること

アッラーは次のように仰せられました。
「アッラーの使徒であり、また預言者たちの封緘である」（部族連合章第４０節）
預言者たちのうち最も偉大であり、また最後の預言者です。
彼が伝えたイスラームの教えは、最後の教えです。アッラーによって下されたクルアーンを、全ての人びとに伝える、アッラーの最後の預言者なのです。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の登場によって預言者という扉は閉ざされました。彼は地上の全ての人びとの預言者です。この真実を、クルアーンは明白に語っています。
彼以前の預言者たちは一定の集団のために遣わされていました。彼らは一軒の家を照らすランプに似ています。全ての人びとのために遣わされた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、世界を照らす太陽に似ています。太陽が昇った後は、もはやランプは必要がなくなったのです。

短いドゥアー

アッラーよ、私たちを光の消えない道を歩ませてください
私たちを、あなたの愛する使徒から遠ざけないでください
あなたの気前のよさは、どのしもべにも欠けることなく与えられます
無力な者、弱い者の腕をとって支えられます

悔悟は、かならず恵みを受け、認められます
アッラーよ、私たちに、預言者の道を歩ませてください
（E・アリ・シパヒ）

（コラム）
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）についての人びとの発言

「人間の歴史において、最も偉大な人物はムハンマド（p.b.u.h.）である」
マイケル・H・ハートというアメリカの学者は、「人間の歴史における最も影響力のある１００人」という歴史研究において、歴史及び現代に最も影響を与えた１００人のうち、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を、世界で最も偉大な人物であると述べています。

アメリカの学者が書いたこの本は、１９７８年の１０月に出版され、大きな注目を集めました。本の作者であるマイケル・H・ハート博士は、その作品で預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が最も偉大な人物であるということについて次のように言及しています。

「世界で最も影響力のある人びとのリストのトップにムハンマド（p.b.u.h.）を選んだことは、一部の読者を驚かせるかもしれない。質問をしたい人もいるかもしれない。しかしムハンマド（p.b.u.h.）は、歴史において宗教的、世俗的な観点から最も大きな成功を収めた人物である」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に強い敬意を抱くドイツの政治家ビスマルク王子は、次のように語っています。

「私はあなたと同じ時代に生きていないことを大いに悲しんでいる。人類はあなたのような優れた力を持つ人とただ一度だけ出会った。今後は二度と出会うことはないだろう。威厳あるあなたの前で、私は深い敬意を持って頭を下げる」

フランスの哲学者アレクシ・ロバゾンは次のように語っています。

「人びとの導きのためにムハンマド（p.b.u.h.）に下されたクルアーンは、英知に満ちた輝かしい書物である。ムハンマド（p.b.u.h.）が真の預言者であることに疑問の余地はない」

有名なトルストイは次のように語っています。

「預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、非常に偉大な改革者である。人類に大きな奉仕を行った。一つの集団を、真実の光に至らせた。これは誉れとして十分なことだ。人びとを流血から救い、平和に導いた。彼らに向上するための道を拓いた。彼のような偉大な人物には、どのような敬意であれふさわしい」

質問

1　預言者とはどのような人のことですか。なぜ預言者が必要なのですか。
2　預言者の役割とはどのようなものですか。
3　預言者に必ず見られる特性とはどのようなものですか。
4　クルアーンで名前が言及されている預言者たちのうち、最初と最後の預言者は誰ですか。
5　預言者たちが伝えた教えの共通点とは何ですか。
6　奇蹟と驚異とは何ですか。
7　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の奇蹟のうち三つを説明してください。
8　クルアーンはなぜ奇蹟なのですか。
9　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の特性とはどのようなものですか。
10　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が最後の預言者であることについて説明してください。

第７章　来世への信仰

●テーマ

- **来世への信仰とは何を意味するか**
- **来世への信仰のもたらすもの**
- **死**
- **墓**
- **キヤーマ（世界の終焉）**
- **報償と罰、天国と地獄**

来世への信仰とは何を意味するか

信仰の六つの条件の５番目は、来世と最後の審判を信じることです。人間、そしてその他全ての生命体に終わりがあるように、私たちが生きている世界にも終わりがあります。アッラーが定められたそのときが来ると、任務を帯びた天使イスラーフィールが「スール」と呼ばれるラッパのようなものを吹き鳴らし、そこから出るすさまじい音により（アッラーが望まれるもの以外の）全ての生命は死に絶えます。天地の均衡は崩れ、世界は新しい形となるのです。

最後の審判と呼ばれるこの出来事の少し後で、アッラーの命令によってイスラーフィールは再びスールを吹きます。そして全ての人は蘇り、「マフシャル」と呼ばれる場に集められます。ここで人びとはアッラーの御前に出て、現世で行ったことについて問われます。「キラーマン・カーティビン」と呼ばれる天使によって、良い行いと悪い行いが記録された「行いのノート」が人の手に与えられ、一人残らず、現世で行ったことをそのノートに見出します。

現世でひそかに、あるいは明白な形で行っていた全ての罪が明らかにされます。そして善と悪が、非常に細やかで公正な秤ではかられます。そして人は現世で行ったことの対価を得るのです。

人は、現世で植えたものが何であれ、来世でそれを収穫するのです。神の正義は実現し、誰の権利も不正に扱われることはありません。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように語られています。

「審判の日、人は四つのことについて尋問を受けることなくして、アッラーの御前を離れることはない。

― 一生をどこで費やしたか、

—体をどこで使ったか、
—財産をどこで得て何に使ったか、
—知っていることをもとにしてどのように振る舞ったか」

この復活によって始まり、無限に続くときのことを、「来世」と言います、全ての人は死後、新たに甦り、そこから永遠に続く生があることを信じることは、信仰の最も重要な基盤の一つです。

来世への信仰のもたらすもの

a）来世を信じることは、人に責任感を獲得させます。責任感を持つ人は、その振る舞いに注意を払います。

来世を信じることは、死後に再び蘇ること、この世で行ったことについてアッラーに勘定を問われること、良いことを行った人は報償を受け、悪いことを行った人は罰を受けることを信じること。この信条は人を悪い行いから遠ざけ、良い行い、正しい行いへと向かわせ、道徳を身に着けさせるものです。この信条を持つ人びとで構成された社会では、誰も他者に害を与えることはなく、皆が互いの権利を尊重し、できる限り良い行いをしようとするでしょう。この振る舞いは、人びとの間に互いに、愛情や信頼を育みます。個人が高い徳を持つこと、社会が安らぎと信頼を得ることにおいて、来世への信仰はとても重要な役割を果たします。

b）来世を信じる人は、はかない現世で、より崇高で終わりのない世界のために備えます。長い旅に出る人は、十分な資金を持ち、準備をします。資金を持たず、準備をすることなく旅に出ることはありません。

死後に続く来世での旅は、現世での旅よりもずっと長く、重要なのです。だから来世のために、より多くの糧を用意し、備える必要があるのです。

来世を信じる人は、アッラーのご命令を実行し、禁じられたことから遠ざかることによって、来世への備えを行ったことになります。十分な準備をして出発する人は、より高い位階での生に移ることができます。崇高なるアッラーは「糧を用意しなさい」と命じられ、備えを怠ることがないようにと求められているのです。

来世のために備えをしない人は、死の瞬間に真実を目にします。そしてアッラーのご命令に従うために現世に戻ることを望みます。しかしそのときにはすでに手遅れで、その望みはかなえられないのです。この状態はクルアーンで次のように言及されています。

「だが死が訪れると、かれらは言う。『主よ、わたしを（生に）送り帰してください。

わたしが残してきたものに就いて良い行いをします』」（信者たち章第１００節）

c）来世を信じることは人の慰めとなり、悲しみを癒します。

　この世界では多くの人びとが、その善行の見返りを得ることなく、権利の侵害を受けた人がその権利を回復することなく、あるいは人びとにひどい行いをした人がその罰を受けることなく死を迎えます。正しいことと正しくないこと、良いことと悪いことが区別され、全員が自分の行いの完全なる見返りを受けるのが、審判の日なのです。

　審判の日には神の公正さが発揮され、善を行った人はその善行の報償を受けます。不正な目に遭った人は、その権利が欠けるところなく与えられます。迫害者の行いもそのまま放置されることはなく、悪行にふさわしい罰を受けるのです。この信条は、人に安らぎを与え、悲しみを取り除きます。

死

　それぞれ人には、現世に生きる定められた時間があります。この時間が満たされると、人は死ぬのです。人は肉体と魂が一体化して造られている存在です。肉体に生命と動きを与えているのは魂です。アッラーが定められたときが来ると、魂は肉体を離れます。魂が肉体から離れることを死と呼ぶのです。死は、全ての人に定められています。それから逃れることはできません。この事実についてクルアーンでは次のように言及されています。

「誰でも皆死を味わうのである」（イムラーン家章第１８５節）

「あなたがたが何所にいても、たとえ堅固な高楼にいても、死は必ずやって来る」（婦人章第７８節）

　死は、無となることではありません。はかない現世での生から、永遠の来世での生へと移ることです。アッラーへの務めを果たした人にとって死とは、より崇高な生に出会うために開かれた扉なのです。

墓

　人の死から、審判の日に再び蘇るまでの時間を「墓での生」と呼び、この期間に私たちがいる場所を墓と呼びます。人が死ぬと肉体は腐り、土に還ります。しかし肉体から離れた魂は死にません。人が墓に入れられると、ムンケルとナキルという名の天使によって尋問を受けます。尋問に正しく答えた人にとって墓は休憩の場であり、答えられなかった人にとっては懲罰の場となるのです。

　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は墓の状態について次のように語っています。

「墓は、天国の庭園のうちの一つであるか、もしくは、地獄の穴のうちの一つである」
墓は、アッラーへの務めを果たし、人びとに善行を施した人にとっては、休憩する天国の庭園であり、務めを果たさない者にとっては罰を受ける地獄の穴となるのです。

キヤーマ（世界の終焉）

先にも述べたように、アッラーの定められたときが来ると、四大天使の一人であるイスラーフィールの「スール」という道具が吹き鳴らされ、恐ろしい音が響き渡ります。この音の影響で全ての生命は死に絶え、この世界に甚大な変化が生じます。
天は裂け、世界を照らしていた太陽はその光を失い、空を飾り夜を照らしていた月が太陽と一緒になります。空で輝いていた星たちは姿を消しヒョウのように降り注ぎます。地上では恐ろしい地震が起こり、海が沸き立ち、山が動き、綿のように投げ出されます。世界の均衡は崩れ、天地が全く異なる様相をとるのです。
この甚大な出来事をキヤーマと呼びます。これがいつ起こるかは、ただアッラーのみがご存知です。

報償と罰、天国と地獄

良い行いへの見返りを報償、悪い行いへの見返りを罰と呼びます。人はこの世界、すなわち現世に試みを受けるために送られました。そして果たすべき役割が知らされました。アッラーの命令に従い、禁止されたことから遠ざかり、人びとに善を施す人は、この試験に合格したことになり、大きな褒賞が与えられるのです。現世での行いの対価を、来世で不足なく受け取るのです。
崇高なるアッラーは次のように仰せられました。
「われは審判の日のために、公正な秤を設ける。一人としてたとえ芥子一粒の重さであっても不当に扱われることはない。われはそれを（計算に）持ち出す。われは清算者として万全である」（預言者章第４７節）
「一微塵の重さでも、善を行った者はそれを見る。 一微塵の重さでも、悪を行った者はそれを見る」（地震章第７－８節）
天国は、信者のために用意された報償の場です。
天国では、この世界では見たことも聞いたこともない、誰も想像すらしたことのない恵みがあります。天国は、人が心に思い浮かべ、好む者を全ていつでも見つけられる、比類なき美に満たされた場です。そこではすべてが人の心のまま与えられ、何を望んでもすぐにそれを見出すことができるのです。
天国では、病気や恐れ、悲しみはありません。そこでは人は、永遠に若く、歳を

とることはありません。天国での生は永遠です。死は存在しません。そこに入った人はそこから出ることはありません。求めるものは何でも与えられ、快適さと喜びのうちに、永遠にそこにいるのです。

クルアーンはこのことについて以下のように言及しています。

「だが信仰して善行に勤しむ者は楽園の住人である。その中に永遠に住むのである」（牝牛章第８２節）

「かれらのためにはそこに、欲しいものは何でもあり、またわが許からもっと追加があろう」（カーフ章第３５節）

アッラーに対する責任を果たさない人、禁じられたものを避けず、人びとに対し悪事を行った人は、その行いの見返りとして地獄で罰を受けます。

信仰しているにもかかわらず、アッラーの命令に従って行動しなかった人、イスラームの定める命令を果たさなかった人は、一定の期間地獄で罰を受け、それから天国に入ります。信仰しなかった人、偽信者は永遠に地獄にとどまります。

クルアーンでは次のように言及されています。

「だが信仰を拒否し、われの印を嘘呼ばわりする者は、業火の住人であって、永遠にその中に住むであろう」（雌牛章第３９節）

「本当に偽信者たちは、火獄の最下の奈落に（陥ろう）。あなたはかれらのために、援助する者を見いだせない」（婦人章第１４５節）

質問

１　来世とは何を意味しますか。
２　来世への信仰のもたらすものについて説明してください。
３　死とは何を意味しますか。
４　墓場での時間はどのようなものですか。
５　キヤーマとは何を意味しますか。
６　報償と罰について説明してください。
７　天国と地獄とは何ですか、誰のために用意されたものですか。

第８章　カダーとカダルへの信仰

●テーマ

- **カダーとカダルとは何か**
- **人間の責任**
- **カダーとカダルへの信仰がもたらすもの**
- **糧**
- **死期**
- **タワックルと働くこと**
- **イスラームの教えにおける努力の重要性**
- **木を植える（コラム）**

カダーとカダルとは何か

信仰の六つの条件の６番目は、カダーとカダル、そしてアッラーが与えられる良いことも悪いことも信じることです。

宗教的な用語としてのカダーとカダルの意味は以下の通りです。

カダル：この世界で起こる出来事の時間、場所、特徴、そしてそれがどのように起こるかということを、アッラーが前もってご存じであること、それを定められたことをカダルと呼びます。

カダー：アッラーが前もって定められたことを、そのときが来るとアッラーがそれに適した形で創造されることをカダーと呼びます。

カダルを計画に例えるなら、カダーはその計画の実行です。この世界で起こる全てのことは、アッラーがご存知であり、望まれ、そしてお造りになったことによって起こるのです。アッラー以外の創造者はありません。

カダルとカダーを信じることとは、良いことも悪いことも全てがアッラーによって定められ、決められ、ときが来ると定められたとおりにアッラーによって創造されるということを信じることを意味します。

人間の責任

人間の行いや形は二つに分けることができます。一つは、自分の望みではなく、アッラーが創造されたことで起こることです。病気によって手が震えること、心臓が動

くこと、背が低いこと、もしくは高いことと言った事柄です。これらは直接、アッラーが望まれ、創造されることによって生じるものであり、人はこれらに対し責任を負うことはありません。

二つ目は、人の望みに応じてアッラーが創造されたものです。人が立ったり座ったり、歩いたり、手やその他の器官で行った事柄は、彼自身の望みに応じてアッラーが創造されたものであり、人はそれらに責任を負います。

全てを定め、創造されるのはアッラーです。ただし、何らかの仕事を行うかどうかという点で、アッラーは人間に意志、つまり選択の自由を与えられたのです。人間がこの意志を、良いことを行うこととして選び、能力をそのために用いれば、アッラーは良いことを創造されます。もし人が悪いことを行うこととして選び、能力をそのために用いれば、アッラーは悪いことを創造されるのです。

つまり人が何を行おうと望むのであれ、アッラーはそれを創造されるのです。「良いことも悪いこともアッラーが創造される」という言葉の意味はこういうことなのです。

人が行ったことに責任を問われるのは、人がこの選択の自由を持っており、その力を選択したことを実行するために使うことができるためです。だから人はその意志によって行った事柄に責任を負うのです。善を施せば報償を、悪事を働けば罰を受けるのです。

カダーとカダルへの信仰がもたらすもの

カダルを信じる人は、世界の全てがアッラーの定めと創造によって生じたものであること、しかし自分自身にも選択の自由と、それを行う能力が与えられていることを知っています。この信条を持つ人は、成功を収めるために全力で努力し、何事にも屈しません。なぜなら彼は、意志や能力を良い行いのために用いればそれをアッラーが創造されること、彼を成功させてくださることを知っているからです。

人は自分の意志で行ったことに責任を負うことを知っているため、選択の自由を良いことのために用います。罰を受けることになるようなことから遠ざかります。こうしてカダルへの信仰は、人に努力する力を与え、同時に責任感を持たせることとなります。

カダルを信仰する人は、努力をしても成功できなかった場合、あるいは何らかの災いに遭ってしまった場合にも悲観的にならず、落ち込むこともありません。なぜならすべてにおいてアッラーの意図や神意があること、限られた力を持った存在として人が創造されたこと、力が至らないことに対しては責任を問われないことを知っているからです。そしてアッラーの定めに頭を垂れ、従い、庇護を求めます。この

信条は人を楽にし、悲しみを取り除くのです。
　カダルを信仰することは私たちに、世界の全てがある秩序に含まれており、英知に基づいて創造されたこと、全ての事柄には何らかの理由があることを教えます。
　この信仰によって人は、成功に至る道や要因を探るため、自らに課せられた役割を果たそうと努力するのです。

糧

　生命を持つ被造物が食べ、飲み、役立てているものを、糧と呼びます。全ての生命に糧を与えられるのはアッラーです。崇高なるアッラーは次のように仰せられました。
「地上の凡ての生きもので、その御恵みをアッラーからいただいていない者はない」（フード章第６節）
　アッラーは人間の糧を定められています。ただ、糧を探し、見つけることは人に課せられています。人間の役割は、その糧を、アッラーのご命令に適した形で、合法な手段で得ることです。人がどのような糧を求めるのであれ、アッラーはそれを与えられます。糧を得る際に、意志を悪いことのために用いる人、禁じられた手段でそれを得る人はその罰を受けます。

死期

　人を無から創造され生かされるアッラーは、人がどれだけ生きるかを定めておられます。寿命とは、人の誕生から死までの間の限られた時間のことです。死期とは、寿命が尽き、この世での生が終焉を迎えたときのことです。
　それぞれの人がどれだけ生きるか、いつ、どこで、どのように死ぬのかをアッラーは定められておられます。死の原因が何であれ、死期は決まっており、変化することはありません。死期が来ると人は死ぬのです。死期が変わることはないということを、アッラーはクルアーンで次のように語っておられます。
「それでかれらの時期が到来するときは、一刻も（これに）遅らせたり、早めたりは出来ない」（蜜蜂章第６１節）
　人は寿命がいつ尽きるか、死のときがいつ訪れるかを知ることができず、だからこそ成すべきことを成すべきときにすべきなのです。先延ばしにするべきではないのです。

タワックルと働くこと

タワックルは、何かを行う際に全力で努力し、できる限りのことを行った後、その結果をアッラーから期待することです。

この例を次のように説明しましょう。

畑から収穫を得ることを望む農家は、まず畑を十分に耕し種を蒔きます。肥料を撒き、必要であれば水やりもします。作物が害を受けないよう、あらゆる予防策をとり、その結果はアッラーにお任せします。アッラーを信頼します。なぜならもはや彼は、自分のできることはやり尽くしたからです。それ以降は、作物の成長と収穫についてはアッラーを頼り、結果をアッラーにお任せするのです。真のタワックルとはこれを指します。

何の努力もせず、何らかの仕事が成就することを期待し、結果をアッラーに求めることはタワックルではありません。これはムスリムにはふさわしくない誤った考えです。

ラクダを屋外で、つなぐことなく放っておき、「私はアッラーにお任せした」という人に、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように語られました。

「まず、ラクダをつなぎなさい。それからアッラーに委ねなさい」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のこの神聖な言葉から理解できるように、ムスリムはまずできる限りのことを行い、その上でアッラーにタワックルを行うべきなのです。

礼拝をすること、断食することが宗教上の務めであるように、生計を立てるために働くこともまた崇拝行為同様に価値のある務めなのです。崇高なるアッラーは、

「礼拝が終ったならば、あなたがたは方々に散り、アッラーの恩恵を求めて、アッラーを讃えて多く唱念しなさい」（合同礼拝章第１０節）

と仰せられています。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も、合法な手段で生計を立てることが義務であることを教えられました。ウマルは次のように語っています。

「誰でも、糧を求めることを放棄して、アッラーよ、私に糧を与えてくださいとは言わないように。天からは金も銀も降ってはこない」

つまり、働くことはイスラームの命令であり、ムスリムの務めです。何かを成功させるためには、まずできる限りのことを行い、全力で努力し、それから、私たちを成功させてくださるよう、アッラーに求めましょう。アッラーを信頼しましょう。

イスラームの教えにおける努力の重要性

最後の、完成された教えであるイスラームの目的は、人びとの幸福にあります。この幸福は、一方的なアンバランスなものではありません。

イスラームの教えは、人びとに、現世と来世で幸福となるための道を示しています。現世と来世での幸福は、努力することによって獲得することができます。だからムスリムは、現世と来世において幸福を得るために努力するべきなのです。現世のために努力することも教えの命令です。

崇高なるアッラーはクルアーンで、「**人間は、その努力したもの以外、何も得ることは出来ない**」（**星章第３９節**）と言われ、努力の重要性を述べておられます。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も、「**人が口にするもののうち最も尊いものは、その手で努力して得たものである。アッラーの預言者であるダーウードも、その手で仕事をして生計を立てていた**」と言われました。

イスラームの教えは、努力に大きな力点を置いています。合法的な手段で糧を得るために努力することを崇拝行為として高く評価しています。

あるとき預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のいるところで、力の強い人が通ったのが見えました。それを見た教友が「アッラーの使徒よ、この人がアッラーの道において努力すればどれほどよかったでしょう」と言いました。それに対し預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、「**もし彼が、小さな子供たちの食べ物を得るために家を出たのであれば、彼はアッラーの道にあるのだ。年老いた両親の必要なものを買うために家を出たのであれば、彼はやはりアッラーの道にある。自分の糧のために家を出たのであればやはりアッラーの道にある。もし、ただ見せかけのために家を出たのであれば、その場合彼はシャイターンの道にある**」

イスラームの五つの義務のなかの二つであるザカートとハッジは、経済的にそれができる状態にあるムスリムが行うべき崇拝行為です。経済的な豊かさは勤労によって得られます。働く人は尊い存在です。なぜなら人は働くことによって、自分や家族、さらには社会や国家の役に立っているからです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**人びとのうち尊いのは、人びとの役に立つ人である**」と言われ、この真実を示されています。

ムスリムは死ぬことがないように現世のために働き、かつ、明日死ぬかもしれないので来世のために備えなければいけないのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は働くこと、努力することを常に奨励され、「**２日間同じ状態でいる人は、騙されてしまっているのだ**」と言われ、ムスリムが日々成長することを望まれました。

マディーナに住むムスリムの一人が、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のところに来

て援助を求めました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は彼に「**家には何もないのか**」と尋ねられました。

彼は「一方で私たちを覆い、一方を床に敷いている敷物と、水を飲むための壺があります」と答えました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は彼に「**それをここに持ってきなさい**」と言いました。彼がそれらを持ってくると、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**だれか、これを買わないか**」と尋ねられました。ムスリムの一人が、「アッラーの使徒よ、私はそれらを１ディルヘムで買いましょう」と言いました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**もっと高い値をつける者はいないか**」と尋ねられ、 他の一人が「私は２ディルヘムで買いましょう」と言いました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はそれらの品を彼に与え、援助を求めてきた人に対して、「**１ディルヘムで食べ物を買いなさい、残りの１ディルヘムで斧を買ってここに持ってきなさい**」と言われました。彼が斧を買って持ってくると、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は自らの手でそれに柄をつけ、「**さあ、山に行って木を伐り薪をつくって売りなさい。１５日間はそうして働きなさい**」と言われました。

そして１５日後に、その人が預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の元を訪ねて来ました。彼は１０ディルヘム稼ぎ、食べ物や服を買っていました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**こうやって働くことは、物乞いをすることよりも尊い。なぜなら物乞いをすることは、審判の日に顔に黒いしみとなって出てくるだろう**」と言われたのでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のような尊い言葉によって、現世と来世で幸福となる道を示されました。「**あなた方のうち尊いのは、現世のために来世を放棄することなく、来世のために現世を放棄することもなく、双方のために努力し、他の人びとの負担とならない人である**」

だからムスリムは、現世と来世のために努力し、日々成長しなければならないのです。私たちの教えがそれを命じているのです。

祖先が何世紀も眠っていたとは考えるな
もしそうなら、その手にしている場所をあなたはどうやって得ることができただろうか
三つの大陸は、流された血の跡を見た
あの偉大な、戦った祖先たちは一日たりとも休まなかったのだ

（M・アーキフ・エルソイ）

（コラム）
木を植える

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は言われました。

「世界が終るとき、あなたの手にナツメヤシの苗があって、世界が終る前にその苗を植える力があれば、それを放棄せず、すぐに植えなさい。」

「人が木を植え、あるいは何かを育て、そこから鳥や人、あるいは動物が何かを食べるのであれば、それはその人にとってサダカとなる。」

「人が木を植えたら、そこになる果実ほどの善行が記される。」

アッバース朝のカリフ、ハールーン・ラシッドは、老人が小さな果物の木の苗を植えているのを見て彼に、「あなたはとてもお歳を召していられる。今植えた苗に果実がなるところを見ることはないでしょう。なぜそのような苦労をされるのですか」と言いました。老人は答えて言いました。

「我々より前に生きた人びとが木を植え、我々がその実を食べた。今は我々が木を植えなければいけないのだ。後に続く世代が果実を食べられるように」

この返事はハールーン・ラシッドの気にいるものでした。そして老人に一握りの金を与えました。老人は、「ほらごらんのとおりだよ、私が植えた苗の果実を、私も見ることができた」と言いました。この答えに、ハールーン・ラシッドは一層満足しました。

木や森は、国の豊かさの源です。私たちが吸っている空気や飲み水、文房具の紙から筆に至るまで、ほとんどすべてのところで木の存在を目にすることができます。生命の維持に必要な酸素を、まるで工場のように森は作り出します。多くの動物や鳥をその胸に抱いています。森は、土壌が浸食によって海に流れ込むことを防いでいます。

だから、木を育てることは、子どもを立派に育てることと同じくらい尊いことです。一方、木を伐って森を破壊することは大きな罪です。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は言われました。**「誰であれ木を伐れば、アッラーはその人を審判の日に、まっさかさまに地獄に投げ入れられるだろう」**

人はどうしても必要不可欠でない限り、なぜ木を伐ることができるでしょうか。森が焼かれ、灰となること、そこにいる多くの生命が焼かれることの正当な理由などあるはずがないのです。

森を無慈悲にも破壊する人は、行った悪事の見返りを審判の日に目にすることでしょう。そしてそれにふさわしい罰を受けるでしょう。ムスリムとして私たちの役割は、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のご命令と奨励に従い、木を植えて育てることです。

木を、子供のように世話し、森を保護することです。木を植えることは崇拝行為と同じくらい尊いものであると同様に、国を愛する人としての行動でもあります。木を愛する人が、木の気持ちについて次のような素晴らしい表現をしています。

ドゥアーする人の手のように、枝を天に伸ばすのは木の願いなのです。
寒い冬の夜、あなたの家を暖め、暑い夏の日にあなたを強い日差しから守るのは私です
家の屋根、家の扉、テーブルの板は私です
あなたの筆は私であり、紙は私であり、ゆりかごから墓場まで忠実な友であるのは私です
誕生にはあなたの喜びに、生涯ではあなたへの奉仕に、死においてはその悲しみを共にします
私を火事の炎から、斧による伐採から、ヤギの歯から守ってください
なぜなら私はあなたの祖国の美しさ、大地の心地よさであり、故郷を飾るものであり、山やまの覆いであるからです
私を愛してください　私の枝で鳥たちがさえずり、私の頭上で風が歌い、私の陰で旅人が休めるように
私を焼かないでください　谷が洪水となり、山が禿げ上がってしまいます
泉が渇き、土地が不毛となり、肥しを燃料とし、あなたは日干し煉瓦のようになるでしょう
私の忠告を聞き、斧を石に打ちつけなさい、木には触れないで
私を焼かないでください、私が胸に抱く生命を殺さないでください

このような思いを呼びかけ、私を殺さないでと懇願する木に、手をかけ、伐採するようなことが、私たちにどうしてできるでしょうか。

質問

1　カダルとカダーとは何を意味しますか、説明してください。
2　人の行いはいくつに分けることができますか。
3　人はその行いについてなぜ責任を問われますか。
4　カダルとカダーを信仰することが何をもたらすか説明してください。
5　糧と死期とは何でしょうか。
6　タワックルと努力について説明してください。
7　イスラームにおける努力の重要性について説明してください。

第２部

イバーダ（崇拝行為）

第１章　イバーダ（崇拝行為）

●テーマ

- イバーダとは何か
- なぜイバーダを行うのか
- イバーダの種類
- イバーダの諸段階と効用

イバーダとは何か

イバーダとはアッラーへの畏敬の念、敬意を示し、アッラーから与えられた無限の恵みへの感謝を表し、私たちの責任を果たすことです。

なぜイバーダを行うのか

私たちを無から創造され､生かされているのはアッラーです。崇高なるアッラーは、私たちの体に、物事を見る目、物事を聞く耳、そして話をする舌といった優れた器官を備えられました。私たちに他の生きものとは異なる理性を与えられました。そして人間を被造物の中で、より高い、選ばれた存在とされました。この他にも、私たちが生きていくことができるよう、呼吸のための空気から飲みものの水まで、無限の恵みを与えられました。

さらに、私たちを放置されることなく、預言者たちや啓典を遣わされ、現世と来世で幸福になる道を示されました。これら全ての素晴らしい事柄に対して、アッラーは私たちがそのお方を知ること、そしてイバーダを行うことを求めておられます。次のように考えてみましょう。お世話になった目上の方に、私たちは敬意を示し感謝します。これが役割として与えられれば喜んで従うでしょう。

だから、私たち人間を無から創造され、数えきれないほどの恵みを与えられたアッラーに対し、感謝をし、命じられたイバーダを喜んで行うことが必要なのです。

私たちの創造の目的は、アッラーを知ってイバーダを行うことです。イバーダの務めを果たすことで、アッラーの与えられた恵みへの感謝の責任を果たしたことになり、同時にアッラーの愛情を得ることになります。もし私たちがアッラーに対して、イバーダという務めを果たし、アッラーの愛情を得ることができれば、アッラーは現世よりもさらに豊かな恵みを来世で与えられ、天国で永遠の幸福に私たちをめぐりあわせてくださるでしょう。

イバーダの種類

イバーダには三種類あります。

1）体を使って行われるイバーダ

礼拝、断食といった体を使って行うイバーダは、ムスリムそれぞれが自分で行う必要があります。他の人を代理人にすることは認められていません。人は他者の代わりに礼拝を行ったり、断食をしたりすることはできないのです。

2）財産によって行われるイバーダ

財産で行われるイバーダにおいては他の人を代理人とすることができます。

3）財産と肉体双方で行われるイバーダ

ハッジ（巡礼）のイバーダがその例です。お金があるのに、ハッジができないほどの障害や病気だったり、高齢であった場合には、他の人を代理人としてハッジに送ることができます。

イバーダの諸段階

イバーダは、三つの考え方によって区分されます。

1）アッラーに対し、崇拝行為と敬意にふさわしいお方はただアッラーであるゆえにイバーダを行うこと

何の見返りも求めず、ひたすらアッラーのご命令に従うために行われるこのイバーダは、最も高い段階のイバーダです。

2）天国に行くことを望み、地獄に行くことを恐れてイバーダを行うこと

この考えでイバーダを行う人は、アッラーのご命令に従ったことになりますが、人はイバーダを、このような報償のためではなく、ただアッラーのために行うべきなのです。

3）現世で何らかの効果を狙って、見せかけとしてイバーダを行うこと

イバーダのうち最も低い段階のものがこれです。これをイバーダと呼ぶことすら正しくありません。なぜならアッラーのために行われないイバーダには何の価値もないからです。

イバーダの効用

私たちの体が、糧を必要とするように、魂もその糧を必要としています。魂の糧は信仰とイバーダです。イバーダは魂を高め、私たちを悪事から遠ざけます。徳の観点から私たちを成熟させ、最も重要なものである信仰を守ります。

生きる上で人は様々な苦労をし、何かに失望したり嫌気がさしたりするときもあります。このような状況で、人はイバーダによって苦しみから救われます。なぜなら人はイバーダによってアッラーに近づき、その慈悲に庇護を求め、安らぎに至るからです。イバーダは魂にとって効用があるように、肉体にも効用があります。

礼拝を行う人は、ウドゥーを行います。ウドゥーをするということは、１日に５回清めをするということです。清潔にすることは、健康に大きな効果をもたらします。

礼拝に伴ういくつかの動作、あるいは断食で消化系の器官を休ますことが、体の健康に重要な役割を果たすことは紛れもない事実です。ザカートのイバーダは、相互扶助の観点から、社会に大きな効用をもたらします。

質問

１　イバーダとは何を意味しますか。

２　なぜイバーダを行いますか。

３　イバーダにはいくつの種類がありますか。

４　イバーダの諸段階について説明してください。

５　イバーダの効用について説明してください。

第２章　イスラーム

●テーマ
- イスラームとは何を意味するか
- イスラームの条件
- ムカッラフとは誰のことか
- ムカッラフに関する規定

イスラームとは何を意味するか

イスラーム：私たちの預言者であるムハンマド（p.b.u.h.）が、アッラーからもたらされ、伝えられた事柄を認め、アッラーと預言者に従い、認めていることを示すことです。要するにイスラームは、信じていることを実践することを意味します。

イスラームの条件

イスラームの条件は五つです。

１）信仰告白を行うこと

信仰告白とは、「**アシュハド・アンラー・イラーハ・イッラッラー・ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフ・ワ・ラスールフ**」という言葉を口にすることです。その意味は、「アッラーの外に神はなく、ムハンマド（p.b.u.h.）はアッラーのしもべであり、預言者であることを私は証言します」というものです。

２）礼拝を行うこと

１日に５回礼拝を行うことです。

３）断食を行うこと

１年に１回、ラマダーン月の間に断食を行うことです。

４）ザカートを支払うこと

教えの基準によって余裕があると見なされる人が、財産や現金の一定の部分を貧しい人びとに拠出することです。

５）ハッジに行くこと

教えの基準によってそれができる力があると見なされる人が、生涯に一度メッカへ巡礼に行くことです。

イスラームの条件

イスラームには五つの条件がある
それを知ることすら幸福である
それらに従う人には
天国が開かれる

条件の一つ目は
信仰告白
唯一で偉大なるアッラーの
他には神はいない
アッラーの最後の預言者が
誉れ高いムハンマド（p.b.u.h.）

二つ目の条件は礼拝
素晴らしいイバーダ
１日に半時間
５回の務め

三つ目の条件はラマダーン
意志は断食のため
日中は飲み食いせず
喜びと共に時間を過ごす

四つ目の条件はザカート
アッラーが富を与えられたのであれば
それを４０に分け、
その一つを贈りなさい

一度ハッジに行くことが
もしかなうならば
イスラームの五つ目の条件
カーバを訪問すること

ムカッラフとは誰のことか

思春期に達し、通常の知的能力を持っている人をムカッラフと呼びます。ムカッラフは、教えの命じるところを実践し、禁じられていることを避ける責任を負います。ムカッラフとなるためには二つの条件があります。
１）知的能力を持っていること
２）思春期に達していること

通常の知的能力を持っていない場合や、思春期に達していない子供はムカッラフではありません。
思春期は、子供の身体条件や気候風土によっても変わってきます。一般的に男の子の場合１２歳から１５歳、女の子の場合９歳から１５歳の間に思春期に入ります。１５歳になっても思春期の兆候が見られない場合、男性であれ女性であれ、思春期に入ったと見なされます。そして教えの命令や禁止事項に従う責任を負います。

ムカッラフに関する規定

ムカッラフに関連する規定は八つあります。

1）ファルド

イスラームにおいて絶対的に行うべきとされていることはファルド（義務）と呼ばれます。礼拝をすること、断食をすること、ザカートを支払うことなどです。
ファルドの規定：ファルドである事柄を行った人は、見返りとしてサワーブを得ます。正当な理由がないのにそれを行わない人は罰を受けることになります。ファルドを否定する人は教えから逸脱したことになります。
ファルドには二種類あります。

a）ファルド・アイン

ムカッラフの人が行わなければならないファルドです。１日に５回の礼拝などです。

b）ファルド・キファーヤ

一部のムカッラフが行うことで、その他の人びとは行わなくても良いファルドです。葬儀の礼拝を行うことなどです。一部のムスリムが死者のために葬儀の礼拝を行えば、ファルドが実行されたことになり、他のムスリムがその死者のために葬儀の礼拝を行う必要はなくなります。

2）ワージブ

ファルドほど絶対的ではなくても、強い論拠によって実践が命じられているもの

をワージブと言います。イードの礼拝をすること、フィトルのサダカを支払うこと、犠牲の動物を屠ることなどです。

ワージブの規定：ワージブを実践した人は、サワーブを得ます。理由なくそれを行わなくても、罰はありません。

3）スンナ

ファルドやワージブ以外で、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）がイバーダの意志を持ってやっておられたことをスンナと呼びます。

スンナは二つに分けられます。

a）スンナ・ムアッカダ

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が多く実行され、実行されなかったことはわずかしかないスンナを、スンナ・ムアッカダと呼びます。ファジュル、ズフル、マグリブの礼拝のスンナなどです

b）スンナ・ガイリ・ムアッカダ

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が時折行われていたスンナを、スンナ・ガイリ・ムアッカダと呼びます。アスルの礼拝のスンナや、イシャーの２ラカートのスンナなどです。

スンナの規定：スンナを実践する人はサワーブを得ます。預言者さまのとりなしを受けます。スンナをあえて放棄する人はとがめられます。

4）ムスタハブ

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）がときには行われ、ときには行われなかった事柄をムスタハブと呼びます。午前中に行う礼拝などです。

ムスタハブの規定：ムスタハブである事柄を行った人はサワーブを得ます。行わなくても見返りを受けることはありません。

5）ムバフ

ムカッラフにとって行っても行わなくても自由である事柄をムバフと呼びます。座ること、歩くこと、眠ることなどです。

ムバフの規定：ムバフを行った人はサワーブを得ることはなく、行わなかった人も罪を犯したことにはなりません。

6）ハラーム

イスラームにおいて、行うことが絶対的に禁じられているものをハラームと言います。正当な理由なく人を殺すこと、盗みを働くこと、飲酒すること、賭博を行うこと、豚肉を食べること、両親に反抗することなどです。

ハラームの規定：ハラームを行った人には罰が与えられます。アッラーへの恐れによりハラームを避ける人は、サワーブを得ます。ハラームを否定する人は、教えから逸脱したことになります。

7）マクルーフ

ハラームほど絶対的ではないものの、イスラームの教えでは行わないことが求められているものをマクルーフと言います。

マクルーフは二つに分けられます。

a）ハラームに近いマクルーフ

ワージブであるものを実行しないことなどです。

規定：このようなマクルーフを避けた人はサワーブを得ます。これを行った人は罪を行ったことになります。

b）ハラールに近いマクルーフ

スンナやムスタハブを実行しないことなどです。

規定：このようなマクルーフを避けた人はサワーブを得ます。これを行った人に罰はありません。

8）ムフシド

やり始めたイバーダを無効にする事柄のことです。礼拝中に話すこと、断食中にわざと飲み食いをすることなどです。話すことは礼拝を、飲み食いすることは断食を無効とします。

規定：正当な理由なく、あえて崇拝行為を無効とすることは罰を必要とします。

質問

1　イスラームとは何を意味しますか。
2　イスラームの条件はいくつありますか、それはどのようなものですか。
3　ムカッラフとは誰のことですか。
4　思春期とは何ですか。
5　ムカッラフに関する規定を説明してください。

第３章　清潔さ

●テーマ

- 清潔さとその重要性
- 清潔さの観点からみる水
- ウドゥーの徳
- ウドゥーのファルド
- ウドゥーのスンナ
- ウドゥーの作法
- ウドゥーの行い方
- ウドゥーにおけるマクルーフ
- ウドゥーを無効にするもの
- ウドゥーなしでは行えない事柄
- メストについて
- グスル
- グスルのファルド
- グスルのスンナ
- グスルの行い方
- 特別な状況にある人の場合
- 女性特有の状況
- タヤンムム
- タヤンムムのファルド
- タヤンムムのスンナ
- タヤンムムの行い方
- タヤンムムを無効にするもの
- タヤンムムはどのような状況で行われるか
- 周辺美化（コラム）

清潔さとその重要性

イスラームの教えは、清潔さを前提としています。ムスリムとは、清潔な人であるべきなのです。清潔な人をアッラーも、周囲の人も愛します。崇高なるアッラー

はクルアーンで次のように仰せられています。

「誠にアッラーは、悔悟して不断に（かれに）帰る者を愛でられ、また純潔の者を愛される」（雌牛章第２２２節）

アッラーの愛されるしもべとなるために、清潔さに注意を払う必要があります。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**清潔さは信仰の半分である**」と言われ、イスラームが清潔さに置いている重要性をよく示しています。

ムスリムは礼拝する際に、アッラーの御前にいるのです。アッラーの御前に出る際には、体も服も、礼拝をする場所も清潔である必要があるのです。またイスラームは、内面の清らかさにも大きな重要性をおいています。ムスリムは身も心も清潔であらねばならないのです。

清潔さの観点からみる水

水は、主に二つに分けられます。

a）ムトゥラク（絶対的な水）

雨水、雪の水、湖や川、海や泉、そして井戸の水のことです。水と言って最初に思い浮かぶのはこれらの水です。これらには他の物質が混じっていません。

b）ムカイヤード（限定的な水）

バラ水、ブドウ水といった、他の物質が混じった水です。これらの水ではウドゥーやグスルはできません。

清潔さの観点から、ムトゥラク（絶対的な水）は五つに分けられます。

１）清潔であり、かつ清める性質を持っており、その使用がマクルーフではない水

これらは、色、味、においが変質しておらず、未だに使用されていない水です。この水であらゆる清めの行為を行うことができます。ウドゥーをし、グスルをし、食べたり飲んだりすることができます。

２）清潔であり、かつ清める性質を持っているものの、その使用がマクルーフである水

これらは、猫、鶏といった家畜や、タカ、ワシなどの猛禽類が飲んだ残り水です。他に清潔な水がある場合は、その水でウドゥーやグスルを行い、その水を飲食に用いることはマクルーフです。他に清潔な水がなければ、この水を使うことはマクルーフではありません。

３）それ自体は清潔でも、他のものを清めることはできない水

これらは、ウドゥーやグスルのために利用された水です。この水を再利用してウドゥーやグスルを行うことはできません。

4）清潔ではない水

中に汚物が入った流水ではない水のことです。犬や豚、猛獣類が飲んだ残りの水も清潔ではなく清めに使うことはできません。

5）疑わしい水

ロバやラバなど動物の飲んだ残りの水です。こういった水では、汚物を洗うことはできます。しかし他に清潔な水がある場合は、この水でウドゥーを行うことはできません。他に水がなければ、ウドゥーやグスルを行うことは可能ですが、その後でタヤンムムを行います。なぜなら、このような水がきれいであるかどうかは疑わしいからです。

ウドゥーの徳

ウドゥーは、体の定められた場所を定められた形で洗い、湿らせることで行われる清浄です。ウドゥーを行う徳と精神的な効用について預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。

「ムスリムがウドゥーを行い、手を洗うと、手によって行った罪が許される。顔を洗うと、目によって行われた罪が許される。頭を湿らせると、耳で聞いて行った罪が、足を洗うと足で歩いて行った罪が許される」

「あなた方のうち誰かが完全にウドゥーを行い、その後で『アシュハド・アンラー・イラーハ・イッラッラーフ・ワフデフ・ラーシェリカラー・ワ・アシュハドゥ・アンナ・ムハンマダン・アブドゥフー・ワ・ラスールフ』と言えば、天国の八つの扉が彼に開かれる。望んだところに行く」

健康という観点から、ウドゥーには大きな効用があります。ウドゥーを行うムスリムは、周囲と常に接していることから汚れた器官を何度も洗って清めます。これにより、不潔さから生じる疾病から、自らを守ることになるのです。

ウドゥーのファルド

ウドゥーのファルド（義務）は四つあります。

１）顔を１度洗うこと

２）手を肘と共に１度洗うこと

３）頭の四分の一を湿らせること

４）足を、かかとと共に洗うこと

これらのファルドのうち一つが欠ければ、ウドゥーは有効とはなりません。

ウドゥーのスンナ

1）ウドゥーを行うことをニーヤすること
2）ウドゥーを、「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニ・ラジーム」と言いつつ始めること
3）まず、手を手首まで洗うこと
4）口をミスワクもしくは歯ブラシで清めること、もしくは指で軽くこすること
5）ウドゥーで洗うべき場所を、間隔をあけずに洗うこと。つまり洗った部分が渇く前に次の部分を洗うこと
6）洗う部分を十分に手で撫でること
7）口に３度水を入れ、その都度吐き出すこと
8）断食中でなければ、口に入れた水で口を十分にすすぐこと
9）鼻に３回水を入れ、その都度左手で出すこと（断食中でなければ水を鼻に十分入れること）
10）ウドゥーを行う際には、ここで述べた順番を守ること
11）洗う場所は、３度ずつ洗うこと
12）洗うときは右側から始めること
13）手足を洗うときは指から始めること
14）髭の密度が濃い人は、髭を指でほぐすこと
15）指輪を外すこと
16）耳を湿らせること
17）首を湿らせること
18）頭全体を湿らせること
19）指の間を広げること

ウドゥーの作法

1）礼拝の時間に入る前にウドゥーを行って用意しておくこと
2）ウドゥーを行う際にキブラの方角を向くこと
3）高くなっているところに座ること
4）ウドゥーを行う際には他人に手伝ってもらわないこと
5）ウドゥーを行う際には、どうしても必要でない限り話さないこと
6）ウドゥーを行う際には、水を浪費するほどには多く使わないこと。洗った場所から水がしたたらない程度に、少量用いること
7）ウドゥーを行った後、キブラの方角を向いて信仰告白を唱えること

ウドゥーの行い方

まず、腕を肘の上部までまくります。可能であればキブラの方角に向かい、「アッラーのご満悦のためにウドゥーを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。それから「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニ・ラジーム、ビスミッラーヒ・ラフマーニル・ラヒーム」と唱えます。

それから、順番に、

手を手首まで３回洗います。指輪があればそれを動かし、指輪の下も洗うようにします。

その後右の手のひらで、口に３回水を入れます。その都度、十分に口をゆすぎます。それからまた右手で水をすくって鼻に３回入れます。そして左手でゆすいできれいにします。

それから顔全体を３回洗います。その後、まず右腕を３回、肘まで洗います。それから左腕を、肘まで３回洗います。

その後、手を新しい水で濡らし右の手のひらと指を頭に置き、湿らせます。それからまた手を濡らし、右手の人差し指で右耳の中を、親指で耳の外側を、左手の人差し指で左耳の中を、親指で耳の外側を湿らせます。残った３本の指で、首の後ろを湿らせます。

それから、まず右足を、それから左足を、かかとと共に３回洗います。足を洗う際には、右足の小指から順に親指へと、左足の親指から順に小指へと洗うことが適切です。足を洗う際には指の間を十分に洗うよう注意します。

ウドゥーが終わると、キブラに向かって信仰告白を行います。ファルド、スンナ、作法を不足なく実行するウドゥーはこのような形になります。ウドゥーを行う際に読まれるドゥアーがあります。これらを読むことはとても良いこととなります。読まれなくても、ウドゥーは完全に行われたことになります。

ウドゥーにおけるマクルーフ

（ハラームほど絶対的ではないものの、イスラームの教えでは行わないことが求められているもの）

ウドゥーにおけるマクルーフとは次の通りです。

１）水を必要以上に多く使うこと
２）水を特別な理由なく通常よりも少なく使うこと
３）水をウドゥーで洗う部分や顔に勢いよくかけること

４）ウドゥーを行う際に必要ではないのに話すこと
５）汚れた場所でウドゥーを行うこと
　ウドゥーを行う人は、これらのことを避けなければなりません。

ウドゥーを無効にするもの

　ウドゥーを行った人に次のような状態が起きた場合は、そのウドゥーは無効となります。
１）体のどこかから、血液、膿、水が出たとき
２）口いっぱいの量で吐いたとき
３）痰を切ったとき、その半分以上が血液であったとき
４）排泄行為をしたとき、おならをしたとき
５）気絶したとき、酩酊状態になったとき
６）礼拝中に笑ったとき（礼拝中以外は笑うことでは無効になりません）
７）眠ったとき

ウドゥーなしでは行えない事柄

a）礼拝してはいけません
b）クルアーンを触ってはいけません
c）ティラーヴァットのサジュダ（クルアーンに「サジュダ」の言葉が出てきたときに行うサジュダ）を行ってはいけません
d）カーバ神殿の周回を行ってはいけません

メストについて

　ウドゥーの後にメスト（ウドゥーのための靴）を履いている人は、再びウドゥーを行う際にメストを脱がず、その上から湿らせることで十分となります。これは、イスラームがムスリムに提供している容易さです。
　旅行者以外は２４時間、ウドゥーを行う際にこのメストを湿らせて済ませることができます。２４時間を経過すると、その後のウドゥーの際には足を洗う必要があります。イスラームの規定上「客」である人は、この期間は三日三晩、７２時間となります。

メストの上からのウドゥーの行い方

先述のウドゥーの行い方に従ってウドゥーを行い、足を洗うところまで来ると、まず右手を湿らせ、３本の指で（指を広げた状態で）右足の先端から足首へ、かかとを超えるところまでメストを一度湿らせます。それから左手を湿らせ、左足も同じように湿らせます。メストの下側は湿らせません。

メストが有効となるための条件

メストの上から締められるという形が有効となるためには、以下の条件が必要となります。

１）ウドゥーがある状態で（足を洗った状態で）メストを履かなければいけません。

２）メストはかかとまで覆うものでなければなりません。かかとが短いメストではこれを行えません。

３）メストは、１万２千歩以上の道を歩くことができるくらいに丈夫なものでないといけません。

４）メストは、小指３本分以上の穴や破れ、ほつれがあってはいけません。

５）メストは結ばなくても足に固定されている程度の厚さを持つものでなければいけません。

６）メストは、外部からの水を吸って足に浸透させるものであってはいけません。

７）メストを履く人は、足の先端から、手の小指３本分以上の部分を失っていないことが条件となります。もし足の先端を失っており、指３本分以上の部分が残っていなければ、この形でウドゥーを行うことはできません。片方の足がこういった状態の場合、もう片方の足が健康であったとしても、この形のドゥーを行うことはできません。健康な足も、洗ってウドゥーを行う必要があります。

包帯をしている場合のメスト

体のどこかに骨折もしくはけがのための包帯が巻かれている場合は、ウドゥーやグスルの際には包帯をとってその部分を洗います。もし、包帯をとってそこを洗うことが有害であれば、包帯をとる必要はありません。その場合は、手を湿らせて包帯の上を一度湿らせます。

傷の上に薬があり、そこには包帯が巻かれてはいない場合、そこを洗うことに害がなければ、そこに水をかけて洗います。水が害を及ぼすようであれば洗わず、ただ湿らせます。湿らせることも有害であれば、それも行いません。

グスル

乾いた場所を一切残さない形で、全身を洗うことをグスルと呼びます。

グスルを必要とする状態

1）ジャナーバ（後述）の状態であること
2）思春期以上の男女の性交
3）眠っているとき、もしくは覚醒時に男女の一定の器官からの分泌液があったとき
4）月経が終わったとき
5）出産をした女性が、産後の出血が終わったとき
　こういった状況にある人がグスルを行うのはファルドです。この場合、グスルを行うまでは、
6）礼拝はできません
7）クルアーンを読むことはできません
8）クルアーンに触ることはできません
9）カーバの周回はできません
10）どうしても必要な場合を除き、モスクに入ることはできません
　グスルを必要とする状況がなくても、金曜日やイードの日にグスルを行うことはスンナです。

グスルのファルド

グスルのファルドは三つです。

1）口に水を入れ、喉までゆすぐこと
2）鼻に水を入れて洗うこと
3）全身を、針の先ほども乾いた場所が残らない形で洗うこと

グスルのスンナ

グスルの主なスンナは次の通りです。

1）「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターンニ・ラジーム」と唱えてグスルを始めること
2）グスルのニーヤをすること
3）体の一部に汚れがついている場合はまずそこを洗うこと

４）排泄器官を洗うこと
５）グスルを行う前にウドゥーを行うこと
６）ウドゥーの後、まず３回頭に、３回右肩に、３回左肩に水をかけて洗うこと。水をかけるごとに全身に水をいきわたらせること
７）水をかけたときには体をこすること
８）足のあるところに水がたまっていれば、ウドゥーの際足を洗うのを後回しにすること

グスルの行い方

グスルを行う人は、まず「ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム」と言い、グスルを行うことをニーヤします。手を手首まで洗ってから排泄器官を洗います。

それから、右の手のひらで３度、喉まで十分に口を洗います。断食をしている場合は喉に水が行かないように注意します。それから右手で３度鼻の中に水を入れ、その都度左手ですすぎながら鼻を洗います。

その後､先述のような形でウドゥーを行います。ウドゥーが終わるとまず３度頭に、３度右肩に、３度左肩に水をかけて洗います。水をかけるたびごとに、手の届く限り体を洗います。針の先ほども乾いた場所が残らないように全身を３度洗います。

グスルの際には、

へその穴、耳たぶの内側、ピアスの穴、歯の間、ひげ、髪、あごひげとその根元を濡らすよう、特に注意します。グスルの際にはウドゥーは行いません。もし何か体を覆うものがなければキブラの方角には向きません。そして必要ない限りは話しません。ファルドやスンナに重きを置いて行うグスルとはこのようになります。

グスルを行うべき人は、口と鼻に水を入れて十分に洗った後、流水、海、もしくは大きなプールに入って全身を洗うことでグスルを行うこともできます。

特別な状況にある人の場合

礼拝を無効にする状況のうちの一つが、１回の礼拝の時間中、ずっと続いている場合を「オズル（差し障り）」と呼びます。

病気で鼻血が出ている人、もしくは体のなんらかの部位から血が出ている人、もしくは他の分泌物がある人（尿もれ、膿）は、礼拝の時間の間にそれらが終わればウドゥーを行い、礼拝を行います。もしこれらが、一つの礼拝の時間の間中ずっと続き、礼拝ができる状態になる程度に改善が見られなければ、「オズルのある人」と

いう状態になります。

この状態にある人は、礼拝時間に入って流血などが続いていれば、ウドゥーを行い、礼拝をします。この継続している症状以外に、礼拝を無効にする状態が生じない限り、このウドゥーで次の礼拝の時間に入るまでは自由に礼拝ができます。（カダーの礼拝、義務ではない礼拝）

この状態にある人のウドゥーは、次の礼拝の時間が始まると無効となります。このオズルの状態が継続する限り、礼拝ごとに、その時間に入ってからウドゥーを再び行います。これは、差し障りのある人のためにイスラームが示している容易さです。

女性特有の状況

女性特有の状況として、次の三つがあります。

1）月経（生理）

女性は、思春期に達した頃から、女性特有の状況が出現し始めます。これを「月経」と言います。月経は、毎月一定の日に起こり、一般的に５５歳くらいまで続きます。一部の女性では、もっと早いうちに終わることもあります。

月経のあり方は女性によって異なってきます。最低で３日、最長で１０日となります。この期間の内は、出血が続くことは条件ではありません。その間、出血が途絶えていたとしても、その間は月経中と見なされます。月経が続いている間は、いくつかのことを行うのはハラームとなるため、女性は自分の月経の日を十分に認識し、注意する必要があります。

女性は、月経が継続している間には、

１）礼拝はできません
２）断食はできません
３）クルアーンを読むことはできません
４）クルアーンに触ることはできません
５）カーバの周回はできません
６）礼拝場に入ることはできません
７）夫と性的交渉を持つことはできません

月経の状態が終わると、グスルを行うことがファルドです。女性は、月経期間に行わなかった礼拝のカダーはしません。アッラーはこれらを免除されています。ラマダーン月にできなかった断食はカダーを行います。つまり、後で断食を行います。

2）産褥

出産をした女性に起こる特有の状況を、産褥と呼びます。

産褥は、お産をした後、最長で４０日間続きます。最低の期限はなく、４０日以

内で終わることもあります。この場合は、女性はウドゥーを行い、イバーダをします。４０日の期間が満了するのを待つことはしません。この時期に、出血が何日か止まって再び始まった場合は、出血が止まっていた間も産褥期と見なされます。

月経中に行うのがハラームであるものは、産褥期にもハラームです。

産褥期が終わると、グスルを行うことがファルドです。その期間にできなかった礼拝のカダーは行われません。その期間にできなかった断食は、カダーが行われます。

3）イスティハーザ

月経期間が３日以内に終わった場合、これは月経ではなく女性のための特別な状態と見なされます。１０日以上続く月経や４０日以上続く産褥期、さらには妊娠中の瀉ものもそれに含まれます。これらの状態を**イスティハーザ**と呼びます。

女性はこの状態で礼拝し、断食を行うことができます。これらは月経や産褥ではなく、鼻血のようなものと見なされるからです。

タヤンムム

ニーヤを行い、土、もしくはそれ準じるものに手をつけ、顔や足を撫でることをタヤンムムと言います。ウドゥーやグスルを行うための水が見つからない場合にタヤンムムを行えば、ウドゥーやグスルを行ったことになります。

タヤンムムのファルド

タヤンムムのファルドは二つです。

1）ニーヤを行うこと
2）手を、清潔な土、もしくは土に準じるものに２度つけ、最初につけたときには顔を、２度目には腕を湿らせること

タヤンムムのスンナ

1）まず「アウニズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニ・ラジーム」と唱えること
2）順番を守ること
3）一連の動作を、間をあけることなくつづけて行うこと
4）土に手をつけたときには、まず手を前方に動かすこと。
5）それから後方に動かすこと。
6）指を広げること。
7）手を上げたときに砂がついていれば、手をたたいて払うこと。

タヤンムムの行い方

袖を肘までまくっておきます。何のためにタヤンムムを行うのかをニーヤします。指を広げた状態で、両手を清潔な土、もしくは土に準じるものにつけます。手に砂がつき過ぎた場合は両手を軽くはたいて落とします。それからその手で、顔の全体に触れます。

両手を再び土につけ、左手の手のひらで右腕の肘を超えたところまで、右手の手のひらで左腕の肘を超えたところまで触れます。

タヤンムムを無効にするもの

1）ウドゥーを無効にするものは、タヤンムムも無効にします
2）ウドゥーやグスルのための水が見つかり、その水を使うことができる状態になれば、タヤンムムは無効になります
3）傷もしくは何らかの症状のために体に水をかけることができず、タヤンムムを行った場合は、その状況がなくなればタヤンムムは無効になります

タヤンムムはどのような状況で行われるか

1）ウドゥーやグスルを行うための清潔な水が見つからない場合
2）水があったとしても、その水を使うことができない場合
3）全身もしくは一部に傷があり、水をかけることが有害である場合

タヤンムムは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に、そして私たちムスリムに、イバーダを行うことができるようアッラーが恵んで下さった簡単な方法です

(コラム)
周辺美化

清潔さとは単に、体、衣服、家、そして家の周りの清潔さのみで成り立つものではありません。イスラームにおける清潔さの概念はより広いものです。このため、周辺美化についても少し触れてみましょう。なぜなら周辺美化は、私たちだけではなく他の人にも影響するものだからです。周囲を汚し他の人に迷惑をかけることは、他人に害を与えることを意味します。しかしムスリムとは、他人に害を与えない、他の生命に危害を加えない人であるべきなのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**あなた方の中庭をきれいにしなさい**」と言われ、

家の周囲もきれいにしておかなければいけないと教えられています。
清潔であるべき周囲の環境を汚すことは大きな悪事であり、ムスリムにとってふさわしくない振る舞いです。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が「**呪いを受けた者となることを避けなさい**」と言われたとき、教友が「それは誰のことですか」と尋ねました。預言者さまは、「**人びとが通る道、もしくは木陰で休む場所を汚す人のことである**」と答えられました。
人びとが通る道、休憩する場所を汚し、他者を不快にすることは、イスラームの徳にもふさわしくないことです。ムスリムは他者を不快にする行動をとりません。そのような行動をとるべきではないのです。毎日通る道がきれいで管理が行き届いているかどうか注意し、公共の場、公園、庭園、観光地などをきれいに保つことに重きを置かなくてはならないのです。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、周辺の溜まり水に小便をすることを禁じられました。礼拝所の壁に付着していた痰を、手にしていた石のかけらで自ら削り取られたことは、周辺美化をどれほど重要視されていたかをよく示すものです。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は地面に痰を吐くことすら禁じられていたのに、ムスリムは周囲を汚し、他者を不快にすることがあります。他者に害を与えかねない振る舞いをなぜとることができるのでしょうか。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**タマネギやニンニクを食べた人は、私たちや礼拝所から遠ざかっていなさい**」と言われました。本来、タマネギやニンニクは合法な食べ物です。しかしこれらを食べた人の口臭は、他の人を不快にすることがあります。だからモスクに行くときはタマネギやニンニクを食べないようにするべきです。もし食べたのであれば、口臭が収まるまで他の人に近づくことなく、誰にも不快感を与えないようにすべきなのです。
アッラーはクルアーンで、清潔さを尊重する人を愛されることを伝えられました。だから私たちも清潔でいましょう。そして周辺もきれいに保ちましょう。そうしてアッラーの愛されるしもべとなるよう努めましょう。清潔な人は、人びとにも愛されます。周囲を汚して人びとの怒りを買うのではなく、清潔さに注意を払って人びとの愛情を獲得するよう努力しましょう。

質問

1　イスラームの教えが清潔さに与えている重要性について説明してください。
2　清潔さの観点から、水はいくつに分類されますか。
3　ウドゥーの徳とは何ですか。
4　ウドゥーのファルド、スンナを説明してください。
5　ウドゥーはどのように行いますか。

6　ウドゥーのマクルーフと、ウドゥーを無効にするものは何ですか。
7　ウドゥーがない人が行ってはいけないことは何ですか。
8　メストはどのようなものですか。
9　包帯を巻いている場合はどのようにしますか。
10　グスルとは何ですか。グスルを必要とする状況とは何ですか。
11　ジャナーバの状態で行ってはいけないこととは何ですか。
12　グスルのファルドと主なスンナはどのようなものですか。
13　グスルはどのように行われますか。
14　オズルの状況とは。
15　女性特有の状況とは。
16　タヤンムムとは、タヤンムムのファルドとスンナは何でしょうか。
17　タヤンムムはどのように行われますか。
18　タヤンムムはどのような状況で行われますか。

第４章　礼拝（１）

●テーマ

- **礼拝の重要性**
- **礼拝は誰にとってのファルドか**
- **礼拝の時間**
- **礼拝を行うことがふさわしくない時間帯**
- **礼拝の種類**
- **礼拝のファルド**
- **礼拝のワージブ**
- **礼拝のスンナ**
- **礼拝を無効にするもの**
- **礼拝のマクルーフ**
- **１日に５回の礼拝の行い方**
- **ファジュルの礼拝**
- **ズフルの礼拝**
- **アスルの礼拝**
- **マグリブの礼拝**
- **イシャーの礼拝**
- **ウィトルの礼拝**
- **礼拝後に唱えるもの**

礼拝の重要性

イスラームの五つの条件の２番目は礼拝を行うことです。人びとの最初の務めは、アッラーの存在と唯一性を、そして預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が預言者であることを信じ、告白することです。信仰告白に次いで、ファルドの中で最も重要なものが礼拝です。１日５回の礼拝は、聖遷の１年半前、ミラージュの夜にファルドとされました。

礼拝は、魂を清め、心を明るくし、人をアッラーの御許に高めるイバーダです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**礼拝は教えの柱である**」と言われ、礼拝がイスラームにおいて最も重要なイバーダであることを明らかにされています。礼拝は私たち

に、肉体と魂の清らかさを獲得させる光です。それによってムスリムは、罪の穢れから清められ、天国に行くにふさわしい清らかなしもべとなるのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように言われました。

「あなた方の誰かの家の前に川があり、そこで１日に５回体を洗えば、その人の体に汚れは残るだろうか」

それを聞いた人びとは、「一切の汚れは残りません、アッラーの使徒よ」と答えました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、**「そう、１日５回の礼拝もこれに似ている。アッラーは礼拝によって罪を消されるのだ」**と言われました。

礼拝は、人びとの心にアッラーへの畏怖を植えつけ、人びとが罪を犯すことから守ります。このことをクルアーンは次のように指摘しています。

「あなたに啓示された啓典を読誦し、礼拝の務めを守れ。本当に礼拝は、（人を）醜行と悪事から遠ざける」（蜘蛛章第４５節）

礼拝を正しく行う人は、罪を犯すことから守られます。そして信仰を強め、アッラーのご満悦を得ます。天国への輝かしい道が開かれます。ムスリムは自ら礼拝を行う責任を負うと同時に、子供たちにも礼拝を教えなければいけません。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。**「子供たちが７歳になったら。礼拝を命じなさい」**

両親が、７歳になった子供に礼拝を行うことを教えれば、子供たちは思春期に達したときには、礼拝に十分慣れていることでしょう。

（詩）礼拝

朝、昼、午後、日没、夜、１日に５回
礼拝をし、あらゆる汚れを流しなさい

礼拝をする人には光が満ち
礼拝をしない人の顔の光は消える

礼拝とは、アッラーの御前にでること
アッラーと話すこと、その光に至ること

ウドゥーをし、清めていなさい、早いうちに
子供のうちから慣れておきなさい

（M・シェラフェッティン・ヤルトカヤ）

礼拝は誰にとってのファルドか

人に礼拝が義務となるには三つの条件があります。
１）ムスリムであること
２）思春期に達していること
３）知的能力を持っていること

礼拝の時間

１日に５回の礼拝があります。それは、ファジュル、ズフル、アスル、マグリブ、イシャーの礼拝です。これらの礼拝にはそれぞれ、定められた時刻があります。それぞれの礼拝は、その時間に行うことが条件です。時間前に礼拝することは認められず、また時間の後に残すことも大きな罪です。クルアーンは次のように命じています。

「本当に礼拝には、信者に対し定められた時刻の掟がある」（婦人章第１０３節）

ファジュルの礼拝の時間：夜明け前、地平線が白みかける頃から、日の出前までの時間です。

ズフルの礼拝の時間：太陽が完全に昇り、影が東側に傾きかけたときから（太陽がちょうど真上にあるときを除く）、全てのものの影が二重になるまでの間です。

アスルの礼拝の時間：ズフルの礼拝の終了する時間から、日没までの時間です。

マグリブの礼拝の時間：日没から始まり、日の沈んだ場所の赤み、その後の白い光が消えるまでの時間です。

イシャーの礼拝の時間：マグリブの時間が終了した時刻から始まり、朝の礼拝の時刻に入るまでの間です。

ウィトルの礼拝の時間：この礼拝の時間は、イシャーの礼拝と同じです。ただしウィトルの礼拝は、イシャーの礼拝の後に行います。

ジュムアの礼拝の時間：ズフルの礼拝の時間に行います。

タラーウィーの礼拝の時間：イシャーの礼拝の時間と同じです。

イードの礼拝の時間：イードの日の朝、日の出から５０分経過した時刻から始まり、太陽が真上に来るまでの時間です。

礼拝を行うことがふさわしくない時間帯

１日のうち、一定の時間帯には、一切の礼拝を行うことができません。礼拝が認められない時間帯とは次の通りです。

１）太陽が昇る際
２）太陽が南中している瞬間。西に傾くまでの時間。
３）太陽が沈む時間

礼拝の種類

礼拝には主に三つの種類があります。
１）ファルドの礼拝
２）ワージブの礼拝
３）ナフルの礼拝

A ファルドの礼拝

これは１日に５回の礼拝と金曜礼拝、及び葬儀の礼拝です。

１日に５回の礼拝
1）ファジュルの礼拝：４ラカートです。
　２ラカート　スンナ
　２ラカート　ファルド
2）ズフルの礼拝：１０ラカートです。
　４ラカート　前のスンナ
　４ラカート　ファルド
　２ラカート　後のスンナ
3）アスルの礼拝：８ラカートです。
　４ラカート　スンナ
　４ラカート　ファルド
4）マグリブの礼拝：５ラカートです。
　３ラカート　ファルド
　２ラカート　スンナ
5）イシャーの礼拝：１０ラカートです。
　４ラカート　前のスンナ
　４ラカート　ファルド
　２ラカート　後のスンナ

１日に５回の礼拝以外の、ファルドの礼拝
1）ジュムアの礼拝：１０ラカートです。

４ラカート　前のスンナ
２ラカート　ファルド
４ラカート　後のスンナ

２）葬儀の礼拝　ファルド・キファーイです。

B ワージブの礼拝

１）ウィトルの礼拝：３ラカートです。
２）断食明けのイードの礼拝：２ラカートです。
３）犠牲のイードの礼拝：２ラカートです。

C ナフルの礼拝

ファルドとワージブ以外に行われる礼拝を、ナフルの礼拝と呼びます。

1）ファルドの礼拝に結びついて行われるナフルの礼拝

これは、ファルドの前もしくは後に行われるスンナや、ラマダーン月の夜に行われる強いスンナであるタラーウィーの礼拝などです。

２）ファルドの礼拝とは結びつかない形で行われるナフルの礼拝

これは、ムスタハブもしくはマンドゥーブの礼拝とも呼ばれます。これらはいくつかの時間帯に、サワーブを得るニーヤで行われます。
次のようなものがあります。

a）午前の礼拝

日が昇り、礼拝のできない時間を過ぎてから、最小で２ラカート、最多で１２ラカート行われる礼拝です。

b）タハージュドの礼拝

夜の半分の時刻以降に行われる最少で２、最多で８ラカート行われる礼拝です。

c）タヒヤートゥ・マスジド

モスクを訪問した際に行われる２ラカートの礼拝です。（礼拝ができない時間帯を除く）

礼拝のファルド

礼拝には１２のファルドがあります。このうちの六つは礼拝の外的な部分です。これを「礼拝の条件」と呼びます。残り六つは礼拝の中に含まれるものです。これを「礼拝の基幹」と言います。

礼拝の前

1）「ハデス」から清められること

「ハデス」と呼ばれる精神的な穢れから清められるためにウドゥーをし、必要であればグスルをすること

2）汚れを清めること

礼拝をする人が、体や服、礼拝する場所に汚れがあれば、それらを清めること

3）アウラを覆うこと

礼拝をする人が、体の覆うべき部分を覆うこと

男性：へそと膝の間（膝頭を含む）を覆うこと

女性：顔、手、足以外の体の全てを覆うこと

4）キブラに向かうこと

礼拝を、キブラの方向に向かって行うこと。キブラは、マッカの町にあり、地上においてアッラーへのイバーダのために造られた最初の神聖な建物であるカーバです。カーバは、預言者イブラーヒームと預言者イスマーイールによって造られました

5）時間

礼拝を、定められた時間内で行うこと。時間より前に礼拝を行うことは認められていません

6）ニーヤ

どの礼拝を行うのかを認識し、心で念じること。それを口に出して言うことはスンナです

礼拝の最中

1）イフティタフ・タクビール：礼拝を始める際に「タクビール」を行うこと

2）キヤーム：礼拝で立っていること

3）クラート：礼拝で立っている際にクルアーンの言葉を唱えること

4）ルクウ：礼拝中に手を膝につけ身をかがめること

5）サジュダ：ルクウの後、足と膝、手と共に額を地面につけること

6）カーダ・イ・アヒーラ：礼拝の後、「アッタヒヤート」と唱えるまで座っていること

礼拝のワージブ

1）礼拝を「アッラーフ・アクバル」という言葉で始めること

2）ファルドの礼拝の最初の２ラカート、ナフルの礼拝では１ラカートごとにファーティハ章を唱えること

3）ファルドの礼拝の最初の２ラカート、ウィトルとナフルの礼拝の１ラカートごとに、ファーティハ章に次いで章もしくは節を唱えること
4）ファーティハ章を他の節よりも前に唱えること
5）サジュダの際、額と共に鼻も地面につけること
6）3もしくは4ラカートの礼拝の、２ラカート目で座ること
7）礼拝の１回目の座位と２回目の座位の際に「アッタヒヤート」を唱えること
8）集団礼拝の場合、ファジュル、ジュムア、イード、タラーウィー、及びウィトルの礼拝の１ラカートごとに、マグリブとイシャーの礼拝の最初の2ラカートで、イマームがファーティハ章やその他の節を声を出して、ズフルとアスルの礼拝では声を出さずに唱えること
9）イマームに従う集団は、ファーティハ章やその他の節を読まず、黙っていること
10）ウィトルの礼拝で「クヌートのタクビール」を行い、クヌートのドゥアーを唱えること
11）イードの礼拝でつけ加えられるタクビールを唱えること
12）立っているときにはまっすぐ、ルクウの際は体を平坦に折ること（女性の場合はやや体をかがめる）ルクウの後にはまっすぐ起き直ること、二つのサジュダの間ではきちんと座ること
13）礼拝の後に左右にサラームを行うこと
14）礼拝の際に間違いがあった場合は、「誤りのサジュダ」を行うこと

（礼拝中、ファルドもしくはワージブのどれかを遅らせた場合、あるいはワージブのどれかを忘れた場合、このサジュダを行います。ワージブは、わざと行わなかった場合にはその礼拝をもう一度行う必要があります）

礼拝のスンナ

1）全ての礼拝の最初のタクビール、ウィトルの礼拝の「クヌートのタクビール」で、そしてイードの礼拝でつけ加えられるタクビールで、両手を掲げること。（男性は両手の親指を耳たぶにつける形で、女性は指先が肩と並ぶ形で手を掲げます）
2）5回の礼拝とジュムアの礼拝のためにアザーンを唱えること。イカーマを行うこと。（女性にはアザーンとイカーマはスンナではありません）

アザーンを聞くことは、ムスタハブです。アザーンを聞いた人は、ムアッズィンが唱えた部分を繰り返します。ただ、「ハイヤ・アラッサラ―」及び「ハイヤ・アラルファラー」と唱えたときは、「ラー・ハウラ・ワラー・クッワタ・イッラー・ビッラーヒル・アリーユル・アジーム」と言います。

アザーンが終わると、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に祝福祈願を行い、次のドゥアーを読みます。

اللَّهُمَّ رَبَّ هَذِهِ الدَّعْوَةِ التَّامَّةِ وَالصَّلاةِ الْقَائِمَةِ آتِ مُحَمَّدًا الْوَسِيلَةَ وَالْفَضِيلَةَ
وَابْعَثْهُ مَقَامًا مَحْمُودًا الَّذِي وَعَدْتَهُ

読み方：「アッラーフンマ・ラッバ・ハーズィヒッダアワティッターンマ・ワッサラーティルカーイマ、アーティ・ムハンマダニルワスィーラタ・ワルファディーラ、ワブアスフ・マカーマン・マハムーダニッラズィー・ワアッダ」
意味：おお、アッラー、この完成された呼びかけ（アザーン）と行われる礼拝の主よ、ムハンマド（p.b.u.h.）にアルワスィーラと徳を与え、彼に約束した讃美される場所に彼を送ってください。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、「**アザーンの後でこのドゥアーを唱える者は、審判の日に私のとりなしを受ける権利を得る**」と仰せられました。

アザーン

アッラーフ・アクバルアッラーフ・アクバル、
アッラーフ・アクバルアッラーフ・アクバル、
アシュハドゥ・アッラー・イラーハ・イッラッラー、
アシュハドゥ・アッラー・イラーハ・イッラッラー、
アシュハドゥ・アンナ・ムハンマダン・ラスールッラー、
アシュハドゥ・アンナ・ムハンマダン・ラスールッラー、
ハイヤ・アラッサラー、ハイヤ・アラッサラー、
ハイヤ・アラル・ファラーフ、ハイヤ・アラル・ファラーフ、
アッサラートゥ・ハイルン・ミナンナウム、アッサラートゥ・ハイルン・ミナンナウム
アッラーフ・アクバルアッラーフ・アクバル、
ラー・イラーハ・イッラッラー

イカーマ

アッラーフ・アクバルッラーフ・アクバル、
アシュハドゥ・アッラー・イラーハ・イッラッラー、

アシュハドゥ・アンナ・ムハンマダッラスールッラー、
ハイヤ・アラッサラー、ハイヤ・アラル・ファラーフ、
カドゥ・カーマテイッサラー、カドゥ・カーマテイッサラー、
アッラーフ・アクバルッラーフ・アクバル、
ラー・イラーハ・イッラッラー

3）「スブハーナカ」のドゥアーを唱えること
4）最初のラカートでは「スブハーナカ」に続いて「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニッ・ラジーム」を、他のラカートではファーティハの前に「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニッ・ラジーム」と唱えること
5）「スブハーナカ」と「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニッ・ラジーム」を心の中で唱えること
6）ファーティハを唱えたときに、イマームと集団礼拝に参加する人びと双方が心の中で「アーミーン」と言うこと
7）最初のタクビール以外の全てのタクビール
8）ルクウから体を起こす際に「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と言うこと、それに続いて「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と言うこと
9）ルクウで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と、サジュダで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と言うこと
10）クヤームの際、両足の間を指４本分くらい開けること
11）ルクウの際に膝を手でつかみ、その際には指を開いていること。女性の場合指を開かず、また膝をつかむのではなく手を膝の上に置くこと
12）ルクウの際、膝と肘をまっすぐにし、曲げず、背中も伸ばしていること。女性の場合膝を軽く曲げ、背中も軽く上方に傾かせること）
13）サジュダの際には、地面にまず膝を、それから手を、その後で顔をつけること。サジュダから立ち上がる際には、まず顔を、それから手を、その後で膝に手を乗せつつ、膝を地面からあげること
14）座位では、手を太ももの上に置くこと
15）座位では、左足を地面に敷くようにしその上に座ること。そして右足を立てて指先をキブラの方向に向けること。女性の場合足を右側に、寝かした状態で出し、股関節の上に座ること
16）最後の座位では「アッタヒヤート」の後で「アッラーフンマ・サッリ・ワ・アッラーフンマ・バーリク」のドゥアー、その他のドゥアー（ラッバナー・アーティナのドゥアーなど）を唱えること
17）サラームをする際には、頭をまず右に、それから左に向けること

18）サラームでは「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言うこと

礼拝の作法

a）礼拝で、立っている際はサジュダをする場所を見ること
b）ルクウの際は足の先を見ること
c）座っている際は胸の方を見ること
d）サジュダの際は鼻の先を見ること
e）サラームの際には肩を見ること

礼拝を無効にするもの

1）礼拝中に話すこと
2）何かを食べること、飲むこと
3）自分で声が耳に入るくらいに笑うこと（周囲の人がその声を耳にするくらいに笑った場合はウドゥーも無効になります）
4）誰かにサラームしたり、サラームを受けたりすること
5）胸をキブラの方向からずらすこと
6）世俗的なこと、もしくは痛みのために泣くこと、声を出して嘆くこと（アッラーへの畏怖によって泣くことは礼拝を無効にしません）
7）咳が出ていないのに無理に咳き込もうとすること（自然に出てくる咳は礼拝を無効にはしません）
8）礼拝中に何かをしようとすること
9）何かに息を吹きかけること
10）意味が変わってしまうほど、クルアーンを誤った形で唱えること
11）クルアーンの章句を何かを見ながら唱えること
12）礼拝中にウドゥーが無効になること
13）タヤンムムを行った人が礼拝中に水を目にすること、メシフの期間が満了すること
14）ファジュルの礼拝中に日が昇った場合
15）女性と男性の間の区切りがなく、並んで一列になって礼拝した場合
16）礼拝中に覆うべきところが見えてしまった場合、そしてそれがルクウ１回分の時間以上に続いた場合

礼拝のマクルーフ

1）礼拝中に体や服をいじること、指を鳴らすこと、指を組むこと、手を脇に置くこと

2）あくびをすること、伸びをすること

3）目を閉じること、左右もしくは上を見ること（その際に胸がキブラの方角からずれると礼拝は無効となります）

4）腕まくりをして礼拝すること（女性は腕まくりして礼拝すると無効となります）

5）正当な理由なく礼拝中にあぐらをかくこと、しゃがむこと、膝を立てて座ること

6）人の顔に向かって、もしくは燃える炎に向かって礼拝すること（灯明、ろうそく、ランプであればマクルーフとはなりません）

7）顔の汗や埃を拭くこと、掻くこと、サジュダする場所にある石を動かすこと（これらは、何らかの苦痛があって行う場合にはマクルーフとはなりません）

8）ルクウやサジュダでタクビールを放棄すること、もしくは３回未満しか読まないこと

9）礼拝する人の前、上、左右に生命を持つ存在の絵があること、そのような絵の上で礼拝すること（風景や植物のような絵であれば問題ありません）

10）礼拝中に何かにもたれること

11）サジュダの際、額だけを地面につけ、鼻をつけないこと

12）サジュダの際、手を膝よりも先に地面につけること、立ち上がる際に膝を手よりも先に上げること（病気が原因でそのように行う場合はマクルーフとはなりません）

13）道で、汚い場所で、墓地で、汚物に近い場所で、あるいはその場所の持ち主の許可を得ずに他人の土地で礼拝を行うこと

14）２番目のラカートで、最初のラカートよりも長い章もしくは節を唱えること

15）覚えている他の章句があるのに、二つのラカートで同じ章もしくは節を唱えること

16）２番目のラカートで、１番目のラカートで唱えたものよりも前の章もしくは節を唱えること

　ファーティハ章に続いて章句を唱える際には、その章句のクルアーンでの順序を守り、その順を前後させずに読みます

17）１番目のラカートで一つの章を唱え、２番目のラカートでは一つ飛ばしたその次の章を唱えること。ただし二つもしくは三つ以上飛ばして唱えた場合にはマクルーフとなりません）

18）礼拝の際に上着やジャケットを着ず、肩にかけること
19）礼拝中に目を閉じること
20）モスクで、前方の列に空いている部分があるのに、後ろで礼拝を始めること

１日に５回の礼拝の行い方

礼拝が、完全で教えの規定に適ったものとなるためには、ファルド、ワージブ、そしてスンナを正しく実行すること、礼拝を無効にするもの、礼拝のマクルーフであるものを注意深く避けることが必要です。

ファジュルの礼拝

２ラカートのスンナ、２ラカートのファルドからなる４ラカートの礼拝です。まずスンナ、それからファルドを行います。

ファジュルの礼拝のスンナの行い方

１番目のラカート

１）指４本分足を広げ、足の指がキブラに向く状態で、立ち上がってキブラの方角に向かいます。

ニーヤ（意志表明）

２）「アッラーのご満悦のために今日のファジュルの礼拝のスンナを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。

最初のタクビール

３）「アッラーフ・アクバル」と言い、最初のタクビールを行います。
（**男性**：両手の平をキブラに向け、指は普通に開いた状態にします。親指が耳たぶと同列に来るような形で両手を上げます）
（**女性**：両手の平をキブラに向け、指は普通に開いた状態にします。指先が肩と同列に来るような形で両手を上げます）

クヤーム

４）タクビールの後で手を組みます。立っているときはサジュダを行う場所を見ています。
（**男性**：右の手の平が左手の上にくるように、そして右手の親指と小指が左手の手首をつかむ形で、へその下で手を組みます）

（**女性**：右手が左手の上にくるように、胸の前で手を組みます。男性のように右手の親指と小指が左手の手首をつかむ形にはしません）

クラート

５）立ったままで、順に「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの言葉を唱えます。

ルクウ

６）「アッラーフ・アクバル」と言い、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。ルクウの際は足の先を見ています。

（**男性**：ルクウでは指を広げて手で膝をつかみ、背をまっすぐにします。膝と肘を直角にします）

（**女性**：ルクウでは背を軽く曲げ、男性ほどには体を折りません。手を、指を開かずに膝の上に置き、膝を軽く曲げます）

ルクウから起き上がる

７）「セミアッラーフ・リマンハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った状態になると「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

サジュダ

８）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダを行います。サジュダの際には、まず膝を、それから手を、その後に鼻を地面につけます。サジュダでは頭は両手の間に、そして同じラインに置きます。サジュダの際には足は上げません。サジュダの際には鼻の端を見ています。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

（**男性**：サジュダでは肘を脇から離し、腕を地面から起こしています。足を、指の上に直角に乗せ、指先がキブラの方角に向くようにします）

（**女性**：サジュダでは肘を体につけます。足を、指の上に直角に乗せ、指先がキブラの方角に向くようにします）

サジュダの間の座位

９）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。この際、指が膝と同じラインになるように、太ももに手を置きます。自分の胸の方を見ています。ここで「スブハーナッラー」と唱え、短い間座っています。

（**男性**：左足を床に寝かせ、その上に座ります。右足は、指先がキブラに向く形で直

角に立てます）
（**女性**：足を寝かせた状態で右側に崩す形で座ります）
10）「アッラーフ･アクバル」と言い、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
11）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから立ち上がり、２番目のラカートに移り、手を組みます。

サジュダから立ち上がる際には、まず頭、それから手、最後に手を膝の上に置きつつ、膝を地面から離します。

最初のタクビールからここまでを「１番目のラカート」と言います。

２番目のラカート

１）立ったままで、順に「バスマラ」（ビスミッラーヒ・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、そしてもう一つのクルアーンの章を唱えます。
２）最初のラカートと同様に、「アッラーフ・アクバル」と言い、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
３）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った状態になり、「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
４）「アッラーフ･アクバル」と言い､サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ･ラッビヤルアアラー」と唱えます。
５）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。ここで「スブハーナッラー」と唱え、短い間座っています。
６）それから「アッラーフ・アクバル」と言い、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

礼拝の最後の座位

７）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。このとき、指が膝と同じラインになるように、太ももに手を置きます。自分の胸の方を見ています。
（**男性**：左足を床に寝かせ、その上に座ります。右足は、指先がキブラに向く形で直角に立てます）
（**女性**：足を寝かせた状態で右側に崩す形で座ります）
８）座った状態で、順に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。

右側にサラーム

9）まず頭を右に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。そのとき眼は肩を見ています。

左側にサラーム

10）それから頭を左に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。これで２ラカートの礼拝は完了です。

ファジュルの礼拝のファルドの行い方

ファジュルの礼拝のファルドも、２ラカートのスンナと同じように行います。スンナとの違いは、「ファルド」をニーヤすることと、男性の場合はイカーマを行うことです。

ファジュルの礼拝のファルドでは次のようにニーヤします。

「アッラーのご満悦のために、今日のファジュルの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました」

ズフルの礼拝

ズフルの礼拝は、４ラカートの前のスンナ、４ラカートのファルド、２ラカートの後のスンナの、計10ラカートです。

ズフルの礼拝のスンナの行い方

1）「アッラーのご満悦のために今日のズフルの礼拝のスンナを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。

2）「アッラーフ・アクバル」と言い、最初のタクビールを行います。

3）立ったままで、順に「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの言葉を唱えます。

4）「アッラーフ・アクバル」と言い、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

5）セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

6）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。

8）それから「アッラーフ・アクバル」と言い、２度目のサジュダを行います。そ

して３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

9）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから立ち上がり、２番目のラカートに移ります。手を組みます。

２番目のラカート

1）立ったままで、順に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。

2）「アッラーフ・アクバル」と言い、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。

6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、座ります。そして「アッタヒヤート」を唱えます。（これを１回目の座位といいます）

8）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、３番目のラカートに移ります。手を組みます。

３番目のラカート

1）「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。

2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。

6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、４番目のラカートに移ります。手を組みます。

４番目のラカート

1）「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。

2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った状態になると「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

4）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。

6）再び「アッラーフ・アクバル」と言い、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と言い、正座します。

8）座った状態で、順に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。

9）まず頭を右に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。それから頭を左に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。

ズフルの礼拝のファルドの行い方

１番目のラカート

1）イカーマを行います。

2）「アッラーのご満悦のために今日のズフルの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。

3）「アッラーフ・アクバル」と唱え、最初のタクビールを行い、手を組みます。

4）「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

6）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

8）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。

9）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして

３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

10)「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、２番目のラカートに移ります。手を組みます。

２番目のラカート

1）立ったままで、「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。

2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。

6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と唱え座ります。

8）座って「アッタヒヤート」を唱えます。

9）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、３番目のラカートに移ります。手を組みます。

３番目のラカート

1）「「バスマラ」」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。

2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。

3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。

4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。

6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。

7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、４番目のラカートに移ります。手を組みます。

４番目のラカート

1）「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と唱えます。
3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き直ります。そして立った状態になると「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。
6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、正座します。
8）座った状態で、順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナ―」のドゥアーを唱えます。
9）まず頭を右に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。それから頭を左に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。

これでズフルの礼拝のファルドは完了します。

この後、「アッラーフンマ・アンタッサラーム・ワミンカッサラーム タバーラクタヤーザル・ジャラーリ・ワルイクラーム」と言い、ファルドの後の２ラカートのスンナを行います。

ズフルの後のスンナの行い方

ニーヤした後、ファジュルの礼拝の２ラカートのスンナと同様に、２ラカートのスンナを行います。

アスルの礼拝

アスルの礼拝は、４ラカートの前のスンナ、４ラカートのファルドの計８ラカートです。

アスルの礼拝のスンナの行い方

１番目のラカート

1）「アッラーのご満悦のために今日のアスルの礼拝のスンナを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、最初のタクビールを行います。
3）立ったままで、順番に「スブハーナカ」「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と唱えます。
5）セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
6）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。
8）それから「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
9）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから立ち上がり、２番目のラカートに移ります。手を組みます。

２番目のラカート

1）立ったままで、順番に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。
6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、座ります。
8）座った状態で、順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。
9）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、３番目のラカートに移ります。手を組みます。

３番目のラカート

１）順番に「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
２）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
３）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
４）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
５）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。
６）再び「アッラーフ・アクバル」と言い、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
７）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、４番目のラカートに移ります。手を組みます。

４番目のラカート

１）順番に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
２）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
３）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
４）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
５）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、正座します。
６）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
７）「アッラーフ・アクバル」と唱え、正座します。
８）座った状態で、順に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。
９）まず頭を右に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。それから頭を左に向け、「アッサラームアライクム・ワラフマトゥッラー」と言います。

ズフルの礼拝の前のスンナの４ラカートと、アスルの礼拝のスンナの４ラカート

の相違点

　ズフルの最初のスンナは「ムアッカダのスンナ」です。その２番目のラカートで座っているときに、「アッタヒヤート」のみを唱えます。３番目のラカートに立ち上がったときには「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）とファーティハ章及び別の章を唱えます。

　アスルの最初のスンナは「ガイリ・ムアッカダのスンナ」です。その２番目のラカートで座っているときには、「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」を唱えます。３番目のラカートに立ち上がったときには、まず「スブハーナカ」を唱え、それから「アウーズ・ビッラーヒ」とファーティハ章を読みます。

アスルの礼拝のファルドの行い方

１）イカーマを行います（男性の場合）
２）「アッラーのご満悦のために今日のアスルの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。

　アスルの礼拝のファルドは、ズフルの４ラカートのファルドと同じように行います。ニーヤのみが異なります。

マグリブの礼拝

　マグリブの礼拝は、３ラカートのファルド、２ラカートのスンナの計５ラカートです。

マグリブの礼拝のファルドの行い方

１番目のラカート

１）イカーマを行います（男性の場合）
２）「アッラーのご満悦のために今日のマグリブの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。
３）「アッラーフ・アクバル」と唱え、最初のタクビールを行います。
４）順番に「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
５）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
６）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
７）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・

ラッビヤルアアラー」と唱えます。
8）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
9）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
10）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、２番目のラカートに移ります。手を組みます。

２番目のラカート
1）順番に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
8）座った状態で「アッタヒヤート」を唱えます。
9）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、３番目のラカートに移ります。手を組みます。

３番目のラカート
1）順に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を順番に唱えます。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして

３回「スブハーナ・ラッビヤル・アアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
8）座った姿勢で、順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。
9）まず頭を右に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。それから頭を左に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。

マグリブの礼拝のスンナの行い方

「アッラーのご満悦のために、今日のマグリブの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。マグリブの礼拝のスンナは、ファジュルの礼拝のスンナと同じように行います。

イシャーの礼拝

イシャーの礼拝は、４ラカートの最初のスンナ、４ラカートのファルド、２ラカートの終わりのスンナの計１０ラカートです。

イシャーの礼拝の最初のスンナの行い方

「アッラーのご満悦のために、今日のイシャーの礼拝のスンナを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。ニーヤの後は、アスルの礼拝のスンナと同じように礼拝を行います。両方とも「ガイリ・ムアッカダ」のスンナです。ただニーヤだけが異なります。

イシャーの礼拝のファルドの行い方

1）イカーマを行います（男性の場合）
2）「アッラーのご満悦のために今日のイシャーの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。
　ニーヤの後は、ズフルのファルドと同じように礼拝します。

イシャーの礼拝の終わりのスンナの行い方

1）「アッラーのご満悦のために今日のイシャーの礼拝のスンナを行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。
　ニーヤの後はファジュルの礼拝のスンナと同じように礼拝します。

ウィトルの礼拝

イシャーの礼拝の後で行われる３ラカートのウィトルの礼拝は、他の礼拝とは違っている部分があります。それは、３番目のラカートで、ファーティハ章ともう一つの章を読んだ後、すぐにルクウに移らず、「アッラーフ･アクバル」と唱え、手を掲げ、それから再び手を組みます。そしてクヌートのドゥアーを唱えます。その後でルクウを行います。ウィトルの礼拝の行い方を見ていきましょう。

１番目のラカート

1）「アッラーのご満悦のために、今日のウィトルの礼拝を行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、最初のタクビールを行います。
3）順番に「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤルアズィーム」と言います。
5）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
6）「アッラーフ･アクバル」と言い、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
8）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。
9）「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がり、２番目のラカートに移ります。手を組みます。

２番目のラカート

1）順番に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
2）「アッラーフ･アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤル・アズィーム」と言います。
3）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
4）「アッラーフ･アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤル・アアラー」と唱えます。

5）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
6）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤル・アアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
8）座った状態で「アッタヒヤート」を唱えます。
9）「アッラーフ・アクバル」と言い、立ち上がり、３番目のラカートに移ります。手を組みます。

３番目のラカート

1）順番に「バスマラ」（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの章句を唱えます。
2）「アッラーフ・アクバル」と唱え、手を掲げ、それから再び手を組みます。
3）クヌートのドゥアーを唱えます。（クヌートのドゥアーを知らない人は「ラッバナー・アーティナー・フィッドゥンヤー・ハサナタン ワ・フィル・アーヒラティ・ハサナタン ワ・クィナー・アザーバン・ナール」と唱えます。
4）「アッラーフ・アクバル」と唱え、ルクウを行います。そこで３回「スブハーナ・ラッビヤル・アズィーム」と言います。
5）「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と唱え、ルクウから起き上がります。そして立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と唱えます。
6）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤル・アアラー」と唱えます。
7）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
8）再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。そして３回「スブハーナ・ラッビヤル・アアラー」と唱えます。
9）「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダから起き上がり、座ります。
10）座った状態で、順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナ―」のドゥアーを唱えます。
11）まず頭を右に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。それから頭を左に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。

礼拝後に唱えるもの

ファルドの礼拝の後、サラームを行ってから、

اللَّهُمَّ أَنْتَ السَّلامُ وَمِنْكَ السَّلامُ تَبارَكْتَ يا ذَا الْجَلالِ وَالإِكْرَامِ

「アッラーフンマ・アンタッサラーム・ワ・ミンカッサラーム タバーラクタヤーザル・ジャラーリ・ワ・ルイクラーム」と唱えます。

ファルド礼拝の後にスンナの礼拝がない場合（ファジュルやアスルの礼拝などは)、

اَللّٰهُمَّ صَلِّ عَلىَ سَيِّدِنَا مُحَمَّدٍ وَ عَلى الِ سَيِّدِنَا مُحَمَّدٍ

「アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリ・ムハンマド（p.b.u.h.）」と言い、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への祝福祈願を行います。

スンナの礼拝がある場合（ズフル、マグリブ、イシャーの礼拝など）は、この部分をスンナの後で唱えます。

その後で、

سُبْحَانَ اللهِ وَالحَمْدُ للهِ وَلا إِلَهَ إِلا اللهُ وَاللهُ أَكْبَرُ وَلا حَوْلَ وَلا قُوَّةَ إِلا بِاللهِ الْعَلِي الْعَظِيمِ

「スブハーナッラーヒ・ワルハムドゥリッラヒ ワ・ラー・イラーハ・イッラッラーフ ワッラーフ・アクバル・ワ・ラー・ハウラ・ワラー・クッワタ・イッラー・ビッラーヒル・アリーィル・アズィーム」と唱えます。その後に、**「アウーズ・ビッラーヒ」**と**「アーヤト・ル・クルシー」**を唱えます。

اللَّهُ لاَ إِلَهَ إِلاَّ هُوَ الْحَيُّ الْقَيُّومُ لاَ تَأْخُذُهُ سِنَةٌ وَلاَ نَوْمٌ لَهُ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي الأَرْضِ
مَنْ ذَا الَّذِي يَشْفَعُ عِنْدَهُ إِلاَّ بِإِذْنِهِ يَعْلَمُ مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَلاَ يُحِيطُونَ بِشَيْءٍ مِنْ
عِلْمِهِ إِلاَّ بِمَا شَاءَ وَسِعَ كُرْسِيُّهُ السَّمَاوَاتِ وَالأَرْضَ وَلاَ يَئُودُهُ حِفْظُهُمَا وَهُوَ الْعَلِيُّ الْعَظِيمُ

アーヤト・ル・クルシー

「アッラーフ・ラー・イラーハ・イッラー・フワル・ハイユ・ル・カイユーム
ラー・タ・フズフ・スィナトゥーワ・ラー・ナウム
ラフー・マー・フィ＝ッ＝サマーワーティ・ワ・マー・フィ・ル・アルド
マンーザ＝ッ＝ラディー・ヤシュファウ・インダーフー・イッラー・ビ＝イズニヒ
ヤアラム・マー・バイナ・アイディーヒム・ワ・マー・ハルファフム
ワ・ラー・ユヒートゥーナ・ビ・シャイインミン・イルミヒー イッラー・ビマー・シャーア
ワスィア・クルシーユフ・ッ・サマーワーティ・ワ・ル・アルド
ワ・ラー・ヤウードフー・ヒフズフマー・ワ・フワ・ル・アリーユ・ル・アズィーム」

意味：アッラー、かれの外に神はなく、永生に自存される御方。仮眠も熟睡も、

かれをとらえることは出来ない。天にあり地にある凡てのものは、かれの有である。かれの許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか。かれは（人びとの）、以前のことも以後のことをも知っておられる。かれの御意に適ったことの外、かれらはかれの御知識に就いて、何も会得するところはないのである。かれの玉座は、凡ての天と地を覆って広がり、この二つを守って、疲れも覚えられない。かれは至高にして至大であられる。

その後、順番に、
スブハーナッラー（アッラーを讃えます）を３３回　سُبْحَانَ الله
アル＝ハムドゥリッラー（アッラーに称賛あれ）を３３回　اَلْحَمْدُ لله
アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）を３３回唱えます。　اَللهُ أَكْبَرُ
続いて、

لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَحْدَهُ لَا شَرِيكَ لَهُ لَهُ الْمُلْكُ وَلَهُ الْحَمْدُ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ

「**ラー・イラーハ・イッラッラーフ・ワフダフ・ラー・シャリーカ・ラフ ラフル・ムルク・ワ・ラフル＝ハムド・ワ・フワ・アラー・キュッリ・シャイイン・カディール**」と唱え、手を胸の位置まで上げてドゥアーを行います。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が推奨された次のようなドゥアーを唱えます。

「万物の主であるアッラーに感謝を捧げます。我らの主ムハンマド（p.b.u.h.）に、彼に従う人びとに、その友に、祝福と平安あれ」

「**アッラーよ**、忍耐できない苦痛から、現世と来世で私たちがなすことの困難さから悲しみをもたらす運命から、敵たちを喜ばせる悲しみから、あなたに庇護を求めます」

「**アッラーよ**、私たちの罪をお許しください。私たちをお守りください。私たちを甘受してください、私たちのイバーダを受け入れてください。私たちを天国に入らせ、地獄の炎から救ってください。現世と来世での行いを正してください。あなたを思い、あなたに感謝し、十分なイバーダを行えるよう、私たちをお助けください」

「**アッラーよ**、私たちが行っている全ての事柄の結末を、良いものとしてください。私たちを現世の悲しみや来世の罰からお守りください」

「**アッラーよ**、あなたの慈悲をもたらし、許しへと至らせる事柄を、あらゆる罪から遠ざかり、良いものをすべて手にし、最後には天国へ入ること、地獄から救われ

ることを、あなたに願います」

「**アッラーよ**、どの罪も放っておくことなく、全てをお許しください。悲しみの全てを取り除いてください。私たちを喜ばせてください。全ての借りを支払うことのできる力と強さをください。現世と来世で、あなたが認めておられる範囲での、私たちの必要としているものをお与えください。最も慈悲深いお方よ」

「**アッラーよ**、私たちの現世での良いものと来世での良いものをお与えください。あなたの慈悲によって私たちをお許しください。地獄の炎から救ってください。最も慈悲深いお方よ」

「**アッラーよ**、私を、母を、父を、全ての信者を、審判の日にあなたの慈悲によってお許しください。最も慈悲深いお方よ」
「全ての預言者たちに平安がありますように。感謝はただ、万物の主であられるアッラーにのみなされるものです」
ドゥアーを、

سُبْحانَ رَبِّكَ رَبِّ الْعِزَّةِ عَمّا يَصِفُونَ وَسَلامٌ عَلَى المُرْسَلينَ وَالْحَمْدُ للهِ رَبِّ الْعالَمِينَ

「あなたの主、威徳の主、かれらが配するものから（超絶なされる）主に讃えあれ。使徒たちに平安あれ。万有の主、アッラーに讃えあれ」（整列者章第 180 ～ 182 節）で締めくくります。
読み方：「スブハーナ・ラッビカ・ラッビリッゼティ・アンマー・ヤスフーン・ワ・サラームン・アラル・ムルサリーン・ワルハムドゥリッラーヒ・ラッビル・アーラミーン」

質問

1　礼拝の重要性について説明してください。
2　礼拝は誰にとってのファルドですか。
3　礼拝の時間と、礼拝を行うことができない時間を挙げてください。
4　礼拝には何種類ありますか。
5　礼拝のファルドはいくつありますか。礼拝以外でのファルドについて説明してください。
6　礼拝に含まれるファルドについて説明してください。
7　礼拝のワージブとスンナとは何ですか。
8　礼拝を無効にするものとは何ですか。

９　礼拝でマクルーフであるものは何ですか。
10　４ラカートのファルドと４ラカートのスンナとの相違点は何ですか。
11　ムアッカダのスンナと、ムアッカダではないスンナとの相違点は何ですか。
12　ウィトルの礼拝と他の礼拝との相違点は何ですか。
13　礼拝の後には何を唱えますか。

第５章　礼拝（2）

●テーマ

- **過失のサジュダ**
- **集団礼拝の徳**
- **モスクに入るときの作法**
- **礼拝を集団で行う**
- **金曜日とジュムアの礼拝**
- **ジュムアの礼拝は誰にとってファルドか**
- **ジュムアの礼拝の行い方**
- **イード（祝祭日）の礼拝**
- **イードの礼拝の行い方**
- **タラーウィーの礼拝**
- **座って、あるいはイーマー（目や顔、頭の動き）で礼拝を行うこと**
- **旅行者の礼拝**
- **礼拝のカダー**
- **ティラーワのサジュダ**
- **葬儀の礼拝**
- **葬儀の礼拝の行い方**

過失のサジュダ

過失のサジュダを必要とする状況

礼拝中に、

１）ファルドのいずれかを忘れ、遅らせた場合

２）ワージブのいずれかを忘れ、遅らせた場合、もしくは行わなかった場合

これらの不足の補填として、礼拝後に「過失のサジュダ」を行うことはワージブです。ファルドのいずれかを忘れた場合、あるいはわざと行わなかった場合は礼拝は無効となるため、過失のサジュダでは補填されません。礼拝をあらたに行う必要があります。ワージブのいずれかを意識的に放棄し行わなかった場合は、過失のサジュダは必要ありませんが、礼拝をもう一度行う必要があります。

「過失のサジュダ」をいつどのように行うか

礼拝で、ファルドのいずれか、もしくはワージブのいずれかを忘れて遅らせた場合、もしくはワージブのいずれかを行わなかった場合、礼拝の最後の座位で「アッタヒヤート」のみを唱え、右側に向いてサラームをした後、「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。ここで３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。それから「アッラーフ・アクバル」と唱え、起き上がります。そして再び「アッラーフ・アクバル」と唱え、２度目のサジュダを行います。ここでも３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱えます。そして「アッラーフ・アクバル」と唱え、起き上がります。

このとき、座った状態で、順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。それからまず右に、そして左にサラームを行います。これを「過失のサジュダ」と呼びます。

集団礼拝の徳

イスラームは、集団での礼拝に重きを置いています。集団礼拝を行うムスリムは、お互いによく知りあうことになります。知識がない人は知識を持つ人から恩恵を受けることができ、いい習慣を身につけ、次第に悪い習慣を捨て去るようになります。

集団礼拝をつづけるムスリムの間では、相互の愛情が芽生えます。兄弟愛や支え合いの気持ちが強まります。天使のように、アッラーの周辺で列を作り礼拝をする信者たちは、一人で礼拝する者よりも多くのサワーブを得るのです。

このことについて預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のような吉報を与えてくださいました。

「集団で行う礼拝のサワーブは、一人で行う礼拝の２７倍である」

「イシャーの礼拝を集団で行う人は、夜中まで礼拝を行いつづけたかのようになる。ファジュルの礼拝を集団で行う人は、一晩中礼拝を行いつづけたかのようになる」

「誰かが、家できちんとウドゥーを行い、アッラーの定められたファルドを行うためにモスクに行けば、その歩みの一つは罪を消し、もう一つは彼の位階を高める」

ファルドの礼拝は、一人でも行うことができます。ただ、集団での礼拝は、ムアッカダのスンナです。モスクで行いつづけることの精神的な利益は大きく、社会の一体化においても大きな役割を果たします。

スンナもしくはナフルである礼拝は、集団では行いません。ただし、タラウィーの礼拝はスンナですが、一人でも集団でも行うことができます。ワージブであるウィトルの礼拝は、ラマダーン月のみ集団で行われます。ジュムアとイードの礼拝は、集団で行われ、一人では行うことができません。

モスクに入るときの作法

モスクは、ムスリムがアッラーへのイバーダを行う場です。地上において最も誉れ高い場であるモスクは、「アッラーの家」と呼ばれます。イバーダのためにモスクに行く信者は、アッラーへの訪問者であり、アッラーの客という立場になります。ホストが家に来た客をもてなすように、モスクに行く信者たちにはアッラーの大きな報償があるのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこのことについて次のように仰せられました。「**家できちんとウドゥーをし、モスクへ行く人は、アッラーへの訪問者である。訪問者にはアッラーはもてなしをされるだろう**」

モスクへ敬意を示すことはムスリム一人ひとりの務めです。この務めは、簡単に言うと次の通りとなります。

１）モスクへは、ウドゥーをし、清潔な服と整った身なりで行くこと。
２）モスクへは、まず右足から入り、入る際には預言者ムハンマド（p.b.u.h.）へのサラワートを唱えること。
３）モスクから出る際には左足から出ること。
４）足や靴下が汚れている場合は、モスクの絨毯やキリムを踏まないようにすること。
５）何らかの支障がない限り、モスクでは足を伸ばして座らないこと。大声で叫んだり、騒音を立てたり、世俗的なことを話したりといった、失礼となる振る舞いは避けること。
６）タマネギやニンニクを食べ、口臭のするままモスクに行って人びとを不快にすること、げっぷをすること、その他周囲の人を不快にさせるような行動を避けること

モスクでクルアーンが読まれているか、説教がなされていれば、注意深く敬意を持って聴くこと。モスクに遅れてきた人は空いている場所に座ること。前の列に行こうとして周囲の人を不快にしないこと。

モスクを知ろう

モスクは、イスラーム社会には欠かせないものです。イスラームの国のシンボルです。トルコの人びとは歴史を通してモスク建設に重きを置き、今日においてすら、その段階には達することのできない天才的な建築家を生み出してきました。そして世界でも例を見ないほどに壮麗なモスクが建てられてきたのです。

モスク：ムスリムが集まってイバーダを行う場所をモスクと呼びます。

マスジド：礼拝を行う場という意味です。トルコでは小さなモスクをマスジドと呼びます。一部の大きなモスクも、マスジドと呼ばれることがあります。マスジド・

ナビーなどです。
　小規模のマスジドでは一般的に１日５回の礼拝が行われ、ジュムアの礼拝は行われません。

モスクの各部分の名称

ミフラーブ：モスクのキブラの方角のイマームが礼拝を導く場所にある壁の凹み。
ミンベル：イマームが金曜礼拝の説教を行う、階段状のやや高くなっている場所。
クルス：説教を行う、やや高くなって座る部分のある場所。
ミナレット：モスクの屋根の一角にアザーンを唱えるために設けられている尖塔。
シャラファ：ミナレットにあり、囲いや突き出た部分を備えている、アザーンを読む場所。一般的に一つのミナレットには一つのシャラファがありますが、複数のシャラファを持つミナレットもあります。
アラム：ミナレットの先端にあり新月の形をしているもの。

礼拝を集団で行う

１番目のラカートからイマームに従っていた人の場合

　イマームの後ろで集団礼拝を行う人は、礼拝を行うことと、イマームに従うことについてニーヤを行います。例えば、ズフルの礼拝のファルドはどのように行うかを示してみましょう。

１）ニーヤの仕方。「アッラーのご満悦のために今日のズフルの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました。イマームに従います」集団礼拝でイマームに従う人は、ニーヤの最後に「イマームに従います」という言葉を加えます。
２）イマームがタクビールを行うと、集団もすぐに従ってタクビールを行い、手を組みます。そしてひそめた声で「スブハーナカ」を唱えます。集団礼拝に加わる人は、これ以外にはどのラカートにおいても、立った状態で何かを唱えることはありません。ただイマームがファーティハ章を唱えたときに「アーミーン」と言います。
３）ルクウを行うと、集団もここで３度「スブハーナ・ラッビヤル・アズィーム」と唱えます。イマームが「セミアッラーフ・リマン・ハミダ」と言い、立ち上がると、集団は立った姿勢で「ラッバナー・ワ・ラカルハムド」と言います。サジュダでも３回「スブハーナ・ラッビヤル・アアラー」と言います。
４）座位ではイマームと共に集団も「アッタヒヤート」の後で「アッラーフンマ・サッリ・ワ・アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナ」のドゥアー、「ラッバナグフィルリ」のドゥアーを唱え、イマームと共にサラームを行います。

イマームの後ろで集団礼拝を行う人は、タクビールを行ったり、ルクウをしたり、ルクウから起き上がったり、サジュダをしたり、サジュダから起き上がったり、サラームを行ったりする際に、それらをイマームに従って行います。イマームよりも先に行うことはできません。

一つのラカートのルクウで、すなわちイマームがまだルクウから起き上がっていない状態でニーヤしてタクビールを行い、ルクウでイマームに従った人は、そのラカートに間に合ったことになります。

２番目のラカートからイマームに従う人の場合

１番目のラカートのルクウに間に合わなかった人は、間に合ったところでニーヤをし、タクビールをし、イマームに従い、イマームと共に礼拝をつづけます。最後の座位で「アッタヒヤート」を唱え、イマームがサラームを行うのを待ちます。イマームが右側にサラームをしたら、その人は間に合わなかったラカートの礼拝を行うために、サラームを行わず、「アッラーフ・アクバル」と言い、立ち上がります。「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」ファーティハ章ともう一つの章を唱えます。その後ルクウとサジュダを行い、座ります。座った状態で、順に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。まず右に、それから左にサラームを行い、礼拝を終えます。

３番目のラカートからイマームに従う人の場合

４ラカートの礼拝の３ラカート目からイマームに従った人は、最後の座位で「アッタヒヤート」を唱え、イマームがサラームを行うのを待ちます。イマームが右側にサラームをしたら、その人はサラームをせずに「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がります。そして間に合わなかった２ラカートの礼拝を次のように行います。「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」ファーティハ章ともう一つの章句を唱えます。その後ルクウとサジュダを行い、「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がります。バスマラ（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）に続いてファーティハ章ともう一つの章句を唱えます。それからまたルクウとサジュダを行い、座ります。座った状態で、順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。まず右に、それから左にサラームを行い、礼拝を終えます。

３ラカートであるマグリブやウィトルの礼拝で、３番目のラカートからイマームに従った人は、イマームと共にそのラカートの礼拝をします。「アッタヒヤート」を唱え、イマームがサラームを行うのを待ちます。イマームが右側にサラームをした

ら、その人はサラームをせずに「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がります。「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」ファーティハ章ともう一つの章を唱えます。その後ルクウとサジュダを行い、座ります。ここでは「アッタヒヤート」のみを唱えます。そして「アッラーフ・アクバル」と唱え、立ち上がります。バスマラ（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）に続いてファーティハ章ともう一つの章を唱えます。それからまたルクウとサジュダを行い座ります。座った状態で、順に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。まず右に、それから左にサラームを行い、礼拝を終えます。

４番目のラカートからイマームに従う人の場合

やはりイマームと共にそのラカートの礼拝を行い、最後の座位で「アッタヒヤート」を唱え、イマームがサラームを行うのを待ちます。イマームが右側にサラームをしたら、その人はサラームをせずに「アッラーフ・アクバル」と言い、立ち上がります。ここで「スブハーナカ」「アウーズ・ビッラーヒ」ファーティハ章ともう一つの章を唱えます。その後ルクウとサジュダを行い、座ります。ここでは「アッタヒヤート」のみを唱えます。そして立ち上がります。バスマラ（ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム）に続いてファーティハ章と、もう一つの章を唱えます。それからまたルクウとサジュダを行い、座らずに立ち上がります。バスマラとファーティハ章のみを唱え、ルクウとサジュダを行い、座ります。「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。まず右に、それから左にサラームを行い、礼拝を終えます。

金曜日とジュムアの礼拝

金曜日は、イスラーム教徒にとって神聖な日です。だから信者は、この日をイードのような喜びで迎えるべきです。体を清潔にし、良い服を着てモスクに行くべきなのです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。

「誰であれ、きちんとウドゥーをしてジュムアの礼拝に行き、黙ってフトバを聞けば、３日分余計に、このジュムアから次のジュムアまでの罪が許される」

ジュムアの礼拝は、４ラカートの最初のスンナ、２ラカートのファルド、４ラカートの終わりのスンナの計１０ラカートです。ジュムアの礼拝はズフルの礼拝の時間に行われ、その日のズフルの礼拝の代わりとなります。ジュムアの礼拝のファルドは集団で行われます。一人で行うことはできません。

ジュムアの礼拝は誰にとってのファルドか

ジュムアの礼拝がファルドとなるためには、ムスリムであること、知性を伴っていること、思春期に達していることの他、六つの条件がさらに必要となります。

ジュムアの礼拝がファルドとなる条件

１）男性であること。女性にはファルドではありません
２）自由であること
３）その地域の居住者であること（客ではないこと）
４）健康であること
５）盲人ではないこと
６）足が健康であること

これらの条件を満たしていない人には、ジュムアはファルドではありません。ただし、この状態の人がモスクに来て礼拝を行えば、その日のズフルの礼拝の代わりとなります。

ジュムアの礼拝が正しく行われるには、次の条件が必要です。

１）金曜日のズフルの時間に行われること
２）礼拝の前にフトバが読まれること
３）ジュムアが行われる場所には、誰でも入れること
４）イマーム以外に少なくとも３人の男性がいること
５）ジュムアの礼拝を導く人が、国によって任命された人もしくは許可を得た人であること
６）ジュムアの礼拝を行う場所が、町もしくはそれに準じたものであること

ジュムアの礼拝の行い方

金曜日、ズフルのアザーンが読まれた後、まず４ラカートの最初のスンナを行います。このときのニーヤは「アッラーのご満悦のために今日のジュムアの礼拝の最初のスンナを行うことをニーヤしました」となります。

ジュムアの礼拝の最初のスンナは、ズフルの礼拝の４ラカートのスンナのようです。スンナの後、モスクの中でもう一度アザーンが読まれます。そしてイマームは説教台に上がってフトバを行います。フトバが終わるとイカーマを行い、ジュムアの礼拝の２ラカートのスンナが行われます。イマームの後ろにいる集団は、次のようにニーヤをします。「アッラーのご満悦のために、今日のジュムアの礼拝のファル

ドを行うことをニーヤしました。イマームに従います」

ファルドの後でジュムアの４ラカートの終わりのスンナを行います。これはジュムアの最初のスンナと同じです。ニーヤは「アッラーのご満悦のために今日のジュムアの礼拝の終わりのスンナを行うことをニーヤしました」となります。

ジュムアの礼拝はこのように完了されます。

この後、希望する人は４ラカートの「ズフリ・アーヒル」（終わりのズフル）と、２ラカートのスンナを行います。

「終わりのズフル」には、「アッラーのご満悦のために、時間に間に合いながらもまだ行っていない終わりのズフルの礼拝を行うことをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。この終わりのズフルの礼拝は、ズフルの４ラカートのファルドの礼拝と同じように行われる一方で、スンナのように４ラカートの全てで、ファーティハ章の次にもう一つの章句が読むことがより適切です。

２ラカートのスンナについては次のようにニーヤを行います。「アッラーのご満悦のためにこの時間のスンナを行うことをニーヤしました」。この礼拝はファジュルの礼拝のスンナと同じように行います。

イード（祝祭日）の礼拝

イードとは、喜びの日です。信者が一同に会して行うイードの礼拝は、ムスリムの間の連帯感や一体感を素晴らしい形で示すものです。イードは、ムスリムを互いに親しくさせ、不和を取り除き、友情をより強める重要な日です。イードはアッラーの、信仰するしもべたちのための宴の日なのです。

ムスリムには年に２回、イードがあります

１）イード・アル＝フィトル（断食明けの祭）

２）イード・アル＝アドハー（犠牲祭）

ジュムアの礼拝がファルドである人びとには、イードの礼拝を行うことはワージブです。イードの礼拝は２ラカートです。集団で行われます。イードの礼拝には、アザーンやイカーマはありません。イードのフトバはスンナです。そして礼拝の後に行われます。ジュムアのフトバはファルドであり、礼拝の前に読まれます。

他の礼拝との相違点として、イードの礼拝は１番目のラカートでは３回、２番目のラカートでも３回、合計６回のタクビールが行われます。これらは「ザワーイドのタクビール」と言います。

イードの礼拝の行い方

イード・アル＝フィトル（断食明けの祭）の礼拝

１番目のラカート

1）礼拝に参加する人びとは、整った列を作ってイマームの後ろに並びます。そして「アッラーのご満悦のためにイード・アル＝フィトルの礼拝を行うことをニーヤしました。イマームに従います」とニーヤします。

2）イマームが「アッラーフ・アクバル」と唱え、手を掲げたら、人びともイマームに続いて「アッラーフ・アクバル」と唱え、手を掲げ、それから臍の下の部分で手を組みます。

3）イマームと集団礼拝を行う人びと両方が、声を出さずに「スブハーナカ」を唱えます。この後、３回タクビールを行います。タクビールは次のように行います。

１回目のタクビール：イマームは大きな声で、背後の人びとはそれに続いて声を出さずに「アッラーフ・アクバル」と言い、（最初のタクビールと同様に）手を上に揚げ、それから下におろします。ここで少し止まります。

２回目のタクビール：「アッラーフ・アクバル」と唱え、２回手を揚げ、それからまた下におろします。ここでも少し止まります。

３回目のタクビール：それからまた「アッラーフ・アクバル」と唱え、手を揚げ、下に下ろさずに手を組みます。

4）この後イマームは声を出さずに「アウーズ・ビッラーヒ」、声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。人びとは何も唱えず、イマームの言葉を聞いています。

5）ルクウとサジュダを行い、立ち上がります。２番目のラカートに移ります。手を組みます。

２番目のラカート

6）イマームは声を出さずに「バスマラ」、声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。それが終わるとイマームは声に出して、礼拝に参加している人びとは声を出さずに、１番目のラカートのときと同様に３回のタクビールを行います。３回目のタクビールで手を組まず、４回目のタクビールでルクウを行います。それからサジュダをして座ります。

7）座った状態で、イマームと後ろの人びとは順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。まず右に、それから左にサラームを行い、礼拝を終えます。礼拝の後でフトバが行われます。

イード・アル＝アドハー（犠牲祭）の礼拝

１）「アッラーのご満悦のためにイード・アル＝アドハーの礼拝を行うことをニーヤしました。イマームに従います」と言い、ニーヤを行います。

２）イマームが「アッラーフ・アクバル」と唱え、手を掲げたら、人びともイマームに続いて「アッラーフ・アクバル」と唱え、手を掲げ、それから臍の下あたりで手を組みます。

ニーヤの後は、イード・アル＝フィトル（断食明けの祭）の礼拝と同じように行います。礼拝の後でフトバが読まれます。

タシュリークのタクビール

犠牲祭の１日前である「アラファ」の日のファジュルの礼拝から、イードの４日目のアスルの礼拝まで、２３回のファルドの礼拝の後、サラームを行ってから、

「**アッラーフ・アクバル　アッラーフ・アクバル、ラー・イラーハ・イッラッラーフ　ワッラーフ・アクバル　アッラーフ・アクバル・ワ・リッラーヒルハムド**」という形でタクビールを行うことはワージブです。これをタシュリークのタクビールと呼びます。

このタクビールは、集団で礼拝を行う人にも、個人で行う人にも、旅行者にも、旅行者ではない人にも、男性にも女性にも、ワージブです。

タシュリークの日々（ズルヒッジャ月の１１、１２、１３日）には、カダーとなっていた礼拝を行います。タシュリークの日に行われたカダーの礼拝では、タシュリークのタクビールを行う必要があります。タシュリークの日以外では、カダーの礼拝でタシュリークのタクビールは必要ありません。

イードに行うべきこと

イードの朝は早起きをし、体を洗い、歯を磨き、一番良い服を着ること、良い香りをつけてモスクに行くこと、会った人びとに笑顔で振る舞うこと、貧しい人びとに援助を差し出すこと、イスラームの兄弟たちとイードを祝うこと、目上の人を訪問すること、亡くなった近親者のためにサダカを差し出すこと、墓地を訪ねてクルアーンを読むこと、ドゥアーをすること、わだかまりを捨て、仲たがいをしている人びとと仲なおりすること、子供たちに贈り物をして喜ばせることなどが、イードに行うべき主な努めです。

タラーウィーの礼拝

タラーウィーの礼拝は２０ラカートです。男性及び女性にとって、ムアッカダのスンナです。ラマダーン月の夜に行われます。病気や旅行のため断食できない人も、タラーウィーの礼拝を行うことはスンナです。タラーウィーの礼拝を、モスクで、集団で行うことはスンナで、大きな報償があります。家で一人で、もしくは集団で行うこともできます。ただ、モスクで行うほうがより徳のある行為となります。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。

「その徳を信じ、その報償を願いつつ、アッラーのご満悦のためにラマダーンの夜をイバーダをしつつ過ごす人（タラーウィーの礼拝を行う人）の過去の罪は許される」

タラーウィーの礼拝の行い方

タラーウィーの礼拝はイシャーの礼拝の後で行われます。イシャーの礼拝の前に行うことは適切ではありません。ウィトルの礼拝は、ラマダーン月ではタラーウィーの礼拝の後で行われます。タラーウィーの礼拝の前に行うこともできます。

２０ラカートのタラーウィーの礼拝は、２ラカートごとにサラームをして行うこともできますが、４ラカートごとにサラームをすることもできます。どちらのやり方にしても、そのまま礼拝をつづけ２０ラカートを終えます。

集団でのタラーウィーの礼拝の行い方（２ラカートごとにサラートをする場合）

イシャーの礼拝のファルドと終わりのスンナの後で、タラーウィーの礼拝を始めます。

礼拝を導くイマームは、「アッラーのご満悦のためにタラーウィーの礼拝を行うことをニーヤしました。私に従う人びとのイマームとなりました」とニーヤし、最初のタクビールを行い、手を組みます。

イマームの後ろで礼拝を行う人びとは、「アッラーのご満悦のためにタラーウィーの礼拝を行うことをニーヤしました。イマームに従います」とニーヤします。そしてイマームのタクビールの後で、「アッラーフ･アクバル」と言い、タクビールを行い、手を組みます。

その後イマームと後ろで集団礼拝を行う人びとは声を出さずに「スブハーナカ」を唱えます。スブハーナカが終わると、イマームは声を出さずに「アウーズ･ビッラーヒ」、声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。後ろの人びとと共にルクウとサジュダを行い、２番目のラカートに移ります。

ここでもイマームは声を出さずに「バスマラ」、声を出してファーティハ章ともう

一つの章を唱えます。後ろの人びとと共にルクウとサジュダを行い、座ります。座った状態で、イマームと後ろの人びとは順に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ･サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。まず右に、それから左にサラームを行います。これで２ラカートの礼拝を行ったことになります。

再び立ち上がり、このように２ラカートずつ礼拝をつづけます。１０回、この２ラカートごとに礼拝を行うと、２０ラカートのタラーウィーの礼拝を完了させたことになります。この後の３ラカートのウィトルも、集団で行います。

個別でのタラーウィーの礼拝の行い方（２ラカートごとにサラームする場合）

「アッラーのご満悦のためにタラーウィーの礼拝を行うことをニーヤしました」とニーヤします。そしてファジュルの礼拝の２ラカートのスンナと同じように礼拝を行います。

２０ラカートを完了させるまで、２ラカートごとに礼拝を行いつづけます。タラーウィーの礼拝を終えウィトルの礼拝を行います。

集団でのタラーウィーの礼拝の行い方（４ラカートごとにサラームする場合）

礼拝を導くイマームと後ろで集団礼拝を行う人びとは、前述のようにニーヤをし、最初のタクビールを行います。そして手を組みます。イマームと礼拝する人びとは声を出さずに「スブハーナカ」を唱えます。その後､イマームは声を出さずに「アウーズ・ビッラーヒ」､声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。ルクウとサジュダを行い、２番目のラカートに移ります。

ここでイマームは声を出さずに「バスマラ」､声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。ルクウとサジュダを行い、座ります。２番目のラカートのこの最初の座位でイマームと集団礼拝を行う人びとは順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。それから３番目のラカートに移ります。

３番目のラカートの最初に､イマームと礼拝する人びとは声を出さずに「スブハーナカ」を唱えます。その後、イマームは声を出さずに「アウーズ・ビッラーヒ」､声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。ルクウとサジュダを行い、４番目のラカートに移ります。

イマームは声を出さずに「バスマラ」､声を出してファーティハ章ともう一つの章を唱えます。ルクウとサジュダを行い、座ります。

ここでの座位でも、イマームと集団礼拝を行う人びとは順番に「アッタヒヤート」「アッラーフンマ・サッリ」「アッラーフンマ・バーリク」「ラッバナー・アーティナー」のドゥアーを唱えます。これで、タラーウィーの礼拝の最初の４ラカートを行ったことになります。

この後、再び立ち上がり、このような形で４ラカートごとに礼拝をつづけます。５回、この４ラカートごとの礼拝を行うと、２０ラカートのタラーウィーの礼拝を完了させたことになります。この後の３ラカートのウィトルも、集団で行います。

個別でのタラーウィーの礼拝の行い方（４ラカートごとにサラームする場合）

「アッラーのご満悦のためにタラーウィーの礼拝を行うことをニーヤしました」とニーヤします。そしてアスルの礼拝のスンナと同じように礼拝を行います。その相違点はニーヤのみです。こうして４回ずつ、２０ラカートの礼拝を終えます。その後にウィトルの礼拝も行います。

座って、あるいはイーマー（目や顔、頭の動き）で礼拝を行うこと

イスラームの教えに困難さはありません。イバーダは人の力、強さに応じて行われます。礼拝を立って行えない人は、座って行うことができます。

この場合、礼拝で立って行うべき事柄を、座った状態で実行します。それから体を傾けルクウをし、ルクウから体を起こしてからサジュダを行い、このように礼拝を完了させます。

もし、額を床につけてサジュダを行うのが困難であれば、頭をか傾けることで礼拝を行います。これを「イーマーによる礼拝」と呼びます。ルクウやサジュダで、しるしとして頭を傾けることを意味します。これを行う人は、ルクウでは軽く頭を傾け、サジュダではもう少し深く傾けます。もしサジュダとしてルクウよりもより深く頭を傾けなければ、礼拝は有効となりません。

病人が座ることができなければ、好きな形で横になり、頭をしるしとして動かすことで礼拝を行います。頭を動かして礼拝することができない場合は、礼拝を後で行います。

旅行者の礼拝

普通の速度で歩いて１８時間（約９０キロ）以上の場所へ行くため、自分の村や

町から出発した人は旅行者となります。
住んでいる村や町から出発した人は、目的地に着くまで客人という状態であり、また目的地についても１５日以上滞在しないことを決めているのであれば、そこでも客人となります。その地に１５日以上滞在するのであれば､客人ではなくなります。
イスラームの教えは、旅行者のためにいくつかの容易さを示しています。
旅行者は、４ラカートのファルドの礼拝を２ラカートに短縮して行うことができます。ファジュルの礼拝の２ラカートとマグリブの礼拝の３ラカート、ウィトルの礼拝は通常通り行います。旅行中、時間的に問題がなければ、スンナの礼拝は短縮せずに行います。
旅行者が、旅行者ではないイマームに従って礼拝する場合は、４ラカートとして行います。旅行者が、旅行者ではない人びとの礼拝をイマームとして導く場合は、旅行者のイマームは２ラカートでサラームをし、旅行者ではない人びとは残りの２ラカートを自分たちで継続して行います。
旅行中にできなかった礼拝がある場合、旅行の後に２ラカートとしてカダーします。また旅行者は、メストを三日三晩つづけて履くことができます。
旅行者はラマダーン月には希望により断食し、希望によっては断念をせず旅行から戻ってから断念することもできます。断食することで問題が生じないのであれば、断食することがより望ましいとされます。旅行者はジュムアやイードの礼拝も行わなくてもかまいません。しかし礼拝した場合、それは認められます。しなかった場合は､ズフルの礼拝を行います。これらが､旅行者の困難さを考慮に入れて､イスラームが示している容易さです。

礼拝のカダー

ある礼拝を、定められた時間内に行うことを「エダー｣、その時間が過ぎてしまってから行うことを「カダー」と言います。礼拝をわざと、正当な理由なく時間内に行わないことは大きな罪です。礼拝は、カダーが行われると、実行されたことになります。ただし、礼拝を時間後に行ったことによりアッラーに許しを請うことが必要です。
日に５回の礼拝のファルドとウィトルの礼拝は、カダーを行いますが、時間が過ぎたスンナの礼拝はカダーを行うことができません。ただ、ファジュルの礼拝を時間通りにできなかった人は、同日の南中の時刻までにファルドと共にスンナの礼拝もカダーすることができます。カダーの礼拝のために定められた時間はありません。日夜、いつでも行うことができます。ただ、マクルーフである三つの時刻、つまり日の出の時刻、南中の時刻、日没の時刻にはできません。

過去の礼拝のカダーを行う際には、いつの日の何時の礼拝かがわからない場合、次のようにニーヤを行います。「アッラーのご満悦のために、カダーに残された最初のズフルの礼拝のファルドを行うことをニーヤしました。」その他の礼拝についても同様に、最初のズフル、最初のアスル、最初のマグリブ、最初のイシャー、最初のウィトルとニーヤします。あるいは、カダーに残された最後のファジュル、最後のズフル、最後のアスル、最後のマグリブ、最後のイシャー、最後のウィトルとニーヤすることもできます。

ティラーワのサジュダ

ティラーワのサジュダは、アッラーへの敬意です。クルアーンでは、１４の章で「サジュダ」という語を含む節があります。これらのうちのどれかを読んだ人、もしくは聞いた人が、サジュダを行うことはワージブです。

これらの章が礼拝の際に読まれた場合にはティラーワのサジュダを礼拝中に行います。サジュダの語が出てくる章の後、クルアーンを唱えつづける場合には、その章を読んだときにすぐにサジュダを行い、それから立ち上がってクルアーンを唱えつづけます。

もしその章の後にクルアーンを唱えないのであれば、一つか二つ、最多で三つの節をさらに唱え、ルクウやサジュダを行います。別個にティラーワのサジュダを行う必要はありません。

礼拝中に読まれたサジュダの章を、礼拝をしていない人が聞いた場合、サジュダをする必要があります。礼拝中の人が、礼拝をしていない人の読んだサジュダの章を聞いた場合には、礼拝の後でティラーワのサジュダを行います。

礼拝中にサジュダの章を読んだ人は、礼拝中にそのサジュダを行います。礼拝後には行えません。イマームが礼拝中にサジュダの章を読めば、イマームも、後ろで集団礼拝を行う人びとも、サジュダを行います。ティラーワのサジュダは、礼拝をする責任を持つ人びとにとってワージブです。月経中もしくは産褥期の女性にはワージブではありません。

礼拝中以外でのティラーワのサジュダ

ウドゥーを行い、キブラの方角を向きます。ティラーワのサジュダのニーヤで、手を掲げずに「アッラーフ・アクバル」と唱え、サジュダを行います。サジュダでは３回「スブハーナ・ラッビヤルアアラー」と唱え、それから「アッラーフ・アクバル」と唱えながら立ち上がります。立ち上がる際には「グフラーナカ・ラッバナー・ワ・イライカル・マシール」と唱えることがムスタハブです。サジュダは１回行われ、

その後のサラームはありません。

クルアーンで、サジュダという語を含む節のある章は以下の通りです。

1）高壁章（206 節）
2）雷電章（15 節）
3）蜜蜂章（48 節）
4）夜の旅章（107 節）
5）マルヤム章（58 節）
6）ハッジ章（18 節）
7）識別章（60 節）
8）蟻章（25 節）
9）アッ＝サジダ章（15 節）
10）サード章（24 節）
11）フッスィラ章（37 節）
12）星章（62 節）
13）割れる章（15 節）
14）凝血章（19 節）

葬儀の礼拝

葬儀の礼拝は、キファーヤのファルドです。これは死者のためのドゥアーです。イスラームの兄弟の罪や過ちが許されるようアッラーに願い、死者に対する最後の務めを果たすのです。

葬儀の礼拝の条件

死者のために葬儀の礼拝を行うときには、以下の六つの条件が必要となります。

1）死者がムスリムであること
2）遺体を清潔にすること（洗ったのち布にくるんであること）
3）集団の前で行うこと
4）遺体の全体もしくは半分以上、もしくは頭部を含めて半分があること
5）葬儀の礼拝を導く人は、立って礼拝を行うこと（障害などがない場合）
6）遺体は地面に置くこと、人の肩もしくは動物の上などには置かないこと

葬儀の礼拝はキファーヤのスンナであり、一部のムスリムがこの礼拝を行えば、他の人はこの礼拝を行わなくてもかまいません。葬儀の礼拝は集団で行うことは条件ではありません。一人の男性もしくは女性がそれを行えば、ファルドが実行されたことになります。他の礼拝を無効にするものは、葬儀の礼拝をも無効にします。礼拝を行うことがマクルーフである三つの時刻を除き、いつでも葬儀の礼拝は行うことができます。

葬儀の礼拝の本体は、４回のタクビールとクヤームです。サラームを行うことはワージブです。ルクウとサジュダはありません。

葬儀の礼拝のスンナ

１）礼拝を導くイマームが、死者の胸と同じ線上にいること
２）１回目のタクビールの後で「スブハーナッラー」ということ
３）２回目のタクビールの後で「アッラーフンマ・サッリ」と「アッラーフンマ・バーリク」を唱えること
４）３回目のタクビールの後でドゥアーを行うこと

葬儀の礼拝の行い方

遺体は洗浄され、カフンという白布で包まれ、棺に入れられ、礼拝の行われる場所まで運ばれます。遺体は人びとの集団の前に置かれます。礼拝を導くイマームは、死者の胸の位置と同じ線上に立ちます。礼拝に参加する人びとは、キブラの方角に向かって立ち、イマームの後ろに並びます。礼拝に参加する人びとが三列になることがムスタハブです。

ニーヤを行い、死者が男性か女性か、大人であるか子供であるかを明らかにします。

礼拝を導くイマームは、「アッラーのご満悦のために葬儀の礼拝を行い、（死者が男性であれば）この男性のためにドゥアーをすることをニーヤしました」と言い、ニーヤを行います。

死者が女性であれば「この女性のためにドゥアーを」、死者が男の子であれば「この男の子のためにドゥアーを」、死者が女の子であれば「この女の子のためにドゥアーを」と言います。

イマームの後ろにいる人びとは、「アッラーのご満悦のために葬儀の礼拝を行い、この男性のためにドゥアーをすることをニーヤしました。イマームに従います」とニーヤします。

死者が女性であれば「この女性のためにドゥアーを」、死者が男の子であれば「この男の子のためにドゥアーを」、死者が女の子であれば「この女の子のためにドゥアーを」と言います。

集団の誰かが死者の性別を知らなければ、「アッラーのご満悦のために、イマームが導くこの葬儀の礼拝を行い、死者のためにドゥアーをすることをニーヤしました。イマームに従います」とニーヤします。

ニーヤの後で、イマームは声に出して、人びとは声を出さずに「アッラーフ・アクバル」と唱え、最初のタクビールを行い、他の礼拝と同様に手を耳の部分まで上げます。そして臍の下のあたりで手を組みます。

イマームと人びとは声を出さずに「スブハーナカ」を唱えます。「スブハーナカ」では、他の礼拝では唱えない「ワ・ジャッラ・サナーウク」の文章をも唱えます。

スブハーナカの後、手を上げずに、イマームは声に出して、人びとは声を出さずに「アッラーフ・アクバル」と言い、２回目のタクビールを行います。イマームと集団は声を出さずに、「アッラーフンマ・サッリ」と「アッラーフンマ・バーリク」を唱えます。

それから、手を上げずに再び「アッラーフ・アクバル」と言い、３回目のタクビールを行い、葬儀のドゥアーを行います。葬儀のドゥアーを知らない人はその代わりとしてクヌートのドゥアーを唱えます。それも知らない人は「ラッバナー・アーティナー・フィッドゥンヤー・ハサナタン・ワ・フィル・アーヒラティ・ハサナタン・ワ・キナ・アザーブンナール」という章を唱えます。（「主よ、現世でわたしたちに幸いを賜い、また来世でも幸いを賜え。業火の懲罰から、わたしたちを守ってください」雌牛章 201 節）

その後、手を上げて再び「アッラーフ・アクバル」と言い、４回目のタクビールを行い、何も読まずにまず頭を右に向け「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。それから頭を左に向け「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。これで葬儀の礼拝は終わりです。

葬儀の礼拝の３回目のタクビールの後で唱えるドゥアー

死者のために次のドゥアーが行われます。

اللَّهُمَّ اغْفِرْ لِحَيِّنَا وَمَيِّتِنَا وَشَاهِدِنَا وَغَائِبِنَا وَذَكَرِنَا وَأُنْثَانَا وَصَغِيرِنَا وَكَبِيرِنَا

اللَّهُمَّ مَنْ أَحْيَيْتَهُ مِنَّا ، فَأَحْيِهِ عَلَى الإِسْلامِ ، وَمَنْ تَوَفَّيْتَهُ مِنَّا فَتَوَفَّهُ عَلَى الإِيمَانِ

「アッラーフンマ・イグフィル・リー・ハイイナー・ワマイイティナー・ワシャーヒディナー・ワガーイビナ・ワザカーリナ・ワカビーリナー・ワザカリナー・ワウンサーナ・ワサグィーリナ・ワカビーリナ・アッラーフンマ・マン・アフヤイタフ・ミンナー・ファアイワヒ・アラ＝ル＝イスラーム・ワマン・タワッファイタフ・ミンナー・ファタワッファナー・アラ＝ル＝イーマーン」

意味：「アッラーよ！私たちの生ける者、私たちの死を迎えた者、ここにいる者、またいない者、老いも若きも、女も男も、どうかお許しください。アッラーよ！あなたが生を授けられた者がイスラームにのっとって生き、あなたが死を与えられた者が信仰を抱いたまま死ぬようになさってください」

このドゥアーの後、死者に応じて、次のドゥアーのうちの一つが読まれます。

１）死者が男性の場合

وَخُصَّ هذا المَيِّتَ بِالرَّوْحِ وَالرَّاحَةِ وَالمَغْفِرَةِ وَالرِّضْوَانِ اَللهُمَّ اِنْ كَانَ مُحْسِنًا فَزِدْ فِي اِحْسَانِه

وَاِنْ كَانَ مُسِيئًا فَتَجَاوَزْ عَنْهُ وَلَقِّهِ الْاَمْنَ وَالْبُشْرى وَالْكَرَامَةَ وَالزُّلْفى بِرَحْمَتِكَ يا أَرْحَمَ الرَّاحِمِينَ

「ワ・フッサ・ハーザル・マイアタ・ビッラヴヒ・ワッラハーティ・ワル・ラフマティ・ワッリドゥワーン　アッラーフンマ・イン・カーナ・ムフシナン・ファズィド・フィー・イフサーニヒ・ワ・インカーナ・ムスィーアン・ファタジャーワズ・アンフ・ワ・ラックヒル・アムナ・ワルブシュラ・ワルカラーマタ・ワズ＝ズルファ・ビ・ラフマティカ・ヤー・アルハマルラーヒミーン」

意味：「アッラーよ！この死者に、清らかな空気の中、永遠の愉楽、無限の慈悲、罪への許し、天国での生をお与えください。アッラーよ！この死者が善行を積み重ねた人であれば、今彼にその報償を存分にお与えください。もし悪事を働いた人であれば、彼を罰さず、その罪をお許しください。このしもべが恐れたものからお守りください。あなたの恵みによって良い知らせをもたらしてください。彼を、来世での誉れと高い位階に至らせてください。最も慈悲深いお方、アッラーよ」

２）死者が女性の場合

وَخُصَّ هَذِهِ الْمَيِّتَةَ بِالَّرَوْحِ وَالرّاَحَةِ وَالْمَغْفِرَةِ وَالّرِضْوَانِ. اَللَّهُمَّ إِنْ كَانَتْ مُحْسِنَةً فَزِدْ فِي إِحْسَانَهاَ.

وَإِنْ كَانَتْ مُسِيئَةً فَتَجاَوَزْ عَنْهاَ وَلَقِّهاَ الْأَمْنَ وَالْبُشْرى وَالْكَرَامَةَ وَالزُّلْفى

بِرَحْمَتِكَ ياَ أَرْحَمَ الرّاَحِمِينَ

「ワ・フッサ・ハーズィヒル・マイタータ・ビッラヴヒ・ワッラーハティ・ワル・マグフィラティ・ワッリドゥワーン　アッラーフンマ・インカーナトゥ・ムフシナタン・ファズィド・フィー・イフサーニハ・ワ・インカーナトゥ・ムシーアタン・ファタジャーワズ・アンハ・ワ・ラックヒル・アムナ・ワルブシュラ・ワル・カラーマタ・ワ・ワズ＝ズルファ・ビ・ラフマティカ・ヤー・アルハマルラーヒミーン」

意味：「アッラーよ！この死者に、清らかな空気の中、永遠の愉楽さ、無限の慈悲、罪への許し、天国での生をお与えください。アッラーよ！この死者が善行を積み重ねた人であれば、今彼にその報償を存分にお与えください。もし悪事を働いた人であれば、彼女を罰さず、その罪をお許しください。このしもべが恐れたものからお守りください。あなたの恵みによって良い知らせをもたらしてください。彼を、来世での誉れと高い位階に至らせてください。最も慈悲深いお方、アッラーよ」

３）死者が男の子の場合

اللَّهُمَّ اجْعَلْهُ لَنَا فَرَطًا وَ اجْعَلْهُ لَنَا أَجْرًا وَ ذُخْرًا، اللَّهُمَّ اجْعَلْهُ لَنَا شَافِعًا مُشَفَّعًا

「アッラーフンマジャルフ・ラナー・ファラタン・ワジャルフ・ラナー・アジュラン・ワ・ズルフラン・ワジャルフ・ラナー・シャーフィアン・ワ・ムシャッファアー」

意味：「アッラーよ、この子供を、天国で私たちを迎える者、来世での贈り物としてください。アッラーよ！この子供を私たちのための仲裁者としてください。彼の取り成しをお認めください」

４）死者が女の子の場合

اَللَّهُمَّ اجْعَلْهَا لَنَا فَرَطًا وَ اجْعَلْهَا لَنَا اَجْرًا وَ ذُخْرًا اَللَّهُمَّ اجْعَلْهَا لَنَا شَافِعَةً وَمُشَفَّعَةً

「アッラーフンマジャルハー・ラナー・ファラタン・ワジャルハー・ラナー・アジュラン・ワ・ズルフラン・ワジャルハー・ラナー・シャーフィアタン・ワ・ムシャッファアー」

意味：「アッラーよ、この子供を、天国で私たちを迎えれる者、来世での贈り物としてください。アッラーよ！この子供を私たちのための仲裁者としてください。彼の取り成しをお認めください」

葬儀のドゥアーを知らない人は、雌牛章２０１節をドゥアーとして唱えます。

رَبَّنَا آتِنَا فِي الدُّنْيَا حَسَنَةً وَفِي الآخِرَةِ حَسَنَةً وَقِنَا عَذَابَ النَّارِ

「ラッバナー・アーティナー・フィッドゥニヤー・ハナサタン・ワ・フィル・アーヒラティ・ハサナタン・ワ・キナー—・アザーバンナール」

意味：「主よ、現世で私たちに幸いを賜い、また来世でも幸いを賜え。業火の懲罰から、わたしたちを守ってください」

質問

１　「過失のサジュダ」とは何ですか。どのような場合に行われますか。
２　集団礼拝の徳について説明してください。
３　モスクでは何に注意すべきですか。
４　モスクの各部分について説明してください。
５　イマームに従う人は、集団礼拝をどのように行いますか。
６　ジュムアの礼拝は誰にとってファルドですか。
７　ジュムアの礼拝は何ラカートですか。
８　イードの礼拝は誰にとってワージブですか。

9　イードの礼拝の、他の礼拝との違いは何ですか。
10　タシュリークのタクビールについて説明してください。
11　イードでの務めとは何ですか、説明してください。
12　タラーウィーの礼拝の徳を説明してください。
13　タラーウィーの礼拝はどのように行われますか。
14　座って、あるいは目と顔、頭の動きで礼拝を行う方法について説明してください。
15　旅行者とは誰のことを指しますか、彼らはどのように礼拝を行いますか。
16　「エダー」と「カダー」とは何ですか。できなかった礼拝のカダーはどのように行いますか。
17　ティラーワのサジュダとは何ですか。どのように行いますか。
18　どのような人であれば葬儀の礼拝が行えますか。
19　葬儀の礼拝のニーヤはどのように行いますか。葬儀の礼拝はどのようにして行いますか。

第６章 断食

●テーマ

- **断食の重要性**
- **断食の効用**
- **ラマダーンの断食は誰にとってのファルド**
- **サフルとイフタールの徳**
- **断食のニーヤはいつどのように行われるか**
- **断食の種類**
- **ラマダーン月の断食を別のときに行うことをムバフとする状況**
- **フィディヤ**
- **正当な理由なく断食を行わなかった場合**
- **断食を無効にしカダーと償いを必要とするもの**
- **断食を無効にするがカダーのみを必要とするもの**
- **断食を無効にしないもの**
- **断食している人にとってマクルーフである事柄**
- **断食している人にとってマクルーフではない事柄**

断食の重要性

イスラームの五つの条件の一つは、ラマダーン月に断食を行うことです。ラマダーン月の断食は、ヒジュラ歴２年にファルドとされました。

断食は、ニーヤを行い、空が白み始めたときから、夜、日が沈むまで、食べること、飲むこと、性交渉などを断つことです。

ラマダーン月は年によって２９日か３０日となります。ラマダーン月が２９日であった場合、断食は完全に行われたことになります。なぜならファルドであるのは、ラマダーン月の全ての日に断食を行うことだからです。事実預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は９回のラマダーン月で断食をされ、そのうちの４回は２９日、５回が３０日でした。

ラマダーン月は、ムスリムにとってたいへん神聖な祝福された月です。イスラームの太陽はこの月に昇りました。世界を照らす崇高な書であるクルアーンは、この月に啓示が始まりました。千の月よりもより尊いカディルの夜は、この月に含まれ

ます。私たちの内面を悪い考えから清め、外面を醜い行いから清める断食は、この月に行われるのです。

崇高なるアッラーは次のように仰せられました。

「信仰する者よ、あなたがた以前の者に定められたように、あなたがたに斎戒が定められた。恐らくあなたがたは主を畏れるであろう」（牝牛章第１８３節）

断食の効用

a）断食は私たちの徳を高める

断食は私たちに、いつでもアッラーを思い起こさせ、責任意識を育みます。心を悪い感情や考えから清め、他者の悪いことから守ります。断食は私たちに、最良の道徳的な振る舞いを獲得させ、あたかも天使のようにさせます。断食は、目をハラームのことを見ることから、舌を嘘や醜い言葉を語ることから、耳をハラームであることを聞くことから、胃をハラームの食べ物から、手を悪事を行うことから、足を悪い場所へ赴くことから守ります。

断食がファルドであることの英知は、アッラーへのしもべとしての務めを果たすこと、そして悪事から遠ざかることにあります。

b）断食は人びとのなかに慈悲の心や助け合いの精神を育む

人生において空腹のつらさを知らない豊かな人びとは、貧しい人びとの味わう空腹のつらさを正しく理解することはできません。しかしその人が断食をすれば、空腹であることがどれほどつらいかをよく理解します。そして貧しい人びとのつらさをその心でよく理解するようになります。そして彼らに対し慈しみやいたわりの感情を抱きます。その結果として、貧しい人びとに救いの手を伸ばし、彼らの苦しみを取り除こうとするのです。

c）断食は人に恵みの価値を教える

人は、手にしている恵みの価値を、それらを失ってから初めて理解します。しかしそのときにはすでに手遅れであり、その理解は何の役にも立たないのです。断食をして、一定の時間その恵みから遠ざかると、そのありがたさがよくわかります。そのことは人に恵みを与えてくれたアッラーに対する感謝の心を育みます。

d）断食は人を健康にする

この点について預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。**「断食をしなさい、健康を見出しなさい」**

断食によって過ぎ去った１年間に疲弊した消化器官を休ませることができます。ラマダーン月の間、十分休ませると、消化器官はより強力にその役割を果たすようになります。専門家たちは、断食には健康の観点からも多くの効用があることを明

らかにしています。ノーベル医学賞を受賞したフランスの学者アレクス・カレル医師は断食の効用について次のように語っています。
「断食の際には、体に蓄積された栄養分が使われ、その代わりに新しいものが蓄積される。このように断食によって体には新陳代謝が起きている。断食は健康の観点からも非常に有益である」

e）断食は人に忍耐を教える

断食を行うことで、一定の間、食べない、飲まないという習慣を身につける人は、人生において直面する困難、すなわちつらいことや苦しいことに耐える力を身につけることができます。

ラマダーン月の断食は誰にとってのファルドか

断食がファルドとなるための条件は以下の通りです。
1）ムスリムであること
2）知性を備えていること
3）思春期に達していること

思春期に到達し、知性を備えているムスリムの男女がラマダーン月に断食を行うことはファルドです。アッラーの絶対的な命令です。思春期に達していない子供たちの断食はファルドではありません。ただし、体に害を及ぼさない程度に、子供たちに少しずつ断食に慣れさせることは適切なことです。

女性は、産褥期もしくは月経の期間中に断食はできません。礼拝も行えません。この状態が終了してから、行えなかった断食のカダーをします。つまり１日に対し１日、カダーの断食をします。しかしできなかった礼拝のカダーはしません。

サフルとイフタールの徳

サフルに起きて食事をとることはムスタハブです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「サフルで食事をしなさい､なぜならサフルには恵みがある」と仰せられています。サフルの食事は、断食に耐える力を与えます。ドゥアーが受け入れられる時間の一つでもあります。サフルに起きた人は、その願いのためにドゥアーをし、アッラーに許しを求めるべきです。

１日の断食を終え、イフタールの時間を迎えた人は、大きな幸福感と喜びを感じます。断食の報酬を受けるために審判の日にアッラーの御前に立ったとき、大きなの喜びを味わうでしょう。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。「断食をする者には２度の喜びのときがある。一つはイフタールを迎えるとき、もう一つはアッラーにまみえるときである」

イフタールの時間に行われるドゥアーは、アッラーに受け入れられると預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は伝えておられます。

イフタールのドゥアー

「アッラーフンマ・ラカ・スムトゥ・ワ・ビカ・アーマントゥ・ワ・アライカ・タヴァッカルトゥ・ワ・アラー・ルズクカ・アフタルトゥ・ワ・サウマル・ガディ・ミン・シャフッリ・ラマザーナ・ナヴァイトゥ・ファグフィルリ・マー・カッダムトゥ・ワマー・アッハルトゥ」

意味：「アッラーよ、あなたのご満悦のために断食をしました。あなたを信じました。あなたを信頼しました。あなたの糧によって断食を終えました。ラマダーン月の、明日の断食もニーヤしました。私の過去と未来の罪をお許しください」

断食のニーヤはいつどのように行われるか

断食が有効なものとなるためには、ニーヤが必要です。ニーヤのない断食は有効ではありません。

ラマダーン月の断食には、前日の夜から当日の午前中まで、ニーヤを行うことができます。

通常、断食については、サフルの食事をした後でニーヤを行います。ただ、サフルに起きられなかった人、飲食のできない時間になってから起きた人は、太陽が昇っていたとしても、その日の断食のニーヤを行うことができます。日の出の時間以降、断食が無効になることをしていないことが条件となります。

サフルに起きることを望まない人は、夜のうちから翌日の断食のニーヤを行うことができます。夜に起きて、再びニーヤを行う必要はありません。サフルに起きたのに、ニーヤを行うことを忘れた人も、南中の時刻の前まではニーヤを行うことができます。ニーヤを遅く行った場合でも、断食に問題はありません。南中の時刻を過ぎてからはニーヤを行うことはできません。断食中にできなかった断食を後にカダーする場合には、夜のうちにニーヤを行わなければいけません。償いの断食もそのようになります。これらの断食は、日の出の時刻以降にはニーヤできません。

ニーヤは心で行われます。つまり、夜「明日断食しよう」と心で思った人は、ニーヤをしたことになります。断食をするつもりでサフルに起きた人の、その意志もニーヤです。断食には、心でニーヤを行うことで十分です。ただし、心で行ったニーヤを、

口に出すことはより良いこととされます。だから、断食をする人は、心の中でニーヤすると同時に、口に出して「ラマダーン月の明日の断食をニーヤしました」と言うべきなのです。

断食の種類

六つの種類があります。

1）ファルドである断食：ラマダーン月に断食を行うこと、ラマダーン月に行えなかった断食を他の日にカダーすること、償いの断食はファルドです。

2）ワージブである断食：願いをかけた断食、無効となったナフルの断食のカダーはワージブです。

3）スンナである断食：ムハッラム月の９日目、１０日目、あるいは１０日目と１１日目に断食を行うことはスンナです。

4）ムスタハブである断食：ヒジュラ歴の１３、１４、１５日、及び月曜日、木曜日、そしてラマダーン月に続くシャッワール月に６日間断食を行うことはムスタハブです。

5）マクルーフである断食：ムハッラム月の１０日のみに、もしくは金曜日のみ、土曜日のみに断食を行うことはマクルーフです。

6）ハラームである断食：断食明けのイードの１日目、犠牲祭の４日間に断食を行うことはハラームです。なぜならイードの日は、アッラーによるしもべたちへの宴の日であるからです。アッラーの宴から遠ざかることは適切ではありません。

ラマダーン月の断食を別のときに行うことをムバフとする状況

特別な事情なくラマダーン月に断食をしないことは罪であり、罰を受けることになります。ただし、以下のような状況にある人は、ラマダーンの断食を行わなくてもかまいません。あるいは、始めた断食を途中でやめることができます。

1）病気：病人が、断食をすることで病気が悪化する、もしくは病気が長引く恐れがあれば、断食を行わなくてもかまいません。病気が治れば、できなかった断食のカダーを行います。

2）旅行：ラマダーン月に、少なくとも 90 キロ以上の距離を旅する人は、断食を行わなくてもかまいません。旅行が終われば、できなかった断食のカダーを行います。断食をすることが困難でなければ、断食することはより良いこととなります。

3）脅迫を受ける：断食をやめるよう、死もしくは体に危害を加えることを脅迫さ

れた人は、断食を行わなくてもかまいません。この断食は後で行います。
４）妊娠中もしくは授乳中である：妊娠中もしくは授乳中である女性は、断食を行うことで自分や子供の健康を損なう恐れがあれば、断食をしなくてもかまいません。妊娠もしくは授乳期間が終われば、できなかった断食のカダーを行います。
５）激しい空腹や渇き：断食中、空腹や渇きによって精神的に変調をきたしたり、体に深刻な影響が及ぶ恐れがあれば、断食を中断することができます。その後、適切な時期にできなかった断食のカダーを行います。
６）高齢で体が弱っていること：体が日々弱り、断食に耐えられない高齢者は、断食を行わなくてもかまいません。その場合、断食のカダーを行うことができないため、毎日の断食の代わりにフィディヤを支払います。

フィディヤ

断食するだけの体力がない高齢者や、回復する見込みのない病人は、ラマダーン月の日々のフィディヤを支払います。フィディヤの額はフィトラと同じです。このフィディヤはラマダーン月の初めでも、最中でも、終わりでも支払うことができます。
希望があればフィディヤの全てを一人の貧しい人にまとめて渡すこともできるし、複数の貧しい人びとに少しずつ渡すこともできます。この状況にある人が、経済的に余裕がなくフィディヤが支払えない場合は、アッラーに許しを求めます。断食するだけの体力のない老人、もしくは治る見込みのない病人は、もしその後回復し断食ができるような状態になれば、できなかった断食のカダーを行います。支払ったフィディヤは無効となり、これらはナフルの寄付とされます。

正当な理由なく断食を行わなかった場合

ラマダーン月に断食することは、アッラーの明白なご命令です。ムスリムはこの命令に従うべきなのです。ムスリムが、正当な理由なくラマダーン月に断食をしなかった場合、１日毎にカダーを行う必要があります。償いの断食は必要ありません。なぜならこの償いは、断食をしないことではなく、断食を途中で放棄したことに対する罰だからです。
ラマダーン月に正当な理由なく断食をしなかった人は、罪を犯したことになり、アッラーに対し債務を負ったことになります。そのときはできるだけ早く悔悟し、アッラーに許しを求め、手遅れにならないようカダーの断食をしなければなりません。

断食を無効にしカダーと償いを必要とするもの

断食をしていることを認識しつつ、
1）食べること、飲むこと
2）性的交渉を持つこと
3）たばこを吸うこと

カダー：無効となった断食1日に対し、1日断食を行うこと
償い：無効となった断食1日分に対して2か月もしくは60日、連続して断食を行うこと

ラマダーン月に、ニーヤを行い断食を始めたのに、正当な理由なく故意に飲んだり食べたり、あるいは性的交渉を持てば、断食が無効となります。この断食について1日当たり1日のカダーの断食を行うこと、加えて故意に断食を中断したことに対する償いの断食を行うことが必要となります。

断食を途中で故意に中断することの、現世における罰は、この償いです。つまり、60日間つづけて断食を行うことです。何らかの理由で中断し、あるいは不足があった場合には、また初めから断食をつづける必要があります。女性は償いの断食をする際、月経になっている間は断食せず、それが終わったら断食を再開し、中断することなくつづけ完了させます。

断食を無効にするがカダーのみを必要とするもの

1）通常は口にしない、薬として使用されることもないものを飲み込むこと（土、紙、綿など）
2）鼻に薬を入れること
3）耳の中に油が入ること
4）ウドゥーの際に口や鼻を洗うとき、わざとではなく、水がのどに入ってしまうこと
5）口に入れた色つきのぬい針の色が唾液につき、この唾液を飲み込むこと
6）無理やり断食を中断させられること
7）寝ている間に、他人に水を喉に入れられること
8）口いっぱいの分量のものを吐くこと
9）マグリブの時間になっていないのに、時間になったと思い込みイフタールを行うこと
10）イムサークの時間になっているのに、まだ時間があると思ってものを食べること

断食を無効にしないもの

1）断食をしていることを忘れて食べること、飲むこと。（忘れて飲み食いしている際に、断食をしていることを思い出したら、すぐに口を洗って断食をつづけること。思い出した後で喉からものが入れば断食は無効となる）
2）耳に水が入ること
3）目薬をさすこと
4）夜、ウドゥーをするべきなのに朝行うこと
5）故意ではなく吐くこと
6）夢精をすること
7）採血すること
8）望んでいないのに、喉に埃や煙が入ること
9）口の中の唾液を飲み込むこと

断食をしている人にとってマクルーフである事柄

1）飲み込まずに何かの味を見ること（もし、女性の夫が料理の塩加減について女性に理解を示さない人であり、女性に苦痛を与えるようであれば、女性は飲み込むことはせずに、料理の味見をすることができる）
2）唾液を口にためてから飲み込むこと（もし口にためた唾液を、一度口から出してから飲み込めば、断食は無効となる）
3）体調を崩すほどに血を採らせること、重労働を行うこと

断食をしている人にとってマクルーフではない事柄

1）バラやじゃ香などの香りをかぐこと
2）歯を磨くこと
3）口に水を入れてすすぐこと
4）鼻に水を入れること
5）入浴すること

質問

1　断食とは何ですか。
2　断食の効用を説明してください。
3　断食は誰にとってファルドですか。

4　イフタールのドゥアーを暗唱してください。
5　断食のニーヤはいつどのように行いますか。
6　断食には何種類ありますか。
7　ラマダーン月の断食を他のときに行うことをムバフとする状況とはどのようなものですか。
8　フィディヤとは何ですか。誰がフィディヤを支払いますか。
9　カダーと償いとは何を意味しますか。
10　断食を無効にし、カダーと償いを必要とするものは何ですか。
11　断食を無効にするが、カダーのみを必要とするものは何ですか。
12　断食を無効にしないものは何ですか。
13　断食している人にとってマクルーフであるもの、マクルーフではないものには何がありますか。

第７章　ザカート

●テーマ

- **ザカートの重要性と効用**
- **ザカートは誰が支払うのか**
- **ニサーブ**
- **ザカートは誰に支払われるのか**
- **ザカートが支払われない相手**
- **ザカートの支払いが必要ではない財産**
- **ザカートの支払いが必要である財産とその量**
- **サダカのフィトル（フィトラ）**

ザカートの重要性と効用

イスラームの五つの条件のうちの４番目がザカートを支払うことです。ヒジュラ歴２年に、断食よりも先にファルドとされました。財産によって行われるイバーダです。

ザカートは、宗教上の規定に即して豊かであるとされるムスリムが、毎年財産やお金の４０分の１をムスリムの貧しい人びとに差し出すことです。ザカートについてはクルアーンの３７か所でふれられています。ザカートにこれほど多く言及されていることは、それがイスラームにおいて大きな意味を持っているからです。

ザカートは人の心を、物惜しみするという病から清め、財産から貧しい人びとの取り分を支払うことで財産を清め、豊かな人びとに思いやりの気持ちを備えさせるイバーダです。ザカートによって貧しい人びとの心にある妬みや嫉妬が消えます。彼らは援助の手を差し伸べる豊かな人びとに愛情や敬意を抱くようになり、社会の一体感や友情が培われます。

イスラームの教えは、社会の苦しみを癒し、人びとの求めに応じる様々な規定を設けています。アッラーのご命令であるザカートは、一つの社会的な相互援助制度です。ザカートは財産がより増え、豊かなものとなることを助けます。ザカートが支払われた財産は、無になることから、そして悪い人びとに利用されることから、アッラーによって守られます。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。「あなた方の財産を、ザカートを支払うことによって守りなさい」

ザカートは、イスラームに対して誠実であるか否かの基準の一つです。ザカート

を支払う人は、アッラーのしもべとしてのあり方において誠実であることを示します。豊かな恵みを与えてくれたアッラーに対し、感謝の気持ちを義務として果たしているのです。

ザカートを支払った豊かな人は貧しい人を笑顔にし愛されるべき有意義な人となります。

ザカートは誰が支払うのか

下記の条件を備えた人は、ザカートを支払う責任を負います。

1）ムスリムであること

2）知性を備えていること

3）思春期に達していること

4）自由であること

5）宗教上の規定に即して「豊か」であること。すなわち､必要経費や借金を引いて､「ニサーブ」の量だけの財産やお金が残っていること

6）ザカートを支払うべき財産もしくは現金

a　ニサーブの量（8.18g の金に相当する額）に達しているもの

b　持ち主によって太陰暦で１年の間所持されていたもの

c　事実上もしくは法的に増加するものである必要がある

ニサーブ

ニサーブとは、イスラームの規定による､「豊か」であることの基準です。借金や必要経費を除き、一定の量の財産もしくは現金を持っている人は、宗教上豊かであると見なされます。

フィトラを支払い、犠牲の動物を屠るためにも、最低でもニサーブの量の財産もしくは現金を持っていなければなりません。その財産を１年以上所有していること、増加していることは条件ではありません。

ザカートは誰に支払われるのか

ザカートが支払われるのは次のような人びとです。

1）貧困者：宗教上の規定によって豊かであると見なされない、ニサーブの量だけの財産を持たない人びと

2）困窮者：何も持っていない人びと

３）借金がある人：借金以上のニサーブの量だけの財産を持たない人びと
４）旅行者：祖国には財産があるものの、道中で資金が尽き、何も持っていない状態の人びと。（彼らには、祖国に戻れるだけのザカートが支払われます）
５）アッラーの道にある人びと：ジハードもしくはハッジのために旅に出て、資金が尽きた人びと。もしくは、仕事を辞め、自らをイスラーム世界の知的発展のために捧げた人びと。

ザカートが支払われる際には次の順序に注意が払われる

まず兄弟、兄弟の子供たち、伯父、叔母、叔父、叔母それからその他の親戚、隣人、それから同じ地区、同じ地域の貧困者。受け取ったザカートのお金を罪深い用途に費やしたり浪費するような人びとではなく、真に必要としている人びとに支払うことがより望ましいとされます。

ザカートが支払われない相手

以下の人びとにはザカートを支払うことはできません。
１）両親、祖父母
２）息子、息子の子供たち、娘、娘の子供たち、その子供たち
３）豊かな人びと
４）ムスリムではない人びと
５）夫、または妻

ザカートの支払いが必要ではない財産

本人と、扶養している人びとのために必要であるものに対してザカートを支払う必要はありません。これを「ハワーイジ　アスリーヤ」と言います。これは主に次のようなものが含まれます。

居住している家、家財、服、乗り物、商売のためのものではない書物、技術者が使う道具、食べ物、金や銀以外のもしくは売り物ではない真珠・ダイヤモンド・エメラルドのような装飾品。

ザカートの支払いが必要である財産とその量

ザカートの支払いが必要である財産のニサーブと、それらから支払われるべきザカートの量は次の通りです。

1）金：少なくとも８０．１８gもしくはそれ以上であれば、その４０分の１
2）銀：少なくとも５６１gもしくはそれ以上であれば、その４０分の１
3）現金：少なくともニサーブの量もしくはそれ以上の現金の４０分の１
（現金のニサーブ、すなわち現金からザカートを支払わなければいけない豊かさの基準は少なくとも８０．１８gの金に相当する現金を所有すること）
4）商業用の品物：少なくともニサーブの量の金額かそれ以上に相当するあらゆる商業用の品物の４０分の１
5）羊もしくはヤギ：４０頭の羊もしくはヤギ当たり、１頭の羊もしくはヤギ
6）牛もしくは水牛：３０頭の牛もしくは水牛当たり、１頭の牛もしくは水牛
7）ラクダ：５頭のラクダ当たり１頭

家畜の数が増えるごとに、ザカートの数も変化します。土地から得られる作物のザカートはまた異なります。

上記の財産のザカートは、そのもので支払うことも、その品物に相当する現金で支払うこともできます。

ザカートが有効となるための条件はニーヤです。豊かな人は、貧しい人にザカートを支払う際に、心の中でニーヤを行います。口に出す必要はありません。

サダカのフィトル（フィトラ）

借金や必要経費を除き、ニサーブの量の財産もしくはそれに相当する現金を持つムスリムは、サダカのフィトルを支払わなければなりません。これを短く「フィトラ」と呼びます。フィトラのサダカはワージブであり、ザカートのように財産を１年以上保有していることや増加していることは条件ではありません。

フィトラは、ラマザーン月に貧しい人たちに与えられるサダカです。イードの日を迎える前までに支払われることが良いとされます。イードの日もしくはそれ以降でも支払うことはできます。宗教上の規定により豊かである人が、自分自身と、まだ思春期に達していない子供たちの分のフィトラも支払うことはワージブです。

フィトラは次の四つの食べ物でも、次の量で支払うことができます。

種類	**量**
１―麦	１４６０g
２―大麦	２９２０g
３―干しブドウ	２９２０g
４―ナツメヤシ	２９２０g

これらの食糧はそれ自体をフィトラとすることも、それに相当する量を現金で支

払うこともできます。貧しい人の役に立つほうで支払うことがより適切です。このフィトラは一人の貧しい人に与えられます。複数の人に分割されることはありません。一人の貧しい人に、二つ以上のフィトラを与えることもできます。ただ、これがフィトラであることを貧しい人に伝える必要はありません。心の中でニーヤを行えばそれで十分です。

経済的に余裕のあるムスリムは、フィトラを支払うことで、貧しい人にもイードの喜びを味わってもらうことができます。こうして義務を果たし、サワーブを得ることになるのです。フィトラを払うことは、断食が認められ、死の恐ろしさと墓での罰から救われる要因となります。

質問

1　ザカートの効用を簡単に説明してください。
2　ザカートを支払うことは誰にとってファルドですか。
3　ザカートは誰に支払われますか。
4　ザカートが支払われない相手は誰ですか。
5　どのような財産のザカートは、支払う必要がありませんか。
6　ザカートはどのような財産から、どれだけ支払いますか。
7　ニサーブとは何ですか。
8　フィトラとは何ですか。

第8章　ハッジ（巡礼）

●テーマ

- **ハッジの重要性と効用**
- **ハッジは誰に、いつファルドか**
- **ハッジの種類**
- **ハッジの行い方**
- **ウムラ**

ハッジの重要性と効用

イスラームの条件の５番目はハッジです。ハッジは定められた時期に、定められた場所を、定められた形で訪問することです。

ハッジはヒジュラ暦９年目にファルドとされました。ハッジは資力と体力の双方を用いて行うイバーダです。アッラーのすべてのご命令がそうであるように、ハッジがファルドとされたことにも多くの英知と効用が含まれています。

世界のさまざまな国から神聖な土地を訪れた、言語や民族、皮膚の色が異なるムスリムたちが、ただ一つの目的のために集うこと、共にアッラーへと向かうことは、イスラームの兄弟愛を強めます。ムスリムが互いに知り合い、苦しみや悩みを共有し、その解決策を見出そうとする一助となります。

豊かな人、貧しい人、あらゆる階層のムスリムが、イフラーム状態に入り、同じ衣装を身にまとうことは、人びとはみな平等であるという意識を植えつけ、審判の日の集まりの場を思い起こさせます。ハッジの旅は人の見識や経験を高め、困難に耐えることを教えます。財産に固執することなく、貧しい人、困窮者に対する慈しみと援助の意識を高めます。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の生まれ育った、イスラームの教えが世界に広がる起点となった聖なる場所を見ることは、人びとの魂に精神的な喜びを与えます。宗教的な感情を強めます。神聖な場所で人は、アッラーにより近くあることを感じます。行うイバーダに何倍ものサワーブが与えられるようになります。アッラーのご満悦のためにハッジを行い、悪事を避ける人には、（他のしもべに対する権利の侵害を除き）多くの罪が許されます。このことについて預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。「誰であれアッラーのご満悦のためにハッジを行い、悪い言葉や振る舞いを避ければ罪から清められ、母親から生まれた日に立ち戻る」

ハッジは誰に、いつファルドか

下記の条件を備えた人に、ハッジがファルドとなります。

１）知性を備えていること
２）思春期に達していること
３）ムスリムであること
４）自由であること
５）ハッジがファルドであることを知っていること（この条件は、イスラーム国家ではない国で、ムスリムとして生きる人びとに適用されます。イスラーム国家で生きているムスリムには、ハッジがファルドであることを知らないことは正当な支障とはなりません）
６）必要な資金の他、ハッジに行って戻るまでの、自分と扶養している家族の生計を立てるための経済力があること
７）状況に応じた乗り物でハッジの旅を行うことができるよう、乗り物や旅費に充てるだけのお金を持っていること
８）ハッジの義務が行われるときまで生きていること

これらの条件の他、ハッジの義務を自ら行うために以下の条件も必要となります。これらはハッジの遂行の条件と呼ばれます。

ハッジの遂行の条件

１）体が健康であること（視覚障害、肢体不自由、その他ハッジの旅ができないほどの重い病気や高齢ではないこと）
２）ハッジを行うための障害がないこと（刑務所にいることなど）
３）道中の安全が確保されていること
４）女性と同行する夫もしくは結婚の対象とならない男性がいること）
５）夫が死亡、もしくは夫と離婚した女性の場合、再婚までの禁止期間が過ぎていること

これらの条件を備えている人は、巡礼に行くことがファルドとなります。

ハッジのファルド

ハッジのファルドは、一つが条件、二つが原則（ルクン）の計三つです。

１）イフラームの状態に入ること（条件）
２）アラファトでの滞在（ワクファ）
３）訪問のタワーフ（回巡）

ハッジの種類

1）イフラードのハッジ：ウムラを伴わないハッジを意味します。ハッジを行う人はイフラームの状態に入る際にハッジについてのみニーヤを行います。そしてハッジの義務を遂行します。イフラードのハッジを行った人が犠牲の動物を屠ることはワージブではありません。
2）タマットゥのハッジ：ウムラとハッジを、別々のイフラームの状態に入って、行うことです。ハッジを行う人はまずウムラのためにイフラームの状態に入り、その義務を果たします。それから一度イフラームの状態を解きます。そして再びイフラームの状態に入り、ハッジの義務を果たします。タマットゥのハッジでは、犠牲の動物を屠ることはワージブです。
3）キラーンのハッジ：ウムラとハッジを同じイフラームで行うことです。ハッジを行う人は、イフラームの状態に入る際にウムラとハッジ両方のニーヤを行います。まずウムラを行いますが、イフラームの解除は行いません。それからハッジを行います。キラーンのハッジでも犠牲の動物を屠ることはワージブです。
　ハッジを行いたい人は、この三種類のうち希望のものを行うことができます。形式に従ってどれかを行えば、ハッジの義務を果たしたことになります。

イフラーム、タルビーヤ、タワーフ、サーイ、ワクファ

　イフラーム：ハッジもしくはウムラを行う人が、他のときではハラールであるいくつかの行動や振る舞いを一定の期間ハラームとすることです。ハッジやウムラをニーヤし、タルビーヤを行うことでイフラームの状態に入ったことになります。
　タルビーヤ：イフラームの状態で、大きな声で「ラッバイカッラーフンマ・ラッバイカ・ラッバイカ・ラー・シャリーカラカ・ラッバイカ・インナルハムダ・ワンニイマタ・ラカ・ワルムルカ・ラー・シャリーカ・ラカ」と唱えることです。女性は小さな声でタルビーヤを行います。
　タワーフ：カーバの周辺を、形式に従って７回廻ることです。
　サーイ：カーバの近くにあるサファーとマルワの丘の間を行き来することです。この行き来は、サファーからマルワに４回、マルワからサファーに３回、計７回行われます。
　ワクファ：ハッジで、アラファトとムズダリファの地で、定められたときに一定の時間滞在することです。アラファトでのワクファはファルドであり、ムズダリファでのワクファはワージブです。

ハッジの行い方

ハッジを行うことを望む人は、この神聖な務めのために合法な手段で資金を調達します。出発する前に、もし借金があればそれを返済します。権利の取り分を持つ人と和解をします。罪が許されるよう悔悟を行い、アッラーに許しを請います。カダーとして残されているイバーダがあればそれらを行います。出発する際には、家で２ラカートの礼拝を行います。家族や近親者と別れの挨拶をし出発します。旅行中、そしてハッジの最中には、他人を傷つけるような悪い言葉や振る舞いを避けます。

イフラームに入るミーカートという境界にいたる前に爪を切り、体を清め、可能であればグスルを行います。可能でなければウドゥーを行います。男性は着ている服を全て脱ぎ、イザール（腰布）とリダー（上半身にかける布）と呼ばれる二枚の布で体を覆います。イフラームの状態のときには、頭と足は覆いません。女性はイフラーム状態に入るときに衣服は脱ぎません。

この後、ミーカートの境界でイフラームのスンナとしてニーヤをしつつ、２ラカートの礼拝を行います。そしてハッジをニーヤし、タルビーヤを唱えます。これによりイルハームの状態に入ったことになります。この状態の間は、イルハーム状態の際に禁じられている事柄を避けなければいけません。

マッカに到着すると、グスルを行うか、もしくはウドゥーを行います。それからマスジド・ハラームに入り、カーバの周辺でクドゥームのタワーフ（到着のタワーフ）を行います。それから２ラカートのタワーフの礼拝をします。それから形式に従って、サファーとマルワの間でサーイをします。ハッジを行う人は、この後イフラームの状態のままでマッカに滞在します。ここに滞在している間、可能であれば礼拝をマスジド・ハラームで行います。機会があれば、ナフルのタワーフを行うことにも大きなサワーブがあります。

タルウィヤの日、つまりアラファの日の１日前に、アラファ山に登ります。そして日没までアラファに滞在します。イバーダとドゥアーに時間を費やします。ここでは、ズフルとアスルの礼拝を、集団でズフルの時間帯に一緒に行います。これをジャムウ・タクディームと呼びます。ズフルの後は私たちクーファを行います。日が沈むと、マグリブの礼拝をする前に、ムズダリファに移ります。ムズダリファでは、マグリブとイシャーの礼拝を、集団でイシャーの時間帯に一緒に行います。これをジャムウ・タアーヒルと呼びます。夜、ムズダリファで過ごす巡礼者たちは、シャイターンへの投石に使う石をここで集めます。

イードの朝、ファジュルの礼拝を早い時間に行い、ムズダリファでのワクファを行います。空が明るくなるとミナーに移ります。

イードの日を迎えると、ミナーでは順番に下記のことを行います。

a）アカバのジャムラ（投石塔）で７個の石を投げます。
b）髪を切り、イフラームの状態を解きます。（イフラードのハッジを行う人には犠牲を屠ることはワージブではないため、その人たちはアカバで投石を行ってから、髪を切りイフラームの状態を解きます。タマットゥのハッジ及びキラーンのハッジを行う人は、アカバでの投石の後、犠牲を屠り、それからイフラームの状態を解きます）
c）時間と条件が許す人は、その日のうちにマッカに行き、ズィヤーラ（参詣）のタワーフを行います。

イードの２日目には順番に、小さなジャムラ、中くらいのジャムラ、そしてアカバのジャムラに７個ずつの石を投げます。イードの１日目にズィヤーラのタワーフができなかった人は、２日目に行います。

イードの３日目には、やはり、小さなジャムラ、中くらいのジャムラ、そしてアカバのジャムラに７個の石を投げます。同日中にミナーからマッカに戻り、別れのタワーフを行えば、ハッジの務めを完了したことになります。

ここで説明してきたのはイフラードのハッジです。タマットゥのハッジとキラーンのハッジの行い方には、いくつかの相違点があります。

タマットゥのハッジ：タマットゥのハッジを行う人は、ミーカートの境界でウムラのためにイフラームの状態に入ります。マッカに来て、形式に従ってウムラを行い、髪を切ってイフラームの状態を解きます。タルウィヤの日まで（つまりアラファの日の１日前まで）マッカでイフラームではない状態で待ちます。タルウィヤの日、マッカで再びイフラームの状態に入ります。そして先述のようにハッジを行います。

ただし、イフラードのハッジとの相違点として、
１）イードの１日目、アカバのジャムラに投石を行った後、犠牲を屠り、その後髪を切り、イフラームの状態を解きます。
２）ズィヤーラのタワーフの後でサーイを行います。

キラーンのハッジ：キラーンのハッジを行う人は、ミーカートの境界でハッジとウムラ双方についてまとめてニーヤを行い、双方のためにイフラームの状態に入ります。マッカに着くとまずウムラを行い、ウムラを終えてから、ハッジのクドゥームのタワーフとつづけてハッジのサーイを行います。ただしイフラーム状態を解かず、イフラームの状態のままで待ち、タルウィヤの日が来るとアラファに向かい、先述の通りハッジの務めを果たします。キラーンのハッジでも、イフラードのハッジとの違いとして、イードの１日目にアカバのジャムラに投石を行った後で犠牲の動物を屠り、それから髪を切ってイフラームの状態を解きます。

ウムラ

ウムラは、時期の制限は受けず、形式に従ってイフラームの状態に入り、タワーフとサーイを行い、髪を切ることで成り立ちます。ウムラはスンナです。ウムラのために定められた時間はありません。アラファの日とそれに続く犠牲祭の日を始めとする５日間を除き、いつでもウムラを行うことができます。

ウムラの行い方

ウムラを行うことを望む人は、ミーカートの境界の外で必要な清めを行った後、ウムラをニーヤし、タルビーヤを行い、イフラームの状態に入ります。マッカに着くと、形式に従ってカーバの周囲でウムラのタワーフを行います。タワーフが終わると２ラカートのタワーフの礼拝をします。その後サファーとマルワの間で、ウムラのサーイを行います。サーイが終わると、髪を切り、イフラームの状態を解きます。こうしてウムラを終了させます。

質問

1　ハッジとは何を意味しますか。
2　ハッジの効用を簡単に説明してください。
3　ハッジは誰にとってファルドですか。
4　ハッジには何種類ありますか。
5　犠牲を屠ることは、どの種類のハッジではワージブではありませんか。
6　イフラーム、タルビーヤ、サーイ、ワクファとは何ですか。
7　ウムラとは何ですか。

第９章　犠牲

●テーマ

- 犠牲の動物を屠ることの重要性
- 誰が犠牲の動物を屠るか
- 犠牲の動物は、いつ、どのように屠られるか
- 屠られた動物の肉と皮について
- 犠牲として屠られるのに適した動物、適さない動物
- 肉を食べることができる動物
- 肉を食べることができない動物
- 誓いの犠牲
- 誓いの種類と規定

犠牲の動物を屠ることの重要性

犠牲とは、イバーダのニーヤを持って一定の時期に動物を屠ることです。動物を屠ることは、財産によって行われるイバーダであり、ワージブです。ヒジュラ歴２年に命じられました。犠牲を屠ることは、アッラーの道において示される自己犠牲であり、アッラーの与えられた恵みへの感謝という責任を果たすことです。

豊かな人びとが屠った犠牲の肉は、貧しい人びとの役に立てられます。これはムスリムの間の愛情や兄弟としての思いを強めます。豊かな人びとも、貧しい人びとも喜びを分かち合います。犠牲祭と共に訪れるこの喜びは、社会に安定や幸福をもたらします。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「誰であれ、豊かな財産を持ちながら犠牲の動物を屠らないならば、私たちの礼拝所に近づかないように」と言われ、犠牲を屠ることがムスリムにとって重要な務めであることを明らかにされています。

誰が犠牲の動物を屠るか

下記の条件を満たす人は、犠牲の動物を屠ることがワージブとなります。

１）ムスリムであること

２）知性を備えていること

３）思春期に達していること

４）自由であること
５）その地に住んでいること（客人ではないこと）
６）ニサーブの量に達する財産もしくは現金を持っていること（犠牲の場合はその財産を、１年以上所有していることは条件ではありません）

犠牲の動物はいつ、どのように屠られるか

犠牲を屠るのは、犠牲祭の１日目、２日目、そして３日目です。３日目のマグリブ以降は屠ることはできません。屠るために連れてこられる動物は、丁重に扱わなければなりません。押したり突き飛ばしたりしながら連れてくるべきではありません。動物を苦しませないため、ナイフはよく研いでおくべきです。可能であれば動物の持ち主が屠ります。可能でなければ他の人にまかせることができます。

屠られる動物は、左側を下にして、キブラに向かって寝かされます。屠る人は、「ビスミッラーヒ・アッラーフ・アクバル」と唱えながら、動物の顎の下から食道、気管、頸動脈を切ります。動物が絶命する前に首を切り落とすこと、皮をはぎ始めることはマクルーフです。動物を屠る際に故意に「ビスミッラー」と唱えなかった場合は、その肉を食べることはできません。

屠られた動物の肉と皮について

動物を屠った人は、その肉を自分が食べると同時に他の人びとにも与えます。

肉を三つに分け、そのうちの一つを犠牲を屠ることのできない貧しい人に、もう一つは親戚や友人に贈ります。残りを自分や家族のものとします。動物の肉の全てを与えることもできます。犠牲として屠られた動物の肉や皮は売り物ではなく、肉屋に料金を支払うこともありません。動物の皮革は礼拝用の絨毯として用いることもできるし、貧しい人もしくは奉仕団体に寄付することもできます。

犠牲として屠られるのに適した動物、適さない動物

動物のうち、羊、ヤギ、牛、水牛及びラクダなどを犠牲として屠ることができます。羊とヤギは１歳以上、牛と水牛は２歳以上、ラクダは５歳以上になっていなければなりません。ただし、羊は６か月以上になっており、１歳程度に見えるのであれば、犠牲とすることができます。ヤギについてはこれは適用されません。１歳以上になっている必要があります。

羊やヤギは一頭が１人分として屠られます。牛、水牛、ラクダは１人から７人まで、

共同で屠ることができます。これらの動物に角がないこと、角が少し欠けていること、歯の一部がないこと、びっこを引いていることなどは犠牲として屠る際の支障とはなりません。

以下の状態の動物は犠牲として屠ることはできません。

1）片目もしくは両目が見えないこと
2）角の片方もしくは両方が根元から折れていること
3）耳もしくは尾が半分以上ちぎれていること
4）立ち上がれないほどにびっこをひいていること
5）生まれつき耳や尾がないこと
6）歯の多くが抜けており、食べ物を食べることができないこと
7）病気であること
8）骨の中に骨髄が残らないほどに痩せ細ったもの
9）乳頭がちぎれたもの
10）羊もしくはヤギの乳首のどちらか、牛の場合両方の乳首が干からびていること

さらに、めんどりやおんどり、肉食の他の野生の動物を犠牲として屠ることはできません。

肉を食べることができる動物

羊、山羊、牛、水牛、ラクダ、鶏、ガチョウ、アヒル、キリン、ダチョウ、雷鳥、鳩、ウズラ、孔雀、ツバメ、フクロウ、ウサギ、鶴、スズメ、そしてムクドリといった鳥は正しい形式で屠られるなら、その肉を食べることができます。さらに、水中に生きる全ての種類の魚も食べることができます。

肉を食べることができない動物

臼歯でつかみ、狩をし、ばらばらにし、そして自分を守る動物の肉は食べることはできません。狼、熊、ライオン、トラ、リス、テン、サル、ブタ、ハイエナ、猫、犬、ゾウ、カスザメ、キツネ、イタチなどです。

馬、ラバ、ロバの肉も食べられません。爪で狩をし、死肉や排泄物を食べる鳥の肉も食べられません。ワシ、トビ、ハゲワシ、コウノトリ、ワタリガラス、タカ、コウモリ、カラスなどです。

天性のあり方として外見がよくないもの、嫌がられるもの：ネズミ、サソリ、蛇、蛙、陸ガメ、海ガメ、モグラ、ハリネズミ、ナメクジ、ミミズ、ウジ、蚊、ハエ、昆虫類、蜂、蝶は食べられません。

魚の形状をしていない海の生物、カニ、イガイ、カキ、ロブスターも食べられません。

誓いの犠牲

誓いとは、誰かが、やらなければいけないわけではない何かを、自分自身にワージブとすることです。

誓いは二つに分けられます。

１）何かに結びつけられることなく行われる誓い

誰かが、「アッラーのご満悦のために犠牲を屠ります」と誓いを立てれば、犠牲を屠ることを自らにとってのワージブとしたことになります。そしてこの誓いをいつでも実行することができます。

２）何かが起こること、もしくは起こらないことに結びつけて行われる誓い

例えば、「病気が回復すれば、アッラーのご満悦のために犠牲を屠ります」と誓いを立てた人は、病気が快復した場合には、犠牲を屠ることがワージブとなります。願いがまだ実現していないときに屠ることは正しくありません。

誓いは、犠牲とされ得る動物からのみ選ぶことができます。めんどりやおんどりのような動物を誓いとすることはできません。

誓いの結果、屠られた動物の肉は、本人、配偶者、父、母、祖父、祖母、子供、孫は食べることができません。またニサーブの量に達する財産やお金があり、宗教上豊かであると見なされる人も食べられません。誓いのために屠られた動物の肉は、全てを貧しい人びとに分配しなければなりません。

死者のために犠牲の動物を屠ること

死者のために犠牲の動物を屠ることを望む人は、それを犠牲祭の日に行わなければいけません。このような動物の肉は、屠った本人も食べることができるし、他者に配ることもできます。

もし犠牲の動物を屠ることを死者が遺言として遺したのであれば、それを屠った人はその肉を食べることはできません。全てを貧しい人びとに分配しなければいけません。

誓いの種類と規定

ヤミンの誓いとは、言葉に力を加えるために、アッラーの名を唱えることです。

三つの種類があります。

１）勘違いをしての誓い：誤って事実ではないことに対しなされる誓いです。お金があるのに、ないと勘違いをして、「アッラーに誓って言うが、お金はない」という

ことなどです。このような誓いには、償いは必要ではありません。
2）故意による偽りの誓い：故意に、偽りのことに対し誓いを行うことです。見ていないもののことを、「アッラーに誓って言うが、私は見た」ということ、借金を返していないのに「アッラーに誓って言うが、私は返した」ということなど、自分でも認識していながら偽りの誓いを行うことです。このような偽りの誓いは大きな罪であり、許されるためには悔悟を行い、アッラーに許しを求めなければなりません。
　このような誓いによって他者の権利を侵害したのであれば、その権利を返し、許しを得るべきです。このような誓いには償いは必要ありません。なぜならこの罪から救われるためには、償いは十分ではないからです。
3）将来のことについての誓い：将来何かを行うこと、あるいは行わないことを誓うことです。「アッラーに誓って言うが、明日借金を返すよ」と言うことなどです。もし、誓いに適った形でそれを実行できれば、償いは必要はありません。もし、誓いを行いつつ言ったことを実行できなければ、誓いが破られたことになり、罰と償いが必要となります。

誓いの償い

　将来について何かを行うこと、あるいは行わないことを誓い、それを実行できなかった人は、償いとして１０人の貧しい人びとに衣服を与えるか、１０人の貧しい人びとに１人分ずつフィトラの額のお金を支払います。これを行う能力がない場合は、３日連続で償いの断食をします。

質問

1　犠牲の動物を屠ることは誰にワージブですか。
2　犠牲の動物はいつ屠られますか。
3　屠られた動物の肉や皮はどうするべきですか。
4　犠牲として屠られるのに適している、あるいは適していない動物とは何ですか。
5　誓いの犠牲とは何ですか。いつ屠られますか。その肉や皮はどうするべきですか。
6　肉が食べられる、もしくは食べられない動物とは何ですか。
7　誓いは何によって行われますか。何種類ありますか。
8　誓いの償いとは何ですか。

第10章　神聖な日、夜

●テーマ

- **金曜日**
- **イードの日**
- **マウリードの灯明祭**
- **ラガイブの夜**
- **ミアラージュの夜**
- **ベラートの夜**
- **みいつの夜**

金曜日

金曜日は、ムスリムにとって祝日です。金曜日の礼拝は集団で行われます。集まることによってムスリムたちは、互いによく知り合い、親しくなる機会となります。毎週、ムスリムがこうして集まることは、互いの絆を深め、一体感、連帯感を強めます。

金曜日は、歴史的に重要な出来事が起きた、とても尊く徳のある日です。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。「**最も尊い日は、金曜日である。預言者アーダムはその日に創造され、その日に天国に入られた。そしてその日に天国から出られました**」

「**金曜日には、ある一時間があり、その一時間にはどのムスリムであれアッラーに何かを望めば、アッラーもそれを受け入れられる**」

イードの日

イスラームの祝日は年に２回あります。

1　イード・アル＝フィトル（断食明けの祭り）
2　イード・アル＝アドハー（犠牲祭）

イードは喜びの日です。アッラーの命令に従いラマダーン月に断食し、犠牲祭にも犠牲の動物を屠り、アッラーの道における献身を示し、イードの礼拝を集団で行ったムスリムは、自分たちの役割を果たしたことの喜びと幸福を味わいます。

ラマダーン月にはフィトラで、犠牲祭には屠った動物の肉で、貧しい人びとに救いの手を差し伸べます。このようにして豊かな人びとと貧しい人びととの間に、真

の意味での愛情や敬意が育まれていくのです。

イードの日には両親や目上の人びとを訪問します。不和である人とは仲直りし、血縁者や親戚の人びととの間に交わす贈り物は親愛の情を強めます。社会で分かち合われるこの共通の喜びは、宗教的、民族的意識を高めます。イードのもたらす安らぎで、ムスリムの疲れや悲しみが癒されます。

イードの日には、ムスリムはお互いにお祝いをします。遠方に住む人びとに祝福を送り喜ばせます。墓参りをして死者のためにドゥアーします。クルアーンを読みサダカをし魂を清めます。

イードは、アッラーによる、信仰するしもべのための宴の日です。この日を、アッラーのご満悦に適した振る舞いで生かさなければならないのです。

マウリードの灯明祭

人類の救済のために遣わされた、最後にして最も偉大な預言者である預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、西暦 571 年の、太陰暦のラビーウ・アル＝アウワル月の、12 番目の夜に誕生されました。この神聖な夜をマウリードの夜と呼びます。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が生まれた時代、世界は無知や暴虐、そして道徳的退廃感に覆われていました。アッラーへの信仰は忘れ去られ、人びとは恐ろしく暗い状態に陥っていました。この世は生きるのも困難な状態でした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の誕生により世界は光を得ました。唯一の存在であるアッラーへの信仰で人びとの心は輝きはじめました。社会に平等、公正、友情がもたらされ、人びとは真の安らぎを得ました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の生まれた夜は、人類の救いのための尊く神聖な出発点となったのです。

この夜は、何世紀も前からムスリムによって、大きな喜びのうちに祝われてきました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が、深い敬意とともに思い起こされる夜でした。偉大なトルコの学者であるスレイマン・チェレビによって書かれた『ワシーラトゥン・ナジャート』というマウリードの書は、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の誕生、その崇高さ、そしてその奇蹟を最も素晴らしい形で表現した作品です。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の誕生日に詠まれるマウリードを、敬意を持って聴き、その神聖な魂に祝福祈願を唱えることは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への深い愛情と結びつきを示すものであることは疑う余地もないことでしょう。

同時に、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の素晴らしい徳に満ちた生涯を学ぶこと、その行いを自分たちの模範とすることもまた、私たちの大切な務めです。そのときに、そのお方の愛情とご満悦を得ることができるのです。

ラガイブの夜

三つの聖なる月として知られるラジャブ、シャーバーン、ラマダーン月は、精神的な観点から他の月よりも尊く恵みに満ちている月です。ラジャブ月が来ると預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のようにドゥアーされました。「アッラーよ、私たちのためにラジャブとシャーバーン月を祝福されたものとしてください、そして私たちをラマダーン月に至らせてください」

ラジャブ月の最初の金曜日がラガイブの夜です。この夜は、アッラーの慈悲と許しが下され、ドゥアーが受け入れられる神聖な夜です。預言者は次のように仰せられました。

「五つの夜があり、そこで行われたドゥアーは拒まれない。それらは、以下の通りである。
ラジャブ月の最初の金曜日
シャーバーン月の 15 番目の夜
金曜日の夜
断食明けのイードの夜
犠牲祭の夜」

ミアラージュの夜

アッラーのお招きを受け、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はある夜、マッカのハラーム･モスクから、エルサレムのアル･アクサモスクへ導かれ、そこから天使ジェブラーイールと共に天の位階を超え、「スィドゥラトゥル・ムンタハ」と呼ばれる位階に進まれました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、そこからさらに進まれ、何ものも媒介とすることなくアッラーと面会されたのでした。

この神聖な旅のうち、マッカからエルサレムまでの部分をイスラー（夜の旅）、エルサレムから先の部分をミアラージュ（昇天）と呼びます。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、５回の礼拝をウンマへのミアラージュの贈り物としてもたらされたのでした。

ミアラージュは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の最大の奇蹟のうちの一つです。ヒジュラの１年半前、ラジャブ月の 27 番目の夜に起きた奇蹟です。

ベラートの夜

シャーバーン月の 15 番目の夜が、ベラートの夜です。罪、罰から救われることを意味するベラートは、罪からの救いの夜なのです。

この夜は、崇高なるアッラーが、ご自身に向かい許しを請う信者を許される夜です。私たちがこの夜に、アッラーに願いを訴えることを求められた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、次のように仰せられました。

「シャーバーン月の 15 番目の夜になれば、その夜はイバーダをして過ごし、日中は断食を行いなさい。なぜならアッラーはその夜、日が昇るまでその慈悲と共に世界に顕れ、次のように仰せられる。

『許しを求める者はいないか、私が許そう。

糧を求める者はいないか、私が糧を与えよう。

苦しみや災いに見舞われた者はいないか、私が癒しを与えよう。

他に何かを求める者がいれば、それを与えよう』」

だから私たちはアッラーの吉報に耳を傾け、私たちに与えられたこの機会を活かすべきなのです。

みいつの夜

ラマダーン月の 27 番目の夜は、みいつの夜（ライラト・ル・カドル）です。人びとに現世と来世で幸福となる道を示す、イスラームの神聖なる書クルアーンは、ラマダーン月のみいつの夜に下り始めました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に、預言者としての役目はこの夜に与えられました。そしてイスラームの太陽がこの夜に昇ったのです。これらの重要な出来事は、みいつの夜に誉れを与え価値を獲得させたのです。

みいつの夜が千の月よりもなお尊いことは、クルアーンで明白に示されています。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの夜の徳について次のように仰せられました。

「誰であれ、その徳を信じ、報償をアッラーに求めつつ、みいつの夜をイバーダで過ごせば、過去の罪が許される」

みいつの夜は、私たち信者への、アッラーからの大きな恵みと無限の慈悲の賜物です。この夜は、アッラーの慈悲のために礼拝を行い、クルアーンを読みながら、最善の形で活かすべきなのです。

アーイシャさまはある日、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に、

「アッラーの使徒よ、みいつの夜を迎えれば、どのようにドゥアーすればいいでしょうか」と尋ねられました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように答えられました。

「言いなさい、『アッラーよ、あなたは大いに許されるお方、許すことを好まれるお方です。私をもお許しください』」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の教えられたこのドゥアーを、私たちもみいつの夜

に繰り返しましょう。

　これらの夜を、アッラーのご満悦のために礼拝をし、クルアーンを読み、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への祝福祈願を行い、罪が許されるようアッラーに許しを乞い、現世と来世での幸福のためにドゥアーし、そして貧しい人びとに援助の手を差し伸べ喜びを与えるために活かさなければなりません。

質問

1　金曜日の徳について説明してください。
2　年にいくつの宗教上の祝日がありますか。その重要性とは何ですか。
3　マウリードの夜について説明してください。
4　ラガイブの夜について説明してください。
5　ミアラージュの夜の重要性を説明してください。
6　ベラートの夜とはいつですか。その徳について説明してください。
7　みいつの夜の徳について説明してください。
8　神聖な夜には何をすべきですか。

第３部

アフラーク
（徳）

第１章　イスラームと徳

●テーマ

- **徳の定義**
- **イスラームにおける徳**
- **良き徳を身につけるための信仰とイバーダの役割**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は最善の徳の模範**
- **個人にとっての徳の重要性**
- **仕事における徳**
- **徳は変化するか**
- **イスラームが知性や知識に与える価値**

徳の定義

徳とは、人がその精神に備えさせる気質です。この気質は、考えなくても行為や態度に影響を及ぼします。

私たちの精神が身に備える気質は二種類あります。

１　良い気質

２　悪い気質

肉体の動きは、精神に結びついています。精神が良い気質を身につければ、人の行為や態度も良いものとなります。これらを「**良き徳**」と呼びます。精神に悪い気質が根付けば、振る舞いも悪いものとなります。これを「**悪しき徳**」と呼びます。私たちの振る舞いが良いものとなるためには、精神を悪い気質から清め、良い気質を身につけなければならないのです。

土にまいた種に応じて、収穫を得ることができます。麦の種からは麦が実り、大麦の種からは大麦が実ります。土に、何の種をまくのであれ、それに応じた植物が育ちます。このように、精神の深みに良い気質という種をまけば、これらの種は私たちの体に、良い徳として出てきます。もし私たちの精神に悪い気質という種をまけば、悪い徳として出現します。

イスラームにおける徳

イスラームでは、良い徳に大きな意義を置いています。イスラームの目的は、人

びとに良い徳を備えさせ、それを成熟させることです。イスラームとは良い徳を意味します。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。

「私は良い徳を完成するために遣わされた」ムスリムの価値は、その徳の良さによって計られるのです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、

「あなた方のうち私にとって最も愛らしい存在であり、審判の日に私に最も近いのは、徳が最も素晴らしい人である」と言われ、この事実を示されたのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に**「アッラーの位階において最も愛されるしもべは誰ですか。」**と尋ねられたとき、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、

「徳が最も美しい者である」と答えられました。イバーダがイスラームの命令であるように、良き徳を身に備えることも、イスラームの命ずるところです。イスラームにおけるイバーダの意図は、人を悪から遠ざけ、良い徳を身に着けさせることにあるのです。

良き徳を身につけるための信仰とイバーダの役割

真の信仰を持つ人は、全ての振る舞いがアッラーによって見守られていること、それらが天使によって記録されていることを信じています。この世で行った全ての振る舞いが、審判の日に問われることをよく知っています。善行を積めば報償を受け、悪事を重ねれば罰を受けることも知っています。

崇高なるアッラーはクルアーンで次のように仰せられました。

「一微塵の重さでも、善を行った者はそれを見る。一微塵の重さでも、悪を行った者はそれを見る」（地震章第７－８節）

この信条は、人を悪から遠ざけ、善行を積むことへと導きます。このような信条と責任感を心に抱いていない人からは、その人の利益がない限り善行は期待されず、またそういった人は機会を見つければ悪事に走ることでしょう。しかし、心にしっかりとした信仰を持つムスリムであれば、全ての行動に注意を払います。誰に対しても悪事を働かず、できる限り善行を積み重ねようとします。イバーダは信仰を強いものとし、同時に「良き徳」を身に備えさす一助となるのです。

１日に５回の礼拝は、私たちに常にアッラーを思い起こさせます。そしてあらゆる悪い行いから私たちを遠ざけるのです。断食は、慈悲といたわりの気持ちを高めます。手をハラームから、舌を嘘をつくことから遠ざけます。ザカートは、人を物惜しみすることから救い、他者に対して善を施し、援助をしようという気持ちを育み、社会に貢献するのです。

こうして、イバーダによって育まれた信仰は、私たちの肉体に「良き徳」という果物を実らせ、人としての真の価値を獲得させていくのです。「良き徳」を備えてい

ない人は、あたかも葉や花、果実をつけていない木のようなものです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は最善の徳の模範

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、アッラーの導きによって崇高な徳を身に着けられた預言者です。彼はその徳をクルアーンから得られ、全ての善をご自身に集められたお方でした。アーイシャさまは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の徳がどのようなものであったかと問われたときに、「あのお方の徳はクルアーンでした」と答えられています。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、道徳的な務めを教えられ、また自ら実践されていました。正しさや善行から決して離れられることはなく、良い徳と振る舞いで人びとの模範となられたのでした。崇高なるアッラーはクルアーンで、

「本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった」（部族連合章第 21 節）と言われ、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の生き方を模範とするように求められました。私たちがなすべきことは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の徳に満ちた生き方を存分に学び、その道徳的な振る舞いを模範として生きることです。

個人にとっての徳の重要性

周知のとおり、民族という名で呼ばれる大きな集団でさえ、家族という小さな単位の集合から成り立っています。家族は、個人の集まりによって成り立ちます。したがって民族が繁栄することは、一つひとつ家庭がしっかり成立していることです。家庭が健やかで安らぎに満ちたものとなるには、それを構成している家族一人ひとりが、それぞれの道徳的な役目を果たすことで可能となります。

そのためには何よりもまず、社会を構成する個人が良い徳を身に着けることが、大きな重要性を持つのです。朽ちた板から丈夫な船を作ることができないように、良い徳を身に着けていない人、責任感を持たない人たちから、強く健全な社会は生まれないのです。

仕事における徳

働くことはイスラームが人に命じていることです。ムスリムは自らの生計を維持し、他人の負担にならないように暮らすには働かなくてはなりません。働く分野、その手段は人それぞれです。しかし働いてお金を稼ぐ際に注意すべき点は、お金を

合法な手段で稼ぐこと、生計の糧にハラームを含めないことです。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、
「人は、財産をどこで稼ぎ、どこで費やしたかを、審判の日に尋ねられる」と教えられました。糧を得るにおいてハラームを混入させないという点について次のような警告をされています。
「ムスリムをだまし、あるいはムスリムに損害を与え、あるいは悪だくみを行う者は、我々の仲間ではない」
働いて、お金を稼ぐ際に正しく振る舞う者については、次のような吉報を伝えられました。
「取引において、正直さを守る者は、審判の日に預言者たちと共にいるだろう」正直さは、ムスリムにとって非常に大切な道徳的規律です。ムスリムは、仕事の上においても正直さを守り、人をだましたり、闇取引や密輸を行ったりすることから遠ざかり、合法でクリーンな手段でお金を稼がねばなりません。
生産者の役割は、良質で偽りのない製品を生産することです。従業員や公務員の役割は、与えられた仕事をきちんと行うことです。労働者が、「誰も私のことは見ていない」と言って仕事の手を抜けば、正直さから遠ざかり、不正な給与を手にすることになります。このような仕事の仕方はイスラームでは厳しく禁じられています。他者の権利を盗むことは、仕事を悪用することです。こうした行いをすれば、仕事上の努力が無駄になります。それは社会や国にも損害をもたらし、同時にその人の信頼も失われます。清らかな心を持ち、良い徳を身に着けたムスリムは、このような振る舞いから遠ざかるべきです。
良い徳を持つ人は、正しく仕事を遂行し、誰かをだましたりはしません。策略を用いたりごまかしを行いません。引き受けた仕事を正しく行い、自分自身にも、周囲にも役に立つ人となるのです。

良き徳を身につける

子供は純粋無垢な存在としてこの世に生まれてきます。そして両親によってよくしつけられ、良い性格の持ち主となれば、良い徳を身に備えていきます。しかし、もし十分にしつけられることなく、魂を醜悪な性質が黒いしみのように覆えば、その人からは良い徳や振る舞いは期待できません。
体を苦しめる病気が薬で治療できるように、精神もまた醜悪な性質を放棄し、良い徳を身に着けることによって治療できるのです。
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は**「あなた方の徳を素晴らしいものとしなさい」**と命じられ、悪徳が正されるべきものであることを明示されました。

伝染性の病気にかかった人と共にいれば、同じ病気にかかってしまうことがあります。悪い性格を持つ人を友に持つと、その振る舞いの影響を受け次第に悪しき徳を身に着けていきます。だから、良い徳の持ち主となり、それを保持していくためには、良き道徳教育を受けるとともに、良き徳を身に着けた人びとと交わること、そして悪しき徳を持つ人びとと行動を共にすることを避けねばなりません。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**良い人びとと友達になることは、素晴らしい香水を売る店に入ることに似ています。店主が彼に何も振る舞わなかったとしても、その場の芳香を身にまとうことができます**」「**悪い人びとと友達になることは、鋳物の店に入ることに似ています。そこに座っている人に火の粉が飛びかかり、嫌な臭いに苦しめられます**」

そう、このように、良い人びとと交わる人は、良き徳の影響を受け、その人も良い性格となります。悪しき徳を持つ人びとと交わる人は、悪い振る舞いの影響をを受け、その人の良い性格も損なわれ、悪しき徳を身に着けていくのです。

私たちは、友達を選ぶ際に注意深くあらねばなりません。良い性格の、知識ある人を友達として持つこと、彼らの話に耳を傾けること、そして悪い人びとから遠ざかることです。ただし、悪しき道徳から救う目的で彼らに接し、良い徳を身に着けることができるよう助けてあげることは大切なことです。

イスラームが知性や知識に与える価値

知性は、アッラーが人間に与えられた大きな恵みです。人は、善悪の判断を知性にゆだねています。知性は、他の生き物から人間を区別する最大の特徴です。

イスラームでは、信者として責任を負う立場となるためには、知性を備えていることが条件となります。信仰やイバーダで求められる最初の条件は知性です。知性を伴わない人がイスラームの命令に従う責任を問われないのは、イスラームにおける知性の重要性を示しています。

ただし、知性がその真の価値を得て、人にとって役に立つものとなるには、それをよく活用できるか否かに関わっています。知性を十分に活用しない人は、クルアーンで非難されています。知性は、知識を得るための最も重要な媒介の一つなのです。

イスラームの教えは、知性と同様、知識を獲得することにも重きを置いています。常に読み、学ぶことを命じています。クルアーンの最初の啓示の言葉が「読め」という命令で始まっていることは、私たちに読むことの重要性を明らかに示しています。イスラームが知識や、知識を持つ人びとに与える価値について、崇高なるアッラーはクルアーンで次のように仰せられています。

「言ってやるがいい。『知っている者と、知らない者と同じであろうか』」（集団章

第９節）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も、知識を得ることがムスリムにとって重要な務めであることを明らかにされ、次のように仰せらています。

「知識を得ることは、男性、女性、全てのムスリムにとってファルドである」

私たちの父祖はイスラームのこの命令に従い、知識に重きを置き、それを獲得した学者たちに深い敬意を示してきました。

トルコの司令官ヤヴズ・スルタン・セリムは、エジプト遠征からの帰途、高名な学者であるイブヌ・カマルと共にぬかるみの中を歩んでいました。そのときイブヌ・カマルの馬の脚から跳ね上がった泥がヤヴズの上着を汚したのです。それを見たイブヌ・カマルは嘆き悲しみました。師が悲しんでいるのを見たヤヴズ・スルタン・セリムは「師よ、悲しまないでください。学者の馬の脚からはねた泥は私たちにとって飾りです。この上着を泥と一緒に保管し、私の棺の上にかけさせましょう」という言葉を残し、学者への深い敬意を表したのでした。

質問

1　道徳とは何ですか、説明してください。
2　イスラームが道徳に与える価値について、説明してください。
3　良い徳を身につける上での、信仰とイバーダの役割とは何ですか。
4　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の徳はどのようなものですか。
5　個人にとって徳の重要性について説明してください。
6　道徳が仕事の上において与える影響について説明してください。
7　道徳は変わりますか、説明してください。
8　イスラームが知性や知識に与える価値について説明してください。

第２章　道徳上の務め

●テーマ

- イスラームにおける道徳上の務め
  1　アッラー、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）、クルアーンに対する務め
  2　私たち自身に対する務め
- 飲食における道徳上の規定
- 舌の鍛錬と矯正
- 体のその他の組織の鍛錬と矯正
- イスラームは浪費を禁じている（コラム）

イスラームにおける道徳上の務め

イスラームにおける道徳上の務めは、主に次の五つに分けられます。

１）アッラー、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）、クルアーンに対する務め
２）自分自身に対する務め
３）家族に対する務め
４）祖国や民族に対する務め
５）全ての人びとに対する務め

１―アッラー、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）、クルアーンに対する務め

Ａ―アッラーに対する務め

私たちを無から創造され、完全なる身体を与えてくださり、地上にある全てのものを私たちのために創造して下さったのはアッラーです。人間に与えられたこの優れた特性は、他のどのような生命体にも与えられていません。この計りしれないご恩に対し、私たちに果たさなければならない務めがあります。その務めとは、
ａ）アッラーの存在とその唯一性を信じること
b）イバーダの義務を果たすこと
c）ご命令に適う形で行動し、禁じられたことを避けること
d）アッラーへの愛情を何よりも優先させること
e）アッラーの美名を敬意を込めて念じること

f）与えられた恵みに感謝すること

B —預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に対する務め

アッラーは、イスラームの教えを伝える役割を預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に与えられました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は人類の救済に大きな努力を払われました。このために多くの困難に直面されました。イスラームの光で世界を照らされました。人びとに幸福になるための道を示されました。だから、

a）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が最後で最も偉大な預言者であることを信じること
b）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を深く愛すること、その名を思い起こしたときには祝福祈願を行うこと
c）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が示された道を進むこと
d）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の素晴らしい徳を自らの模範として生きることが、彼に対する私たちの務めです。

C —クルアーンに対する務め

a）クルアーンが、アッラーにより預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を通して下された最後の啓典であることを信じること
b）クルアーンを、規則に従って美しく読むこと
c）その意味を理解するために努力すること
d）クルアーンを読む際、もしくは聞く際に深い敬意を示すこと
e ）クルアーンが命じていることを行い、禁じていることを避けること

２—私たち自身に対する務め

人は肉体と魂で成り立っています。従って私たち自身に対する務めは、次の二種類に分けられます。

１）肉体に対する務め
２）魂に対する務め

A —肉体に対する務め

a）バランスのとれた食生活

食べ物、飲み物に注意を払い、バランスのとれた食生活を送らなければなりません。なぜなら健康で強い肉体を持つことは、それによって可能となるからです。クルアーンでは次のように語られています。

「人びとよ、地上にあるものの中良い合法なものを食べて、悪魔の歩みに従っては

ならない」（牝牛章第１６８節）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**強いムスリムは弱いムスリムよりもよりよく、アッラーの位階においてもより好まれる**」と言われ、ムスリムが強健であることを求められました。

b）健康を維持すること

私たちの体を病気から守ること、そのために必要な予防策をとることが務めであると同時に、何らかの病気になった場合には治療することもまた、私たちの務めです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。

「アッラーのしもべたちよ。治療を受けなさい。なぜならアッラーは、創造された病気のための薬をも創造されたからである」

イスラームの教えは、体に有害なアルコールを含む飲み物や、薬物を禁じ、健康に害を及ぼすあらゆるものを避けなさいと命じています。

アッラーが人間に与えられた恵みのうち最も大切なものが健康です。人は生涯を通して、この恵みを守る責任があります。健康状態がよくない人は、安らぎに満ちた生活を送ることができず、またイバーダも適切な形でできない可能性があります。だから父祖たちは「何をするにも、まず健康」といったのです。

健康なときに、そのありがたさを十分理解し、病気に対し常に注意深くあるべきです。なぜなら人は、健康という恵みを手にしているときには、そのありがたさを十分に理解できていないからです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。

「二つの恵みがあり、人びとの多くはその価値を正しく理解していない。一つは健康で、一つは自由な時間である」

現世と来世での幸福を得ることは、健康に関係があります。だからイスラームは、健康に重きを置き、病気に対し予防策をとるように求めています。病気になった場合は治療を受けることを命じています。

バランスのとれた食生活や清潔を心がけ、そして効果的な運動で常に体を鍛え、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の「**強いムスリムは弱いムスリムよりもよりよく、アッラーの位階においてもより好まれる**」という言葉を忘れないようにしなければならないのです。

過労や睡眠不足、飲酒、汚染された食べ物や水、空気の摂取といった健康に有害であるものを避け、伝染性の病気が見られる場所からも遠ざかるべきです。必要であれば予想される病気に対し、専門家の勧めに従い、特に子供たちに予防接種を受けさせなければなりません。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**ライオンから逃げるように、ハンセン病から逃げなさい**」と命じられ、伝染性の病気にかかった人から遠ざかるよう命じられました。

他のハディースでは、「**どこかでペストが発生しているのであれば、そこに行ってはいけない**」と言われ、伝染病に対し予防策をとることを求められました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の、「**アッラーは、全ての病気のための薬をも創造された**」という意味の言葉は、何らかの病気にかかった場合に、あらゆる可能性を駆使して治すことも、イスラームの命令であることを示しています。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）ご自身も率先して病気の治療を受けられ、人びとにも病気を治すため当時のさまざまな物質を治療目的で使うことを勧められておられました。

イスラームの教えが病気治療の大切さを説いたがゆえに、イスラーム世界は多くの著名な医学分野の学者を生み出してきました。イブヌ・シナーやアブー・バクル・ラーズィが著した医学書は、ラテン語に翻訳されヨーロッパで何世紀にもわたり読まれました。

治療することは、タワックルの信条に反するものではありません。逆に、真のタワックルは病気になった人ができる限りのあらゆる治療法を試み、それからアッラーに癒しを求めることです。治療法を探し求めることなく、「アッラーを信頼した」ということは、正しいことではなく、イスラームのタワックルの信条への誤った理解です。これは畑に種をまかずに収穫を期待することに似ています。このような考え方はタワックルではないのです。

この世界では、全てが要因に結びついています。まず要因に働きかけ、それから結果を待つのです。薬を見つけ、治療することは、要因に働きかけることを意味します。病気が快復するのはその結果です。正しい時期に畑に種をまくことは要因への働きかけであり、作物が実ってそれを収穫することは、その結果です。

c）清潔さに注意を払うこと

肉体への務めの一つは、清潔さです。ムスリムの体、衣服、周囲の環境は清潔であるべきです。清潔さは、健康を保つ上で大きな役割を果たします。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**清潔さは信仰の半分である**」とまで言われ、イスラームにおける清潔さの重要性を示されました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は歯の清潔さにも大きな価値を置かれ、歯を健康に保つことを勧められ、次のように言われました。「**あなた方に何があったのか、黄色くなった歯で私のところに来るとは。ミスワークを使いなさい**」

B —魂に対する務め

魂に対する務めは以下のとおりです。

a）魂を、根拠のない誤った信仰から清めること

b）正しく健全な信仰を根づかせること

c）正しい知識を身につけること
d）悪い考え、悪しき性格を清め改めること
e）良い考え、良い性格を備えさせること

私たちの魂を、次のような悪しき性質から清めなければいけません。
敵意を持つこと、憎悪すること、嫉妬すること、嘘をつくこと、約束を破ること、性格に裏表のあること、恥を知らないこと、不遜であること、ぶしつけであること、無慈悲であること、臆病なこと、怠惰であること、物惜しみすること、尊大であること、暴挙や不正、信託を裏切ること、粗野で人を傷つけること、頑固なこと。
私たちの魂に、次のような良い性格を備えさせなければなりません。
友情に厚いこと、慈悲深いこと、誠実であること、気前が良いこと、勇敢なこと、勤勉なこと、忍耐強いこと、恥を知ること、目上の人を敬うこと、約束を守ること、上品なこと、穏やかであること、公正であること、徳や教養があること、人を許せること、謙虚であること、怒りを抑えること、言葉を抑えること、人びとや全ての生命を慈しむ心を持つこと。

飲食における道徳上の規定

１）食べ物、飲み物がハラールであること
２）食べる前に手を洗うこと
３）食べ始めるときに「ビスミッラー」食べ終わったら「アルハムドゥリッラー」と言うこと
４）食べ物は手前から取ること、右手で食べること
５）口の大きさを考えて口に入れること、よくかんでから飲み込むこと
６）口の中に食べ物があるときには話さないこと
７）口の中にあるものを飲み込む前に次の食べ物を取らないこと
８）冷やすために食べ物に息を吹きかけないこと
９）水を飲むときにコップの中に水を吹きかけないこと
10）食事中、気分を悪くさせるような言葉や態度は慎むこと
11）食べ物を浪費しないこと、皿には食べられる量だけ取り、取った食べ物はすべて食べること
12）集団で食事をする際には、全員が食べ終わるまで食卓を離れないこと
13）食事は目上の人から始めること
14）外では食べ歩きをしないこと

舌の鍛錬と矯正

自分自身への務めの一つが、舌の鍛錬と矯正です。口の中に入れるものに注意を払うように、口から出る言葉にも注意を払うべきです。イスラームは、私たちに話すときの作法を教えています。

話すときの道徳上の規範は次のようにまとめられます。

1）話す事柄の結果や影響をよく考え話すこと
2）現世と来世のために嘘をつかないこと
3）言葉で人の心を傷つけないこと、話す際に相手の言葉を遮らないこと
4）相手の立場に立って話すこと
5）人を必要以上に褒めないこと
6）目上の人の前で大声で話さないこと
7）とりとめのない話をしないこと
8）話す際に口を曲げたり突き出したりしないこと、知ったかぶりをしないこと、人の言葉のあら探しをしないこと
9）舌を、悪い言葉に慣れさせないこと、嘘をつくこと、嘘の誓いをすること、人格を否定するようなことを話すこと、品のない言葉を使わないこと、偽りの約束をしないこと
10）人をからかわないこと、人に悪いあだ名をつけないこと
11）話さないでくださいといわれたことを、他の人に話さないこと

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、救いへの道は何かと尋ねられたとき、次のように答えられています。

「あなたの舌を守りなさい」

教友の一人が、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に「私自身が恐れるべき最たるものとは何でしょうか」と尋ねたところ、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は自らの神聖な舌を示され、**「そう、これである」**と言われました。

あるハディースでは､預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。

「アッラーと審判の日を信じる人は、良いことを話すか、さもなければ沈黙を守りなさい」

このように、舌をよく管理すること、すなわち話す言葉に注意を払うことは、とても重要な道徳上の規範なのです。

体のその他の組織の鍛錬と矯正

体の舌以外の体の諸組織も鍛錬し、振る舞いを正し、道徳上の規範に適った形で

用いることは、自分自身に対して果たすべき務めです。これらの務めは以下の通りです。

１）手や足を、ハラームから、そして人に害を与えることから遠ざけること
２）目で、自分のものではないものをじろじろ見ないこと、目で他人の欠点を探そうとしないこと、目で人を不快にさせないこと
３）耳で、嘘や陰口を聞かないこと
４）人の財産、生命、名誉を絶対に侵害しないこと

（コラム）
イスラームは浪費を禁じている

ハラールの合法的な手段で働き、生きる糧を得ることを命じているイスラームは、働いて得たものを浪費すること、不要なものに費やしてはいけないと命じています。クルアーンでは次のように述べられています。

「そして食べたり飲んだりしなさい。だが度を越してはならない。本当にかれは浪費する者を御好みにならない」（高壁章第 31 節）

浪費が禁じられたものであることを、明白に述べているこの章句の後半にある、**「本当にかれは浪費する者を御好みにならない」**という言葉は、ムスリムにとって重要な警告です。ムスリムの誰一人として、アッラーのお好みにならない人となることを望まないからです。

イスラームは、物惜しみをしないようにと教え、常に均衡を保ち、真ん中の道を歩んでいくようにと命じています。

クルアーンでは、アッラーの慈悲を受けることができる良きしもべは、この道に従って生きていることを、次のように示しています。

「また（財貨を）使う際に浪費しない者、また吝嗇でもなく、よくその中間を保つ者」（識別章第 67 節）

このようにイスラームは、私たちにどのような方法で糧を得るべきかを教えるとともに、得た糧をどのように費やせばいいのかも教えています。私たちがなすべきことは、崇高なるアッラーの命令と預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の奨励に適った形で、行き過ぎず、適度でバランスのとれたものとなるよう生活を正すことなのです。

稼いだものを浪費し、収支のバランスを考えることなく、稼いだ以上に使ってしまう人は、望んでいる生活レベルを手に入れることはできません。そうした家族に安らぎはありません。財産とお金は、自分たちが生きていく上の必要経費として、また社会のために用いるべきです。浪費は国家の発展を妨げ、個人や集団を困窮へと追い込み、努力が無駄となる要因となるのです。

トルコにおいて、ゴミとして捨てられているパンの量は、たいへん憂慮すべきレベルに達しています。ゴミとして捨てられているのはパンだけではありません。原料である小麦を生産するために農民が流した汗、パンを焼く職人の努力まで無駄にしているのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ひと切れのパンを大切にするように命じられています。

パンをゴミとして捨てることは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の奨励に従わなかったことであり、同時にパンを粗末にしたことになります。

皿に食べられる以上の食べ物を取り残りを残飯として捨てること、必要以上に明かりを灯すこと、水を無駄に流すことなどは浪費です。誰も、これらを浪費する権利を持っていません。

時間を無駄にすることも浪費です。自分よりも豊かな人の生活に憧れ、背伸びをして高価なものを買ったり、流行を追っかけて借金をすることなども浪費です。

こうしたことはイスラームが、つましく生きるために設けている原則に反し、社会のバランスを崩し、経済を崩壊させる原因となるのです。

発展していく国家とは、不断に努力し、働いて得たものを正しい目的に使い、浪費を避ける国家なのです。

財産や時間はもちろんのこと、地球上の貴重な天然資源や地下資源も倹約して用いなければなりません。私たちは神から与えられた恵みの価値を十分に理解し浪費を避けなければならないのです。国民一人ひとりが自覚して、このように振る舞えば国家も繁栄していくものです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、「**倹約する人は貧しくはならない**」と言われ、私たちが従うべき大切な規範を教えられています。忘れてはいけないことは、浪費の弊害は現世だけのものではないということです。

貴重な時間や資本や資源を大切にしなかった人は、必ずや審判の日にそのことを問われることでしょう。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。

「**審判の日に人は、四つのことについて問われることなくアッラーの御前から離れることはできない**」

1　一生をどこで過ごしたか

2　肉体を何のために疲労させたか

3　財産をどこで得て、どこで費やしたか

4　知識を身につけてそれを何に用いたか

質問

1　道徳上の務めは何種類ありますか。
2　アッラー、預言者ムハンマド（p.b.u.h.)、クルアーンに対する務めとは何ですか。
3　自分自身に対する務めとは何ですか。
4　肉体に対する務めとは何ですか。
5　魂に対する務めとは何ですか。
6　良い性質、悪い性質とは何ですか、説明してください。
7　飲食における道徳上の規範とは何ですか。
8　話す際に従うべき道徳上の規範とは何ですか。
9　体の、その他の諸組織をどのように鍛錬し矯正すべきですか。

第３章　家族に対する私たちの務め

●テーマ

- イスラームにおける家族の重要性
- 家族一人ひとりの相互の務め
- 夫婦相互の務め
- 両親の子供たちに対する務め
- 子供たちの両親に対する務め
- 兄弟相互の務め
- 祖父母や親戚に対する務め
- 隣人に対する務め
- ムスリムは隣人をこのように気に留める（コラム）

イスラームにおける家族の重要性

父母、夫と妻、そして子供たちから成り立つ、社会の最も小さな人間の集団を家族と呼びます。家族が集まったものを国家と呼びます。一つの国家にとって、家族の重要性は非常に大きなものです。なぜなら国家の基本は家族にあるからです。家族が幸福で安らぎに満ちたものであれば、国家もまた強いものとなります。

家族は、精神的な価値、伝統、考え方を教え伝えていく「学校」です。アッラーの恵みもここで学ぶのです。幼い子供たちは、年上の人たちの行いを見て真似をします。いつも眺めている行いは子供たちの精神に定着し習慣となります。こうして子供たちの道徳的な気質や人格が形成されていくのです。

人の振る舞いを写真のように忠実に記録する子供たちの清らかな魂に、良い光景が写されるように、家族はいつも良い行いをするように努めねばなりません。だから、家族がお互いに道徳的に振る舞い、責任を果たすことはとても重要なことです。家族の幸福と国家の将来は、ひとえにそれにかかっているといっても過言ではありません。

家族一人ひとりの相互の務め

家族の基本は夫婦です。家族はまず、夫婦のあり方から築かれます。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。

「注意しなさい、あなた方は女性たちに対し、女性たちもあなた方に対し権利を持っています」

A　夫婦相互の務め

１）何よりもまず、夫婦の間に愛情があること
２）夫は、家族の衣、食、住の経費をまかなうためにハラールの手段によって働くこと
３）夫は家族が宗教的、道徳的な資質を身に備えるために援助を行い、不足があれば教えること
４）夫は妻に対し優しく穏やかに接すること、粗野な、もしくは傷つけるような態度をとってはいけない
このことについて預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。
「信者のうち、信仰の観点から最も完全な人は徳が最も高い人である。あなた方のうち最も尊いのは、女性たちに最もよく振る舞う人である」
５）女性は、男性と愛情と敬意で結びついていること
６）女性は、浪費することなく倹約に努め、家計を維持すること
７）女性は、家庭をしっかりと守り、貞節も守ること
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。
「女性は１日に５回の礼拝を行い、ラマダーン月の断食をし、貞節を守り、夫に従えば、『あなたが望むどの扉からも天国に入って良い』と言われるだろう」
「どの女性であれ、夫が彼女に満足していれば、天国に行くだろう」

B　両親の子供たちに対する務め

幸福の源である子供は、アッラーから両親への信託です。両親は、子供のしつけについて、アッラーに対しても社会に対しても責任を負っています。両親の、子供に対する主な務めは、次のようになります。
１）子供たちを健康に育てること。子供たちの心身の健康を守ること
２）子供たちにハラームなものを食べさせないこと
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、**「アッラーの道において費やされるお金のうち、サワーブが最も大きなものは、家族のために費やされるお金である」**と仰せられました。
また**「人が、世話をするべき家族を軽視することは、罪として彼に十分なものとなる」**と警告されています。
３）子供に良い名前をつけること
４）子供をよくしつけること、道徳の点で子供に良い模範となること。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は**「どの父も、良い徳以上に素晴らしいものを子供に与えることはできない」**と言われています。
５）子供に礼拝や宗教上、道徳上の務めを教えること

6）子供を学ばせること、そのための必要な経費を用意すること、職業を身に着けさせること
アリーさまは次のように仰せられています。「子供たちを、あなたが生きている時代とは異なる地代のために育てなさい。なぜなら彼らは、あなたの時代とは違う時代のために創造されているのだから」
7）子供たちを愛すること、彼らの面倒をみること、なぜなら子供たちは、食べ物や飲み物と同じ位、愛情をも必要としているからです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は子供たちを深く愛され、よく彼らの面倒を見ておられました。
8）子供たちに愛情を示し、贈り物をする際に、兄弟の間で差をつけないこと、平等に、公正に振る舞うこと
9）結婚適齢期になれば、彼らを結婚させること

C　子供たちの両親に対する務め

1）両親に良く振る舞うこと
2）経済的に困窮していれば助けること
3）両親への乱暴な言葉使いや態度で彼らを傷つけないこと
4）両親に対し常に笑顔で接し、温かい言葉をかけること
5）呼ばれたときにはすぐに応じること
6）両親の指示に（その指示がアッラーに対する不服従でない限り）耳を傾け、それを実行に移すこと
7）どんな仕事においても彼らを満足させること
8）親のそばで大声で話さないこと
9）両親が世話を必要としているときには喜んで行うこと
10）道を歩く際に彼らの前を横切らないこと
11）親の許可なしでどこかに行かないこと
12）親が亡くなったときには、慈しみの心を持って思い起こしドゥアーすること、彼らの魂のために善を行うこと、遺言を実行すること、親の親友たちによく振る舞うこと、両親の悪口を言われないようにすること
　両親の権利について、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられています。
「アッラーの最も愛される行いは、時間通りになされる礼拝と、両親に対してなされる善行である」
「アッラーが、審判の日に相手にされない人の一群は、両親に反抗した人びとである」
「アッラーは、全ての罪のうち、望まれるものの罰を審判の日まで猶予される。

ただし、両親に対してなされた反逆に対する罰を、アッラーはその人が死ぬ前に与えられる」

（コラム）
母親に反抗的であった若者が、最期の瞬間に信仰を失う危機に直面した話

アブドゥッラー・ビン・アビー・アウファーは伝えています。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の御前にいたとき、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の元にある人が来て、

「預言者さまの元にある人が訪ねて来て、死にかけており、信仰告白を勧められても舌が回らず、告白ができない若者がいると訴えました。預言者さまは『**その人は礼拝をしていましたか**』と尋ね、彼は『はい』と答えました。預言者さまはすぐに立ち上がり、一緒に来ていた人びとと共にまっすぐその若者の家に行かれました。若者のそばに近づかれ、『**さあ、ラー・イラーハ・イッラッ＝ラーと言いなさい**』と言われました。若者は、『力が足りず、どうしても言うことができません』と答えました。預言者さまは直感的に、若者と母親との間に不和があるかも知れないと感じ、母親を呼んで二人の間に何らかの問題があるかどうかを尋ねられました。

すると母親は泣きながら、息子がいつも彼女を苦しめるため、彼に対し悪い感情を持っていること、それをどうしても克服できずにいることを伝えました。そこで預言者さまは女性に、「**私たちがここで大きな火を起こし、『あなたが息子を許すなら私たちも彼を許すが、あなたが許さないのなら彼をこの火で焼こう』と言えば、あなたは息子を許しますか。**」

預言者さまの、「**彼をこの火で焼こう**」という言葉は、女性が息子に対して持っていた悪い感情の氷を溶かし、アッラーとその使徒を証人として、自分の息子に満足していると言いました。

その後アッラーの使徒は若者のそばに戻り、「**さあ、若者よ。アッラーの外に神はないこと、アッラーは唯一であられること、何ものもそのお方と同等に配されることはないこと、ムハンマド（p.b.u.h.）はそのしもべであり、使徒であることを証言しなさい**」と言われました。

若者は、預言者の言葉が終わるや否や、何の困難さも感じずにこの言葉を語りました。彼が信仰告白の言葉を述べているのを聞かれ、その結果に大変喜ばれた預言者さまは、ほほ笑んで言われました。「**私を仲介とされ、この若者を炎から救われたアッラーに感謝致します**」

お母さん（詩）

お母さん　お母さん　愛しいお母さん
私の心はあなたのもの
私の心は愛に満たされた宝石箱
私を生み、
その慈しみで
天使のように私を見つめていたお母さん
小さな頃はいつも胸に抱いてくれ
それからゆりかごで
私を育ててくれたお母さん
最初の知識を私にくれたのはお母さん
私が悲しいときはお母さんの笑顔が
機嫌が悪いときは優しい言葉が
私に喜びをくれた
不機嫌さはすぐに消え去った
あなたは私のもの、お母さん
私もあなたのもの、お母さん
（E・アリ・シパヒ）

お父さん（詩）

お父さんは家の柱
私たちの瞳
大好きで立派なお父さん
夜、お父さんが帰ってくると
私たちは喜んでドアに駆け寄る
大好きなお父さん

お父さんが笑うとみんなも笑う
お父さんが食べるとみんなも喜んで食べる
お父さんの話はみんなで聞く
大好きなお父さん
（ラクム・チャラパラ）

D　兄弟相互の務め

１）兄弟の間で心からの愛情と連帯感を持つこと
２）兄弟とは、互いに補い合って一つの完全なものを構成する部品のようなものです。何であれこの一体感を損なわせてはいけないのです。
３）遺産、お金、財産といった経済的な権益をめぐる争いが、兄弟の仲を裂くことがないようにすること。
４）年長の兄弟は、年少の兄弟にとって親のような存在です。年少の兄弟は年長の兄弟に敬意を払い、彼らに反抗したり、傷つけるような言葉や態度をとってはいけません。年長の兄弟も年少の兄弟を守り、愛情やいたわりの態度を示すべきです。
５）兄弟は互いに善を施し合うべきです。相手の利益を自分の利益のように守らなければなりません。

E　祖父母や親戚に対する務め

祖父母や親戚は、広い意味での家族の一部であり、彼らに対し果たすべき務めがあります。それらは以下の通りです。
１）祖父母や親戚に愛情や敬意を示すこと
２）援助を必要としている人を助けること
３）彼らを忘れることなく、時折訪問したり、贈り物をしたりすること
４）遠方に住む人には定期的に手紙や電話で元気かどうかをたずね、一族の絆を強めること

伯父、伯母も私たちの両親のようなものです。彼らに対しても、両親に対するのと同じように愛情と敬意を示すべきです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。「**近親者との連絡を絶つ人は、天国には行けない**」これにより、親戚とのつき合いの重要性を明らかにされたのです。

教友の一人アブドゥッラー・ビン・アビー・アウファは伝えています。

「私たちはアッラーの使徒のおそばにいました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）さまは『親戚との付き合いを絶った人は、今日、我々と共に座ってはいけない』と仰せられました。それを聞いた伯母と不和になっている若者はその場を離れ、伯母のところに行きました。そして彼女と和解しました。それから若者は礼拝場に戻ってきました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）さまは『**親戚との関係を絶った人がいる集団には、慈悲は下されない**』と言われました」

F　隣人に対する務め

家族や親戚に次いで、最も近い存在の人びとが隣人です。ほとんど毎日会い、多くの時間を共有している隣人との仲を良好に保つことは、イスラームの命令です。

崇高なるアッラーはクルアーンで、隣人に対しよく振る舞うことを命じられました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も、「**アッラーと審判の日を信じる人は、隣人によく振る舞いなさい**」「**アッラーと審判の日を信じる人は、隣人を苦しめてはいけない**」と命じられました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はあるハディースで、隣人を苦しめる人は真のムスリムではなく、天国へも行けないと伝えられました。

隣人に対する主な務めは次の通りです。

a）隣人の権利を尊重すること、彼らを言葉や態度で苦しめないこと
b）笑顔や温かい言葉で接すること。彼らと喜びや悲しみを分かち合うこと
c）彼らの苦しみや悩みを取り除く努力をすること、必要であれば援助を行うこと、ものを貸すこと、贈り物をすること
d）大声や騒音で彼らに迷惑をかけないこと
e）病人を見舞うこと、死者の葬儀の礼拝に加わること、悔やみの言葉を述べること

つまり、私たち自身のために好むことを彼らのためにも求めること、自分たちにされたくないことを彼らにもしないことです。隣人がムスリムではなかったとしても、彼らとの仲を良好に保つこと、彼らに迷惑をかけないこと、良く振る舞うことが私たちの務めです。

イスラームのこうした命令に従って、ムスリムたちは歴史を通して、ムスリムではない隣人たちとも良好な関係を築いてきました。

ウマルさまの息子アブドゥッラーはある日、召使に羊を屠らせ、隣人に配ること、まずムスリムではない隣人から配ることを命じました。そしてその言葉を３回繰り返したのでした。

（コラム）
ムスリムは隣人をこのように気に留める

ファーティフ・スルタン・メフメットはある日、領内の食糧の価格と品質を調べるため、本人だと気づかれないよう、いつも着ている服を着替えて市場に出かけました。そしてある店に入り、挨拶をした後、

「半バトゥマンの油、半バトゥマンの蜜、半バトゥマンのチーズをください」と言いました。店主は半バトゥマンの油を量り、代金を計算した後、

「旦那、残りのものは向かいの隣人から買ってください。なぜなら彼の店のものは

もっと質がいいし、今日はまだ彼の店にお客が来ていないのです」と言いました。スルタンは二軒目の店に入り、そこから半バトゥマンの蜜を買いました。この店主も彼に、「アッラーに感謝を、旦那、今日初めて売ることができて、子供たちの食べるもののお金が稼げました。しかし私の隣りの店はまだ今日一人のお客も来ていないのです」と言いました。スルタンは、「このような人びとはこの良い徳で世界を征服するだろう、この人びとの清らかな徳を汚す者に、アッラーの罰が与えられますよう」と言いました。

質問

1　イスラームの教えにおける、家族の重要性を説明してください。
2　夫婦のお互いに対する務めは何ですか。
3　両親の、子供たちに対する務めは何ですか。
4　子供たちの、両親に対する務めは何ですか。
5　兄弟の互いに対する務めは何ですか。
6　祖父母や親戚に対する私たちの務めは何ですか。
7　隣人に対する私たちの務めは何ですか。

第４章　全ての人びとに対する私たちの務め

●テーマ

- **人びとに対する道徳上の務め**
- **動物に対する道徳上の務め**
- **涙を誘う光景（コラム）**
- **イスラームの徳に従って生きるムスリムの特徴**
- **イスラームで行うことが禁じられていること**
- **人類を危機に落とし入れるアルコール飲料と薬物（コラム）**

人びとに対する道徳上の務め

１）決して誰にも害を与えないこと

人びとの生命、財産、家、自由、尊厳、そして名誉を侵害することは、イスラームでは禁じられています。これらは人間の、不可侵の権利です。ムスリムには、他者の権利を尊重し、人びとに害を及ぼすあらゆる行動や態度を避ける務めがあります。真のムスリムとなるための一つの条件がこれなのです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。

「ムスリムは、他のムスリムが、彼の舌や手から害を受けることのない人のことである」

２）他者に援助を行うこと

人びとに笑顔と温かい言葉で接すること、貧しい人びとに援助を行うこと、彼らの求めに応じること、身寄りのない人を保護すること、倒れた人を支えて立ち上がらせること、道に迷った人に道を教えることなどはイスラームの命令であり、良い徳を備えていることの必要条件です。

３）目上の人に敬意、目下の人に慈悲を示すこと

両親、兄姉、教師、そして年長者に敬意を示すこと、自分よりも年下の人、身寄りのない人、無力な人、孤児に対し慈悲の心を持って振る舞い助けることは、重要な道徳上の規定です。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの事柄の重要さについて次のように語られています。

「目上の人に敬意を示さず、目下の人に慈悲を示さない人は、私たちの仲間ではない」

４）挨拶をすること

ムスリムは出会ったときには挨拶し握手します。挨拶をすることはスンナであり、挨拶に応じることはファルドです。まず年少者が年長者に、歩いている人が立っている人に挨拶をします。挨拶はムスリムの間の愛情や友情を強めます。

５）感情を害したままでいないこと

ムスリムの間で、何らかの理由で感情を害している人がいれば、すぐに彼らは仲直りをするべきです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**私たちムスリムが、他の兄弟たちに３日以上腹を立てていることはハラールではない**」と言われ、仲たがいをすることが悪しき振る舞いであると説かれています。そして長い間腹を立てている人は大きな罪を犯していると述べられ、次のように仰せられました。「**誰かが、ムスリムである兄弟と１年間仲が悪い状態であったとすれば、彼の血を流したほどの罪を犯したことになる**」

６）不和である人たちを仲直りさせること

誰か、二人のムスリムが互いに仲が悪い状態であると気づいたときには、彼らの間の融和をはかり、仲直りをさせる務めを負います。このことについてクルアーンでは次のように命じられています。

「**信者たちは兄弟である。だからあなたがたは兄弟の間の融和を図り、アッラーを畏れなさい**」（**部屋章第１０節**）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も、「**サダカのうち最も尊いものは、仲の悪い二人を和解させることである**」と言われ、仲の悪い人びとを和解させることが、とても尊い振る舞いであることを示されています。

７）親友を訪問すること

ムスリムは適切なときに、友達、目上の人びと、父親の友人などを訪問しなければいけません。

訪問の際には次の点に注意します。

a）訪問に適した時間を選ぶこと
b）訪問は、相手が嫌になるほどしばしば行わないこと
c）訪問する人に、可能であれば前もって連絡しておくこと
d）清潔で整った衣装を身に着けて訪問すること
e）許可を得ることなく家もしくは部屋に入らないこと

８）客をもてなすこと

客をもてなすことは、イスラームが勧めている良い振る舞いの一つです。

客に対する主な務め。

a）客を笑顔と温かい言葉で迎えること
b）最良のもので食事を振る舞うこと
c）客のいるところで使用人や子供たちを叱らないこと、険しい顔つきをしないこと

d）客が帰る際にはお見送りすること

９）招待に応じること

ムスリムは、何か他に特別な用事がない限り、ムスリムの招待に応じ、食事を提供される場合はその場に参加すべきです。こうした振る舞いはムスリムの間の愛情を強めます。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。「**あなた方の誰かを、イスラームの兄弟が結婚式の宴もしくはそれに似た場に招待した場合は、そこに行きなさい**」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は豊かな人、貧しい人の区別なく、たとえ召使であっても招待された場合にはそこに赴きました。

10）目上の人の手にキスをすること

ムスリムは、目上の人や学識者の手にキスをして敬意を表します。

11）他人の欠点を探らないこと

ムスリムは、イスラームの兄弟のプライバシーを探りません。人の欠点を知った場合でも、それを他の人に話しません。イスラームの兄弟を、他の人の前で非難しません。目にしてしまった人の過ちを、相手を傷つけることなく適切な言葉を用いて正そうと努力します。

12）悪いことを行った人を許すこと

良い徳を身に着けた人は、自分に対して行われた悪い行いを許します。さらには、ただ許すだけではなく、悪い行いに対し善行を施します。これは、道徳的に成熟しているムスリムができる、とても素晴らしい行為です。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は「**誰であれ、次の三つの素晴らしい徳があれば、アッラーはその人を慈悲によって天国に入れられる**」と言われました。

「その徳とは何ですか」と尋ねられると、次のように答えられました。

「**あなたに与えない人に、あなたが与えなさい。あなたのところに来ない人に、あなたが行きなさい。あなたを迫害する人を、許しなさい**」

13）病人を見舞うこと

ムスリムは、病床にあるイスラームの兄弟を訪問し、健康を快復するようドゥアーすべきです。病人を悲しませる言葉や行為は避けなければいけません。

14）葬儀の礼拝に加わること

亡くなったイスラームの兄弟の葬儀の礼拝を行うこと、彼を墓地まで連れて行くこと、兄弟のためにアッラーの慈悲を願うこと、ドゥアーすることは、現世での生から、来世へと移っていく兄弟のために行わなければいけない重要な務めです。

15）イスラームの兄弟たちのために良いことを求めること

ムスリムは、兄弟たちのためにポジティブな考えを持ち、自分のために好んで求める者を、兄弟たちのためにも願わなければいけません。自分に望まないものを、

兄弟たちにも望むべきではないのです。

動物に対する道徳上の務め

イスラームは、動物に対してよく振る舞うことを命じています。動物を苦しめず、彼らの世話をし、慈悲をかけることは道徳的な務めです。

一匹の猫に無慈悲に振る舞った女性について、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように告げられました。

「ある女性が、猫を閉じ込め、食べ物や飲み物を与えず、また食べ物や飲み物を探しに行けるようにと外に出すこともしなかった。猫は閉じ込められた場所で餓死してしまった。女性はそのために罰を受け地獄に行くこととなった」

一匹の犬に慈悲をかけた男性についても、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように語られています。

「あるとき、人が歩いている際に激しい喉の渇きを覚え、井戸を見つけてそこに下り、水を飲んだ。そのとき一匹の犬が、ハアハアと息をし、喉の渇きのあまり湿った土をなめていた。『この犬も、私と同様喉が渇いたらしい』と考えたその人は、すぐに井戸に下りた。水を入れる容器がなかったため、靴に水を入れ、それを口に加えて井戸から出た。そして犬に水を飲ませた。その行いにアッラーはお慶びになり、彼の罪を許された」

「アッラーの使徒よ、動物たちにも私たちへのサワーブがあるのですか」と尋ねると、**「あらゆる生命体からサワーブは生じ得る」**と答えられました。

（コラム）
涙を誘う光景

ムスリムとビザンツ朝との間で起こったヤルムークの戦いに参加したフザイファトゥル・アダウィーが語っています。

「戦いの後、私はいとこを戦いの場で探していた。彼が重傷を負っているのを知った。彼に少し水を与えようとした。ちょうど飲ませようとしたとき、そばで別の重症者のうめき声が聞こえた。私のいとこは水を飲まず、先にそちらの怪我人に水を与えるよう身振りで示した。私は彼の方に水を持って行った。彼はアスの息子ヒシャムだった。彼に水を飲ませようとしたとき、その先からまた別の怪我人のうめき声が聞こえた。ヒシャムも水を飲まず、その怪我人に先に水を与えるよう身振りで示した。私はその怪我人に水を持って行ったが、彼はすでに絶命していた。私はヒシャムのところに戻ったが、彼も絶命していた。せめていとこに飲ませようと彼のとこ

ろに駆け戻ったが、いとこもすでに亡くなっていた。結局、誰にも水を飲ませることはできなかった」

どれほどに気高い思い、崇高な振る舞いでしょうか。死の間際まで、渇きに苦しみながらも、兄弟たちを自分より優先させる、真の徳に満ちた振る舞いです。

イスラームの徳に従って生きるムスリムの特徴

良いムスリムは、

1）教えの定めるところを疑念なく信じ、それを言葉に出します
2）イバーダを、アッラーが命令され、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が示された通りに行います
3）イスラームが禁じる飲酒、賭博、窃盗、詐欺などを行いません
4）嘘をつかず、偽りの証言をせず、偽りの誓いを行いません。誰かのマイナスになることを話しません
5）手、舌によって誰かを傷つけることはありません
6）約束を守り、信託を裏切りません
7）引き受けた役目は最良の形で行おうと努力します
8）人びとの仲を悪化させるあらゆる種類の言葉や振る舞いを避けます。仲の悪い人びとを和解させます。
9）表裏のある行動をとることから遠ざかり、表裏なく誠実に振る舞います
10）善良で道徳的な人と友達になり、悪い人びとと共に行動しません
11）両親に敬意を示します。彼らを悲しませる言葉や振る舞いを避けます。
12）年少者に愛情を、年長者敬意を示します
13）隣人に害を与えず、できる限りの善行を施します
14）誰かに不正を行ってしまったときには許しを乞います。権利を持ち主に返し、アッラーにも許しを乞います
15）自分に悪いことを行った人に報復をせず、不正を行った人を許します
16）合法な手段で、決して死ぬことのないように現世のために働き、明日死んでもいいように来世のためにも備えます
17）人にとって良いことのために努力します。特に貧しい人びと、困窮者、身寄りのない人びとへの援助を惜しみなく行います
18）アッラーの道において必要であればできる限りの献身を惜しみません
19）人をからかったり、あなどったりせず、みんなとの仲を良好に保ちます。常に謙虚さを忘れません
20）全てのムスリムを兄弟と見なしています

21）直面している困難に対し忍耐し希望を失うことはありません

ドゥアー

崇高な神よ、闇の道を
あなたへと至る道にしてください
欲望に穢れた腕を、
互いに抱きしめあう腕としてください

あなたの愛が私たちの心で増えつづけ
追い求めるものが神へと至る軌跡となりますように
私たちの前にある崖が平坦となりますように
私たちの道のとげをバラの花にしてください

人が逸脱することを放棄し、
地球で最も恐ろしい獣としないでください
良心に、誠実さを忘れさせず、
私たちをあなたにふさわしいしもべとしてください
（オルハン・セイフィ・オルホン）

イスラームで行うことが禁じられていること

イスラームが、行うことを禁じていることをハラームと言います。
アッラーが命じられていることには、私たちにとって、多くの真実や効用があります。一方、禁じられていることには、私たちの現世と来世にとって大きな害があるのです。崇高なるアッラーは私たちを憐れまれ、有害なものを禁じられ、それから遠ざかることを求められたのです。禁じられていることを行う人は、アッラーに従わず敬意を示さない振る舞いをとったことになります。禁じられていることを行う人は、その振る舞いに対して罰を受けることになるのです。
禁じられたものの害から救われ、罰を受けないためには、イスラームで禁じられていることを知り、それを避けなければなりません。

禁じられている（ハラーム）こと

１）アッラーの唯一性に反する形で、アッラーと同等に何ものかを配すること
２）両親に従わないこと、反抗すること

3）どのような理由があれど人を殺すこと
4）他人の財産や名誉を侵害すること、姦淫を行うこと
5）人を酔わせるあらゆる種類のアルコール飲料、アヘン、シンナー、ヘロインといった薬物を用いること
6）賭博をすること、高利でお金を貸すこと、利子をとること
7）窃盗、詐欺、取引上のごまかしを行うこと
8）死んだ動物の肉、豚肉、そして食べることが合法ではない動物の肉を食べること
9）嘘をつくこと、偽りの誓いを行うこと、他者へ害が及ぶような話をすること、人を中傷すること、嘘の証言をすること、他者をからかうこと、悪いあだ名をつけること、約束を守らないこと
10）嫉妬すること、憎しみを抱くこと、腹を立てつづけること
11）兵役から逃れること、祖国に背信行為を働くこと
12）人びとの仲を裂くこと、人の言葉を他の人に伝え人びとの仲を悪くすること
13）裏表のある態度をとること、自分を過大評価し他者を軽視すること
14）よく知らないことについて判断を下すこと
15）悪い人びとと交わること
16）まじないを行うこと、まじない師の話したことを信じること
17）財産やお金を浪費すること、あるいは過度に物惜しみすること
18）他の家に侵入すること、許可なくして他の家や部屋に入ること
19）イバーダもしくは良い行いを、アッラーのためではなく見せかけで行うこと
20）他の恥や欠点を探ること
21）不正や悪事を助長すること
22）預けられた信託を守らず、裏切ること

（コラム）
人類を破滅に落とし入れるアルコール飲料と薬物

人の健康に重きを置くイスラームは、肉体や精神に害を及ぼすものを飲んだり、服用したりして体内に取り込むことを絶対的に禁じています。

しかし現実には、薬物を使用している人の数が増えていることは憂慮すべき問題です。イスラームがその教えで禁じているアルコール飲料、もしくは人を酔わせるあらゆる物質が、どれほどの破滅をもたらすものであるかは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の「**悪事の母である酒から遠ざかりなさい**」「**酒から遠ざかっていなさい、なぜならそれは全ての悪事の鍵である**」といった警告に明白に示されています。

実際、アルコール飲料や薬物は、人体の司令塔ともいえる脳に悪影響を与え、理

性や思考の働きを妨げる非常に恐ろしい物質です。飲酒は、親しい友としてテーブルに着いた二人に武器を取らせ、一人を墓地に、一人を刑務所へと送り込みます。また多くの交通事故の原因となり、その結果どれほど多くの人を予期せぬ死へと追いやったことでしょう。

崇高なるアッラーは、「**これを避けなさい。恐らくあなたがたは成功するであろう**」（**集団章第５節**）と言われ、飲酒や賭博を禁じられ、そこから遠ざかることが救いとなると述べられています。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も「**人を酔わせるあらゆる飲み物はハラームである**」「**多量であった場合に人を酔わせるものは、少量であってもハラームである**」と仰せられています。

人の理性の働きや、神経システムを破壊し、体を蝕み、人を絶対的な死へと導く薬物については、特別な注意を払うべきです。イスラームの教えが、使用や売買を禁じているこうした薬物について、社会の全員、ことに若者が十分な知識を持つことが必要です。若者が、薬物の売人や悪い友人たちの罠に落ちないよう、皆それぞれのできることを行うべきです。

「一度くらいなら大丈夫」という考えで薬物を使用し始める人が、その後そこから逃れることは非常に困難です。なぜならそれは毒を試すことに似ています。毒は、一度だけ経験され、２度目の経験はありません。なぜなら最初の経験で人は死ぬからです。薬物も同じようなものです。薬物を使い始めた人は、戻ることのできない危険な道に入ったのです。その道の行きつくところは死です。

だから私たちは、子供たちを守りましょう。彼らが誰とつき合っているのか、誰と一緒にいるのか、どこに行っているのかをきちんと把握しておきましょう。生涯にわたる悲しみという災難から子供たちを守りましょう。

「私の子はそんなことはしない」と安易に考えるのはやめましょう。子供はとてもいい子で、信頼できるかもしれません。しかし、子供たちを待ち受けている罠を、私たちは知ることができないのです。大切なわが子が、暴力団の巧妙で卑劣な罠にはまってしまわないと、なぜ確信を持つことができるでしょうか。確信が持てない以上、私たちは子供たちを注意深く見守るべきなのです。

若者を堕落、腐敗させ、国を内部から崩壊させようとする、卑劣で無慈悲な企みに対し、一刻も早く有効な対策を立てることが極めて重要な課題となっています。

早急に、有効な予防策がとられなければ、若者たちは卑劣で恐ろしい危険と直面することになります。まだ火の手が小さい火事を、手がつけられない状態になってしまう前に消さなければいけないのです。

薬物を使用することは、故意に崖から身を投げること、すなわち死を選ぶことです。薬物は恐ろしい罠であり、それにかかった人は容易に逃れることはできません。

私たちは将来の礎である若者たちの健全な感覚を信じています。彼らが、そういっ

た罠に落ちることのない健全な意志を持った若者であると確信しています。ただし、少数とはいえ、そうした罠にはまってしまっている人の苦しみを見るにつけ、私たちの胸は張り裂けんばかりの痛みを覚えます。

薬物に対する最大の予防策は、この恐ろしい罠に一切近づかないことです。この無慈悲な野獣のつめにかからないことです。この災いから逃れる唯一の、そして絶対的な方策は薬物を使用しないことです。そのことを絶対に忘れないようにしましょう。

大切な若者たちに呼びかけます。
若い皆さんへ
どうかあなた自身のことを考えてください
将来を考えてください
あなたの前には素晴らしい未来があります
人生の春に、自分を害さないでください
あなたのために自らを捧げる家族のことを考えてください
あなたの活躍を期待する国のことを考えてください
死後の、第二のそして永遠の生を考えてください
現世と来世を牢獄としないでください
あなたに大きな期待をかけている人びとを悲しませないでください
警告に耳を傾けてください
そして一緒に「死の罠である薬物を断固拒否します」と言いましょう

質問

1　人びとへの務めについて説明してください。
2　客への務めについて説明してください。
3　親友を訪問するときに気をつけることとは何ですか。
4　動物に慈悲の心を持って振る舞うことの重要性について説明してください。
5　イスラームの徳に従って生きるムスリムの特徴とは何ですか。
6　イスラームで禁じられているものを挙げてください。

第４部

シーラ
（預言者ムハンマド-p.b.u.h.-の生涯）

第１章　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の誕生と幼少期

●テーマ

- イスラーム以前のアラビアの状況
- 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の血筋
- 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の誕生
- 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の幼少時代
- カーバ神殿がアッラーによって保護されていたこと（コラム）

イスラーム以前のアラビアの状況

イスラーム以前の時代、アラブ人は無知と深い闇の時代を過ごしていました。読み書きができる人は皆無といえるほどわずかでした。人権は尊重されず、強い者が弱い者を踏みにじっていました。権利を侵害されていた女性たちは、あたかも物のように売買されていました。女児を生きたまま埋めて殺すことが日常であり、誰もその恐ろしい光景を止めようとしませんでした。

唯一の存在であるアッラーへの信仰は忘れ去られ、人びとは自分の手で作った偶像を拝んでいました。カーバ神殿の中には360体以上もの偶像がありました。しかし本来カーバは、預言者イブラーヒームと息子イスマーイールにより、アッラーへのイバーダを行うために造られたものでした。人びとの家にも偶像が安置され、人びとはそれを拝んでいました。飲酒、賭博、あらゆる不道徳なものが社会を覆い、良心や慈しみの心は失われつつありました。

暗黒の中で生きる人びとに救いの光を与え、現世と来世で幸福になる道を示す最後の預言者の到来を人びとは待ち望んでいたのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の血筋

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の父親はアブドゥラーです。アブドゥラーの父親はクライシュ族のハーシム家の一派であり、マッカの有力者の一人であったアブドゥルムッタリブでした。母は、クライシュ族のズフラ家の一派であるワフブの娘アーミナです。

父方、母方ともに誉れある血筋である預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の祖先は、預言者イブラーヒームにまで遡ります。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の誕生

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、西暦 571 年 4 月 20 日、すなわちラビーウ・アル＝アウワル月の 12 日目、月曜日の夜、空が白みかけた頃にマッカで誕生しました。

創造のうち最も素晴らしく最も輝かしい夜
この夜にお生まれになる
生まれてくる者のうち最も尊いお方

山、石、木、存在する全てのものが挨拶のために立ち上がる
挨拶し、祝福を祈願する

地と天で待たれてきた、
これまで生まれてきたことのない、比類のない、お方
この夜、生まれてこられた　創造主の唯一の太陽であるお方
（M・アースム・キョクサル）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が生まれた日の朝、世界は光に包まれていました。父であるアブドゥラーは、誕生の二か月前に亡くなっており、一人息子を見ることはありませんでした。

アーミナが、光の玉のような子供を産んだことで、祖父であるアブドゥルムッタリブは大きな宴を開き、愛する孫にムハンマド（p.b.u.h.）という名をつけました。人びとが、

「孫になんと名づけたのですか」と聞くと、

「ムハンマド（p.b.u.h.）と名づけた」と答えました。彼らが、

「あなたの父祖にはそのような名の人はいません。この名をつけた理由は何ですか」と尋ねると、

「彼を、天で神が、地で人びとが称賛することを願ったのです」と答えました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の生まれた夜、世界では驚くような多くの出来事が起こっていました。その夜、イランの皇帝の宮殿では 14 本の柱が倒れました。サワ湖は干上がり、千年以上も燃えつづけたゾロアスター教徒の拝む炎が突然消えました。この出来事は、将来イランの帝政が崩壊すること、偶像崇拝が取り除かれることを意味していました。そしてそれらは実際に起こったのでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の幼少期

マッカの有力部族の間にはある習慣がありました。子供が生まれるとマッカ周辺に暮らす部族の乳母に預け、世話をさせることです。マッカは気温が高く気候が厳しいゆえ、子供の成長にとってよくない環境だったからです。

幼少の預言者ムハンマド（p.b.u.h.）には、母アーミナが３日、スワイバが２日、授乳しました。その後彼はサアド族のハリマという乳母に預けられました。ハリマはムハンマド（p.b.u.h.）を、自分の子供よりも深く愛し、吹く風からも彼を守ろうとしました。ハリマの娘であり、ムハンマド（p.b.u.h.）の乳兄弟であるフィアイマも彼を愛し､いつも一緒に遊んでいました。ハリマの夫はある日このように言いました。

「ハリマ、この子の足は私たちに幸運をもたらした。この子が私の家に足を踏み入れた日以来、家畜たちの乳やその油分が増えた。この家に恵みをもたらした。私たちを豊かにした。この子には何か特別なものがあると感じている」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの家族のもとで５年間暮らし、それからマッカの家族の元に戻りました。

ムハンマド（p.b.u.h.）の母アーミナはマディーナに親戚がありました。彼らを訪問し、息子に父の墓参りをさせるため、アーミナは息子とマディーナへと向かいました。二人はマディーナで一か月滞在しました。父であるアブドゥラーの墓を訪問しました。アーミナは、息子と、一緒に連れて行った召使のウンム・アイマンと共にマッカへの帰途につきました。夜半近くに、彼らはアブヴァ村に着き、一夜をそこで過ごしました。

アーミナは、そこで病気になりました。そばに座る息子に優しく口づけをし、胸に抱き撫でました。自らの死が近いこと、そして息子との別れを感じたアーミナは、この世で再びまみえることのないであろう息子の顔を見つめながら言いました。

「新しいものは全て古くなり、全て亡くなります。私も死ぬでしょう。でも悲しんではいません。なぜなら私は清らかな息子を生んだからです。この世界に、大きな、尊い存在を残したからです」

この言葉のを残して、アーミナは亡くなります。そのときムハンマド（p.b.u.h.）は６歳でした。そしてウンム・アイマンの子供としてマッカに戻りました。

両親を失った預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を、祖父アブドゥルムッタリブが引き取りました。ムハンマド（p.b.u.h.）は２年間彼と暮らしました。アブドゥルムッタリブはその死が近づくと、孫を彼の伯父であるアブー・ターリブに委ねました。そして彼の世話をよくするよう遺言をしました。ムハンマド（p.b.u.h.）は８歳になっていました。アブー・ターリブと妻ファーティマはよく彼の世話をし、実子のように愛しました。

（コラム）
カーバ神殿がアッラーによって保護されていたこと

カーバ神殿は、アッラーへのイバーダのために、地上に設けられた最初の礼拝所です。アッラーのご命令により、預言者イブラーヒームとイスマーイールによって造られました。アラビア半島のマッカの町にあるカーバは、歴史を通して神聖な場所でありつづけてきました。そして人びとの注目を集めて来たのです。

イスラーム以前の時代、カーバは偶像崇拝を行うアラブ人によって、偶像で満たされていました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が630年にマッカを征服されたことにより、カーバ神殿の偶像は取り除かれました。

イスラーム以前の時代、マッカはアラブ人の貿易の中心地でした。そしてカーバを訪問する目的で毎年多くの人がマッカに来ていました。

エチオピアのイエメン知事であったアブラハは、続々とカーバに向かう人びとを自国に呼び寄せるため、サヌアの町に大きな神殿を建てさせました。しかし人びとがカーバを放棄することはありませんでした。するとアブラハはカーバを破壊し、それを取り除こうと決意し、象で編成した軍と共にマッカの近くまで到達しました。軍の前方には大きな象が配置されていました。

マッカの人びとには、この強力な軍に対抗する力はありませんでした。アブラハの戦士たちは、アラブ人の財産や家畜を強奪してアブラハに献上しました。略奪された財産の中には、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の祖父アブドゥルムッタリブの100頭のラクダが含まれていました。マッカの人びとの一団が、要求を掲げアブラハのもとを訪ねて来ました。その一団の中にアブドゥルムッタリブもいました。アブラハが何をしに来たのかと尋ねると、アブドゥルムッタリブはラクダを返してくれるよう求めに来たと伝えました。それに対しアブラハは、

「私はあなた方が、カーバを破壊しないように嘆願に来たのかと思っていたが、あなたの悩みはラクダなのか」と言いました。アブドゥルムッタリブはアブラハに答えて言いました。

「私はラクダの持ち主だから、それらを取り戻しに来たのだ。カーバには持ち主がおられ、カーバはその方が守られる」

アブラハはラクダをアブドゥルムッタリブに返しました。それからカーバを破壊すべく出発しました。最前列に大きな象がいました。ところがカーバに近づくと、この象は一歩も動かなくなりました。反対側には歩くのに、カーバ方面に向かわせようとすると歩かなくなりました。あらゆる努力にもかかわらず、カーバ神殿方面へ象を歩かせることはできなかったのでした。

そのとき、予期せぬ出来事が起きました。群れをなして飛来した鳥たちが空を覆い、

象の軍隊の上を飛び始めたのです。この鳥たちは、口にくわえたり足でつかんできた小さな石を、爆弾のように兵士たちの上に降らせたのです。石が命中した兵士の体は傷つき、みるみるうちに軍は混乱をし兵士たちは散り散りばらばらになっていったのです。カーバは破壊からまぬがれたのでした。アブラハは命からがらマッカを脱出し、国に戻った直後死亡しました。アブドゥルムッタリブの言葉どうり、カーバはその持ち主アッラーが守られたのでした。

カーバを破壊し誤ったことをしようとした人びとを、このようにしてアッラーは罰せられました。カーバの破壊の許可を与えられることはなかったのです。なぜなら近い将来、アッラーの愛されるしもべムハンマド（p.b.u.h.）が誕生するはずであったからです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、571年に起きたこの出来事から50年後に誕生されたのでした。

質問

1　イスラーム以前のアラビア半島の状況はどのようでしたか。
2　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の両親の名は何ですか。
3　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はいつ、どこで生まれましたか、乳母は誰でしたか。
4　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が生まれた夜、世界ではどのようなことが起こりましたか、それは何を示していますか。
5　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の名前は、誰が何の目的でつけましたか。
6　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の両親はいつ亡くなりましたか。
7　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は母の死後、誰のもとで育ちましたか。

第2章 預言者ムハンマド(p.b.u.h.)の青年時代と結婚

●テーマ

- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の旅**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と交易**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のハディージャとの結婚**
- **カーバ修復のときの預言者ムハンマド（p.b.u.h.）による調停**

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の旅

伯父アブー・ターリブは交易に従事していました。あるとき、その旅に預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を連れて行きました。彼らはダマスカス近郊のブスラという町に到着しまし、そこでバヒラという神父に出会いました。

バヒラは、旧約聖書や新約聖書にその特徴が記されている最後の預言者のしるしを、その子に見出したのです。そしてその子をマッカに返すこと、なぜならユダヤ人から彼に災いがもたらされるかもしれないとアブー・ターリブに告げたのです。アブー・ターリブもバヒラの忠告に従い、ダマスカスに行くことを断念し、取引をここで完了させ、戻ったのでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は17歳のときにも、叔父のズバイルと共にイエメンに旅をしています。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と交易

クライシュ族の有力者であり、裕福な未亡人であったハディージャという名の女性は、何人かの人に品物を与え、貿易を共同で行っていました。ハディージャは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に品物を託し、貿易隊商と共にシリアに贈りました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はその貿易においても、正直さ、誠実さで大きな成功を収められました。組織された隊商は、いつでも期待以上の利益と共に戻りました。ハディージャは、ムハンマド（p.b.u.h.）と行った共同の貿易に非常に満足していました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のハディージャとの結婚

ダマスカスへの旅から戻った後、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はクライシュ族の裕福な女性であったハディージャと結婚しました。ムハンマド（p.b.u.h.）は当時25歳でした。ハディージャはそのとき40歳でした。二人の間には幸福な家庭が築かれました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は３人の男の子、４人の女の子の合計７人の子供をもうけました。このうち６人はハディージャから生まれた子供たちでした。１人はマリーアから生まれました。男の子は、カスム、アブドゥラー、そしてイブラーヒームでした。女の子はゼイナブ、ルキーヤ、ウンムギュルスム、そしてファーティマでした。カスムとアブドゥラーは預言者としての任務を始める前に、マッカで夭折しました。イブラーヒームはヒジュラの後にマディーナで生まれ、そこで夭折しました。女の子たちは全員成長し結婚しました。ファーティマを除く３人は、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）よりも早くこの世を去りました。ムハンマド（p.b.u.h.）の血筋は、アリーと結婚した娘ファーティマから続くものです。

カーバ修復のときの預言者ムハンマド（p.b.u.h.）による調停

洪水のために壊れてしまったカーバ神殿を、マッカの人たちは修復しなければなりませんでした。壁を補修し、神聖な黒い石をカーバの壁の定められた場所に置くこととなりました。各部族は、この名誉を担おうと競い合っていました。さらにこのことが原因で部族間に不和が生じつつありました。結果として正しい人と信じられ、人びとから信頼を寄せられていたムハンマド（p.b.u.h.）が、この件に決着をつけることとなりました。彼の決定に皆が従うことにしたのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、黒い石を敷物の上に置きました。敷物の端を、部族の長たちが持ちました。そして皆一緒に、石を上に持ち上げました。そしてムハンマド（p.b.u.h.）が、その神聖な手で、石をその場所に置きました。ムハンマド（p.b.u.h.）のこの融和策に皆、満足しました。これによって深刻な対立が生れることを防ぐことができたのです。この出来事があったときムハンマド（p.b.u.h.）は35歳でした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、預言者となる以前からたいへん正直で、信頼できる性格の持ち主でした。それゆえ人びとの間で「ムハンマドゥル・アミーン」すなわち「信頼できるムハンマド（p.b.u.h.）」と呼ばれていました。人びとの愛情や敬意を得ていました。清らかで模範的なその生き方で、人びとの間で星のように輝い

ていました。崇高なるアッラーは、彼を最良の形で育成され、彼に良い徳を備えられました。なぜなら人類の救いのため、彼を預言者として任命されたからです。

質問

1　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は子供時代、そして青年時代にどこに旅行されましたか。
2　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は誰と、いつ結婚されましたか。
3　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）には何人の子供がいますか。
4　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）がカーバの修復の際に下した決定について説明してください。
5　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が「アミーン」と呼ばれていた理由は何ですか。

第3章　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）、預言者となる

●テーマ

- **最初の啓示**
- **空白期間**
- **イスラームへの呼びかけの開始**
- **最初のムスリムたち**
- **エチオピアへの移住**
- **エチオピア皇帝ナジャーシーのムスリムへの態度**

最初の啓示

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が40歳になったとき、いくつかの変化がみられるようになりました。食べ物を持ち、マッカ近郊のヒラー山の洞窟にこもり、そこで何日も一人で滞在し、世界を創造されたアッラーの偉大さについて考えておられました。夢に見られたことがそのまま実現していました。誰も見ることのできない、あるいは知ることのできない多くの真実を、明白に見られるようになりました。この状況は6か月間続きました。崇高なるアッラーは、こうして彼を鍛錬され、預言者となるべく備えられていたのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は西暦610年のラマダーン月のある月曜日の夜、ヒラー山の洞窟にこもられ、その存在をかけてアッラーに思いを寄せておられました。そのとき、天使ジェブラーイールがその姿を見せたのです。そして

「読め」

と言いました。ムハンマド（p.b.u.h.）は

「私は読み書きができません」と答えました。ジェブラーイールは再び「読め」と言い、ムハンマド（p.b.u.h.）も再び**「私は読むことができません」**と答えました。

ジェブラーイールが3度目に「読め」といったとき、ムハンマド（p.b.u.h.）は**「何を読みましょうか」**と尋ねました。ジェブラーイールは、クルアーンの凝血章の最初の部分である次の言葉を告げました。

読め、「創造なされる御方、あなたの主の御名において。
一凝血から、人間を創られた。」
読め、「あなたの主は、最高の尊貴であられ、
筆によって（書くことを）教えられた御方。

人間に未知なることを教えられた御方である。」

こうして、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に最初の啓示が下され、クルアーンの言葉がもたらされ始めたのでした。その後、天使ジェブラーイールは姿を消しました。読まれた章句がムハンマド（p.b.u.h.）の心に書かれたかのように、彼もこの言葉を読み始めました。

最初の啓示の重さ、与えられた任務の重要性、そしてその責任感の重大さを感じながらムハンマド（p.b.u.h.）は家に帰りました。そして起こったことをハディージャに説明しました。ハディージャは彼を慰めながら言いました。

「吉報でありますように。忍耐してください。あなたの命をその手にされているアッラーに誓って言いますが、あなたは人びとの預言者となるのです。崇高なるアッラーはあなたを決して放っては置かれないでしょう。あなたは親戚の権利を尊重し、約束を守り、困難さに耐え、客をもてなし、災いに遭った人びとの援助に駆けつける人です。このようなしもべを、アッラーは放って置かれはしないでしょう」

空白期間

凝血章の最初の５節が下された後、啓示はしばらくの間中断していました。ジェブラーイールは姿を見せないままでした。この期間は、ムハンマド（p.b.u.h.）が啓示を受けるための備えをするためのものでした。実際預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は啓示が再び下されることを切望し、それを受け入れる用意ができた状態となられていました。

それから、ジェブラーイールが姿を見せました。そして「包る者章」の冒頭の節が下されました。その意味は次の通りでした。

（大衣に）包る者よ、
立ち上って警告しなさい。
あなたの主を讃えなさい。
またあなたの衣を清潔に保ちなさい。
不浄を避けなさい。

この後、啓示は途切れなく下されるようになり、クルアーンは23年の年月をかけて完成されました。ここで述べたように、最初の啓示の後でしばらく啓示がなかったこの時代を、「空白時代」と呼びます。

イスラームへの呼びかけの開始

啓示の開始によって預言者としての任務を開始した預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ご自身が預言者であることを、まず信頼している人びとに話されました。そして彼らをイスラームに呼びかけました。最初期のムスリムは、イバーダを秘密裏に行っていました。この状態は３年ほど続きました。この時期にムスリムとなった人の数は、30 人を超える程度でした。

最初のムスリムたち

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に続いて彼の誠実な妻であったハディージャ、それから子供であったアリー、解放奴隷のザイド・ビン・ハーリサ、そして有力者であったアブー・バクルがイスラームを受け入れムスリムとなりました。

エチオピアへの移住

多神教徒たちのムスリムへの迫害は、日々激化していきました。ムスリムはイバーダを自由に行うことができず、クルアーンを人前で読むこともできませんでした。そこで預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ムスリムにとってより安全な場所であるエチオピアへの移住を決断するに至りました。

11 人の男性と４人の女性からなる最初の一行は、ムハンマド（p.b.u.h.）が預言者となってから５年目に、マッカを密かに出発し紅海を渡ってエチオピアの地に着きました。一行の中にはウスマーンや彼の妻であり預言者の娘であるルキーヤがいました。そこで非常に良い形で迎え入れられたムスリムたちは安全で安らいだ生活を手にすることができたのです。

最初に移住した人びとがいい形で迎え入れられたことを耳にしたムスリムのうち80 人が、第２の集団を作り１年後にエチオピアに移りました。彼らの長はアリーの兄弟であるジャファル・タイヤールがいました。

エチオピア皇帝ナジャーシーのムスリムへの態度

マッカの多神教徒は、ムスリムたちがエチオピアの地で安泰な生活を送っていることに不満をつのらせ、彼らを送り返すよう、エチオピア皇帝ナジャーシ―に、多くの贈り物と共に使者を派遣しました。使者たちは、ムスリムを自分たちに引き渡し、送還するよう求めました。キリスト教徒であるナジャーシーは、ムスリムたちを呼び、

イスラームについての知識を得ていました。ナジャーシーは双方の言い分に耳を傾け、ムスリム側が正しいと判断しました。そこで使者たちは手ぶらでマッカに戻るしかなかったのです。

その後、ナジャーシーはムスリムたちをより保護するようになり、ムスリムたちはエチオピアの人びととより良い関係を築いていったのです。

質問

1　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への最初の啓示はいつ、どこで下されましたか。
2　空白の期間とはどういう意味ですか。
3　イスラームへの最初の呼びかけはどのように始まりましたか。
4　最初のムスリムは誰ですか。
5　ムスリムはなぜ、エチオピアに移住しましたか。
6　ムスリムはエチオピアでどのように迎え入れられましたか。

第４章　布教を公に行う

●テーマ

- **イスラームへの呼びかけを公に行う**
- **多神教徒による迫害**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に最も敵対した人びと**
- **クライシュ族の敵対の理由**
- **多神教徒のアブー・ターリブへの訴えと預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の答え**
- **ハムザの入信**
- **ウマルの入信**

イスラームへの呼びかけを公に行う

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、イスラームへの呼びかけを３年間秘密裏に行った後、次の章句が啓示され、隠すことなく人びとをイスラームへと招くようになりました。

あなたの近親者に警告しなさい。

またあなたに従って信仰する者には、（愛の）翼を優しく下げてやりなさい。

かれらがあなたに従わないなら、「あなた方が行うことは、わたしに関わりはありません。」と言ってやるがいい。（詩人たち章第 214 － 216 節）

だからあなたが命じられたことを宣揚しなさい。そして多神教徒から遠ざかれ。（アル・ヒジュル章第 94 節）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、まず近親者を家に招き宴を開きました。そこでアッラーからもたらされた禁止事項を彼らに伝えイスラームの教えに導きました。だが伯父アブー・ラハブが預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に反意を示し、宴は終りを告げてしまいました。その後、ムハンマド（p.b.u.h.）はより広く呼びかけるため、サファーの丘に登りました。そしてそこからマッカの住民の全てに呼び掛けられました。彼の声を聞いた人びとが周囲に集まってきました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はそこに集まった人びとに、

「**あなた方に、この丘の背後に敵軍がいると伝えたら、私を信じますか。**」と尋ねました。皆、いっせいに、

「信じます。あなたが嘘をついているところを一度も見たことはありませんから」

と答えました。そこで預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように仰せられました。

「では、あなた方に知っていただきたい。アッラーは私を預言者として選ばれました。私に、天使を通してご自身のお言葉を伝えられました。人びとを、真実の教えであるイスラームに導くことを命じられました。アッラーは唯一であられます。アッラーの外には神は存在しません。私も、あなた方と全ての人類のために遣わされた彼の使徒なのです」

それを耳にしたアブー・ラハブは立ち上がり、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に憎しみのこもった発言をぶつけてきました。その場にいた人びとはみんな立ち去ってしまったのです。こうして預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、この集会でも何らかの結果を得ることはできなかったのでした。

多神教徒による迫害

多神教徒はムスリムとなった人びとに棄教をさせ、イスラームの光を消し去るため様々な拷問を行いムスリムを迫害しました。

イスラームの最大の敵であったウマイヤ・ビン・ハラフは、悪人奴隷のビラール・ハベシーを熱く焼けた砂の上に寝かせ、胸の上に石を積み、何時間も太陽に下にさらしておいた後、「もしイスラームを放棄しなければお前をこうして殺す」と言いました。それでもビラールが棄教しなかったため、ビラールの首に縄をかけ、マッカの町の端から端まで引き歩きました。この残酷な拷問を受けながらも、ビラールは「アッラーは唯一だ、アッラーは唯一だ」と叫んでいました。それを目撃したアブー・バクルはビラールを買い求め、彼を自由にし、残酷なウマイヤの手から救ったのでした。

最初のムスリムの一人アンマール・ビン・ヤシルは、熱い砂の上に寝かされ、気絶するまで殴られました。その母スマイヤはアブー・ジャハルによって槍で突かれ、血まみれとなって殺されました。父ヤシルも多神教徒の拷問によって命を落としました。ヤシルと妻スマイヤは、最初の殉教者という誉れを得たのです。

ハッバーブ・ビン・アラトゥは、赤々と燃えている炭の上に寝かされ、アブー・フカイハは足を縛った綱で熱い砂の上を引きずられ、耐え難い苦しみを受けました。多くのムスリムが多神教徒による拷問を受けていました。それにもかかわらず、真の信仰の持ち主たちは拷問に屈することはありませんでした。イスラームを捨てることはなかったのです。

アブー・バクルのイスラームへの大きな貢献の一つが、イスラームを受け入れたために迫害を受けた多くの奴隷を買い、彼らを救ったことです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に最も敵対した人びと

多神教徒たちは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）にも、ムスリムたちにも迫害を行うことに容赦はしませんでした。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と最も敵対した人びとは次の通りです。

1）アブー・ラハブ：預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の実の叔父であるにもかかわらず、イスラームの最大の敵でした。最初期の頃から、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と対立していました。その妻も、ムハンマド（p.b.u.h.）が通る道にとげを撒いていました。棕櫚章はこの二人に関して下されたものです。アブー・ラハブはバドルの戦いでムスリムが勝利したのを知り、その怒りのうちに死亡しました。

アブー・ラハブの息子ウタイバも一度、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を攻撃し、襟をつかんでシャツを破りました。ムハンマド（p.b.u.h.）は彼のこの行為を非常に悲しまれ、「**主よ、ウタイバに野獣を遣わしてください**」とドゥアーしました。アッラーは愛する預言者のこのドゥアーを認められ、ウタイバはダマスカスに行く際にライオンに襲われ死亡しました。こうして自分の行いの罰を受けたのです。

2）アブー・ジャハル：預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と最も敵対した人びとの筆頭に挙げられます。ムスリムを非常に苦しめました。アンマール・ビン・ヤーシルの母をその信仰のために殺害しました。彼はバドルの戦いで殺され、その罰を受けたのでした。

3）アス・ビン・ワリー：預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への敵対行為において突出していた彼は、ムハンマド（p.b.u.h.）の息子カシムが死んだとき、「ムハンマド（p.b.u.h.）の血筋が絶えた」と叫んでからかいました。子供を亡くした悲しみで胸を痛めていた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を深く悲しませたのでした。潤沢章の中の、「本当にあなたを憎悪する者こそ、（将来の希望を）断たれるであろうという言葉は、彼について啓示されたものです。アス・ビン・ワリーは、マッカ近郊の山を通過中に乗っていた動物が彼を振り落とし、足にかみついたため、このときの傷がもとで死亡しました。

4）ワリド・ビン・ムギラ

5）ウマイヤ・ビン・ハラフ

6）ウトゥバ・ビン・ラビア

彼らも、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に敵対した人間の中で筆頭に挙げられる人びとです。

クライイシュ族の敵対の理由

1）イスラームの教えは身分の違いを超えて、人は一列に並んでいる歯のように平等であること、奴隷とその主人はアッラーの位階において同等であることを宣言しました。クライイシュ族の有力者は、こうした考え方が受け入れられず、自分たちの階級が奪われることを恐れ、イスラームに敵対しました。

2）アラブ人の交易の中心地はマッカでした。マッカにあるカーバ神殿の中には、３６０体もの偶像がありました。人びとをその地に集めるのは偶像であること、イスラームがこの偶像を排除すればマッカには誰も来なくなること、その結果として生計を立てている交易が行えなくなると考えていたのでした。

3）アラビアでは何世紀もの間偶像崇拝が根付いていました。善悪を識別することができなかった当時の人びとは、父祖伝来の偶像を容易に放棄することができませんでした。イスラームの教えは、アラブ人が長い間なじんできた偶像崇拝を取り除き、唯一の神アッラーへの信仰を説いていたのです。

4）アラブ人は、人の上に立つ条件として、優れていること、高い道徳を備えていること、能力があることなどを求めませんでした。ただ二つの条件を認めていました。その一つが裕福であることであり、もう一つは多くの子供を持っていることでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）にはこれらはありませんでした。そのため、ムハンマド（p.b.u.h.）を自分たちの指導者とは認められない、と彼らは主張していました。さらに、ハーシム家とアマウィー家の間には、古くから部族長の座を巡る争いがありました。ムハンマド（p.b.u.h.）は、クライイシュ族のハーシム家に所属していたため、彼に敵対した人の多くはアマウィー家の人びとでした。

多神教徒のアブー・ターリブへの訴えと預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の答え

伯父のアブー・ターリブは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を深く愛していました。イスラームの布教において甥を常に助け庇護の手を差し伸べていました。多神教徒の有力者たちがアブー・ターリブに訴え、「あなたの叔父にイスラームの布教を断念させるか、もしくは彼を庇護しないでください」と言い、彼を脅しました。アブー・ターリブがこのことを甥であるムハンマド（p.b.u.h.）に伝えると、ムハンマド（p.b.u.h.）は次のように応えました。

「私はアッラーによって真実の教えを伝える任務を命じられています。私が自分で何かを行っているのではないのです。私はアッラーの使者です。伯父よ、この仕事

を放棄するようにと、右手に太陽を、左手に月を与えられたとしても、私はこの仕事を放棄しません」

アブー・ターリブはそれを聞いて「あなたはその仕事をつづけなさい。私が生きている限り、彼らはあなたに手を出せまい」と答え、ムハンマド（p.b.u.h.）を庇護しつづけることを約束したのでした。

ハムザの入信

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は多くの立ちふさがる困難にもかかわらずその任務をつづけ、ムスリムの数も日々増えてきていました。

預言者としての６年目の年、ある日サファーの丘に座っていると、そこを通りかかったアブー・ジャハルが彼を呪いました。その振る舞いに預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は応えませんでした。その出来事を目撃したある女性が、それを、ムハンマド（p.b.u.h.）の叔父であるハムザに伝えました。ハムザは当時まだムスリムにはなっていませんでした。しかし甥になされたこの行為に非常に腹を立てました。すぐにクライシュ族の有力者が集まっている場所に行き、アブー・ジャハルに、

「私の兄弟の子供を攻撃し、彼を苦しめているのはおまえか」と尋ね、弓で彼の頭を殴りました。

この出来事の後、ハムザはイスラームに入信し、常に預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のそばにいるようになったのです。

ウマルの入信

ハムザの入信と、ムスリムが日々その数を増していることは、クライシュ族に焦りを与えました。そうした状況に打開策を見出そうと、彼らは「ダルン・ナドゥワ」という場所に集まり状況確認を行った後、アブー・ジャハルの提案で、ムハンマド（p.b.u.h.）を殺害することを決めたのです。この恐ろしい決定を実行するため、最も勇敢な人としてウマルにその任務が与えられました。当時３３歳であったウマルは、刀を持ちムハンマド（p.b.u.h.）を殺すために出発しました。

ムスリムは、アルカムの家に集まっていました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も同席していました。ウマルは途中、ヌアイムとばったり会いました。ヌアイムは、「ウマルよ、どこへ」と尋ねました。ウマルは、

「人びとの仲を裂くムハンマド（p.b.u.h.）を殺しに」と答えました。ヌアイムはウマルに、

「難しいことをやることになったものだ」との返答に対しウマルは、

「おまえもムハンマド（p.b.u.h.）の味方なのか」と詰め寄りました。ヌアイムが、
「ウマルよ、私のことは放っておけ、まず自分の家族を見てみろ、妹の旦那も、妹のファーティマもムスリムになっている」と答えるとウマルは、
「まずあいつらを成敗してやる」と言い、進路を変え、妹の家に向かいました。そのとき妹と彼女の夫は、新たに啓示されたター・ハー章を読んでいるところでした。ウマルが武器を持ってやってきたのを見て、彼らはクルアーンの紙片を隠しました。
ウマルは中に入ると、何を読んでいたのかを尋ねました。彼らは「何も」と答え、ウマルの怒りはさらに増しました。「つまり、私が耳にしたことは事実だったのだ」と言い、義弟の襟をつかんで地面に投げつけ殴り始めました。夫を助けようとした妹ファーティマの顔をも殴りました。かわいそうな彼女は、口と鼻から血を流しながら地面に倒れました。ファーティマは、信仰からもたらされる勇気で、ウマルに言いました。
「アッラーを畏れなさい。一人の女に自分がしたことを見なさい。私と夫はムスリムになったのです。あなたに殺されても教えは捨てません」
ウマルは、
「読んでいたものを見せなさい」と言い、ファーティマはそれを出してウマルに渡しました。ウマルは注意深く読み始め、読むにしたがってその表情が和らぎ始めました。クルアーンの比類なき調和、その意味の気高さ、読む際の心地よさと美しさが、ウマルの心をとらえたのです。もはやウマルの心はイスラームに開かれていったのでした。彼はムハンマド（p.b.u.h.）のもとに行きました。彼の前に膝をつき、信仰告白を唱え、ムスリムとなりました。そこにいた人びとはたいへん喜び、一緒に信仰告白を唱えました。
ウマルの入信で、ムスリムは力を得ました。ウマルは、
「私たちの仲間は何人ですか」と尋ね、
「あなたを入れて 40 人になりました」と彼らは答えました。
ウマルの願いで、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を先頭にムスリムたちは皆でカーバに向かいました。そこで全員で、隠すことなく礼拝を行いました。一方で多神教徒たちは、ムハンマド（p.b.u.h.）殺害のために派遣したウマルがムスリムとなったことを知り驚きました。
ムハンマド（p.b.u.h.）を殺害するために出発したウマルの、無慈悲で石よりも固い心を、妹の家で読んだクルアーンの言葉が和らげ、闇であったその心を光で満たしたのでした。そして預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に対する敵意を、親愛の情へと変えたのです。

質問

1　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は人びとをなぜ、どうやって隠さずにイスラームへと招きましたか。
2　多神教徒のムスリムに対する迫害と、それに対するムスリムの振る舞いについて説明してください。
3　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に最も敵対したのは誰ですか。
4　クライシュ族がムハンマド（p.b.u.h.）に敵対した理由は何ですか。
5　アブー・ターリブとは誰ですか。ムハンマド（p.b.u.h.）をどのように保護しましたか。
6　ハムザとウマルはどのように入信しましたか。

第５章　ムスリムの排斥と悲しみの年

●テーマ

- **多神教徒によるムスリムの排斥**
- **アブー・ターリブとハディージャの死**
- **ターイフへの旅**
- **アカバの誓い**
- **ミアラージュの奇蹟**
- **ミアラージュの贈り物、礼拝**

多神教徒によるムスリムの排斥

ハムザとウマルが入信したこと、イスラームが日々その勢力を広げていったことは、多神教徒たちを恐怖に落とし入れました。そしてかれらは集まって話し合いをし、ムスリムに対し次のようなボイコットを行うことを決めたのでした。

「今後、ムスリムと、彼らを庇護する者、ムハンマド（p.b.u.h.）の親戚であるハーシム家との一切の取引を停止する。彼らに会うこと、取引を行うこと、娘を結婚させることを禁止する」

多神教徒のマンスール・ビン・イクリマは、この協定を紙にしたためカーバの壁に掲げました。

ムスリムへの排斥運動は３年続きました。この期間、ムスリムは非常に苦しめられました。多神教徒たちは、ムスリムがかたまって住んでいる地区へ、食べ物や飲み物を持ち込ませないようにしました。ムスリムたちはあらゆる苦しみ、空腹や渇きに耐えました。木の葉を食べて生きつないでいました。空腹で泣き叫ぶ子供たちの様子は胸の痛むものでした。

この人道に反する振る舞いによっても、多神教徒は望む結果を得られませんでした。イスラームの光が拡大していくのを止めることはできなかったのです。その頃、一匹の蛾がカーバの壁にかけられていた協定の紙切れを食べ、「アッラー」の文字以外を全て消してしまいました。さらに、マンスール・ビン・イクリマの協定を書いた手は乾き、動かなくなりました。当時は「バスマラ」ではなく「ビスミカッラーフンマ」を用いていました。

結果として、多神教徒のうち一部が折れ、この残酷な協定は破棄されました。こうして排斥運動は止み、ムスリムたちは大きな苦しみから救われたのでした。ムス

リムへの排斥運動は、預言者となってから７年目の年から 10 年目の年にかけて行われました。

アブー・ターリブとハディージャの死

排斥運動が止みムスリムは少し楽になることができました。しかしそれからあまり日が経たないうちにうちに伯父のアブー・ターリブ、数日後には妻のハディージャが亡くなったのです。

アブー・ターリブはムハンマド（p.b.u.h.）を実の子のように愛し守ってきました。ハディージャはムハンマド（p.b.u.h.）を最初に信じ、最も苦しいときに彼を慰め、助けてきた誠実で献身的な女性でした。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、彼を常に支えてきたこの尊い二人を失ったことに深く悲しまれ、そのためにこの年は「悲しみの年」と呼ばれています。

アブー・ターリブとハディージャの死後、多神教徒たちは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への迫害を強めました。あるとき、預言者が通りを歩いていると、通りがかりの一人の男がムハンマド（p.b.u.h.）の頭に土を投げつけました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はそのままで家に帰りました。娘のファーティマは父の姿を見て胸を痛め、土を払い落としながら泣き始めました。娘が泣いているのを見た預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、「**泣かないで、崇高なるアッラーは私を守ってくださるだろう**」と言われ、アッラーへの信頼を示されたのです。

ターイフへの旅

アブー・ターリブとハディージャの死後、多神教徒たちは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への迫害を一層強めました。そこで預言者はターイフの人びとをイスラームへと招くため、最初のムスリムの一人ザイド・イブニ・ハーリサを伴い、ターイフに出かけました。ところがターイフの人びとはイスラームを受け入れるどころか、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が立ち退くことを求めたのです。そしてさらにムハンマド（p.b.u.h.）に石を投げつけてきたのでした。投げつけられた石で足が傷つき血まみれになってしまいました。歩けないほどの状態でした。ザイドは、自分の体を盾にして、石が預言者に当たらないようにしていました。

道路脇の庭園に避難した預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、そこでしばらく休んだ後、悲しみのうちにマッカに戻ったのです。預言者は生涯で最大の苦労を、その旅で味わったのです。しかし預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、これらによって絶望することはありませんでした。決してひるまずに、その任務をつづけていったのです。

アカバの誓い

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、何年間にもわたってマッカの人びとをイスラームに招いてきました。しかし、マッカの多神教徒たちのかたくなな振る舞いによって、大きな困難に直面していました。しかしイスラームはその預言者を任務からおろすことはありませんでした。イスラームの光は、人びとを照らしつづけていたのでした。アッラーは人びとに、新たな地を用意していました。それがマディーナでした。

預言者となって11年目の巡礼の季節に、預言者はマッカの郊外でマディーナから来た6人の一団と出会ったのです。彼らに、預言者であることを話されました。クルアーンを読み、アッラーのご命令を伝え、彼らをイスラームへと招かれたのです。

マディーナの人びとは、良い考えを持っていました。彼らは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の話が理に適っており正しいと考え、ムスリムとなったのでした。彼らはマディーナに戻るや、その地でイスラームを広める努力を始めたのです。

第1次アカバの誓い（預言者としての12年目の年）

翌年マッカを訪れたマディーナの人びとのうち12人が、マッカ近郊のアカバという場所で預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と会いました。彼らの長はアサド･ビン･ズラーラでした。彼らのなかには1年前にムスリムになっていた5人もいました。彼らは、「アッラーに何ものをも配さないこと、窃盗を行わないこと、姦通を行わないこと、嘘や中傷から遠ざかること、預言者に反抗しないこと」を、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に誓いました。これを第1次アカバの誓いと言います。

マディーナの人びとは自分たちにイスラームを教える人を求めていました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、この役目を担うためにムスアブを派遣しました。ムスアブはマディーナでイスラームが学ばれ、広まっていく上で大きな貢献をしました。

第2次アカバの誓い（預言者としての13年目の年）

この年には、マディーナから75人もの人びとがマッカを訪れました。そのうちの二人は女性でした。アカバと呼ばれる場所で、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と会った後、第2次アカバの誓いがなされました。マディーナの人びとは、女性や娘たちを守るように、預言者をも守ることを誓いました。皆、手をムハンマド（p.b.u.h.）に伸ばし、誓いを交わし合ったのです。

その後、ムハンマド（p.b.u.h.）は12人を代表として選出するよう求めました。彼らは12人を選びました。12人は、「困難なときも安泰なときも、あらゆる状況において、従い、正しい言葉を話すこと、アッラーの道において何ものをも恐れないこと」を誓いました。

アカバの誓いは、イスラームが広まっていく上で重要な転換点となったのです。

ミアラージュの奇蹟

ミアラージュは言葉としては上昇することを意味します。イスラは夜歩くことという意味です。実際には預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が、ヒジュラの1年半前、ラジャブ月の27番目の夜にマッカのハラーム・モスクからエルサレムのアルアクサ・モスクへと運ばれ、そこから天に昇り、魂の世界を旅した出来事です。

アッラーの無限の力の表れであり、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の最大の奇蹟の一つであるミアラージュを、多神教徒は信じませんでした。なぜなら彼らは、崇高なるアッラーの偉大さ、その力の壮大さを理解することができなかったからです。彼らは限定的な考えと誤った信条を持っていたため、ミアラージュを理解する段階には達していなかったのです。

ムスリムたちは何のためらいもなく、ミアラージュを受け入れ信じました。アブー・バクルはミアラージュの出来事が説明されたとき、「それをムハンマド（p.b.u.h.）が語っているのなら、真実なのだ」と言い、それを受け入れました。それ以来預言者には、「受け入れる人」という意味の「スッドゥーク」という称号がつけられるようになったのでした。

ミアラージュの贈り物、礼拝

旅から戻って来る人が、周りの人びとにお土産を持ってくるように、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）も神聖なミアラージュの旅から重要な吉報や贈り物を携えて戻られました。

ミアラージュの夜に預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が到達した崇高な位階で、アッラーと会われ間に何ものも介することなく啓示を受けられました。この位階で、預言者には三つのものが与えられました。

1　牝牛章の再度の2節

2　ウンマが、アッラーに何ものかを配さない限り天国に行くという吉報

3　ミアラージュの贈り物として日に5回の礼拝

イスラームの条件の一つであり教えの柱である礼拝は、ミアラージュの夜にファルドとされたのです。

質問

1 多神教徒はムスリムに対してどのような排斥運動を行いましたか。それは何年続きましたか。
2 アブー・ターリブとハディージャはいつ亡くなりましたか。この年を何と呼びますか。
3 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のターイフへの旅について説明してください。
4 第１次、第２次のアカバの誓いについて説明してください。
5 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はいつミアラージュを行いましたか。
6 ミアラージュの贈り物とは何ですか。

第６章　ヒジュラ（聖遷）とマディーナでの最初の年月

●テーマ

- 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のマッカからマディーナへのヒジュラ
- マディーナでの預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への対応
- 預言者モスクの建造
- エンサールとムハージルの間の兄弟愛
- 預言者の学び舎とアスハーブ・スッファ

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のマッカからマディーナへのヒジュラ

イスラーム史において、西暦622年の預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のマッカからマディーナへの移住をヒジュラ（聖遷）と呼びます。

多神教徒の圧力や迫害が続いたことで、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はムスリムにマッカからマディーナへの移住を許可しました。ムスリムは一団となってマディーナに移住し始めました。教えを守るために、住みなれた故郷を、財産や資産を放棄したのでした。マディーナでの希望の炎に寄りそったのです。

マッカには、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と共にアブー・バクルとアリー、その他数人のムスリムが残っていました。ムハンマド（p.b.u.h.）は困難な中においてもイスラーム布教の任務をつづけ、預言者となって１３年目の年をマッカで迎えました。

多神教徒たちは、マディーナの人びとがムスリムであること、マッカのムスリムがマディーナへ移住することによって強いイスラーム社会が作り上げられることを恐れていました。彼らはイスラームを全面的に排除しようと、「ダールン・ナドゥワ」と呼ばれる場所で秘密裏に集まり、アブー・ジャハルの提案により、ムハンマド（p.b.u.h.）殺害を決定するのです。この恐るべき計画を実行するため、各部族から数名の若者が選ばれました。武器を持った若者たちは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の家を包囲し、ムハンマド（p.b.u.h.）が外に出るのを待っていました。

多神教徒たちが秘密裏に下したこの決定は、アッラーによってジェブラーイールを通して預言者に伝えられていました。そしてヒジュラの許可が下されました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は自らの寝床にアリーを寝かせ、家を包囲する多神教徒たちの間を抜け、無事アブー・バクルの家に着くことができました。アッラーが預

言者ムハンマド（p.b.u.h.）を庇護したため、武装した若者たちは彼を見ることができなかったのです。

旅の準備を終えると、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はアブー・バクルと共に、夜、マッカから１時間半のところにあるサウル山に向かいました。そしてそこにある洞窟に身をひそめました。朝になり、ムハンマド（p.b.u.h.）が家を出たことが知られるところになり、多神教徒たちは、あちこち探し始めました。預言者を見つけた人間には 100 頭のラクダが報償として与えられることになりました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の追跡者たちは、道に残った跡をたどり、洞窟の前まで来ました。洞窟の入り口に蜘蛛が巣を張っているのを見つけ、洞窟の中を探そうとしましたが、追跡者の一人が「中に人が入っているとすれば、ここに蜘蛛の巣やハトの巣はないはずだ」と言い、洞窟の前から立ち去っていきました。

多神教徒たちが洞窟の前にいる間、アブー・バクルは不安になり、

「彼らは我々を見つけるでしょう、アッラーの使徒よ」と言いました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、

「**恐れないでください、アッラーは我々と共におられる**」と答えたのでした。

洞窟の前に蜘蛛が巣を張ったこと、そこに生えている木の枝にハトが巣を作り、卵を産んだことはそれぞれが奇蹟のようです。崇高なるアッラーは預言者たちをこれらの奇蹟によって守られ、洞窟の入り口まで来た敵を、秘められた強い力が追い返したのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は洞窟でアブー・バクルと３日間過ごし、マディーナへ出発しました。彼らを追跡していたシュラカという男が、預言者たちの跡を見つけ、全速力で馬を走らせ、彼らに接近しようとしました。ちょうどそのとき、馬がつまずき、シュラカはもんどり打って地面に転がりました。再び馬に乗り走らせようとしたところ今度は、馬の脚が膝まで砂に埋まり、その場でもがきつづけるばかりでした。秘められた強い力が、馬を後ろへと引っ張っていたのです。シュラカは恐れおののき、自らの行いを後悔し、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に許しを乞うて立ち去っていきました。後から来た人びとにも、「私はここを探したが誰もいなかった」と言い、彼らを追い返しました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、一週間にもわたる歴史的な旅を終え、月曜日にマディーナ近郊のクバの村に到着しました。そこで大きな友愛の情と共に迎えられたのでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、そこで 10 数日滞在し自らクバ・モスクを造らせました。モスクの建造にあたって、その神聖な手で石を運ばれました。イスラームの歴史上で初めて造られたのが、このモスクです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）よりも３日遅れてマッカを後にしたアリーも、クバでムハンマド（p.b.u.h.）に追いつ

いたのです。

マディーナでの預言者ムハンマド（p.b.u.h.）への対応

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はムスリムたちと共に金曜日、クバからマディーナへと出発しました。サリム家の土地に来たときには昼になっていました。そこでムハンマド（p.b.u.h.）はジュムアの礼拝がファルドとされたことをムスリムたちに告げました。ここで、最初のジュムアの礼拝が行われました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はジュムアの後でマディーナへと旅をつづけました。

マディーナの人びとはイードの喜びの中で、この誉れある客を迎えるために道の両側に並びました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が通る際には、「どうぞ、アッラーの使徒よ！」と叫び、小さな子供たちですら「アッラーのみ使いが来た」と歓声を上げたのです。

マディーナで、大歓迎された預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ハーリド・ビン・ザイド、つまりアブー・アイユーブ・エンサールの家で客となりました。そしてここに７か月滞在することになったのです。

預言者モスクの建造

アブー・アイユーブ・エンサールの家のすぐ隣に空地がありました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はその土地を購入し、モスクと、その周辺に自らの住居を造らせました。

今日、ムスリムたちによって訪問されるマディーナの「預言者モスク」（マスジッド・ナバウィ）が、そのモスクです。モスク建造にあたっては、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は自らの背に煉瓦を乗せ先頭に立って働かれたのでした。

エンサールとムハージルの間の兄弟愛

マッカからマディーナに移住したムスリムを「ムハージル」（移住者）、マディーナの地元民のことをムハージルに援助を行ったことから「エンサール」（援助者）と呼びます。

財産や資産を放棄してやってきたムハージルたちに、マディーナの人びとはあらゆる援助の手を差し伸べました。彼らを受け入れ、家に滞在させ、食べ物を分かち合いました。

世界の歴史を通して、互いにこれほどに愛し合い、心から結びついた集団は存在

しないでしょう。世界の模範となるこの出来事は、イスラームの兄弟愛の最も美しい作品です。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ムハージルの一人ひとりを、エンサールの一人と兄弟とさせ、その兄弟愛は血のつながりのある兄弟のそれよりも強いものとなったのでした。

イスラームの歴史で常に敬意を持って思い起こされるエンサールとムハージルは、イスラームの社会に多大な貢献をしたのです。

預言者の学び舎と、アスハーブ・スッファ

預言者モスクの一端で、屋根のある場所として造られた部分を「スッファ（中庭）」と呼び、そこに滞在していた人びとを「アスハーブ・スッファ」と呼びます。

そこには住む家のない貧しい人びとや身寄りのない人びとが滞在していました。彼らは、仕事が見つかったときには働き、自ら生計を立てていました。仕事が見つからないときには預言者ムハンマド（p.b.u.h.）や教友たちの中の裕福な人びとから援助を受けていました。彼らが結婚したときには別の家に移り、新しい家庭を築きました。

ここに滞在していた人びとは、いつも預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と共にいました。そして彼から多くの知識を得ていました。日々、イバーダと学習で過ごしていました。イスラームの最初の教育施設であるスッファの学校では、学ぶのは教友たちであり、教師は預言者ムハンマド（p.b.u.h.）でした。最も多くのハディースを伝承したアブー・フライラはこの学校で学びました。

スッファの学校で学んだ人びとの中には、イスラームの教え、クルアーン、ハディースを最もよく理解し、解釈を行う偉大な学者たちがいます。他の地域にイスラームを伝えるために派遣される人びとは、ここから選ばれたのです。

だから、スッファと名づけられたこの場所は、イスラームの歴史で最初に設けられた学校なのです。この学校で学んだ人びとは、イスラームを広め、イスラームを学ぶことに大きな貢献をしたのでした。

質問

1　ヒジュラとは何を意味しますか。
2　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）やムスリムのヒジュラの理由は何ですか。
3　ヒジュラの出来事と、その際に預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が示した奇蹟について説明してください。
4　イスラームで最初に建造されたモスクはどれですか。

5　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はマディーナでどのように迎えられましたか。誰の家に客として滞在していましたか。

6　預言者モスクとは何ですか。どこに造られましたか。

7　エンサールとムハージルとは誰のことですか。

8　アスハーブ・スッファとは誰のことですか。イスラームにどのような貢献をしましたか。

第７章　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の戦い（１）

●テーマ

- バドルの戦いの原因
- バドルの戦いと、その結果
- ウフドの戦いの原因
- ウフドの戦いと、その結果
- ウフドの戦いから得るべき教訓
- 塹壕の戦いの原因
- 塹壕の戦いと、その結果
- フダイビーヤ条約の締結
- フダイビーヤ条約の結果
- 隣国の統治者に送られたイスラームへの招待状
- ハイバルの征服
- カーバ訪問（カダーのウムラ）

バドルの戦いの原因

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）がムハージルと共にマディーナに定住した後も、マッカの多神教徒は敵対行為を止めようとはしませんでした。マディーナ近郊まで来て、ムスリムが放牧していたラクダを奪って連れ去ったりしました。多神教徒たちはアブドゥラー・イブニ・ウバイヤに知らせを送り、ムハンマド（p.b.u.h.）を殺害するか、もしくはマディーナから追放するよう求めました。もしそれがかなわない場合はマディーナを攻撃すると通告してきたのです。一方でムスリムたちとの間に起こりうる戦いに備えて、交易の隊商をダマスカスへと送っていました。

ムスリムたちは彼らの動きを注意深く見守っていました。隊商の動きを妨げる目的で、ヒジュラ歴２年（西暦624年）のラマダーン月に預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は305人の軍とともにマディーナを出発しました。それを聞いたマッカの多神教徒たちは1000人の軍でマディーナ方面へと進攻してきました。バドルと呼ばれる場所まで来て彼らは兵を止め、その地の水を支配下に置きました。

ムスリムたちはマディーナから、戦いのためではなく、多神教徒たちの隊商の動きを妨害する目的で出発してきていました。マッカから、大きな軍が向かってきている知らせが入るや、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は教友たちと協議を行い、敵軍

と戦うことを決意したのです。

バドルに到着したイスラーム軍は砂地に陣営を張ることを余儀なくされました。そこには水がありませんでした。なぜなら多神教徒たちが先に水場を制圧していたからです。しかしアッラーのお助けにより、その夜たっぷりと雨が降りました。ムスリムは水不足の苦しみから救われたのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はイスラームの教えを、美しい言葉と手引きで伝えようと努力しました。誰にも強制はされませんでした。しかし、多神教徒の攻撃に対し、アッラーによってムスリムが戦うことへの許可が与えられたのです。

バドルの戦いと、その結果

多神教徒たちは、兵の数と武器の点でムスリム側より優っていました。それゆえ、戦いに勝つことを確信しているように見えました。ムスリムの精神的な強さを考えに入れてなかったのです。バドルの地で、真実の教えと誤った教え、信仰と憎悪が衝突することになったのです。イスラームの未来はこの戦いの結果にかかっていました。

翌日の朝、両軍が向かい合い、戦いが始まりました。そのとき預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は手を天に掲げられ、「**主よ、私に約束された援助を今日、お与えください**」とドゥアーされました。その後サジュダを行い、アッラーに懇願されました。「**アッラーよ、この一握りのムスリムが今日滅ぼされたら、地上であなたにイバーダを行う者がいなくなってしまいます**」

アッラーはこのドゥアーを受け入れられました。

ムスリムたちは、信仰から得た力で、勇敢に戦い、アッラーのご援助によって自分たちよりも何倍も優勢な敵軍に大きな損失を与えました。敵軍は70人の死者と70人の捕虜を残して戦いの場から逃げました。イスラームの最大の敵アブー・ジャハルも、死者の一人でした。こうして戦いはムスリム側の圧倒的な勝利で終わりました。この戦いでムスリム14人が殉教しました。

イスラーム軍は勝利の喜びのうちにマディーナに戻りました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は捕虜によく振る舞うことを命じられました。捕虜の一部はフィディヤ（身代金）の対価として釈放されました。身代金を払うことができず、かつ読み書きのできる捕虜は、一人につき10人のムスリムに読み書きを教えた後、釈放されました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）のこの行為は、イスラームが、読み書きができるようになることにどれほど重きを置いていたかをよく示すものです。

ウフドの戦いの原因

多神教徒側がバドルの戦いで敗北したことは、マッカに大きな悲しみをもたらしました。そして彼らは喪に服し始めました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の最大の敵であったアブー・ラハブは、この悲しみの中で死亡したのでした。

多神教徒たちは、ヒジュラ暦3年（西暦625年）バドルの戦いの報復をするため3000人規模の軍を整えました。バドルの戦いで近親者が殺害された多くの女性たちも、この軍に加わりました。アブー・スフヤンを司令官とするこの軍は、いきなりマッカを出発し、マディーナ近郊のウフドの山に陣地を張りました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の伯父アッバースは、そのときまだ入信していませんでした。そしてマッカに滞在していました。多神教徒軍がマッカ方面に進攻していったことを手紙にしたため、密かにムハンマド（p.b.u.h.）に伝えました。そして預言者を深く愛していた伯父アッバースは後にムスリムとなったのです。

ウフドの戦いと、その結果

伯父アッバースの手紙にあったたように、敵軍はウフド山まで来ており、そこで陣地を張っていました。そこで預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は教友たちと協議し1000人の軍でウフド山へと出発しました。ところが途中300人の偽信者が軍を離れてしまったので、ムスリム側の数は700人となってしまいました。

ムスリム軍は、敵のいる場所に到達し、ウフド山を背にして戦闘態勢に入りました。イスラーム軍の左側に渓谷がありました。そこからの敵軍の攻撃を防ぐため、ムハンマド（p.b.u.h.）は渓谷に50人の一団を配置し、「**敵が勝とうと、負けようと、私からの命令が来るまではここから動いてはいけない。敵の騎兵が来たら弓を射なさい**」と命じました。

ムスリム軍は勇敢に戦い、敵軍に大きな損害を与えました。敵軍にいた女性たちも山の方に逃げ始めました。ただ、まだ完全に勝利したわけではありませんでした。敵を追跡し、勝利を確実なものとすることが必要でした。

しかしムスリム軍は、戦争に勝利したものと思い込み、敵の残していった戦利品を集め始めました。それを見た渓谷に配備されていた50人の一団も、数名を除いて預言者の指示を守らず、持ち場を離れてしまったです。

弓矢の部隊が持ち場を離れてしまったことは、多神教徒の軍にとって有利なことでした。すぐに彼らは形成を立て直し、弓矢の部隊が放棄した渓谷から攻撃を仕掛けてきました。それに対しムスリム側は大混乱に陥りました。ムスリム側のこの不注意さは、勝利していたはずの戦いに敗れ、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の叔父で

あるハムザを始めとする多くのムスリムの勇者が殉教する要因となりました。預言者の神聖な歯は折れ顔も傷つきました。戦いの最も厳しい局面においても、預言者は顔の血を拭きながら次のようにドゥアーされました。「**主よ、我が民をお許しください。彼らは何をやっているか、わかっていないのです**」これこそが預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の慈しみの心と、人びとへの愛なのです。

ウフドの戦いでムスリム側は70人もの殉教者を出しました。多神教徒側の死者は22人でした。戦いの際には、ムスリム軍の女性も大きな貢献をし、兵士たちに水を配り、負傷者の治療をしました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は何年も後になってウフドの戦いの現場を通るとき、そのつらい日々を思い起こされ、そばにいた人に言われました。「**ムスリムよ！今後、もはや偶像を崇拝することはない。そのことについては一切の不安はない。私が恐れているのは、あなた方が現世を崇拝することだ**」

この戦いで、多神教徒側は勝利したものの、期待した結果を得ることなく、マッカへと帰還しました。形成を立て直したムスリム軍は彼らを追跡しましたが、しばらくしてムスリム軍もマディーナに戻ったのでした。

ウフドの戦いから得るべき教訓

戦いの前半にはムスリム軍は勝利していたのに、なぜその後敗れたのでしょうか。ここには、ムスリムが得るべき重要な教訓があります。

上の立場の人の話を聞かず、司令官に従わず、神聖な務めであった見張りの務めを放棄して己の利益を追い求めたことが、軍の敗北の要因となったのです。それは単に誤りを犯した人だけではなく、全ての人びとに損害を与える結果になったのです。

ウフドの戦いは不幸な結末を迎えました。渓谷に配置された弓矢部隊が預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の命令に従わなかったこと、見張りをしていた場所を放棄して戦利品を求めに行ったことが、イスラーム軍の敗北をもたらしたのです。この歴史的な出来事は、ムスリムへの大きな警告となったのです。

塹壕の戦いの原因

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はマディーナへのヒジュラを行った後、そこに住むユダヤ教徒と協定を結んでいました。クバ付近に住むナディル族のユダヤ教徒は、ウフドの戦い以降、ムスリムを苦しめ始めました。ムスリム側と結んだ協定を破ろうとしたのです。それればかりか、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を殺害しようと、暗

殺計画まで立てていました。そのためユダヤ教徒たちはその地を追放されることとなったのです。

それを口実に一部のユダヤ教徒の有力者たちは、それを口実としてマッカに行き多神教徒側と通じ、ウフドの戦いの2年後、多神教徒たちはアブー・スフヤンを司令官とする1万人の軍を編成し、マディーナに向かって出発しました。この状況を知らされた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、いつものように教友たちと協議し、敵を迎え撃つ形の戦いでマディーナを守ることにしたのです。

塹壕の戦いと、その結果

多神教徒たちが大軍を引き連れてマディーナへ向かって出発したことを知った預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、教友たちと協議した結果、マディーナを内部から防衛し、敵の侵入を防ぐため、町の周囲に塹壕を掘ることにしたのです。ムハンマド（p.b.u.h.）を始めとしたムスリムたちは働きつづけ塹壕は6日で完成しました。

ヒジュラ歴5年（西暦626年）、敵軍がマディーナのすぐ近くまで迫って来たとき、彼らは塹壕を見て驚きました。どこにも通れる場所がなかったのです。ムスリム側は昼夜見張りに立ち、敵の攻撃を防ぎました。預言者自ら朝まで見張りをされていました。

だが敵軍の包囲が長引くにつれ、マディーナは窮状に陥っていきました。ムスリム側は苦しい戦いを強いられました。季節は冬であり、人びとは寒さと飢えに苦しめられたのです。

包囲開始から27日が経ちました。包囲の最後の日々、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のようにドゥアーされました。「**アッラーよ、クルアーンを下された我が主よ、敵の裁きをすぐに下されるアッラーよ、この敵軍を破壊し、彼らを敗走させてください。統治を乱してください**」

ドゥアーを終えた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の顔は喜びに溢れていました。ドゥアー―が受け入れられたのでした。そしてムスリムたちにアッラーの援助があることを吉報として伝えたのです。

夜が近づいた頃、敵軍の陣地の辺りで強い風が吹き始めました。短時間でそれは嵐となり、舞い上がった砂や土は敵兵士の顔を襲い、テントを飛ばしました。料理用の鍋はひっくり返り火も消しました。あたかも自然の力が敵軍と戦っているようでした。敵軍は驚愕し、それ以上耐えることができなくなり、1万の軍は、多くの食料や兵站を残したまま敗走したのでした。

朝になると嵐は収まっており、マディーナとその周辺には一人の敵も残っていませんでした。ムスリムたちは、自分たちを救ってくれたアッラーに感謝しました。

バドル、ウフド、そして塹壕の戦いで全く成果を上げることができなかったマッカの多神教徒たちは、もはやイスラームの光を消すことはできないと判断し、その後二度とムスリムを攻撃することはありませんでした。

フダイビーヤ条約の締結

マッカからマディーナに移住してきていたムスリムたちは、生まれ育った祖国を懐かしみ、マッカの神聖なカーバを訪問することを望んでいました。彼らの心情を汲んだ預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ヒジュラ歴６年にカーバを訪問する目的で1400人のムスリムたちとマッカへと旅立ちました。それを知ったマッカの人びとはムスリムを一人たりともマッカに入れないと決めたのでした。

ヒジュラ歴６年（西暦628年）、ムスリムたちはフダイビーヤと呼ばれる場所で止まり、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はオスマンを使者としてマッカに派遣し、カーバを訪問したい旨を伝えました。それでもマッカの人びとはムスリムのカーバ訪問を許さず、それを次の年に行うよう求めてきました。

長い話し合いの後、ムスリムと多神教徒の間で条約が結ばれました。それは次のようなものでした。

１）ムスリムは、その年はカーバを訪問せずマディーナに戻る
２）次の年はカーバを訪れることができるが、３日以上の滞在はできない
３）ムスリムはマッカには武器を携えずに来る
４）ムスリムは､マッカにいるムスリムのうち誰一人もマディーナに連れて行かない。マディーナの人びとのうちマッカに住みたい人がいれば住むことができる
５）マッカのムスリムもしくは多神教徒の中で、マディーナに行くことを望む人がいれば送還する。ムスリムのうちクライシュ族側に戻りたい人がいればその人は引き渡されない
６）アラブの諸部族は好む側につくことができる

この条約が結ばれた後､預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と共にいたムスリムたちはカーバを訪問することなくマディーナへと引き返しました。

フダイビーヤ条約の結果

条約の内容は、一見するとムスリム側にとって非常に厳しいもののようでした。しかし預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの条件を受け入れました。なぜならこの条約が、将来役に立つであろうことを知っていたからです。マディーナへの帰途、道中で「勝利章」が啓示されました。この章で崇高なるアッラーは、ムスリムの大き

な勝利と成功を吉報として伝えられたのです。マッカの多神教徒たちはこの条約に署名したことで、初めてムスリムの存在を認めたことになったからです。

まもなくマッカの一部の人びとはムスリムとなりマディーナに移って来ました。しかし、多神教徒たちは条約に基づき、彼らを送還するよう求めてきました。それ以降、ムスリムとなってマッカから脱出した人は、マディーナには行くことができなくなったため、マッカとマディーナの間で集まるようになりました。その地はマッカの人びとの交易の隊商が通過する重要な地点でした。

ムスリムたちは次第にそこで社会を形成していきました。その状況にマッカの人びとは、交易の街道が危険にさらされることを恐れ始めました。そこで預言者に使者を送り、希望するマッカのムスリムはマディーナに移住できると通告し、条約のこの部分を変更するよう求めてきました。預言者ムハンマド (p.b.u.h.) もそれを認め、こうして一見ムスリム側に不利なように見えた条約は、多神教徒側の要求によって変更されたのです。

フダイビーヤ条約によって、ムスリムと多神教徒との間の緊張は緩和されました。多神教徒からもたらされる危険が消滅したのです。ムスリムは落ち着いた日々の暮らしを手にすることができるようになりました。イスラームの声が広く行き渡るようにもなりました。マッカの重要な人物がマディーナに来てムスリムになるようになりました。この条約はムスリムの増加と強い連帯の要因となり、イスラームがより一層各地に伝わっていく契機となったのです。

隣国の統治者に送られたイスラームへの招待状

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は全人類のための預言者として遣わされました。したがってフダイビーヤ条約以降、預言者はイスラームを世界各地に広める務めを実行に移され始めたのです。ビザンチン、イラン、エジプト、エチオピア、アンマン、バーレーンといった国々の統治者に使者を派遣し、イスラームへと招く書簡を送り届けました。預言者ムハンマド (p.b.u.h.) は銀の印を作らせ、それに「ムハンマド (p.b.u.h.)、アッラーの使徒」と書きこまれ、書簡の最後にこの印を押されました。

エチオピアの統治者はイスラームへと招く書簡を受け取るとイスラームを受け入れました。ビザンチンの皇帝やエジプトの王は預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の使徒によく振る舞いましたが、イスラームを受け入れることはありませんでした。イランの皇帝は書簡を読むと憎々しげな態度でそれを破り捨てました。この皇帝は間もなく息子によって殺害され、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に対する横柄な態度の罰を受けることとなりました。

ハイバルの征服

ハイバルは、シリア街道の途中にあるユダヤ教徒の住む地域でした。そこには七つの城がありました。マディーナを追放されたユダヤ教徒の一部もそこに住んでいました。ハイバルのユダヤ教徒は、マディーナを攻撃するためにある計画を立てていました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は彼らに使者を送り和解を提案しました。ユダヤ教徒たちはその提案を受け入れませんでした。それどころかムスリムを攻撃するため、ガタファンのアラブ人と同盟を結んだのです。それを知ったムスリム側は彼らが攻撃に移る前に、いち早く動き1600人の軍を派遣しました。軍は3日でハイバルに到着しました。ユダヤ教徒たちは城にこもっていました。ここで預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は次のようにドゥアーしました。「**主よ、我々はあなたに、この国にとって、この国の人びとにとって、この国の全てにとってより良いものを求めています。この民の、そしてここにある全てのものの災いから、あなたに庇護を求めます**」

まず預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は和解を提案しました。しかしユダヤ教徒側が和解を拒否したため戦いが始まりました。10日続いた激しい衝突の末、城は一つずつ占拠されていきました。この戦いでアリーは、勇敢に戦いました。盾が手から落ちてしまったときもアリーは、そこにあった扉を盾のように使って戦いつづけました。その戦いで10人のムスリムが殉教し93人のユダヤ教徒が死にました。

ムスリムの女性たちも編み物をして得たお金で怪我人に薬を与え水を配って戦いに加わっていました。

追い詰められたユダヤ教徒たちは和平を求めました。彼らの和解案は土地にとどまり農業が営めること、それによって手にした作物の半分をムスリムに与えるというものでした。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はその要求を認めユダヤ教徒に対してよく振る舞われました。それにもかかわらずユダヤ教徒は宴を開き、そこでムハンマド（p.b.u.h.）の毒殺を協議したのです。食事に毒が盛られていることは、アッラーによって預言者に知らされ、口に入れたものを吐き出すことによって毒殺から免れたのでした。

カーバ訪問（カダーのウムラ）

1年前に結ばれたフダイビーヤ条約に従い、ヒジュラ歴7年（西暦629年）にムスリムたちはマッカに入り、カーバ神殿を訪問することになっていました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は2000人のムスリムと共にマディーナを発ち、マッカに入りました。カーバを見や人びとの口からタクビールの言葉がこぼれました。そして定

められた形に則ってカーバを巡り、イフラームの状態を終えることができたのです。翌日、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）がカーバに入り、ズフルの礼拝の時間の到来とともに、ビラール・ハベシーが心地よく響き渡る声でアザーンを唱えました。2000人のムスリムが集団でズフルの礼拝を行ったのです。

ムスリムたちは、マッカに３日間滞在し、マディーナへと戻っていきました。マッカの人びとはムスリムたちを注意深く観察していました。ムスリムたちの清潔さ、よい振る舞いは、マッカの人びとに肯定的な印象を与えました。イスラームに対して、彼らの心に愛情が目覚め始めていたのです。クライシュ族の有力者であるハリド・ビン・ワリドとアムル・ビン・アスはマディーナへ行きムスリムとなったのです。

質問

1　バドルの戦いは、いつ、だれとの間で起こりましたか。
2　バドルの戦いの原因は何ですか。結果はどうなりましたか。
3　ウフドの戦いは、いつ、どこで起こりましたか。
4　ウフドの戦いの原因は何ですか。結果はどうなりましたか。
5　この戦いからムスリムはどのような教訓を得ましたか。
6　塹壕の戦いはいつ起こりましたか。原因は何ですか。結果はどうなりましたか。
7　フダイビーヤ条約はいつ、だれとの間でなされましたか。どのような結果をもたらしましたか。
8　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はどのような国の統治者にイスラームへと招く書簡を送りましたか。
9　ハイバルは、いつ、どのように征服されましたか。
10　カーバの訪問はいつ行われましたか。

第８章　預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の戦い（２）

●テーマ

- **マッカ征服**
- **フナインの戦い**
- **アウタスの戦いとターイフ包囲**
- **タブーク遠征**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の戦いの特徴**
- **アブー・バクル、ハッジの責任者となる**
- **別れのハッジ**
- **別れの説教**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の病気と死**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の死以降の出来事**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の子供たち**
- **天国に行く 10 人**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の教友**
- **預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の、人類に光をもたらす崇高な徳**

マッカ征服

時とともにマッカの人びとは、フダイビーヤ条約を守らないようになりました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は彼らに知らせを送り、条約の内容に従うように求めましたが、彼らは条約に違反しつづけました。話し合いでも結果を得ることができず、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はマッカ征服を決意しました。そして１万の軍を用意し、ヒジュラ歴８年（西暦 630 年）のラマダーン月にマッカに向けて出発しました。

マッカの人びとにムスリムに対抗する力は残っていませんでした。イスラーム軍は四派に分かれてマッカに入りました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は血を流すことなくマッカを征服することを望んでいました。そのため兵たちに次のように言われました。

「決して血を流してはいけない。武力衝突を起こしてはいけない」

そして、それは実現しました。マッカは血が流されることなく征服されたのです。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は聖モスクに行かれ、カーバ神殿の多くの偶像を取り

除き、そこに集まった人びとを前に重要な説教を行いました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの説教で、アッラーは唯一の存在であること、人びとが平等であること、血の報復は禁止されたことを説かれたあと、次の章句を読まれました。

「人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなたがたの中で最も主を畏れる者である。本当にアッラーは、全知にして凡ゆることに通暁なされる」（部屋章第13節）

この言葉を耳にしたマッカの人びとは、かつて預言者を殺そうとし、初期のムスリムたちに耐えがたい拷問を行った人びとでした。イスラームの光を消すためにあらゆる手段に訴えた人びとが、今は頭を下げ彼らに下される決定を待っているのでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は彼らに尋ねました。

「クライシュの人びとよ、私があなた方に何をすると考えているのですか」

「あなたは高貴で誉れある兄弟です」と彼らは答えました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はここでその偉大さを示したのでした。

「今日、あなた方には咎めがありません。あなた方は皆自由です」と言い、人びとを許されたのです。

マッカを征服した偉大な預言者は、その慈悲の心と許しの精神で、人びとの心を征服されたのです。人びとの最良の道徳、美徳の模範となったのです。マッカが征服された日、ズフルの礼拝のアザーンをビラール・ハベシーがカーバ神殿の屋根に上って読み上げました。礼拝の後、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はサファーの丘に登られました。新しく入信した人びともそこに集まりました。まず男性、それから女性が誓いの言葉を述べたのです。

フナインの戦い

マッカが征服されたことで、カーバ神殿は清められ、多神教徒の多くはムスリムとなりました。イスラームの光は急速に世界に広がっていきました。

マッカ近郊にはハワズィン族がいました。彼らは偶像を崇拝する大きな部族でした。マッカの偶像が破壊された後、次は自分たちの番だと思い、ムスリムと戦うことを決意していました。彼らはヒジュラ歴8年（西暦630年）、ムスリムを攻撃するため、マッカとターイフの間のフナインと呼ばれる場所で2万人の兵を集めました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はまだマッカからマディーナへ戻っていませんでした。敵のこの準備についての知らせがもたらされると1万2000人の兵を集め、敵のいるフナインへと出発しました。

敵軍は狭い渓谷で待ち伏せをしていました。ムスリム側は自分たちの数の多さを頼み、必要な防衛策をとっていませんでした。朝の薄明かりの中、イスラーム軍は渓谷を通過し待ち伏せしていた敵軍の激しい攻撃を受け、ばらばらに分断されました。それはイスラームにとって大きな危機でした。

敵軍の猛攻撃に、さらされながらしっかりと戦場に立っている勇者が預言者ムハンマド（p.b.u.h.）でした。彼はムスリムたちを呼び集め、鼓舞し形勢を立て直して敵へ反撃を加えました。この突然の反撃に敵軍は驚き、狼狽し、逃げ始めました。ムスリム側は当初劣勢だったものの、その後巻き返し勝利を収めたのでした。敵軍は戦場に多くの捕虜、何千頭ものラクダや羊、そして大量の銀を残して逃亡しました。

この戦いは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の勇敢さ、忍耐、決意の固さによって勝利が得られたのでした。

アウタスの戦いとターイフの包囲

ムスリム軍はヒジュラ歴８年（西暦630年）、フナインから逃亡した敵軍をアウタスと呼ばれる場所まで追放しました。だがそこで再び結集しようとしていたので敵を捕らえ一掃し絶対的な勝利を手にしました。敵側はその後二度と反旗を翻すことはありませんでした。この戦いでムスリム側は４人殉教し、敵軍は70人の死者を出したのでした。

ターイフの包囲

フナインの戦いで、多神教徒の長であったマリキ・ビン・アウフは逃亡し、ターイフの城に逃げこみました。そこでムスリム軍はターイフ城を包囲しました。ターイフの人びとも城にこもり、守りの態勢に入りました。包囲は１か月程度続きました。しかし城は強固であり、なかなか攻め落とすことができませんでした。ムスリム側も包囲を止め撤退しました。だが幸いなことにターイフの人びとはその後、偶像崇拝を放棄し、イスラームを受け入れました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、新しく入信したマッカの人びとに、クルアーンとイスラームを教えるためムアズ・ビン・ジャバルをマッカに残し、教友たちと共にマディーナへと帰還しました。

タブーク遠征

タブークは、マディーナとダマスカスの間に位置していました。マッカの征服の後、イスラームの教えは急速に広まり始めていました。

ビザンチン皇帝はイスラームの拡大を防ぐため戦いの準備を始めていました。キリスト教徒であるアラブ人たちも、彼らと合流していました。

このことを知ったムスリムは、ヒジュラ歴9年（西暦630年）、志願兵を集め始めました。アブー・バクルとオスマンは、戦いの準備のために多大な援助を行いました。女性たちも、宝飾品を寄付し、この奉仕に加わりました。敵軍の勢力を分散させるため、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は3万人の兵と共にマディーナを発ちました。夏の暑さの中、何百キロも砂漠を進みタブークに到着しました。敵軍は戦いに打って出ることなく籠城していました。敵に抵抗の意志がないことを知るやムスリム軍は、戦うことなく引き上げていったのです。

(コラム)
ドゥラル・モスクの破壊

偽信者たちは、クバ･モスクの信者たちを分裂させ、ムスリムの団結に亀裂を入れ、アブー・アミルというイスラームの敵を支持するため、マディーナ周辺に新しいモスクを造ったのです。彼らが待望していたアブー・アミルは、ウフドとフナインの戦いに加わり、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に対抗して戦った男でした。だが敗北し、ダマスカスに逃亡し、そこから偽信者たちに次のような知らせを送っていたのでした。

「めいっぱい武装してください。私のために礼拝所を一つ作ってください。私はビザンチンに行き大軍と共に戻ってきて、ムハンマド（p.b.u.h.）とその教友たちをマディーナから引きずり出しましょう」

この男の扇動により偽信者たちはドゥラル･モスクを建造しました。偽信者たちは、高齢であること、病気であることなどを理由に、預言者のモスクに行けないと主張し、その地に集まることを求めました。外見こそモスクに見えるこの建物は、実際はムスリムを分裂させる目的で作られた策略の場でした。

偽信者たちは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を招待し、自分たちの作ったモスクを開くよう求めました。アッラーはジェブラーイールを派遣され、そのモスクがムスリムを分裂させるという悪い目的で作られたことを告げられました。そこで預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はタブーク遠征の帰途、そのモスクを破壊されたのでした。こうして偽信者たちはその悪だくみをかなえることができなかったばかりでなく、アブー・アミルはダマスカスで横死したのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の戦いの特徴

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、人びとを美しい言葉でイスラームに招き、誰に対しても粗野で傷つけるような態度はとられませんでした。それに対し多神教徒たちは、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）と彼を信じる人びとに、あらゆる種類の迫害を加えてきました。信仰していたがゆえに、多くのムスリムに耐えがたい迫害を加え、中には無慈悲にも殺害された人びともいました。

ムスリムたちは、自分たちに対してなされたこの非人道的な行いに、まさに13年間耐えてきたのです。ムスリムたちは結果として生まれ育った祖国を捨て、マディーナに移住することを余儀なくされました。しかしマディーナでもムスリムは苦しめられました。ムスリムは自分たちを守るため戦うしかなかったのです。そしてヒジュラ歴２年に、戦いへの許可が下されたことを示す章句が啓示されました。

「戦いをし向ける者に対し(戦闘を)許される。それはかれらが悪を行うためである。アッラーは、かれら（信者）を力強く援助なされる」（巡礼章第39節）

「あなたがたに戦いを挑む者があれば、アッラーの道のために戦え。だが侵略的であってはならない。本当にアッラーは、侵略者を愛さない」（雌牛章第190節）

これらの啓示や、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の行った戦いを見ると、次のような特徴を見出すことができます。

１）預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の戦いは、侵略を目的としたものではありませんでした。なぜならイスラームは平和の教えであるからです。

２）これらの戦いは、敵の攻撃を防ぎ、アッラーの御名を高め、ムスリムの教えと生命、財産を守るために行われた防衛の戦いでした。なぜなら不正や攻撃を受けた人びとは、自分たちを守る権利があるからです。

アブー・バクル、ハッジの責任者となる

ヒジュラ歴９年（西暦631年）のハッジの季節が来て、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はアブー・バクルを責任者としてハッジのために集まった300人をマッカに派遣しました。続いてアリーも派遣しました。

アリーは、ハッジの務めがどのように行われるかを説明し、次のように伝えました。

「今後、偶像を崇拝する人のハッジと、カーバを裸で周回することは禁じられる」

イスラーム史上、初めてこの年に、宗教上の規定に従ってハッジの務めが実行されたのでした。

別れのハッジ

マッカ征服後、イスラームの教えは急速に広がっていきました。アッラーの唯一性への信仰は、十分に人びとの心に根付いていったのです。救いがイスラームにあることを見出した人びとは、個人で、あるいはグループで預言者のもとを訪れムスリムとなるようになりました。啓示を受けて以来23年間の誉れ高い努力の、目覚ましい成果を目にされた預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ヒジュラ歴10年（西暦632年）に10万人以上のムスリムと共にハッジへと赴かれました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、アラファトで12万4000人ものムスリムたちを前に有名な説教を行われました。これを「別れの説教」と呼びます。この説教の後、次の章句が下されました。

「今日われはあなたがたのために、あなたがたの宗教を完成し、またあなたがたに対するわれの恩恵を全うし、あなたがたのための教えとして、イスラームを選んだのである」（食卓章第3節）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、来世への旅が近づいていること、もう二度とハッジは行えないことを認識されていたため、ここでムスリムに別れの説教をされたのでした。このため、このハッジは「別れのハッジ」と呼ばれました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、ハッジの務めを果たされた後、ムスリムたちと共にマディーナへと戻られました。

別れの説教

この説教では、平等の原則が伝えられ、真の意味での安らぎと幸福の基盤が置かれたのでした。当時は声を遠くまで響かせるスピーカーのようなものはなく、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が語られた言葉を、他の人が大声で繰り返し、全ての人びとがそれに耳を傾けていました。この説教は、のちの普遍的な人権宣言よりも遥か以前に、人権の保護を訴えた重要な内容を含んだものでした。

別れの説教で示された規定

1）イスラーム以前の全ての無知蒙昧な習慣は中止される
2）全ての人は平等であり、人が他の人より優れているとすれば、それはアッラーへの篤信によるものである
3）生命、財産、名誉は侵すべからざるものであり、あらゆる迫害から守られる
4）信託は持ち主に返すこと
5）あらゆる種類の利子はハラームである

６）血の報復は禁じられる
７）男性は女性の権利を保護し、女性も男性の権利に敬意を払うこと。女性も男性も姦通を避けること
８）全てのムスリムは兄弟である。兄弟の権利を侵害することはハラームである
９）奴隷によく接しなければならない

（コラム）
預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の歴史的な別れの説教の抜粋

人びとよ！私の話に注意して耳を傾けてください。この年の後、私はここであなた方の中に再びいられないのだから。

人びとよ！あなた方の血、財産、尊厳、誇りは、あなた方がアッラーのお目にかかるその日まで、ちょうど、この土地、この月、この日のように、神聖で尊いものなのです。

私の死後に正しい道から逸脱しないようにしてください。あなた方は、まことにあなた方の主に会うのだということ、そして、主はあなた方の行いを清算するのだということを心に留めなさい。

あなた方に託されたものを、正当な所有者に返してください。イスラーム以前の時代に存在した利子はもはや廃止されました。しかしあなた方が貸した元金はあなた方のものです。こうして人を苦しめることもなければ苦しめられることもないのです。アッラーは利子の撤廃を決定されたのです。

人びとよ！シャイターン（悪魔）に気をつけてください。彼は、あなた方を迷いに導く事が出来るという全ての望みを失っています。しかし彼は、それ以外の小さな点であなた方が彼に従うのを喜ぶのです。

人びとよ！あなた方は女性たちに対して権利を持っており、女性たちもあなた方に対して権利を持っています。あなた方が持っている権利とは、彼女たちに不義を働かせず、あなた方の望まない人をあなた方の許可なく家にあげさせないことです。信者たちよ！あなた方に一つの信託を託します、それらにしっかり結びつき、決して道を外れないでください。それはアッラーの書、クルアーンです。私の言葉をよく聞いてください。信者たちは皆兄弟です。人にとって、その兄弟の財産を使うことは、彼の承認を得ない限り、許されないことです。

友よ！あなた方自身を苦しませないでください。あなた方自身も、あなたに権利を持っているのです。

人びとよ！アッラーは確かに、相続人の遺産からの受け取り分を定められました。従って遺産相続人は、他の相続人の受け取り分を奪うことはできません。

人びとよ！あなた方の神は唯一であり、あなた方の祖先も同一です。あなた方は皆アーダムの子孫なのです。アラブ人はアラブ人でない者に対し、アラブ人でない者はアラブ人に対し、何の優越性も持っていないのです。優越があるとすれば、それは篤信によるものなのです。

人びとよ！いつか私のことがあなたに尋ねられるでしょう。そのとき何と答えますか。

「**あなたはアッラーの使いとしての役目を果たしました。私たちに遺言を忠告をされました、と証言するでしょう**」と彼らは答えました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は人差し指を天に向かって上げられ、人びとの方に向けられ、指を下ろされ、言われました。「**証人となってください、主よ。証人となってください、主よ。証人となってください、主よ**」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の病気と死

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は別れのハッジを行いマディーナに戻りました。そしてしばらくの後、病気になられました。彼は、その務めが終わったこと、この世を去るときが来たことを知っていました。病気は日々重くなっていきました。病気であっても、アザーンが読まれると礼拝所に行って礼拝をされていました。しかし、亡くなられる３日前、病気はたいへん重くなりました。もはや礼拝所に行くことはできなくなりました。アブー・バクルに、礼拝所でイマームとなり礼拝を導くことを命じられました。

娘のファーティマは、毎日父親を見舞っていました。死の床で預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は娘に次のような忠告をされました。

「**アッラーの使徒の娘ファーティマよ、あなたは、審判の日の責務からあなたを救う、良い仕事を行いなさい。預言者の娘であることは、あなたに何も獲得させない私はその日の恐ろしさから、あなたを救うことができない**」

病気が重くなったあるときには、教友たちに次のように語られました。「**あなた方はまた、私と会う。私たちが会う場所は、カウサルの泉のそばである。誰であれ、そこで私と会うことを望むなら、手や舌を無駄な仕事や言葉から守りなさい。この世界から去るときが来たことが、私に知らされた。アッラーにまみえることができることを喜んでいる。ウンマから離れることを悲しんでいます。私は知らせを受けたのです。アッラーの御許に行くのです**」

死の２日前、預言者は教友たちの助けを得て礼拝所に来られ、ゆっくりと説教台に登られました。顔を人びとに向け話を始められました。

「**ムスリムたちよ！もしあなた方の誰かに悪いことをしたのであれば、その見返り**

を受ける用意はできています。誰かを殴ったのであれば、報復として私を殴りなさい。誰であれ私から受け取るものがあれば、来て、その取り分を得なさい」

６月８日月曜日の朝、預言者の症状はやや軽減され礼拝所へと赴かれました。座ったままアブー・バクルの後ろでファジュルの礼拝をされました。礼拝所から家に戻ると、病気が再び悪化しました。午前、「**主よ、死の恐ろしさに対し、私に容易さをお与えください。私の命を優しくとってください**」とドゥアーされました。そばには器に入った冷たい水がありました。手を水につけ、それで顔を冷やされていました。

昼近くになって、手を掲げ、人差し指を上に向けられました。そして「崇高なる友へ」と言われました。これが最後の言葉となりました。

アッラーの御使いは、63 歳で、その神聖な魂をアッラーにお返ししたのでした。ヒジュラ歴 10 年（西暦 632 年６月８日）、ラビーウ・アル＝アウワル月の 12 日目、月曜日預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、その輝かしい生涯を閉じられ、人びとの手によって埋葬されました。マディーナの、その墓がある場所は「ラウザーイ・ムタッハーラ」と呼ばれています。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は２３年間の預言者としての生活のうち、13 年をマッカで、10 年をマディーナで暮らされました。彼は人びとの幸福のために努力されたのです。最期の預言者としての任務を果たされ、この世から去られたのでした。

世界が何を持っていようと　そのお方の与えられたものである
社会も個人も、そのお方に恩がある
あらゆる人びとはそのお方に恩がある
主よ、裁きの日、我々をこの告白と共に復活させたまえ
（メフメット・アキフ・エルソイ）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の死以降の出来事

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の死は、ムスリムに深い悲しみを与えました。マディーナは喪に服しました。教友の一部は、その死を信じようとしませんでした。そこにアブー・バクルが来て、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の顔の覆いを開け、口づけをし、泣きました。それから短い話をして教友たちを落ち着かせました。

同じ日に行われた協議の末、アブー・バクルが初代のカリフとして選ばれました。翌日の火曜日に、ムスリムたちはモスクに集まり、アブー・バクルに誓いを立てました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は死去の翌日、つまり火曜日に、亡くなった場所に埋葬されました。

預言者が病気になったとき、そばには７ディルハムのお金がありました。そのお金をサダカとして貧しい人びとに分配されました。亡くなったとき預言者の手元にはお金はまったくなく、お金として遺されたものは何もなかったのです。

預言者の遺された最大の遺産は、世界を闇から救い光へと至らせたイスラームの光と、人びとに真の安らぎと幸福を獲得させる道徳的な規範なのでした。

クルアーンが示し、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）が生きられた輝かしい道を進む人は何と幸福なことでしょうか。

幸福の日々にやっと、
世界には真の公正さがもたらされた
その翼を地上に広げ
それは全世界への慈悲
その時代に道徳は春を迎え
地上は飾られ、地平線が開かれた
世界に美徳を広め
天と地に命が与えられた
人間の歴史で他の例はない
あらゆる言葉でその思いは生きる
胸でその言葉の本髄を受け取りなさい
彼は人間であった、しかし天使よりも尊い存在であった
（ムスタファ・ファフミ・ゲルチェケル）

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の子供たち

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）には７人の子供がいました。そのうち３人は男で、４人は女でした。

男の子：カスム、アブドゥラー、イブラーヒーム

女の子：ザイナブ、ルキーヤ、ウンムギュルスム、ファーティマ

子供たちのうち６人はハディージャの子であり、息子イブラーヒームはマリーヤの子でした。

カスムとアブドゥラーは、まだムハンマド（p.b.u.h.）が預言者となる以前に夭折しました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は子供たちの死を深く悲しまれました。ムハンマド（p.b.u.h.）の称号の一つは「アブー・カスム」、すなわち「カスムの父」でした。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの称号をとても気に入っていました。ここに、幼いうちに失ってしまった息子の名前が残っていることに慰めを得られていたので

した。

もう一人の息子イブラーヒームは、ヒジュラの後、マディーナで生まれました。彼も押さないうちに亡くなりました。息子の死に、ムハンマド（p.b.u.h.）は涙を流しつつ、こう言われました。

「涙は流れ、心は悲しむ。アッラーのご満悦を得ること以外、何も言うことはできない。イブラーヒームよ、あなたを失った深い悲しみの中に我々はいる」

イブラーヒームの亡くなった日、日食が起こりました。一部の人びとは「イブラーヒームが死んだから日食が起こった」と話しました。預言者はその考え方が誤ったものであることを告げられ、

「疑いもなく、太陽と月は、アッラーの御言葉の二つの印である。日食も月食も、決して誰かの死や生によって起こることはない」

預言者の娘は全員成長し結婚しました。ファーティマ以外の３人は、父よりも先に亡くなりました。ファーティマはアリーと結婚し、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の血筋はここから続いたのでした。

天国に行く10人

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、教友のうち10人が天国に行くことを吉報として伝えられました。彼らを「天国の吉報を受けた10人」と呼びます。

この10人は次の通りです。

１　アブー・バクル　２　ウマル　３　オスマン　４　アリー　５　タルハー　６　ズバイル　７　アブドゥルラフマーン・ビン・アウフ　８　サアド・ビン・アビー・ワッカス　９　サイード・ビン・ザイド　10　アブー・ウバイダ・ビン・ジャッラフ

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の教友

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に実際に会い、ムスリムとして死んだ人びとを「教友（サハーバ）」と呼びます。

教友は二つに分けられます。

１　ムハージル（移住者）：多神教徒の迫害から逃れるため、そして教えの定めるところを恐れなく実行するためにマッカからマディーナに移住したムスリムを「ムハージル」と呼びます。

２　エンサール（援助者）：マッカから来たムスリムに各種の援助を行った、当時のマディーナの住民を「エンサール」と呼びます。ムハージルを援助したためエンサー

ル（援助者）と呼ばれるのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の人類に光をもたらす崇高な徳

アッラーが最も愛されたしもべであり最大の預言者であるムハンマド（p.b.u.h.）は、幸福の太陽として生まれました。乾いた大地が水で蘇るように、崇高なるアッラーは預言者ムハンマド（p.b.u.h.）によって世界に新たな生を与えられたのです。

彼が、人びとの心に定着させた信仰の光によって誤った信条は打ち消されました。無知ではなく知識が、迫害の代わりに権利と公正さが、憎悪や敵意の代わりに人びとへの愛がもたらされたのです。真の意味でイスラームの兄弟愛が築かれました。女性は、家庭や社会で本来の価値を取り戻しました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は人びとに、現世と来世で幸福となるための道を示されました。彼が教えられた道徳上の規範は、まずご自身が実行され、最良の模範となられました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の心は、人びとへの愛で満たされていました。預言者は実に慈悲深く、自分のものを惜しみなく貧しい人びとに与えられ、ご自身が飢えに直面されたことすらあったのです。人間だけではなく、動物たちにもその慈悲や慈愛を示されました。渇きに苦しむ猫に、ご自身の手で水を飲まされ、動物たちによく振る舞うことを命じられました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は子供たちを愛され、彼らを抱きしめ、撫でられました。

ある人が、預言者が子供をかわいがり、くちづけをしているのを見て、「私には10人の子供がありますが、誰にもくちづけをしたことはありません」と言いました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は彼に、「**慈悲を示さない人には、慈悲は示されない**」と答えられました。

礼拝をする際にも、遊ぼうとして肩に昇ってくる最愛の孫たち、ハサンやフセインのこの振る舞いに寛容を示され、遊びを終えるのを待っておられました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はこの上なく謙虚なお方でもありました。富める者と貧しい人の区別することなく、召使であっても、招待されればそれに応えていました。貧しい人びとと共に食事をされました。最貧層の人びとの家を訪問され様子を尋ねられました。

病人を見舞われ回復するようドゥアーされました。礼拝所に行かれたときには、空いている場所に座られ、足を他者に対して伸ばされることもありませんでした。

ある人が、預言者ムハンマド（p.b.u.h.）を訪問し、彼の前に来たときには緊張で震えていました。そこでムハンマド（p.b.u.h.）は言われました「**兄弟よ、震えないでください。私は支配者ではありません。クライシュ族の、乾いたパンを食べてい**

た女性の息子です」

服を、ご自身で繕われ靴を修理され、市場に出かけて必要なものを買い、家に運んでこられました。誰かの重荷になることは決してありませんでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、模範的な一家の長でした。女性たちにはこの上なく親切に振る舞われ、家事も手伝われました。彼は、「**あなた方のうち最も尊いのは、女性によく振る舞う人である**」と言われています。

預言者は、誰に対しても汚い言葉をかけられることなく、他人を傷つけるような振る舞いはつつしまれ、生涯を通して誰かを叱責されたこともありませんでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）に10年奉仕したアナスは語っています。「預言者さまは、私に決して、『ちぇっ』といった汚い言葉をかけられませんでした。私がしたことを『どうしてやったのだ』と叱責されることも、しなかったことを『どうしてやらなかったのだ』と叱責されることもありませんでした」

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はいつも笑顔で優しい言葉づかいをされました。他の人が話す際には耳を傾け言葉を遮ることはありませんでした。人の欠点を見つけられたときもそれをあらわにすることはありませんでした。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の生き方は、質素で清潔でした。体も衣服も常にきれいに保つように注意を払われました。歯を清潔に保つためにミスワークを使われました。汚いものを決して好まれませんでした。教友たちに、モスクには清潔にして来るよう求められました。

あるとき、汚い服装でモスクに来た人に、「**体を洗ってから来れば、より良かった**」と言われました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、正しいことを話されました。約束は必ず守られました。嘘をつく人を好まれませんでした。その正直さと信頼性から、「ムハンマドゥル・アミーン」すなわち「信頼できるムハンマド（p.b.u.h.）」と呼ばれていました。

彼は、最も気前の良い人であられました。ご自身から何かを求めた人を手ぶらで返すことはありませんでした。「**私はただ分配者である。与えられるのはアッラーだ**」と言われました。一方で物乞いの行為を好まれず、人びとに働いて稼ぐ尊さを教えました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、誰に対しても寛容に許すことを好まれました。悪意のある振る舞いをした者に対しても、良い振る舞いで返されました。ご自身になされた良い行いを決して忘れず、良いことを行った人をいつでもその行いと共に思い起こされました。老人には敬意を持って接し、子供たちには愛情と慈悲を示されました。乳兄弟に会ったときには立ち上がり、自分の衣服を脱ぎそれを地面に敷き、そこに彼らを座らされました。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、怠惰であること、何もせず座していることを好

まれませんでした。モスクの建設の際には先頭に立って石を運び、汗を流して働かれました。教友たちは休むようにと言いましたが、彼は働きつづけました。

教友たちと旅をし休憩のために露営の準備は皆でし、食事分担し合いました。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、「それでは私は燃料を集めてこよう」と言われました。教友たちが働いているときに自分だけ何もせずにいることを望まれなかったのです。

預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、経済的に余裕があるときですら、質素に暮らされました。手にしているものは全て、貧しい人に配られました。このようにして社会的公正さを、ただ言葉ではなく、その振る舞いによって示され、人びとの模範となられたのです。

彼の道を行く人は何と幸福なことでしょうか。

質問

1 マッカはいつ征服されましたか。預言者ムハンマド（p.b.u.h.）は、多神教徒にどのように振る舞われましたか。
2 フナインの戦いはどこで行われましたか。その戦いの原因は何ですか。結果はどうなったのでしょうか。
3 アウタスの戦いとターイフ包囲の結果はどのようになりましたか。
4 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はマッカからマディーナにいつ戻られましたか。
5 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の戦いの特徴とは何でしたか。
6 アブー・バクルがハッジの責任者となったことは何を意味していますか。
7 別れのハッジはいつ行われましたか。
8 別れの説教では、どのような規範が示されましたか。
9 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はいつ、どこで亡くなりましたか。
10 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）はどこに埋葬されましたか、墓地の名は何ですか。
11 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）には何人の子供がいましたか。名前は何と言いましたか。
12 「天国の吉報を受けた 10 人」とはどういう意味ですか、誰のことですか。
13 教友とはだれのことですか。
14 預言者ムハンマド（p.b.u.h.）の崇高な徳について説明してください。

ウドゥーのとき唱えるドゥアー

1）ウドゥーを始めるとき

「アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニ・ラズィーム、ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム」と唱えた後、次のドゥアーを唱えます。

اَلْحَمْدُ لِلّٰهِ الَّذى جَعَلَ الْمَاءَ طَهُورًا وَالْاِسْلامَ نُورًا

読み方：「アルハムドゥ・リッラーヒッラズィー・ジャアーラルマーア・タフーラン・ワ・ジャアアル・イスラーマ・ヌーラー」

意味：水を清めるものと、イスラームを光とされたアッラーに感謝いたします。

2）口に水を入れるとき

اَللّٰهُمَّ اسْقِنِي مِنْ حَوْضِ نَبِيِّكَ كَأْساً لاَ أَظْمَأُ بَعْدَهُ

読み方：「アッラーフンマ・スキーニ・ミン・ハヴズィ・ナビーヤカ・キャアサン・ラーエズマウ・バアダフ」

意味：アッラーよ！私に預言者の泉から、私に二度と乾くことのない一杯を飲ませてください。

3）鼻に水を入れるとき

اَللّٰهُمَّ لاَ تَحْرِمْنِي رَايِحَةَ نَعِيمِكَ وَ جَنَّتِكَ

読み方：「アッラーフンマ・ラー・タフリムニー・ラーイハタ・ナーイミカ・ワ・ジャンナーティカ」

意味：アッラーよ！私を、あなたの恵みを、そして天国のにおいを得られない人としないでください。

4）顔を洗うとき

اَللّٰهُمَّ بَيِّضْ وَجْهِي بِنُورِك يَوْمَ تَبْيَضُّ وُجُوهٌ وَ تَسْوَدُّ وُجُوهٌ

読み方：「アッラーフンマ・バイード・ワジュヒ・ビヌールカ・ヤウマ・タブヤッドゥ・ヴジューフン・ワ・タスワッドゥ・ヴジューフ」

意味：アッラーよ！一部の顔が白くなり、一部の顔が黒くなる日に、私の顔を白くしてください。

5）右腕を洗うとき

اَللّٰهُمَّ اَعْطِنِى كِتَابِى بِيَمِينِى وَحَاسِبْنِى حِسَابًا يَسِيرًا

読み方：「アッラーフンマ・アーティニ・キタービ・ビヤミーニ・ワ・ハーシブニー・ヒサーベン・ヤシーラ」

意味：アッラーよ！私に、ノートを右側から渡してください、私の審判を容易にしてください。

6）左腕を洗うとき

اَللّٰهُمَّ لاَ تُعْطِ كِتَابِي بِشِمَالِي وَ لاَ مِنْ وَرَاءِ ظَهْرِى وَ لاَ تُحَاسِبْنِي حِسَابًا شَدِيدًا

読み方：「アッラーフンマ・ラー・トゥッティニー・キタービ・ビシマリー・ワラー・ミン・ワラーイ・ザフリ・ワ・ラー・トゥハシブニー・ヒサーベン・シャディーカ」

意味：アッラーよ、私にノートを左側から、背後から与えないでください、私に困難な裁きを受けさせないでください。

7）頭を湿らせるとき

اَللّٰهُمَّ غَشِّنِي بِرَحْمَتِكَ وَ اَنْزِلْ عَلَيَّ مِنْ بَرَكَاتِكَ

読み方：「アッラーフンマ・ガッシーニ・ビラフマティカ・ワ・アンズィル・アライヤ・ミン・バラカーティク」

意味：アッラーよ！私をあなたの慈悲で覆い、私の上に恵みを振り注いでください。

8）耳を湿らせるとき

اَللّٰهُمَّ اجْعَلْنِى مِنَ الَّذِينَ يَسْتَمِعُونَ الْقَوْلَ فَيَتَّبِعُونَ اَحْسَنَهُ

読み方：「アッラーフンマジャアルニー・ミナッラズィーナ・ヤスタミウーナル・カウラ・フェ・ヤッタビウンナ・アフサナフ」

意味：アッラーよ！私を、正しい言葉を聞き、最も美しい言葉に従う者としてください。

9）首を湿らせるとき

اَللّٰهُمَّ اَعْتِقْ رَقَبَتِى مِنَ النَّارِ

読み方：「アッラーフンマ・アッティク・ラカバティ・ミナッナール」

意味：アッラーよ！私の体を地獄の炎からお救いください。

10）足を洗うとき

اَللّٰهُمَّ ثَبِّتْ قَدَمَيَّ عَلَى الصِّرَاطِ يَوْمَ تَزِلُّ فِيهِ الْاَقْدَامُ

読み方：「アッラーフンマ・サッビトゥ・カダマイヤ・アラッシラーティ・ヤウマ・タズィッル・フィヒル・アクダーム」
意味：アッラーよ！足が滑る日に、私の二つの足をスラート橋の上でしっかり支えてください。

礼拝のとき唱えるドゥアー

スブハーナカ

礼拝で立位の際に唱えます。

唱える箇所

１）それぞれの礼拝の最初のラカートで、最初のタクビールの後
２）アスルの礼拝のスンナで、３回目のラカートに立ち上がった後、ファーティハ章の後
３）イシャーの礼拝の最初のスンナで、３回目のラカートに立ち上がった後、ファーティハ章の後
４）タラウィ―の礼拝で４ラカートごとにサラームをしている場合、３回目のラカートに立ち上がった後、ファーティハ章の後
５）葬儀の礼拝で、１回目のタクビールの後

سُبْحَانَكَ اللَّهُمَّ وَ بِحَمْدِكَ وَ تَبَارَكَ اسْمُكَ وَ تَعَالَى جَدُّكَ وَ جَلَّ ثَنَاؤُكَ وَ لاَ اِلَهَ غَيْرُكَ

読み方：「スブハーナカ・アッラーフンマ・ワ・ビハムディク・ワタバーラカスムカ・ワ・タアーラー・ジャッドゥク（ワ・ジャッラ・サナーウク）ワ・ラーイラーハガイルク」
意味：アッラーよ、あなたに賞賛と讃美あれ。あなたの御名は神聖です。あなたの存在の貴さは至高です。あなたの他に神はおりません。（ワ・ジャッラ・サナーウク）は、葬儀の礼拝でのみ唱えます。

アッタヒヤートゥ

礼拝の全ての座位で唱えます。

اَلتَّحِيَّاتُ لِلهِ وَ الصَّلَوَاتُ وَ الطَّيِّبَاتُ اَلسَّلاَمُ عَلَيْكَ اَيُّهَا النَّبِيُّ وَ رَحْمَةُ اللهِ وَ بَرَكَاتُهُ
السَّلاَمُ عَلَيْنَا وَ عَلَى عِبَادِ اللهِ الصَّالِحِينَ
اَشْهَدُ اَنْ لآ اِلَهَ اِلاَّ اَللهُ وَ اَشْهَدُ اَنَّ مُحَمَّداً عَبْدُهُ وَ رَسُولُ

読み方：「アッタヒーヤートゥ・リッラーヒ・ワッサラワートゥ・ワッタイーバートゥ・アッサラーム・アライカ・アイユハンナビーユ・ワ・ラハマトゥッラーヒ・ワ・バラカートゥフ、アッサラーム・アライナー・ワ・アラー・イバーディッラーヒッサーリヒーン、アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラーハ・ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダン・ラスールフ」

意味：言葉、体、財産でなされるすべてのイバーダはアッラーへのものです。預言者よ！アッラーのサラーム、慈悲、恵みがあなたの上にありますように。
サラームが我々の上に、そしてアッラーの全てのしもべの上にありますように。
アッラーの外に神はないことを証言します。そしてムハンマド（p.b.u.h.）がそのしもべであり預言者であることを証言します。

アッラーフンマ・サッリとアッラーフンマ・バーリク

唱える箇所

1）全ての礼拝の最後の座位で、アッタヒヤートゥの後
2）アスルの礼拝のスンナとイシャーの礼拝の最初のスンナの１回目の座位で、アッタヒヤートゥの後
3）４ラカートごとにサラームをしながら行うタラウィ―の礼拝の、２番目のラカートの後の座位で、アッタヒヤートゥの後
4）葬儀の礼拝の２番目のタクビールの後

اَللَّهُمَّ صَلِّ عَلَى مُحَمَّدٍ وَعَلَى آلِ مُحَمَّدٍ، كَمَا صَلَّيْتَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ وَعَلَي آلِ إِبْرَاهِيمَ،
إِنَّكَ حَمِيدٌ مَجِيدٌ

読み方：「アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリ・ムハンマドゥ、 カマー・サッライタ・アラー・イブラーヒーマ・ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーマ・インナカ・ハミードゥン・マジード」

意味：アッラーよ、あなたがイブラーヒームと彼の一族に栄光をお与えになったように、ムハンマド（p.b.u.h.）とムハンマド（p.b.u.h.）の一族にも栄光をお与えください。あなたこそ全ての讃美と栄光の主です。

اَللَّهُمَّ بَارِكْ عَلَى مُحَمَّدٍ وَعَلَى آلِ مُحَمَّد، كَمَا بَارَكْتَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ وَعَلَي آلِ إِبْرَاهِيمَ، إِنَّكَ حَمِيدٌ مَجِيدٌ

読み方：「アッラーフンマ・バーリク・アラー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリ・ムハンマディン、カマー・バーラクタ・アラー・イブラーヒーマ・ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーマ、インナカ・ハミードゥン・マジード」

意味：アッラーよ、あなたがイブラーヒームと彼の一族を祝福されたように、ムハンマド（p.b.u.h.）とムハンマド（p.b.u.h.）の一族を祝福してください。あなたこそ全ての讃美と栄光の主です。

ラッバナー・アティナーとラッバナーグフィルリ

唱える箇所

１）礼拝の座位で、アッラーフンマ・サッリとアッラーフンマ・バーリクの後

２）クヌートのドゥアーを知らない人は、ウィトルの礼拝でその代わりにラッバナー・アーティナ―を唱えることができます

３）葬儀の礼拝の３番目のタクビールの後で唱えるドゥアーを知らない人は、その代わりにラッバナー・アーティナーをドゥアーとして唱えることができます。

رَبَّنَا آتِنَا فِي الدُّنْيَا حَسَنَةً وَفِي الآخِرَةِ حَسَنَةً وَقِنَا عَذَابَ النَّارِ بِرَحْمَتِكَ يَا اَرْحَمَ الرَّحِمِينَ

読み方：「ラッバナー・アーティナー・フィッドゥンヤー・ハサナタン、ワ・フィル＝アーヒラティ・ハサナタン、ワ・クィナー・アザーバン＝ナール」

意味：主よ、現世でわたしたちに幸いを賜い、また来世でも幸いを賜え。業火の懲罰から、わたしたちを守ってください。

رَبَّنَا اغْفِرْ لِي وَلِوَالِدَيَّ وَلِلْمُؤْمِنِينَ يَوْمَ يَقُومُ الْحِسَابُ

読み方：「ラッバナグフィルリ・ワ・リワリダイヤ・ワ・リルムッミニーナ・ヤウマ・ヤクームル・ヒサーブ」

意味：われらが主よ！私を、母を、父を、そして全ての信者を審判の日にお許しください。

クヌートのドゥアー

ウィトルの礼拝の３番目のラカートで、ファーティハ章ともう一つの章を唱えた後、手を掲げてタクビールを行い、それから再び手を組んでクヌートのドゥアーを唱えます。

اَللَّهُمَّ إِنَّا نَسْتَعِينُكَ وَ نَسْتَغْفِرُكَ وَ نَسْتَهْدِيكَ وَ نُؤْمِنُ بِكَ وَ نَتُوبُ اِلَيْكَ وَ نَتَوَكَّلُ عَلَيْكَ
وَ نُثْنِي عَلَيْكَ ٱلخَيْرَ كُلَّهُ نَشْكُرُكَ وَ لاَ نَكْفُرُكَ وَ نَخْلَعُ وَ نَتْرُكُ مَنْ يَفْجُرُكَ

読み方：「アッラーフンマ・インナー・ナスタイーヌカ・ワ・ナスタグフィルカ・ワ・ヌウミヌ・ビカ・ワ・ナタワッカル・アライカ・ワヌスニー・アライカ＝ル＝ハイラ・クッラフ・ワ・ナシュクルカ・ワ・ラー・ナクフルカ・ワ・ナフラウ・ワ・ナトルク・マン・ヤフジュルカ」

意味：おおアッラーよ、私達はあなたのご加護を講い、あなたのお許しを願います。また、あなたを信じ、あなたに帰依します。私達は最上の儀式であなたを讃え、あなたに感謝し、あなたのご恩は忘れません。またあなたに従わぬものと絶交して見捨てます。

اَللَّهُمَّ اِيَّاكَ نَعْبُدُ وَ لَكَ نُصَلِّى وَ نَسْجُدُ وَ اِلَيْكَ نَسعْىَ وَ نَحْفِدُ نَرْجُو رَحْمَتَكَ
وَ نَخْشَى عَذَابَكَ اِنَّ عَذَابَكَ بِاْلكُفَّارِ مُلْحِقٌ

読み方：「アッラーフンマ・イーヤーカ・ナアブド・ワ・ラカ・ヌサッリー・ワ・ナスジュド・ワ・イライカ・ナスアー・ワ・ナハフィド・ナルジュー・ラハマタカ・ワ・ナフシャー・アザーバカ・インナ・アザーバカ・ビル＝カーフィリーナ・ムルヒク」

意味：おおアッラーよ。あなたにのみ私達は仕え、あなたに祈りまた服従します。私たちは急いであなたのもとに参じ精進します。私たちは､あなたのお恵みを歎願し、あなたの懲罰を恐れます。まことにあなたの懲罰は不信者に対して下ります。

礼拝のとき唱えるクルアーンの章

ファーティハ章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ (1)
اَلْحَمْدُ للهِ رَبِّ العَالَمِينَ (2) الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ (3) مَالِكِ يَوْمِ الدِّينِ (4) إِيَّاكَ نَعْبُدُ
وإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ (5) اِهْدِنَا الصِّراطَ الْمُسْتَقِيمَ (6) صِرَاطَ الَّذِينَ أنْعَمْتَ عَلَيْهِمْ
غَيْرِ الْمَغْضُوبِ عَلَيْهِمْ وَلاَ الضَّالِّينَ(7)

礼拝で、立位で唱えます。

読み方：「（1）ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム（2）アルハムドゥ・リッラーヒ・ラッビル・アーラミーン（3）アッラフマーニル・ラヒーム（4）マーリキ・ヤウミッディーン（5）イイヤーカ・ナアブドゥ・ワ・イイヤーカ・ナスタイーン（6）

イヒディナッスィラータル・ムスタキーム（7）スィラータッラズィーナ・アンアムタ・アライヒム・ガイリル・マグドゥービ・アライヒム・ワラッダーッリーン」
意味:（1）慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において（2）万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ（3）慈悲あまねく慈愛深き御方（4）最後の審きの日の主宰者（5）わたしたちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを請い願う（6）わたしたちを正しい道に導きたまえ（7）あなたが御恵みを下された人びとの道に、あなたの怒りを受けし者、また踏み迷える人びとの道ではなく。

象章

この章及びこれ以降の章は、礼拝で立位の際に、ファーティハ章の後で唱えます。

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اَلَمْ تَرَ كَيْفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِاَصْحَابِ الْفِيلِ (1) اَلَمْ يَجْعَلْ كَيْدَهُمْ فِي تَضْلِيلٍ (2) وَاَرْسَلَ عَلَيْهِمْ
طَيْرًا اَبَابِيلَ (3) تَرْمِيهِمْ بِحِجَارَةٍ مِنْ سِجِّيلٍ (4) فَجَعَلَهُمْ كَعَصْفٍ مَاْكُولٍ (5)

読み方:「（1）アラム・タラ・カイファ・ファアラ・ラッブカ・ビ・アスハービル・フィール（2）アラム・ヤジュアル・カイダフム・フィー・タドリール（3）ワ・アルサラ・アライヒム・タイラン・アバービール（4）タルミーヒム・ビ・ヒジャーラティン・ミン・シッジール（5）ファ・ジャアラフム・カ・アスフィン・マックール」
意味:（1）あなたの主が、象の仲間に、どう対処なされたか、知らなかったのか（2）かれは、かれらの計略を壊滅させられたではないか（3）かれらの上に群れなす数多の鳥を遣わされ（4）焼き土の礫を投げつけさせて（5）食い荒らされた藁屑のようになされた。

クライシュ章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

لِاِيلَافِ قُرَيْشٍ (1) اِيلَافِهِمْ رِحْلَةَ الشِّتَاءِ وَالصَّيْفِ (2) فَلْيَعْبُدُوا رَبَّ هَذَا الْبَيْتِ (3)
الَّذِي اَطْعَمَهُمْ مِنْ جُوعٍ وَآمَنَهُمْ مِنْ خَوْفٍ (4)

読み方：「（1）リ・イーラーフィ・クライシュ（2）イーラーフィヒム・レヘラタッ__シターイ・ワッ__サイーフ（3）ファル・ヤアブドゥー・ラッバ・ハーザル__バイート（4）アッラズィー・アトアマフム・ミン・ジューイウ・ワ・アーマナフム・ミン・ハウーフ」
意味:（1）クライシュ族の保護のため（2）冬と夏のかれらの隊商の保護のため、（そのアッラーの御恵みのために）（3）かれらに、この聖殿の主に仕えさせよ（4）飢

えに際しては、かれらに食物を与え　また恐れに際しては、それを除き心を安らかにして下さる御方に。

慈善章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اَرَاَيْتَ الَّذِي يُكَذِّبُ بِالدِّينِ (1) فَذَلِكَ الَّذِي يَدُعُّ الْيَتِيمَ (2) وَلاَ يَحُضُّ عَلَى طَعَامِ الْمِسْكِينِ

(3) فَوَيْلٌ لِلْمُصَلِّينَ (4) الَّذِينَ هُمْ عَنْ صَلاَتِهِمْ سَاهُونَ (5) اَلَّذِينَ هُمْ يُرَآؤُنَ (6)

وَيَمْنَعُونَ الْمَاعُونَ (7)

読み方:「（1）ア・ラアイタッ__ラズィー・ユカッズィブ・ビッ__ディーン（2）ファ・ザーリカッ__ラズィー・ヤドゥウル・ヤティーム（3）ワ・ラー・ヤフッドゥ・アラー・タアーミル・ミスキーン（4）ファ・ワイルッ__リル・ムサッリーン（5）アッラズィーナ・フム・アン・サラーティヒム・サーフーン（6）アッラズィーナ・フム・ユラーウーン（7）ワ・ヤムナウーナル・マーウーン」

意味：（1）あなたは、審判を嘘であるとする者を見たか（2）かれは、孤児に手荒くする者であり（3）また貧しい人に食物を与えることを勧めない者である（4）災いなるかな、礼拝する者でありながら（5）自分の礼拝を忽せにする者（6）（人に）見られるための礼拝をし（7）慈善を断わる者に。

潤沢章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اِنَّآ اَعْطَيْنَاكَ الْكَوْثَرَ (1) فَصَلِّ لِرَبِّكَ وَانْحَرْ (2) اِنَّ شَانِئَكَ هُوَ الْاَبْتَرُ (3)

読み方：「（1）インナー・アアタイナーカル・カウサル（2）ファ・サッリ・リ・ラッビカ・ワンハル（3）インナ・シャーニアカ・フワル・アブタル」

意味：（1）本当にわれは、あなた（ムハンマド（p.b.u.h.））に潤沢を授けた（2）さあ、あなたの主に礼拝し、犠牲を捧げなさい（3）本当にあなたを憎悪する者こそ、（将来の希望を）断たれるであろう。

不信心者たち章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ يَآ اَيُّهَا الْكَافِرُونَ (1) لآَ اَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ (2) وَلآَ اَنْتُمْ عَابِدُونَ مَآ اَعْبُدُ (3)

وَلاَ اَنَا عَابِدٌ مَا عَبَدْتُمْ (4) وَلآَ اَنْتُمْ عَابِدُونَ مَآ اَعْبُدُ (5) لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِيَ دِينِ (6)

読み方:「（1）クル・ヤー・アイユハル・カーフィルーン（2）ラー・アアブドゥ・マー・タアブドゥーン（3）ワ・ラー・アントゥム・アービドゥーナ・マー・アアブドゥ（4）ワ・ラー・アナ・アービドゥン・マー・アバットゥム（5）ワ・ラー・アントゥム・アービドゥーナ・マー・アアブドゥ（6）ラクム・ディーヌクム・ワ・リヤ・ディーン」
意味：（1）言ってやるがいい。おお不信者たちよ（2）わたしは、あなたがたが崇めるものを崇めない（3）あなたがたは、わたしが崇めるものを、崇める者たちではない（4）わたしは、あなたがたが崇めてきたものの、崇拝者ではない（5）あなたがたは、わたしが崇めてきたものの、崇拝者ではない（6）あなたがたには、あなたがたの宗教があり、わたしには、わたしの宗教があるのである。

援助章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

اِذَا جَاءَ نَصْرُ اللهِ وَالْفَتْحُ (1) وَرَاَيْتَ النَّاسَ يَدْخُلُونَ فِي دِينِ اللهِ اَفْوَاجًا (2)

فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَاسْتَغْفِرْهُ اِنَّهُ كَانَ تَوَّابًا (3)

読み方：「（1）イザー・ジャーア・ナスルッラーヒ・ワル__ファツフ（2）ワ・ラアイタン__ナーサ・ヤドフルーナ・フィー・ディーニッ__ラーヒ・アフワージャー（3）ファ・サッビヒ・ビ・ハムディ・ラッビカ・ワ__スタグフィルフ　インナフー・カーナ・タウワーバー」
意味：（1）アッラーの援助と勝利が来て（2）人びとが群れをなしてアッラーの教え（イスラーム）に入るのを見たら（3）あなたの主の栄光を誉め称え、また御赦しを請え。本当にかれは、度々赦される御方である。

棕櫚章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

تَبَّتْ يَدَا اَبِي لَهَبٍ وَتَبَّ (1) مَا اَغْنَى عَنْهُ مَالُهُ وَمَا كَسَبَ (2)

سَيَصْلَى نَارًا ذَاتَ لَهَبٍ (3) وَامْرَاَتُهُ حَمَّالَةَ الْحَطَبِ (4) فِي جِيدِهَا حَبْلٌ مِنْ مَسَدٍ (5)

読み方：「（1）タッバツ・ヤダー・アビー・ラハビウ・ワ・タッブ（2）マー・アグナー・アンフ・マールフー・ワ・マー・カサブ（3）サヤスラー・ナーラン・ザータ・ラハブ（4）ワムラアトゥフー・ハンマーラタル・ハタブ（5）フィー・ジーディハー・ハバルン・ミン・マサド」
意味：（1）アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ（2）かれの富も儲けた金も、かれのために役立ちはしない（3）やがてかれは、燃え盛る炎の業火の

中で焼かれよう（4）かれの妻はその薪を運ぶ（5）首に棕櫚の荒縄かけて 。

純正章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ هُوَ اللهُ اَحَدٌ (1) اَللهُ الصَّمَدُ (2) لَمْ يَلِدْ وَلَمْ يُولَدْ (3) وَلَمْ يَكُنْ لَهُ كُ◌فُواً اَحَدٌ (4)

読み方：「（1）クル・フワッラーフ・アハド（2）アッラーフッサマド（3）ラム・ヤリド・ワ・ラム・ユーラド（4）ワルム・ヤク__ッラフー・クフワン・アハド」
意味：（1）言え、かれはアッラー、唯一なる御方であられる（2）アッラーは、自存され（3）御産みなさらないし、御産れになられたのではない（4）かれに比べ得る、何ものもない。

黎明章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ اَعُوذُ بِرَبِّ الْفَلَقِ (1) مِنْ شَرِّ مَا خَلَقَ (2) وَمِنْ شَرِّ غَاسِقٍ اِذَا وَقَبَ (3)

وَمِنْ شَرِّ النَّفَّاثَاتِ فِي الْعُقَدِ (4) وَمِنْ شَرَّ حَاسِدٍ اِذَا حَسَدَ (5)

読み方：「（1）クル・アウーズ・ビ・ラッビル・ファラク（2）ミン・シャッリ・マー・ハラク（3）ワ・ミン・シャッリ・ガースイキン・イザー・ワカブ（4）ワ・ミン・シャッリン__ナッファーサーティ・フィル・ウカド（5）ワ・ミン・シャッリ・ハースィディン・イザー・ハサド」
意味：（1）言え、黎明の主にご加護を乞い願う（2）かれが創られるものの悪（災難）から（3）深まる夜の闇の悪（危害）から（4）結び目に息を吹きかける（妖術使いの）女たちの悪から（5）また、嫉妬する者の嫉妬の悪（災厄）から。

人びと章

بِسْمِ اللهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

قُلْ اَعُوذُ بِرَبِّ النَّاسِ (1) مَلِكِ النَّاسِ (2) اِلَهِ النَّاسِ (3) مِنْ شَرِّ الْوَسْوَاسِ الْخَنَّاسِ (4)

الَّذِي يُوَسْوِسُ صُدُورِ النَّاسِ (5) مِنَ الْجِنَّةِ وَالنَّاسِ (6)

読み方：「（1）クル・アウーズ・ビ・ラッビン__ナース（2）マリキン__ナース（3）イラーヒン__ナース（4）ミン・シャッリル__ワスワースィル__ハンナース（5）アッラズイー・ユワスウィス・フィー・スドゥーリン__ナース（6）ミナル__ジンナティ・ワン__ナース 」

意味:（１）言え、ご加護を乞い願う、人間の主（２）人間の王（３）人間の神に（４）こっそりと忍び込み、囁く者の悪から（５）それが人間の胸に囁きかける（６）ジン（幽精）であろうと、人間であろうと。

ウドゥーの仕方（写真付き）

1 まず、腕を肘の上部までまくります。キブラの方向に向かい、「**アッラーのご満悦のためにウドゥーを行うことをニーヤしました**」と言い、ニーヤを行います。それから「**アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニ・ラジーム、ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム**」と唱えます。（写真１）

2 手を手首まで３回洗います。指の間も洗うよう注意します。指輪があればそれを動かし、指輪の下も洗うようにします。（写真２）

3 右の手のひらで、口に３回水を入れます。その都度、十分に口をゆすぎます。（写真３）

4 右手で水をすくって鼻に３回入れます。（写真４）

5 左手で中を洗ってきれいにします。（写真５）

6 髪の生え際から、耳タブ、あごの下まで、顔全体を３回洗います。（写真６）

7 右腕を３回、肘まで洗います。腕に乾いたところが残らないよう、全体に水をかけます。（写真７）

8 左腕を３回、肘まで洗います。腕に乾いたところが残らないよう、全体に水をかけます。（写真８）

9 手を新しい水で濡らし右の手のひらと指を頭に置き、湿らせます。(写真９)

10 右手の人差し指で右耳の中を、親指で耳の外側を、左手の人差し指で左耳の中を、親指で耳の外側を湿らせます。(写真 10)

11 再び手を濡らすことはせず、残った３本の指で、首の後ろを湿らせます。(写真 11)

12 右足を、かかとと共に３回洗います。指先から洗い始め、指の間をよく洗います。（写真 12）

13 右足を、かかとと共に３回洗います。指先から洗い始め、指の間をよく洗います。（写真 13）

ウドゥーが終わると、キブラに向かって信仰告白を行います。

礼拝の仕方（写真付き）

まず、例としてファジュルの礼拝の２ラカートのファルドを写真で紹介します。男性と女性の動きの違いも分かるようになっています。２ラカートの礼拝の動きと、それ以外の礼拝の動きには違いはなく、それらを写真で説明することは不要と判断しました。

ファジュルの礼拝のファルドの行い方

１番目のラカート

１）指４本分足を広げ、足の指がキブラに向く状態で、立ち上がってキブラの方角に向かいます。

２）イカーマを行います（男性の場合）

ニーヤ（意志表明）

３）「**アッラーのご満悦のために今日のファジュルの礼拝のスンナを行うことをニーヤしました**」と言い、ニーヤを行います。

最初のタクビール

４）「**アッラーフ・アクバル**」と言い、最初のタクビールを行います。

1 **男性**：両手のひらをキブラに向け、指は普通に開いた状態にします。親指が耳たぶと同列に来るような形で両手を上げます。（写真１）

2 **女性**：両手のひらをキブラに向け、指は普通に開いた状態にします。指先が肩と同列に来るような形で両手を上げます。（写真２）

クヤーム

5）タクビールの後で手を組みます。立っているときはサジュダを行う場所を見ています。

6）立ったままで、順に「**スブハーナカ**」「**アウーズ･ビッラーヒ**」、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの言葉を唱えます。

3 **男性**：右の手のひらが左手の上にくるように、そして右手の親指と小指が左手の手首をつかむ形で、へその下で手を組みます。（写真３）

4 **女性**：右手が左手の上にくるように、胸の前で手を組みます。男性のように右手の親指と小指が左手の手首をつかむ形にはしません。（写真４）

ルクウ

７）「**アッラーフ・アクバル**」と言い、ルクウを行います。そこで３回「**スブハーナ・ラッビヤル・アズィーム**」と言います。ルクウの際は足の先を見ています。

5 **男性**：ルクウでは指を広げて手で膝をつかみ、背をまっすぐにします。膝と肘を直角にします（写真５）

6 **女性**：ルクウでは背を軽く曲げ、男性ほどには体を折りません。手を、指を開かずに膝の上に置き、膝を軽く曲げます（写真６）

ルクウから起き直る

8）「**セミアッラーフ・リマン・ハミダ**」と唱え、ルクウから起き直ります。そして立った状態になると「**ラッバナー・ワ・ラカルハムド**」と唱えます。

7 **男性**のルクウからの起き上がり方（写真７）

8 **女性**のルクウからの起き上がり方（写真８）

サジュダ

9）「**アッラーフ・アクバル**」と言い、サジュダを行います。サジュダの際には、まず膝を、それから手を、その後に鼻を地面につけます。サジュダでは頭は両手の間に、そして同じラインに置きます。サジュダの際には足は上げません。サジュダの際には鼻の端を見ています。ここで３回「**スブハーナ・ラッビヤル・アアラー**」と唱えます。

9 **男性**：サジュダでは肘を脇から離し、腕を地面から起こしています。足を、指の上に直角に乗せ、指先がキブラの方角に向くようにします。（写真９）

10 **女性**：サジュダでは肘を体につけます。足を、指の上に直角に乗せ、指先がキブラの方角に向くようにします。（写真 10）

サジュダの間の座位

10）「**アッラーフ・アクバル**」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。この際、指が膝と同じラインになるように、太ももに手を置きます。自分の胸の方を見ています。ここで「**スブハーナッラー**」と唱え、短い間座っています。

11 **男性**：左足を床に寝かせ、その上に座ります。右足は、指先がキブラに向く形で直角に立てます。（写真 11）

12 **女性**：足を寝かせた状態で右側に崩す形で座ります。（写真 12）

11)「**アッラーフ・アクバル**」と言い、２度目のサジュダを行います。そして３回「**スブハーナ・ラッビヤル・アアラー**」と唱えます。

12)「**アッラーフ・アクバル**」と言い、サジュダから立ち上がり、２番目のラカートに移り、手を組みます。(写真３－４)
サジュダから立ち上がる際には、まず頭、それから手、最後に手を膝の上に置きつつ、膝を地面から上げます。
最初のタクビールからここまでを、「１番目のラカート」と言います。

２番目のラカート

１）立ったままで、順に「「**バスマラ**」」(ビスミッラーヒル・ラフマーニル・ラヒーム)、ファーティハ章、もう一つのクルアーンの言葉を唱えます。

２）最初のラカートと同様に、「**アッラーフ・アクバル**」と言い、ルクウを行います。そこで３回「**スブハーナ・ラッビヤル・アズィーム**」と言います。(写真５－６)

３)「**セミアッラーフ・リマン・ハミダ**」と唱え、ルクウから起き直ります。そして立った状態になると「**ラッバナー・ワ・ラカルハムド**」と唱えます。(写真７－８)

４)「**アッラーフ・アクバル**」と言い、サジュダを行います。ここで３回「**スブハーナ・ラッビヤル・アアラー**」と唱えます。(写真９－10)

５)「**アッラーフ・アクバル**」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。ここで「**スブハーナッラー**」と唱え、短い間座っています。(写真11－12)

６）それから「**アッラーフ・アクバル**」と言い、２度目のサジュダを行います。そして３回「**スブハーナ・ラッビヤル・アアラー**」と唱えます。

礼拝の最後の座位

7）「**アッラーフ・アクバル**」と言い、サジュダから起き上がり、正座します。この際、指が膝と同じラインになるように、太ももに手を置きます。自分の胸の方を見ています。

8）座った状態で、順に「**アッタヒヤート**」「**アッラーフンマ・サッリ**」「**アッラーフンマ・バーリク**」「**ラッバナー・アーティナー**」のドゥアーを唱えます。

13 14 **男性**：左足を床に寝かせ、その上に座ります。右足は、指先がキブラに向く形で直角に立てます。（写真 13 － 14）

15 **女性**：足を寝かせた状態で右側に崩す形で座ります。（写真 15）

右側にサラーム

9）まず頭を右に向け、「アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー」と言います。その際は肩を見ています。

16 **男性**のサラームの行い方（写真 16）

17 **女性**のサラームの行い方（写真 17）

左側にサラーム

10）それから頭を左に向け、「**アッサラーム・アライクム・ワ・ラフマトゥッラー**」と言います。

18 **男性**のサラームの行い方（写真 18）

19 **女性**のサラームの行い方（写真 19）

ドゥアー

ドゥアーの際には、手を胸の高さまで上げます。手を天に向けて開きながら、手のひらをやや顔に向けて傾けています。両手の間は開けます。

20 ドゥアーする少年（写真 20）

21 ドゥアーする少女（写真 21）

人は、この世界で選び抜かれた位置を占め、崇高な目的のために創造された存在です。人は永遠の生のためにここでその備えをするのです。

崇高なアッラーは、私たちを永遠の幸福の場へと招かれ、私たちがその備えをすることを求めておられます。そして限りのない幸福へと至るための道を示されたのです。

私たちがなすべきことは、私たちが創造された理由にふさわしく、まず正しい信仰を得て、それからその信仰が必要とする崇拝行為を正しく行うことです。心を善良な思考で飾り、独自の規範に則った行動をとり、アッラーのしもべとして試練をよい形で乗り越えることです。

私たちが果たすべき宗教上の務めを実践するためには、十分な知識が必要不可欠であることは疑う余地もありません。

あなたが手にしているこの本は、あらゆる年代のムスリム、特にクルアーンを学ぶ人々が容易に理解できるよう簡潔な言葉で書かれています。

ムスリム一人ひとりにとって必要である基本的な宗教上の知識が説かれているこの本が、読者の皆様のお役に立つことを願っています。